J-POP ものがたり

西寺郷太

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

J-POP 丸かじり

西寺郷太

目次

CONTENTS

はじめに 12

小西康陽 × 西寺郷太 16

宇多丸（ライムスター） × 西寺郷太 34

芦塚祥太（A.B.C-Z） × 西寺郷太 54

いしだあゆみ「ブルー・ライト・ヨコハマ」 68

大滝詠一 | 『Velvet Motel』 88

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

96 松田聖子『SWEET MEMORIES』
104 和三盆同『LA VIE EN ROSE』
112 小林明子『恋におちて -Fall in love-』
120 ヨドバシ『十時日の恋人』
128 [illegible]『My Revolution』
130 BOØWY『PSYCHOPATH』
140 BOØWY『1994 -LABEL OF COMPLEX-』
150 今井美『[illegible]ベストヒーロー』
156 CHAGE and ASKA『[illegible]』
164 [illegible]
200 [illegible]
206 [illegible]
[illegible] BUCK-TICK『ICONOCLASM』

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

224 メ ヲ イ ム ロ イ ス 『UNFINISHED』
232 今井翼 『ホ ク ロ ボ ネ 今夜』

メイン特集 242 浜田雅功×外岡非露木

274 倉木麻衣 『ュ ョ ョ ロ』
282 メ ヲ イ ム ロ イ ス 「ロ イ エ ュ ー イ 」
284 ュ ユ ス イ ュ ョ ョ イ 『ュ ト ロ R Σ 』
294 伴都田ユカ ル 『First Love』
304 ヤ ー ハ ハ カ 娘。 『ュ ロ > ョ ト ル ー ハ 』
312 凛 『A・RA・SHI』
322 母 峨 桃 源 『ュ ト イ R ュ 』
330 RIP SLYME 『 幾 國 ぐ ト ぐ ー 』
338 ト ロ メ ー ロ 『AMBITIOUS JAPAN!』

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

346 | 西寺郷太&鎮小路 純（編集部）が敬愛する作曲家・編曲家について語る

384 | ミスチル『Dear Woman』

394 | エレファントカシマシ『Ti Amo』

404 | ゆず『Sexy.Honey.Bunny!』

406 | Negicco『Melody Palette』

408 | A.B.C-Z『Moonlight walker』

410 | ユキヒロ『ケイ』

418 | Suchmos『VOLT-AGE』

420 | ハルカトミユキ『世界は世界でしかないから』

422 | A.B.C-Z『Black Sugar』

424 | 滝『Turning Up』

432 | Vaundy『[illegible]』

CamScannerでスキャン

Snow Man「D.D.」
V6「雨」
佐野元春×西寺郷太
終わりに
462
470
455
453
451
450
447

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

はじめに

子供の頃から敬愛してきたマイケル・ジャクソンが亡くなったのは、2009年。彼が50歳のときだった。あれから15年以上の日々が過ぎ、僕はその50歳を通り越してしまった。

僕の最初の書籍『新しい「マイケル・ジャクソン」の教科書』が出版されたのは、マイケルが亡くなって2カ月半後のことだ。この間に、マイケル、プリンス、ジャネット・ジャクソンとマドンナ、ホイットニー・ヒューストン、ジョージ・マイケル、僕が憧れてきたスーパースターについての評伝や、自伝的小説『90's ナインティーズ』など十冊を超える本を執筆、監修してきた。前述のアーティストたちが放ったマスターピースを中心に、オフィシャルライナーノーツも多数担当させてもらった。僕にとってそうした文筆業は主に「洋楽の世界へ、特に若い世代の読者を誘う目的」を持って向き合った仕事であり、なかなか同好の士に出会えなかった高校時代までの孤独な自分に決着をつけるために必要な、慌ただしくもあまりにも光栄

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

な通過儀礼だったと今にして思う。

その意味で今回の『J-POP丸かじり』は、今までの作品とは完全に趣きが違う。この本は僕にとって初めての〝日本人が作り出してきた音楽〟に関する論考、インタビュー集となる。それはこれまで歩んできた自らの音楽家としての人生の〝骨と肉〟の部分をエグるような、実際に同じ国のすぐそばに存在する巨大な才能、時代の波に愛された者と永遠の楽曲たち、金字塔への嫉妬や恐怖と直接向き合わねばならない作業の連続を意味した。

本書は3つの軸から成り立っている。まずは「西寺郷太の視点、歌手、作詞・作曲家、プロデューサーならではの、日本人の楽曲に関する考察が読みたい」というニュースサイト『ナタリー』チームからの依頼に応え、2020年2月20日から連載してきた『POP FOCUS』というコラム。加えて、これまで僕がさまざまな雑誌やネット記事に寄稿してきたJ-POP（この呼び方にも色々な考え方があるが）関連記事の選りすぐりをまとめ、新たに書き足したもの。そして、最後にASKAさん、佐野元春さん、近田春夫さん、小西康陽さん、ラムスターの宇多丸さんという尊敬する先輩達と氣志團の綾小路翔やん、A.B.C-Zの戸塚祥太くんという魅力的な仲間を迎えた、贅沢で貴重過ぎる対談。それらを濃縮しギュッとまとめた結果、ページ

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

も文字数も膨大なものになった。まさに〝丸かじり〟。どこを味わっても日本のポップミュージックにまつわる瑞々しい果汁が滴り落ちるはずだ。

〝J-POP〟であったり、〝シティポップ〟であったり、〝昭和歌謡〟であったり、細かい呼び方はたくさんあるが、この本では1973年生まれの僕がリアルタイムで自然に浴びてきた、〝日本人が海外の影響を受けながら独自に生み出してきた音楽〟の素晴らしさ、特別さ、不思議さに焦点を当てている。特に対談部分では、いずれ劣らぬ恐るべき才能とキャリアを誇るそれぞれの天才たちによる、鋭く、愛とユーモアに満ちた視点が乱反射している。それにより、長い「J-POP」の歴史を立体的に辿ることができるだろう。

自分は今、50代になったと最初に書いた。筒美京平さんをはじめ、数えきれない先輩たちとの思い出や直接のコラボレーションした経験など、昭和、平成、令和と生きた我々の日々を、次の世代に語り継ぐ大切な使命が自分にはあると信じて、この本をまとめた。

西寺郷太（NONA REEVES）

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

特別対談

小西康陽×西寺郷太

僕たちはいつだって、好きな音楽が〝極端に狭い〟

偏愛があるからこそ、見えてくる世界がある

小西康陽（こにし やすはる）1959年2月3日、北海道札幌市生まれ。1985年にピチカート・ファイヴでデビュー。豊富な知識と独特の美学から作り出される作品群は世界各国で高い評価を集め、1990年代のムーブメント〝渋谷系〟を代表する1人となった。2001年3月31日のピチカート・ファイヴ解散後は、作詞・作曲家、アレンジャー、プロデューサー、DJとして多方面で活躍中。2022年ごろからは弾き語りを精力的に行っている。

2024年2月19日取材

西寺　僕は洋楽ばかり聴いていた京都の子供で、東京に出てきたあとも自分の音楽のことで精一杯だったから、ピチカート・ファイヴを熱心に追うタイミングがありませんでした。でも小西さんと仲良くさせていただくようになって、サウンドやパッケージの煌びやかさだけじゃない、ピチカートの歌詞や曲の本質的な部分に気がついていったんですよね。小

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

西川　メンバーが揃ってみた印象が、時間をかけて驚くようになっていったというか。

小西　ありがとうございます。ただ実は僕、何度もこの本の担当編集の方に「この対談に向いてないかもしれない」って伝えていたんですよ。というのも、今、音楽が好きじゃないんです。自分でもげっくりするくらいで、もしかしたら人生で一番好きじゃなくなっているかもしれません。とにかく日々の音楽がクソにやないですか。あんなに自分でも打ちのめしていたんで……。そうなったら、ほんまにほとんどの音楽がクソに聴こえてしまうというか。

西川　そうですよ！　笑。リンプビズキットでリズムを担当するジャンルのリーダーみたいな感じだったのに。

小西　やっぱり人力の音楽が良いと思うんです。ただ、人力の音楽にも好きじゃないのがいっぱいあるんですよ。3ピース編成で、ギターを弾く人がフロントで歌って……みたいな出会いというバンドが苦手で。もともと苦手だったんだけど、いよいよ苦手になってきました。

西川　4ピースだったらいいっていうわけでもないんですけど（笑）。ベースとギターとドラムがいるのが当たり前、みたいなのが嫌っていうことですか？

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

小西　ビートルズをはじめマージービートが始まって、ギターのコンボみたいな編成のバンドが自分たちでも歌うようになってきて、主流になりましたよね。そのスタイルが音楽を作りやすいというのもあるからか、今、若くて音楽を発信する人たちって、とりあえずはあの形が多いじゃないですか。それを見ていると、「あまりにもイージーに、選ばずにそれをやっていませんか？」という気持ちになるんです。もちろん、そういう中でも最高のバンドはいっぱいいるわけですけど、「なんか、あまり聴きたくないな」って。そうなると、ほとんどの音楽が好きじゃなくなっていく（笑）。今はそういう時期なんです。

西寺　小西さんはいつでも「これが好き」というものがハッキリしている方という印象がありますよ。僕も近いタイプで、好きな音楽かすごくシンプルで、好きなやつだけ聴いていて詳しくもない　世間的にはいろいろな音楽について話したり書いたりする人間だと思われているかもしれませんが、話していないことのほうがよっぽど多いですから。嫌いなものについてはまったく話していないんで。

小西　僕も同じ。本当に、ストライクゾーンが極端に狭い。

西寺　僕はたまに言うんですが、自分は「音楽が好き」が好きというよりも、「天才が好き」なだけなんじゃないかって思うんです。たまたま子供の頃にプリンスやマイケル・

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

ジャクソンを知って、「尋常じゃない天才だ」と思ったんですよね。あとは、ジョージ・マイケルも。彼らがシンガーであり、ソングライターであり、ミュージシャンだったからこそ、音楽の道に進むことしか頭になかった。でも、ここ15年で僕がリアルタイムで天才だと感じた3人がいなくなっちゃって、もうどうでもいいっていう気分でもあるというか。その せいか、自分かつまらないと思うものはまったく耳に入ってきませんし。

小西　でも、割とそういう人たちが音楽をやっているんじゃないかとも思います。ストライクゾーンが狭いから、自分で作るっていうね。僕は1985年にデビューしたのですが、その頃、80年代のほとんどすべての音楽が大嫌いでしたから、自分たちがデビューできなかったりデビューしても仕事が全然来なかったりしたのは、そういう音楽を作っている先輩たちがいるせいだって思っていたくらい（笑）。

西寺　（笑）。子供の頃はどういう音楽がお好きだったんですか？

小西　中学2年のときに、クロスビー・スティルス・ナッシュ&ヤングを聴いてからアメリカ西海岸の音楽に夢中になっていたんですけど、そのうちにイーグルスが『ホテル・カリフォルニア』（1976年リリース）を出したんですよね。それを聴いたら、「あれ、なんかこの音楽は好きじゃないな」と感じたんです。で、その辺りから、どんな新譜を聴い

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

ても好きになれないことが増えてきた。それがなぜかはずっと分からないままでした。ただレコードを買うことは大好きだったので、新譜を追いかけるよりもオールディーズを集めていましたね。それからしばらくして自分でもレコーディングをするようになって思ったのが、ホテル・カリフォルニア』辺りの時代からマルチトラックレコーディングが始まって、それで音が急に薄くなったんじゃないかな、と。もちろんそれだけじゃなくて、デジタルディレイなどが出てきたことも要因かもしれません。いずれにしても、自分はその辺りからあまり好きじゃないんだなっていうのが分かってきたんです。

西寺　僕の場合は、1995年から新譜を追わなくなりました。大学4年生で、バンドが軌道に乗り始めた辺りです。理由としては、自分がレコードを作る側の人間になったことが大きくて。当のようにに単純に「大好きー」って感じて音楽を聴けなくなったんですよね。だから小西さんが14、15歳くらいでそうなったというのは早いなって。

小西　ときどき、自分が音楽好きなのかレコード好きなのか分からなくなるときがあるんです。ただあの頃、リアルタイムで流行っている音楽が全部ダメになって、それでオールディーズを追いかけるようになったことは神様の思し召しというか、今では良かったと思っています。それと今思い出したのですが、僕、『おしゃれフリーク』（1978年リリー

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

ス）が流行っているときはあまりピンと来ていなかったんですけど、5年経ってからシックってバンドが急にすごく良いなと思ったんです。あの頃、ディスコっぽい曲はたくさん出ていたと思うんですけど、シックだけはどこか違うんですよね。「リズムセクションだけ？」ってくらいのスモールコンボで。「なんてカッコいいんだろう」って思って、聴き直していました。

西寺　僕もシック、大好きです。ナイル・ロジャース、バーナード・エドワーズ、トニー・トンプソン。あの形、ノーナはめちゃくちゃ意識しています。小西さんはご存知かもしれませんが、ナイル・ロジャースって、お母さんが13、14歳くらいのときに産まれた子らしいんですよね。そのあと、ナイルの物心が付く前に両親が離婚して、お母さんがビートニクみたいな白人と再婚した。つまり彼が物心ついた頃、家にいた〝お父さん〟は白人で、たまたまそう言う肌の色だと思っていた。そういう、黒人に対する差別意識がない環境で育っていくんですけど、学校の授業参観にお父さんが来ると、「白人が来た！　お前のお父さん白人なのかよ！」と周りが騒ぐものだから、そこで初めて黒人差別があるということを知ったそうなんです。一方でお父さんは家でいわゆる白人が聴くレッド・ツェッペリンとかも普通に聴くし、ナイルもそれでツェッペリンなどに夢中になる。だから彼自

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

小西　ともかくそれで僕も、何十年かぶりにあのアルバムの曲と再び対峙したわけなんです。そうするといろいろ分かってきてね。あの頃は自分の曲を仕上げるのに必死だったから何も考えていなかったんですけど、やっぱりね、どう考えても、僕と高浪さんが、田島くんという天才に追いつこうと必死になっているレコードなんだなって思ったんですよ。

西寺　年齢的には、田島さんより小西さんのほうが上ですよね。

小西　うん、だからライバル意識とかはないんですけど、今聴くと、どう考えてもそういう作品だなあって思った。

西寺　当時、驚いたわけですね、田島さんの才能に。まあ、双方共にどう考えても天才ですからね。

小西　もう、「とんでもない曲を作る人が出てきた」って思いました。シンガーとしての素晴らしさには、当時はまだ気がついていなかったかもしれないですね。当然、歌が上手いとは思っていましたけれど。やっぱりあの頃、僕らは本当に作詞、作曲にしか目がいってなかったんでしょうね。

西寺　田島さん作曲、小西さん作詞の曲もありますよね。僕は特に『夜をぶっとばせ』（1989年リリースのアルバム『女王陛下のピチカート・ファイヴ ·ON HER

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

弾き語りの素晴らしさは、曲を途中で止められること

場合は、どうですか？　歌だけ、ギターの弾き語りだけ、ピアノの弾き語りだけ、それぞれ、どうですか？

ほかの楽器とは、まったく違いますよね。

とてもないですね。

竹内　小西さん、最近はギターの弾き語りスタイルをよくやられていますよね。

小西　ほとんどそうですけど。初めて弾き語りをやったのは、紳士服のCMソングを歌ったときですね。「初めて弾き語りをやってください」と言われたのが、曲を途中で勝手に止められるということがあるんだ、と思いました。急に出てきて、勝手に止められるということがあるんだ、と。曲が終わるまで我慢しなければいけないにもかかわらず、それを止められるというのは、バンドのドラムとかベースとかだったら、なおさらですよね。

竹内　ピアノの弾き語りの仕事は、そういう仕事はないですか。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

は　ライブをすること自体に興味があるのか、それとも、知らない街に行って1人で演奏するっていう、そういういろいろを含めたパッケージに興味があるのか。どっちなんですか？

小西　どちらかと言えば、後者だと思います。パフォーマンスをすることの喜びを感じた頃に、結城昌治の『志ん生一代』という本を読んで偶然につながったんですけど、つまり弾き語りっていうのは、落語なんだな、と。話芸なんですよね。演奏しながら、〝音楽について考えること〟を話す。今、それをやるのが楽しいんです。

西寺　〝弾き〟よりも〝語り〟のほうが大事。

小西　だから「今、君は、音楽とは違うことをやっている」と言われたとしたら、「そうかもしれない」と認めざるを得ない。僕自身、アレンジャーとして頑張っていた時期もありましたけど、音楽って、アレンジに振り回され過ぎだとも感じるんですよね。結局僕は、裸になった歌詞とメロディが一番大切だって思っているところがあるから。

西寺　それはずっと思っていたことだったんですか？　サウンドやアレンジなど含めた全体でアートだとか、あるいは、ジャケットデザインや衣装、メイクなど含めてすべてでポップアートというか。ピチカートってそういうグループの象徴的存在でしたよね？

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

小西　それをやってきた先に、〝曲〟に戻ったんじゃないですかね。僕、中学の頃に自分で楽器を始めたときは、フォークだったんです。その頃は吉田拓郎さんの『結婚しよう』（1971年リリース）が大ヒットしていて。クラスの大半の男の子がギターを弾けて、僕も弾けるようになって。それに高田渡さんや小室等さんなど、日本のフォークの人たちのレコードもすごく聴いていました。だから〝詞〟と〝曲〟みたいなものが、僕の原点にあるんだろうな、やっぱり。

西寺　小西さんがプロデュース、作詞家として携われた作品は、基本的に日本語で、ハッキリと歌って、何を歌っているか分かりやすい、みたいなポイントにすごく拘られてきましたもんね。崩して歌う方、小西さんの選んできたボーカリストの中にいないじゃないですか。野宮真貴さんもそうですし。

小西　でもね、自分が歌うときは崩してばかり（笑）。恥ずかしいんですよ。メロディを忘れたりするから（笑）。

西寺　メロディを忘れる（笑）。弾き語りライブをやられている一方で、DJとしての稼働は少し減らしていませんか？

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

小西　減らしてます。自分はもう、DJとしては終わったかなあ、と思うんですけれど、そのときそのときで、一番これがいいと思っているものをやるのがね。それが今は弾き語りなのかもしれません。

西寺　いっときは、週に2、3回もやっているときもあったのに。じゃあやっぱり、ご自身の中でのブームが弾き語りのほうにシフトしていると。

小西　自分でも、昔やっていた音楽とはずいぶん違うところに来ちゃったなと思うんだけど、それで思い出したのが、マイケル・ジャクソンが1990年代に、テディー・ライリーに「とにかく、ダンス・ミュージックと言えども、いったんシンプルなピアノかギターで弾き語りして、それでも良いメロディの曲にしないとダメだ」「シンプルに良い曲じゃないと、どんなに飾ってもダメだ」って言っていたそうで。確かに彼の代表作『ビリー・ジーン』にしても、弾き語りをしている人がいるんですけど、やっぱりそれだけで良いんですよね。

西寺　小西さんの原点に戻っている、というか。

小西　カエターノ・ヴェローソがやってますよね。この間、弾き語りでロバート・ワイアットの『アット・ラスト、アイ・アム・フリー』（アルバム『ナッシング・キャン・ストップ・アス』収録）って曲をやったんですよ。これ、シックの曲のカバーなんですよね。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

西寺　いやいやいや、あるんじゃないんですか？　聞いた話ですが、才能の中で一番遺伝が関わるのって音楽なんですって。スポーツや勉強は意外と遺伝しないんですけど、音楽ができる人の子供は、音楽ができることが多いって。

小西　僕の両親は音楽をやっていませんでしたけどね。ただその代わり、レコードコレクターだったんです。僕が子供の頃、家に５００枚くらいレコードがありましたから。ジャズがメインで、ボーカルとクラシックもあって。それにもっと言うと、父方のおじいさんと父親は印刷屋をやっていたんですよ。

西寺　ああ、じゃあパッケージにこだわるところに、その影響があるかもしれませんね。

小西　うん、あるかもしれませんね。パッケージ好きの才能は。

西寺　何年か前、音楽のストリーミングが始まることについて、小西さんがどこかのインタビューで「大嫌いだ」っておっしゃっていたんですよ。なぜかという、「レコードの再発がなくなるから」って。レコードが再発されると、その時代の気分で古い音楽にまた出会うことができて、新譜みたいな感覚で聴ける。ストリーミングになるとその良さがなくなるから、それが嫌なんだってことを話していて。あくまで僕の解釈ですが……。

小西　正確に言うとね、その発言は「廃盤、絶版がなくなることが嫌だ」って言ったんや

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

す。表紙になると、急にそのレコードが欲しくなるじゃないですか。逆に。高校生の頃、今、ノスタルジック。って言われている音楽が好きになったんですけど、当時は本当に8～10年くらい前の音楽だったのに、レコードがどこにもなかったんですよ。それで、必死でお金ためて買ったんです。そういう情熱がね。昔はジャケットだけ知っていて聴いたことがなかったから、必死に想像するじゃないですか。やっぱり、「ジャケットが素晴らしいから絶対に名盤である」のような。ただ先ほども言った通り、去年の後半から本当にレコードがなくて。

――ええ、ええ。それはそうですよね（笑）。一よくそんなに買うものがあるな」っていいますもんね（笑）。

主に、ジャンル。これは、この年代って、レジェンドアーティストたちが、ここまでアナログレコードで出したりしているでしょ。今はそれをまた買いたい人が集まっていたりするトラック。

――ええ、ええ。もう、みんなデモのほうが良いんですよね。

音楽三昧三昧を三つ語ってください。

チェ・チェ・チェ（笑）。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

西寺　今から作ったら面白いじゃないですか、50年前の曲なんて。

小西　ずーっと考えているんですけど、ダメなんですよ。さらにその一方で、とにかく悩まされるってくらい頭の中で鳴るのが、昔作ったけれどレコーディングしていない曲とか、アマチュアの頃に作って発表していない曲。そういう曲、もう頭の中ですごく鳴るんです。「これ、どうすんの?」って言われているような気分になる。酷い曲ばかりだから、絶対やんないですけど（笑）。作っていた当時は、家でギターを弾きながら、繰り返しずっと考えていたわけじゃないですか。それでもう、頭の中に残っちゃってて。そういうのがいっぱいある。

西寺　いっぱいあるんですか（笑）。やってくださいよ。

小西　やんない。やんないですね。本当に酷いんですよ、あの頃の曲。でも郷太くんのデモ、小学生の頃のものから残っているのであれば、それだけで1つの作品になりますよね。

西寺　1980年代の話で、マイケルの『BAD』（1987年リリースのアルバム）に『スムーズ・クリミナル』って曲があるんですけど、僕はその曲を、実際に聴く前に曲名だけ雑誌で知ったんです。そうしたら、僕の中で『スムーズ・クリミナル』っていう曲が『BAD』自体を聴く前だから、その前の『スリラー』（1982年

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

リリースのアルバム）とか『オフ・ザ・ウォール』（1979年リリースのアルバム）とかのマイケルのイメージで、どことなくソフトでグルーヴィな曲になったんです。あとになってマイケルの『スムーズ・クリミナル』を実際に聴くと、硬めの打ち込みみたいなサウンドで全然違う（笑）。僕が想像で作ったほうを『タモリ倶楽部』で流したら、みんな笑ってくれましたけど。

小西　でも、分かりますよ。良いタイトルができれば、それはもう曲ができたのと同じだと思うし。いずれにしても、ぜひデモ集は出してほしいです。そのときは僕がライナーノーツを書きますから。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

特別対談

宇多丸×西寺郷太

ポップとしての、
[illegible]

ライムスターとノーナに共通するもの

宇多丸（うたまる）　1969年東京都生まれ。ヒップホップグループ・ライムスターのラッパー、またTBSラジオで月曜日から木曜日の22時から生放送されているワイド番組「アフター6ジャンクション 2」を担当するラジオパーソナリティ。1989年、大学在学中にECD白と出会いライムスターを結成。1993年、デビュー。音楽活動はもとより、アイドル、映画にも造詣が深い。

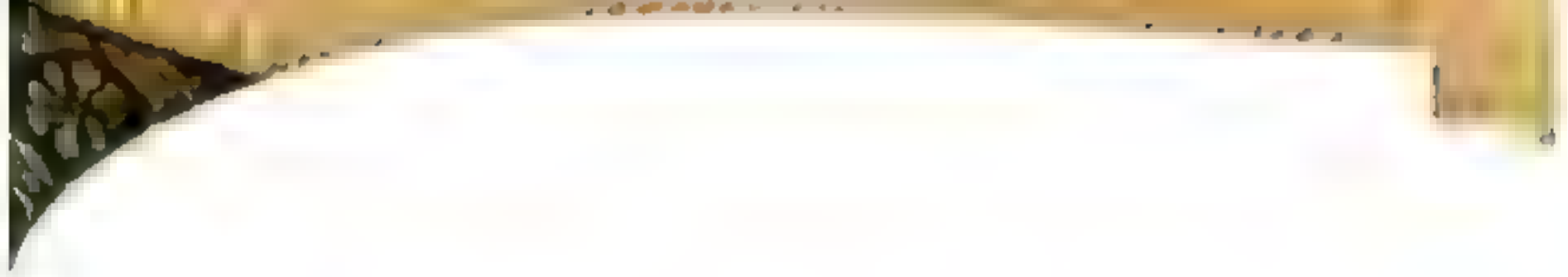
2024年[illegible]月[illegible]日

須大　先日、ライムスターの17年ぶりの武道館ライブを拝見しましたが、ライムスターの曲って、リリックのパンチラインももちろんですが、やっぱり単純に「曲が良いよなぁ」って思ったんですよね。ヒップホップというジャンルで「曲が良い」っていう言い方は、オーソドックスな感想過ぎるんですが（笑）。ライムスターはメロディライン、トラックも、歌詞も全部ひっくるめて「純粋に曲が良い」。だから何十年も聴ける

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン



CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

宇多丸　どこにおいても機能する、ポップスとしてのガチなところもあったりして。とにかくジャンルは違えども、〝強さ〟というかね。ただしそれは、〝アーティストとしてのカリスマ性〟みたいなものとはまた、逆のベクトルだと思うんですよ。だから、そっちが尊ばれるようなシーンの中ではあまり理解されなかったり、軽く見られたりしがちなところもあったりして。とにかくジャンルは違えども、〝ポップとして強いものを作る〟ことにこだわっているという点では、ライムスターとノーナ・リーヴスは、似た立場でもあるのかもしれないね。

晴人　宇多丸さんは僕が作る音楽の最大の理解者の1人なんで、そう言ってもらえると嬉しいです。ライムスターがいえる〝メロディ〟、〝ポップ〟について教えてください。いわゆるフック＝サビ〟のメロディラインは、基本的にはMummy-Dさんが考えているんですか？

宇多丸　トラックはもちろん曲によってプロデューサーが違うんだけど、サビに関しては、今は9割くらいDかな。ただ、例えば〝Future Is Born〟は、歌サビなんだけど実は僕が作ってたりして。まあ曲による感じです。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

カニエ・ウエストよりも早かった!?　KREVAの先見性

――2000年代くらいから、ラップの中にもいわゆる歌っぽい、メロディックなものがどんどん出てきたじゃないですか。そして今どきのラップは、完全に歌ですもんね。

j多九　ラップミュージック内の〝メロディックなアプローチ〟それ自体は昔からあるものだし、僕らもやってたしやってるし、それとは別に、「商業的な要請から安易に歌入れときました」みたいなものも、むしろ腐るほどあったわけだけど（笑）。ただ、特にやっはりカニエやドレイク以降の、現在に至る〝ヒップホップ的な歌唱〟のモードに関して言えは、実はハンハないのは、KREVAの先見性ですよ！　あれにはみんなもっと、ちゃんと驚いたほうがいい。2004年にKICK THE CAN CREWが一旦解散して、ソロ1曲目として彼がすぐに出してきたのが、全編、いわゆるラップではなく〝歌って〟いる『希望の炎』で。最初は僕も「え、全部歌？」って、かなり戸惑ったんですよね。でも、続く『音色』で、「あ、これは凄いことやってるかも……」って、ようやくちょっと真価が分かってきて。要は、これまでの音楽のように〝上手い歌〟を聴かせたいわけではない、純粋にヒップホップ的な発想と技術だけで成り立った新時代の歌唱法を、彼はここ

CamScannerでスキャン

で発明したんじゃないかと気づいたというかね。そしたらその2年後くらいに、カニエ・ウェストが同じようなことやって、世界の音楽のモードを、根こそぎ変えてしまったわけじゃない？　だからそこで改めて「KREVAは正しかったんだ、そして誰よりも早くそれについてたんだ」と[illegible]のをたにしまして。KREVA本人にも言ってますけどね（笑）。みんなが使ってるAuto-Tune[illegible]、そういう[illegible]をケロケロうねらせて、機械に関係なく、〝歌えちゃう〟ソフトなわけでしょ。しかも、そういう[illegible]ことを、あえて強調した使い方をするそれ[illegible]なく〝ヒップホップ的〟なことなんてすよね。クレちゃんという人はそんなふうに、言ってみればヒップホップ原理主義的スタンスを一歩も譲らないまま……というよりむしろハードに突き詰めた果てに、ポップスターとして成り立つギリギリの線を攻め続けている。時代への先見性とポップの両立という彼の偉大さは、現状でもまだ十分に評価されきっていないと感じますね。

――KREVAくんは、僕も彼らがデビュー当時、少し前から同じワーナー・レーベルに在籍していたり、小林賢太郎くんのテレビ番組で一緒したりと少し縁もあるんですが。個人的な最大なトピックは、2022年に King & Prince のマスターピース『ichiban』

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

を作っていること。実は『ナタリー』の連載の中で1つだけボツにした原稿があって、それが『ichiban』の原稿なんですよ。本当に大好きで。King & Princeは、船山基紀さんアレンジによる、〝ジャニーズテイスト〟の伝統にのっとったデビュー曲『シンデレラガール』ではなく、実はメンバー自身が強くプッシュして選ばれたという情報があって。その選択と『ichiban』の対比、という意味でも振れ幅が素晴らしくてとんでもないグループだな、と。

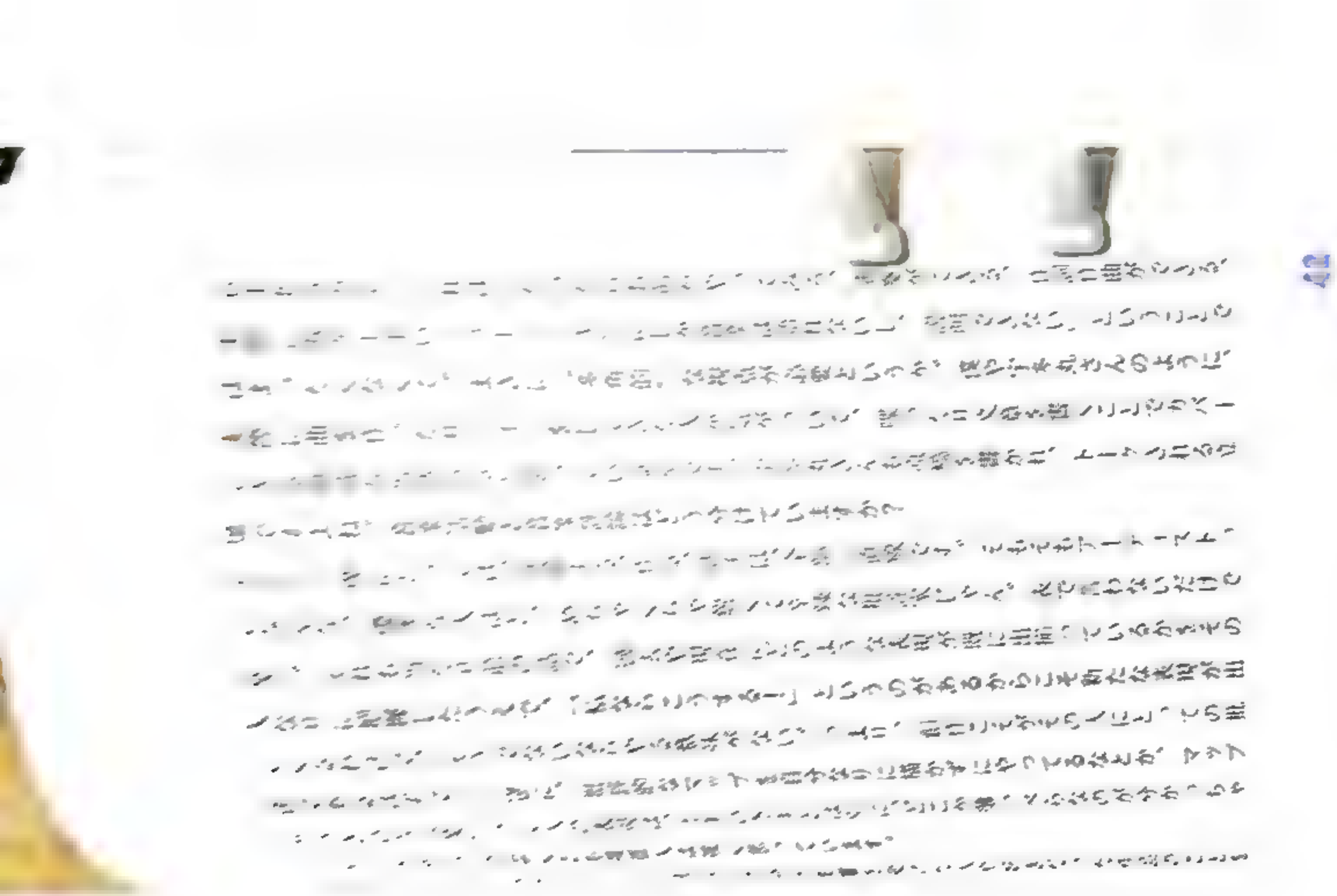
そうしたら、記事を公開しようというタイミングで平野紫耀（現：Number_i）さん、神宮寺勇太さん、岸優太さんが脱退するという話になって、時期的にわざわざ合わせたと思われかねないし、それは下品だからやめようってことになったんです。ともかく、KREVAくんがヒップホップ原理主義を追求しながらも、お茶の間に響くオーバーグラウンドなヒットも作っていることには尊敬しかないです。

宇多丸　あとは、Bボーイ的な〝強い〟アティテュードを、J-POPのオーディエンスにも自然にフィットする〝前向きな向上心〟みたいなところにアダプテーションしてみせたところも、彼の発明の1つとして実は大きいあたりかなと思いますね。ヒップホップライブ、ショーのあり方でもいくつも革新的なことをやってきてるし、まぁ凄い人ですよ。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン



語ったり、研究したり、喋ったりする人と、そうじゃない人がいますよね。僕自身は語り、執筆することで次の世代にバトンをつないでると思っているんですけど、宇多丸さんも僕と同じ姿勢でしょうか？

宇多丸　そうですね。今の若い世代はネットを通じて、ジャンルどころか時代や国境、言語も超えて、いよいよ本当にすべてにフラットにアクセスしまくっていて、それはもちろん文句なしに素晴らしいことなんだけども、だからこそそこに確かな文脈を補完していくというか、バラバラに見える点と点を線でつないで、その線を今度は面にして、さらにその面を立体にしていく、みたいな作業の必要性も、いよいよ高まっていると思うんですよね。断片的な情報や〝コンテンツ〟を、その場で消費して終わりではない、要は〝文化〟にちゃんとしていくために。だから、さっき郷太くんが言ったような、俯瞰した目線での評論仕事はすごく大事なはずなんだけども……なんかそのへん、あまりまだ十分とは、思えない感じもある。

郷太　ミシュランで認められたシェフたちがコンビニの食べ物を評するテレビ番組がありますね。たまに見るんですが、プロが厳しい点数で失格の札を出したり、辛辣なことを言うと、視聴者が怒ったりするんですよ。炎上したり。今はそういう世の中だから、厳しい

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

ことを言ったり、思ったことを言うのは、時に合わないと思われがちかもしれませんね。

宇多丸　一方でネット上には、遅ればなまでに辛辣な言葉が飛び交ってもいるわけじゃない？　おかしなってよかもしれないけど（笑）。そこには〝批評〟というものに対するもあって……真は、しくなすのがより正当な批評でしょ、と思い込んでるような人がすごく多い。俺自身は、批評の対象にできるだけ誠実に向き合いたいとずーっと心がけているだけなので、高すのが目的化してるようなは、マジで一緒にされたくないんですけどね。今でも、ボロカス言ってるように見えるときほど真剣に覚悟を決めて作品に向き合っているつもりですし、そもそも毎回本気で、まずは良いところを見つけようとして臨んでますから……これでもね（笑）。

郷太　（笑）。宇多丸さんのラジオなどの評論を聴いていると、是々非々をはっきりしなくちゃいけない映画の評論はともかく、アイドル音楽の評論については好きなものについて語る率が高いのかな、って。

宇多丸　24年前に『BUBKA』で連載を始めた頃はハロー！プロジェクト一強だったから、要は自民党に対する文句みたいな感じで（笑）、わりと強い言葉で言ったりもしてましたけど、アイドル業界に関して言うと今はもう、みんな力がない中でやってるか

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

らね……上から目線でガーガーやるのはもはや適切でない、とは考えています。ただ、連載に向けての作品のチョイスそのものが、完全に僕なりの批評になっているところは、間違いなくあると思います。その結果、近年は必ずしも〝アイドル〟という定義や枠に収まりきらないものばかりになってきていたりもするんですが（笑）。

宇多丸が考える、NONA REEVES のポップ的価値

宇多丸　郷太君たちが歩んできた音楽シーンにも、すごく興味深いねじれがあると思うんですよね。１９９０年代以降の日本のバンドシーン、ミュージシャンのシーンでは、ナみたいに陽性の純粋なポップミュージックを志向するスタンスは、むしろ異端だったんじゃないかと思って。ポップであるがゆえの孤独、みたいなものを感じてきた場面が多かったと思うんですが、どうでしょう。

郷太　宇多丸さん、ちゃんと理解して、言語化してくださって……。まさに、そうです。僕はマイケル・ジャクソンやプリンス、ジョージ・マイケルが好きだと90年代半ばのデビュー以来公言し続けていますが、共有できる人が本当にほかにいなくて。マイケル・ジャ

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

クソンは唯一トライセラトップスの和田唱くんが盟友って感じで思いを共有できたんですが。ジョージ・マイケルやジャネット・ジャクソンは、最近一緒に音楽を作っているミッツ・マングローブさんがめちゃくちゃ詳しくて。ここ数年ようやく仲間が、って感じです。ちなみに、K・POPのプロデューサーのJ. Y. Parkさんはドンピシャでマイケル・ジャクソン、プリンス、ジョージ・マイケルをリスペクトしていて、3つあるスタジオの名前をマイケル、プリンス、ジョージにしてると聞き、会いたくてしょうがないです(笑)。でもこういったポップ感覚は、15年くらい前までの日本のロック畑の人たちにはなかった。1990年代の場合は、ニコニコしてアクションしながら歌うのは、僕くらいでしたから(笑)。リアム・ギャラガーみたいに後ろで手組んでじっとして歌うのがカッコいいとか、トム・ヨークみたいに苦悩した感じでパフォーマンスする姿が主流だったので、僕は浮きまくりでした(笑)。

宇多丸　郷太くんがやってきたような、踊れて楽しくて、でもそこにはメッセージ性もちゃんとあって……みたいな音楽、要は80's的な華やかさがあるポップミュージックって、僕や郷太くんにとっては言うまでもなくそういうのがサイコーなわけだけども(笑)、日本における〝ロック的〟価値観の中では、逆に肩身が狭い時期も長かったということだ

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

よね。ヒップホップのクラブとかだと、それこそマイケルなんか定番としてずっとかかり続けていたりして、また温度感がだいぶ違ってたりもするんだけど……そんな中で、ノーナとかキリンジとかは、あの手この手で頑張ってきたわけですよね。

紀大　デビューしてからある時点までは本当に、ワーナーの同期のキリンジとかクラムボンとか、そういう仲間しかいなかったですね。この本の中で小西康陽さんと対談した際に、小西さんがシックが好きだったとおっしゃっていて。そこで話したことなんですけど、シックってディスコのイメージがあるけれど、結局はロックバンドなんですよ。ストリングスやディスコ的な記号や装飾は入るにせよ、ドラムとベースとギターで成り立ってる。基本的には骨太なロックコンポというか。

宇多丸　ロック自体がそもそもブラックミュージックなわけだもんね。

郷太　そうなんですよ。チャック・ベリーやファッツ・ドミノ、リトル・リチャードが出てきてから20年くらいしか経たずに、なぜだかロックが白人のものっていう刷り込みみたいなことになって。そこで1979年にシックが鳴らした『グッド・タイムス』のベースライン、ギターカッティング、リズムが、シュガーヒル・ギャングの『ラッパーズ・ディライト』や、クイーンの『アナザー・ワン・バイツ・ザ・ダスト（地獄へ道づれ）』で、

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

またあらゆる方向につながっていくわけじゃないですか。

宇多丸　そんなふうに、要はリズム&ブルースが分母で、その先にロックンロールとかいろんなものがある、っていうことだから、そういうマップを踏まえずただ目先のスタイルでカッコつけられても、ああ僕は結構です……って（笑）、少なくとも僕はなっちゃうんだよなぁ。

2人が考える〝ポップ〟とは

宇多丸　1960年代に、モータウンのジェームス・ジェマーソンっていう、ジャズの時代のベーシストがいました。僕にとっては、憧れのポップやソウルにたくさん関わっているミュージシャンです。ところが彼は歌もののヒット曲を作ることを格下に見ていて、小遣い稼ぎとしてやっていたんだとか。このエピソードに接して思い浮かんだのが、1990～2000年代頃のアイドル音楽やアニソンみたいなものって、一部の評論家たちからは、長らく〝格下〟的な感じで黙殺されていたんじゃないかって。そんな中で、宇多丸さんは、モーニング娘。をはじめ、アイドル音楽の魅力をいち早くラジオで話されていましたよね。

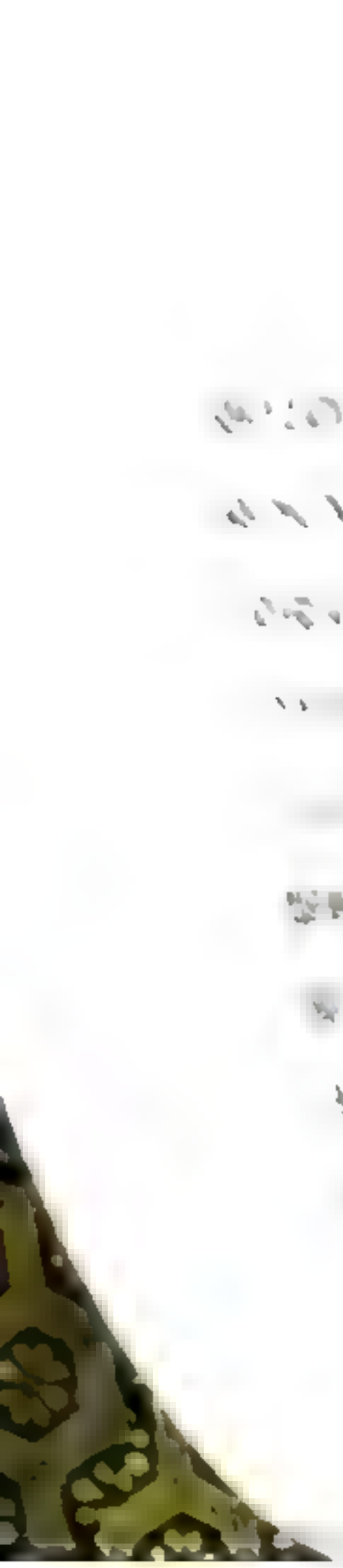
CamScannerでスキャン

最初は「あのノイムスターの宇多丸がアイドルの音楽を論じるのかよ」みたいな空気感もあったような気がしているんです。

RHYMESTER　そうなのかな（笑）。とにかくそれくらい、１９９０年代末から２０００年代初頭くらいのJ-POPって、名作が揃って尖がったものが出やすい時代で、めちゃくちゃクリリンクノ、たんくすよ。中でもやっぱり、つんくさんの面白さはそれまでの職業作家としての型的アイドルポップノとは根本的に違う新しさ、良い意味でのむちゃくちゃさがあった。僕の『マブ論』の単行本用に小西康陽さんにインタビューしたときに伺った、松浦亜弥『ねぇえ？』の編曲を小西さんが手がけた際のエピソードとか、まさにその典型で、つんくさんからの申し出しの指定が、サビだけ全部転調しろとか、テインパニーの音が面白いから増やせよとか、いわゆるいわゆるやっぱり良い意味で通常の楽理に沿ってないというか、くい。その通りに直してゆくと、ホントにどんどん良くなる！っていう出来て。でも、まさにスオプロデューサーだってことですよね。同じようにDJ感覚があるクリエイターで言うと、クレイジーケンバンドの横山剣さんとかからこ…

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン



CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

ローバルスタンダードを持ち込むという試みが、ようやく日本でも受け入れられる時代になってきたというか。何より、エイベックスというあからさまにダンスミュージックを武器にした会社が天下を獲ったというのが、象徴的ですよね。TKサウンドが、日本人に本格ダンスミュージックに対する耐性を、半ば強制的につけさせた（笑）。

小室　trf（現・TRF）の『Overnight Sensation ～時代はあなたに委ねてる～』、すごい好きでした。

宇徳丸　どの曲もサウンド自体は、めちゃめちゃ本格的なことやってたりしますからね。その一方で、特に大きめのフェスとかに出ると、日本の多くの〝音楽好き〟にとってはやっぱり、いまだに全然ロックが主流なんだなぁと、つくづく思ったりもします。基本はやっぱ、縦乗りですよね。

鴻太　昨日テレビを観ていたら、SUPER EIGHT の村上信五さんと superfrog ひとりさんがそれぞれ好きな曲を紹介していたんですよ。村上さんはキリンジの『エイリアンズ』を人生の10曲に選んでて。superfrog ひとりさんは、GOING UNDER GROUND の松本素生くんの『2030』っていうソロ曲でした。選ばれていた理由を聞くと、歌詞にご自身を重ねている感じでしたね。それを見ていると、日本人にとって歌詞の世界に自分の経験を溶け合

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

いきなりいく、みたいな感じがあるんだなと感じたりして。

ジョン　ライムスターもそういう面は確実にあるんだけど、要は皆さん、最終的にはポップなよね（笑）。やっぱりどこか演歌的な感性が根強く残っていると……対照的にノーナがやってきたのは、基本的にはひたすらポップなわけで、特に登場したての頃は、「チャラチャラしやがって」みたいに捉えられていたところもあったかもしれない。僕らも、それこそ初期から近年に至るまで、「大学出のナンパな連中で"リアル"じゃない」みたいなレッテルは貼られ続けてきましたし。ところが、お互いここまで長く生き残ってくると、やってることは一貫してるだけに、キャリアにある種の物語的な重みが自然とついてくれたりもするじゃない？　だから、どんどんやりやすくなってきてるところもあるよね、きっと。

塚太　そこまで好きだったのね、みたいな（笑）。例えばミック・ジャガーやキース・リチャーズなんて、早死にしてもまったくおかしくないような人たちだと思うんですけど、まだライブをやってるわけですよ。彼らを上の世代とすれば、ローリング・ストーンズはまだライブをやってきて、ようやく今、真ん中の世代というか、年齢的にも……

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

ていきたいなと思いますし。この前の武道館公演は、目の前のお客さんはもちろんのこと、いている先輩がまだ先にいるというのも感じられる良い機会でした。ライムスターが歩いてる姿を本当にリスペクトしてるし、大好きなんですよ。それからオやテレビで活躍する姿を、2人が応援している感じに見えるじゃないですか。そういうところも含めて、DJ JIN、Mummy-D、宇多丸っていうトライアングルで最強、みたいなあり方は素晴らしい。僕もメンバーたちがノーナ以外の場面で活躍しているのが嬉しいし、「凄いじゃん！」って。いまだに学生の頃のような純粋な気持ちのままで、はしゃいでしまう。心底羨ましいんですよ。

宇多丸　分かるよ、その感覚。学生時代のノーナにも、会ってみたかったなぁ。

郷太　小松や奥田は、もう最初から天才でした（笑）。この先も、メンバーたちと信頼し合えるグループでいたいと思ってますね。だから宇多丸さんのような先輩方がいてくれて、本当に良かったなと感じています。

宇多丸　ありがとう！　郷太くんたちも、これからも長く続けてくださいね。時代のほうが、ようやくノーナ・リーヴスが作るポップに追いついてきたんじゃないの？　ってところもあると思うから。とにかく、ずっとファンです！

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

特別対談

戸塚祥太（A.B.C-Z）×西寺郷太

今、この時代に"お腹の中"まで遡る戸塚の音楽的ルーツ

郷太　芸人・永野さんのYouTubeチャンネルで、とっつーがニルヴァーナへの愛を語っている回を観たんだけど（永野CHANNEL「【神回】永野とABC-Z戸塚祥太がニルヴァーナへの愛を語り尽くす！人生で必要な事は全てカートコバーンに教わった」）。普段のとっつーの良さが出てて嬉しかったです（笑）。

戸塚　ありがとうございます。ニルヴァーナ、スプスプにハマったんですよね。かつて、

戸塚祥太（とつかしょうた）　1986年生まれ、東京都出身。'99年にジャニーズ事務所に入所。'00年、ジャニーズJr.内ユニット、A.B.C.のメンバー入り。'08年にグループ名をA.B.C-Zと改称。'12年にDVDでメジャーデビュー。最新シングル「君じゃなきゃだめなんだ」を含む4年ぶりのアルバム、「ゆるやかに変わりゆく時代の中で、輝く君と踊りたい。」が発売中。俳優・声優としても活躍の場を広げている。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

1人でスタジオに入ってギターで『スメルズ・ライク・ティーン・スピリット』、『リチウム』、『カム・アズ・ユー・アー』など、彼らの曲を弾いてみたこともあります（笑）。そういうところがあるのを知ってか、事務所の先輩の井ノ原（快彦）くんが、ある日郷太さんとの仕事を繋げてくれて。郷太さんとは、それからのお付き合いですよね。

郷太　そうそう。10年ぐらい前。とっつーが『ダ・ヴィンチ』で連載を始めた頃。井ノ原くんに「文章も書くし、小説も音楽も大好きで、ちょっと面白い後輩がいるから郷ちゃん、会ってくれない？」って誘われて。初めて会った夜に井ノ原くんととっつーが揃って「少年隊の錦織一清さんを尊敬してる」って言ったから即、意気投合したよね（笑）。でしばらくして錦織さんの演出で俺が音楽を担当した神奈川県のKAATでの舞台『ボーイズ TOWN』を、メンバーと一緒に観に来てくれて。

戸塚　そうでしたね。そこから繋がって、2016年に、A.B.C-Zが錦織さんの演出で『戸塚祥太 式会社応援屋!!』という舞台をやらせていただいて。そのときに、郷ナさんが描きおろしの曲を書いてくれたんですよね。メインテーマの曲は『サポーターズ!』。俺たちがみんなを応援するよ」というメッセージがこめられた楽曲です。俺らが舞台の中で歌にして、『応援屋』に呼応する一曲でしたが、『サポーターズ!』は、俺たちA.B.C-Zのコンサートソング

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

3　3

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] A.B.C-Z [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 『Moonlight walker』 [illegible]

にはＡＳＫＡさんや、佐野元春さんをはじめとする大先輩との対談も収録されるんだけど、その中で俺より若い人は気恥ずかしい『王様のブランチ』の対談コーナーだけなのね。レジェンド扱いやんと、とっつーだけなのね。

戸塚　貴重なお仕事をいただけてありがたいです。僕ね、プライベートで友達とお酒を飲んでいるときに、「日本で一番が上手い歌手と言えば誰だろう？」って話をするんですよね。すると必ず出てくるのが、玉置浩二さんやＡＳＫＡさんのお名前になるんですよね。

郷太　ＡＳＫＡさんは「横綱」だよね。とっつーは１９８６年生まれ？」「ＳＡＹ ＹＥＳ」が流行っていたのは１９９１年だから、まだ5歳くらいか。

戸塚　そうですね、１９８６年生まれです。「ＳＡＹ ＹＥＳ」や「ＹＡＨ ＹＡＨ ＹＡＨ」は、気が付いたら聴いていました。大人になってから改めて意識的に聴くようになったんですけど。

郷太　初めて好きになった歌謡曲やＪ-ＰＯＰはなんだった？

戸塚　アニメ『幽☆遊☆白書』のテーマ曲の『微笑みの爆弾』とか、さよなら bye bye』なんて大好きでした。同じくアニメ『姫ちゃんのリボン』の曲もよく歌っていましたね。『姫ちゃんのリボン』では、ＳＭＡＰさんの曲が使われていて（※オープニングテーマ『笑顔のゲンキ』、エンディングテーマ『プラプラさせて』）、おはねたよ

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

なとこ、それて耳にしてました。あと世代的に、『そばかす』は、クラスの女子ほぼ全員が好きでしたね。みんなCDに付いている歌詞カードが欲しくて。でも買わないと手に入らないでしょう？それてCDを買った子が歌詞をノートに書いてくれて、みんなで共有していました。あと、クラスの女子たちは、スキマスイッチも大好きでした。小学生の頃、修学旅行か移動教室でバスに乗ったときに好きな曲をかけられるということでみんな投票したんですけど、もうKinKi Kidsの祭りでした（笑）。『ジェットコースター・ロマンス』や『愛されるより 愛したい』とか。僕の初恋の女の子が、『ジェットコースター・ロマンス』をリズムを取りながら歌っていたのを覚えてます。「♪ぼくの手をギュッと抱いてて～」ってやっていて。「うわあ、なんかいいな」って思って。

郷太　『ジェットコースター・ロマンス』のアレンジも船山さん。作曲は山下達郎さん。

船山さんは、少年隊だと『仮面舞踏会』とか『ＡＢＣ』もそうなんだけど。

戸塚　『仮面舞踏会』を自分で意識して聴いたのは芸能界に入ってからなんですけど、たぶんその前からどこかで聴いてるっていうか、知ってるんですよね。イントロの「♪To-gether yo ka-...ther」とか。センサーを張ってなくても勝手にインストールされていたなあ。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

宅配業者の方の前でも悲しみを隠さなくて……。「いやいやお母さん、相手がびっくりしちゃうでしょう!?」という思い出もあります（笑）。

初舞台で味わった挫折

郷太　とっつーは何歳で事務所に入ったんだっけ？

松本　中1の1学期だったので、12歳です。母が履歴書を送ったんですけど、それはたしか小5の頃かな。忘れかけてた頃に事務所から連絡がきたんです。オーディションは中1の4月25日でした。母は本当は友人の息子さんを入れたかったみたいなんですけど、入所するには年齢制限があって、その子が年齢に達してなかったんです。それで母が僕に「先に入って様子見てこい」って。今考えると「様子見てこい」で入れる世界じゃないんですけど（笑）。で、初めての舞台は中学1年のゴールデンウィーク。ジュニアのコンサートでした。滝沢秀明くん、松本潤くんたちと一緒のステージで、まだ嵐もできていない時期でしたね。「明日に向かって」という曲で踊りました。

郷太　4月25日にオーディションで、ゴールデンウィークにもう本番なの？　いきなり過

CamScannerでスキャン

ぎない？（笑）

戸塚　そうなんですよ、オーディションを1回やって入所。そしてお披露目まで10日もありませんでした。

郷太　オーディションのことって覚えてる？

戸塚　当時僕はサッカークラブに入っていたので、オーディションには行けなくて、終わってから行ったんです。会場に着くと、リハーサル室の鏡の一番前で振付師の方が踊っていて、その後ろでみんなが振り付けを真似していました。遅れてきた僕は列の最後列に入ることになり……。〝振り付け師の方のを真似している人たちの動きを、さらに真似する〟、みたいな感じで。まともに踊れていなかったと思います（笑）。

郷太　それなのに受かったんや！（笑）

戸塚　どうでしょう。単純に人数が必要だったのかもしれません（笑）。

郷太　ゴールデンウィークの公演の会場は？

戸塚　横浜アリーナでした。ステージの裏ではリゴンセールのように衣装を、それぞれが取って着て舞台へ出ていく、みたいな状況だったんですが、会場に出番がいちばん近いだろうセンターステージは郷太のサイズが23・5センチだったので、

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

イブは25・5センチ。やむを得ず、ブカブカの靴を履いてステージに出ていきました（笑）。

ブカブカのウエストもまくりまくって、ベルトもきつく締めて。

――高芝さんの子はほかに誰がいた？　A.B.C-Zだと、河合くんは1歳上だっけ。五関くんは1歳下くんとか？

高芝　河合くんはまだそのときはいなかったです。五関くんは入っていました。覚えてるのは、五関くん、塚田（僚一）くん。あとは、辰巳（雄大／ふぉ～ゆ～）くん。あと福ちゃん（福田悠太／ふぉ～ゆ～）、こっしー（越岡裕貴／ふぉ～ゆ～）もいたのかな、たぶん。

――福田悠太　そのとき、すぐに仲良くなったり？

高芝　いやいや……。何もかもが初めての経験で、とてもじゃないけど仲間を作る余裕はなかったです（笑）。初リハーサルは、ステージ上の音の大きさにびっくりしました。ベースのカトンボン、「すごい！」と。ひたすら圧倒されてしまって。そしてざ本番当日。ステージ上へと出て行ったら、うちわを持ったお客さんがフロアにパンパンに埋まっていて……。「なんだ、この世界!?」って、もう脳内は大混乱です。会場は〝8の字ステージ〟という形のステージで、僕は8の字の外周の部分に立つことになっていたんですけど、走って行くときに、ブカブカだった靴が脱げたんですよ（笑）。となると〝片

CamScannerでスキャン

方は靴、片方は靴下〟の状態でやるしかないな、と。もちろん、解もないですから、ただ単に裸つかって叫んだり、仁君がしてるトをガンガンに浴びたタッキー（滝沢秀明）を見て……。「タッキーかいるー」って思いました（笑）。彼の主演ドラマ『魔女の条件』を観てましたし、多田ヒカルさんの『First Love』が大好きだったので。

郷太　いきなり、ごく普通の子どもらしい感想が（笑）。

戸塚　（笑）。

郷太　初めての舞台のとき、ほかの先輩たちについてどう思ったのかも聞きたいな。

戸塚　リハーサルのときに赤西仁くんを見たのを覚えてます。コンサートの当日には、大野智さんが1人でSMAPさんの『朝日を見に行こうよ』を歌っていて。歌、超上手かったです……！　二宮和也くん、相葉雅紀くん、松本（潤）くんは1つのグループで、櫻井（翔）くんは、3人とは異なるパートを担当されていたような。先輩方の印象はそんな感じですけど、人生初のコンサート出演は自己採点だと0点。ステージを終えて、「ダメだ、何にもできなかった」、「向いてないな」って思いました。

堀太　初めての経験でしょ？　ある意味では今と同じでストイック（笑）。プロ意識が

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

た末に、再挑戦することに決めました。2回目のステージは……。今振り返ると、前よりは踊りの練習をする時間があったのも、少し余裕が持てたのかな。会場も同じ横浜アリーナ。トラウマ的にとはいえ、知っている空間でしたし（笑）。本番中の出来事は、思い出深いです。KinKi Kidsのお2人が8の字ステージの上手と下手で分かれる場面があったんですね。僕は堂本剛さんが通るほうで踊っていました。『ふらいんぐ・ぴーぷる'99』って曲を、剛さんが歌いながらこちらに歩いてきたんですが、後ろには、松本くんや二宮くん、相葉くんらジュニアの先輩がいて。みんなの先頭にいる剛さんは、金髪をサイヤ人みたいな姿でしたし。剛さんのビジュアルも含めて、「めちゃくちゃカッコいい！」と衝撃を受けて。ステージの世界への興味が……。僕の中で何かひとつ、スイッチが入った瞬間でした。

郷太　そこでも嵐のメンバーと一緒のステージだったんだ。

戸塚　はい。まだ、嵐としてデビューする前でしたね。夏のKinKi Kidsのライブのあと、今度は『ミュージックステーション』に出演させてもらったことがあったんです。僕は『フラワー』のときだけ出たんですけど、その前に『キミは立ってツヨくなる』って曲があって、そのときに嵐の方々がバックで踊っていたような記憶があります。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

てたときもありましたし、Kis-My-Ft2の千賀（健永）くんと一緒だったときもありました。いろんなパターンがあったんですけど、一番年の離れた橋本くんの加入で、グループとして面白い地点に行けた、というか。KAT-TUNやA.B.C.-Zができた2006年ごろから、ジュニアから次々とグループが誕生していった流れってほかにもありましたね。

少年隊はやっぱ最強ですよ

郷太　その時代のメンバーやグループは全部知ってる（笑）。そしてどっぷりはジュニアの活動を行いながら、『PLAYZONE』みたいな舞台にも出るようになっていくわけだ。

戸塚　そうですね。『PLAYZONE』に初めて出たの、いつだったろう。Hey! Say! JUMPの薮宏太君や八乙女（光）君がショータイムで1曲やるとき、バックで出たのが初めてだったかもしれません。その経験のあとだったかな。夏休みに事務所が「『PLAYZONE2001 "新世紀・EMOTION"』を観に行きなさい」ということで。客席の階段とかで観ていました。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

の大サビのメロディは、"小年隊の大サビ説"を、
愛太　おそらくの大サビ説"をやるならし
ウォール」の2分5秒からのメロディーがすごく好きってポスト
とか、Dメロとかいろんな言いかがあるけど、曲はブリッジって
起承転結の"転"の部分"結局『オフ・ザ・ウォール』にしても、"マイケルの
にしても、"ブリッジ"のメロディーだけを聴いてその曲は分からない
い聴いてこそ、"転"の部分の豊かさがわかると言うか。
三宅　そうね。
ライム　コーズ、コーズ、ベタなくらいがちょうどいいのかもしれないです。
愛太　あの部分、人せ
三宅　SNSで"オフ・ザ・
愛太　物語で言えば、
三宅　"マスト・ビー・ア・ワー
愛太　最初か
ライム　ベタなくらいがちょうどいいのよ。
愛太　そうですね。
三宅　そうですね。
ライム　コーズ、コーズ、ベタなくらいがちょうどいいのかもしれないです。
愛太　あの部分、人せ
三宅　SNSで"オフ・ザ・
愛太　物語で言えば、
三宅　"マスト・ビー・ア・ワー
愛太　最初か

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

で歌ってる人の後ろで踊ってるだけっていうか、別に自分の居場所でもないよなっていうか……なんか「どこでもないじゃん、自分の居場所」みたいなことを思ってたね。特に、THE BLUE HEARTSに救ってもらった部分は大きいかもしれない。

郷太　ブルーハーツは誰の影響で聴くようになったん？

戸塚　中学時代に友達の家でライブビデオを観せてもらったんです。甲本ヒロトさんの歌い方を見ていると自然と顔が笑っちゃって、「よっしゃ、これだ！」って思いました。それからずっとブルーハーツを聴いてます。もしもブルーハーツとの出会いのほうが早かったらバンドをやってたのかもな、みたいなことも思うんです。

郷太　とつつーは、ギターとかに先にのめり込めば、普通にバンドマンになってた気がする。ほんとに。ブルーハーツで特に好きな曲は？

戸塚　『月の爆撃機』ですかね。オリジナルは『STICK OUT』ってアルバムの最後のほうに収録されています。特に自分が好きなのは『LIVE ALL SOLD OUT』っていうライブ盤の音源で。ライブ盤でのヒロトさんのテンションやグループ感がオリジナルと全然違うんですよ。「いつでもまっすぐ歩けるか 湖にドボンかもしれないぜ」ってフレーズが妙に

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

聴きまくりましたね。僕、夜更かしが得意だったから、夜中にずっと『天体観測』やピートルズの『1』（2000年発売のベストアルバム）を聴いていました。

郷太　とっつーの今やってる活動、お兄さんはどう思っているんだろうね。

戸塚　どうでしょうね。僕、兄貴とずっと同じ部屋だったんですよ。でも兄貴が20歳くらいのとき、仕事の関係で社宅みたいなところに住み始めたんです。そこに会いに行ったときに、部屋に置いてあったノートの表紙に〝A.B.C-Zガンバ〟って書いてあるのが見えて……。

郷太　優しすぎる……！

戸塚　今、話してもちょっと泣きそうになっちゃう（笑）。バンプの『ユグドラシル』がリリースされた頃、僕は『SUMMARY 2004』っていう、KAT-TUNとNEWSが中心でやっていたショーに参加していたんですね。それが終わったら、出演者のみんなで海外に行くことになっていたんですよ。そのときに兄貴が『ユグドラシル』を持たせてくれたのを覚えています。『乗車権』って収録曲、コード進行もダークな感じで歌詞も暗かったんですけど、それを飛行機の中で聴いてましたね。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

iko』をSeiko名義で海外リリースするプランに直接つながっていたんだと思います。

Spotifyには『Seiko』がなかったので、当時買ったCDをひさびさに引っ張り出してみたんですよ。湯川れい子さんが書かれたライナーノーツを読み返し、当時のムードを思い出していますが……改めて聴いて聖子さんにとって不運だったなと思うのは、彼女が全米デビューを計画した1988年末の80年代的社会と、激動の89年を経たあと、ようやくアルバム発表に至った1990年って、世界が何もかも変わってしまっていたんですよね。

ポップミュージックの理想形

聖子さんがある時期から目標にしたであろうアーティストが、マドンナです。1990年のマドンナに注目すると、春にハウスミュージックをメインストリームに引き上げた大傑作シングル『ヴォーグ』、秋には前年にデビューし注目を集めた新鋭レニー・クラヴィッツとの挑戦的な『ジャスティファイ・マイ・ラヴ』をリリースしているんですね。この2曲が全米ナンバー1を獲得することによって、マドンナは1989年までに自分が作り上げた〝記念碑〟をぶっ壊して、先に進めた。彼女の音楽を愛し世界中に生まれたフォロワーたちを、良い意味で置き去りにしてしまった。そんな印象です。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

下、耳にさかあるっていうか、『ぷ』も含めて、デコレーションされた世界じゃない曲を歌っていたのか心かったよぉ、と。骨太なソングライターが作った曲を芸能界の頂点にいるスーパースターである彼らが歌う発明的な曲だった。あれ以降、30代を迎えたアイドルもどんどん出てきた布石になったよね。

小原　かっこいいですよね。僕の中では彼らもっと好きになってるんだろうなって思いたこともあって印象に残ってるけど、なんか、今聴いたらもっと好き度が上がる曲。たぶん、数年後また聴いたいます。先輩の曲の中でもけっこう……いや、かなり上位に入るかな。

デビューできなくてもいいじゃないか

雄太　また別の質問なんだけど、ジュニアで活動を続けているうちに、だんだん「自分たちもデビュー、もうすぐかな？」みたいな感じになってくるん？

小原　そうですね。と言いつつ、実は「A.B.C-Z はメジャーデビューしないのもありなのではないか」と思った時期もありました。僕らの同世代になるキスマイ（Kis-My-Ft2）のデビューできたらいいね」という気持ちもあったし。僕はジュニア

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

の期間は13年ぐらいだったのかな。入所が1999年で、A.B.C-ZのDVDデビューが2012年。ジュニア時代の後半は、前身のA.B.C.を経て、A.B.C-Zとしてのショーができるようになっていました。すでに僕たちなりの世界観を作り、ファンの人に見てもらえている場があったから、「もうこれ、1個の世界じゃないか」と。それにメジャーデビューできなかったからといって、何かを奪われるわけじゃないですしね。僕個人としては、ギターを弾き始め、本もむようになっていたので、「自分発信で、クリエイティブな活動をやりたい」欲も出てきていたんです。デビュー前のショーでは自作の曲も披露していました。

――「すっとLOVE」とかもそうだけど、とっつーはけっこう作詞もしてるもんね。でも割と珍しいタイプだよね。

松村　そうかもしれませんね、堂本剛さんとかは作詞・作曲していましたけど。あと僕、セリフを書くのも好きなんですよ。自分の曲のために〝プロモーション演劇〟を作ったこともありました。25分くらいで演劇的なことをするもので、京本大我（SixTONES）くんとかに出てもらったりして。それから尾崎豊さんの『OH MY LITTLE GIRL』への『OH MY BEST FRIENDS』という曲を書いたりもして。ソロ曲として「OH MY BEST FRIENDS」という曲を書いたりもし

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

ました。僕のクリエティブな活動は、バンプだったり Mr.Children だったり、自分が好きで聴いてきたJ-POPからの影響も下地になっていると思います。

5人でやりたいことは『JODEK!!』でやり切った

紘太　今、個人的にはこれから特に海外でJ-POP的ないわゆる「起承転結」がある物語的な音楽が求められている感じがしていて。ずっと、もっとリズムのインパクト中心で、さっき話した「ブリッジ」みたいな展開がない曲も多かったじゃない？　ストリーミング世代の飽きやすい特徴に対応して、イントロやアウトロもむしろない方が良い、大事なところだけ圧縮するスタイルが良しとされていて、J-POPの展開過多な世界は古く感じられてきた10年くらいを経て。ただ、これは元々海外のストリーミング・サービスで仕事をしていた人から教えてもらったことなんだけど、韓国で近藤真彦さんの『ギンギラギンにさりげなく』がめちゃくちゃ流行っているらしくて。トロット（日本の演歌から派生して韓国で生まれたとされる音楽ジャンル）と呼ばれて、独特の哀愁があるメロディやサウ

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

戸塚　韓国で流行っているのはびっくりしますけど、『ギンギラギンにさりげなく』は、当時流行していたクインシー・ジョーンズの『愛のコリーダ』などの影響を受けているディスコチューン。筒美京平さん作曲の名曲で、個人的に言うと俺が一番最初に買ってもらった3枚のシングルのうちの1枚。最近も、NewJeansが東京ドーム公演で松田聖子さんの『青い珊瑚礁』を歌ってめちゃくちゃ盛り上がっていたけれど、1980年代のアイドル曲が再評価されている感覚が実際にある。

去年、俺が提供させてもらったA.B.C-Zの『JODEKI!!』は、まさに海外でもアリだと思って作ったんたった楽曲だったけど。船山さんがアレンジしてくれたエレガントさも含めて〝ザ・歌謡曲〟みたいな部分があるじゃない？あの方向性はA.B.C-Zの武器だと思うんだよね。

戸塚　そうですね。『JODEKI!!』は河合くんが辞めることが決まったタイミングでの曲でした。郷太さんがニュージャックスイングの要素を入れてくれて、僕もマイケルの〝デンジャラス〟みたいな、ああいったニュージャックスイングのサウンドが好きだから、嬉しかったです。

郷太　SMAPにもめちゃくちゃニュージャックスウィングのリズムの要素があるんだよ。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

本ありきだったじゃない？

戸塚　そう考えると、確かにそうですね。

郷太　『ONE MORE KISS』もさっき話したみたいにかなり時間をかけて不思議な経緯でCD化された曲だし。

舞台で歌ってくれたあとに、CD化された曲だし。

戸塚　少年隊からの、ありがたい流れで。

郷太　『JODEK!!』にはそういう縛りのない初めてのオーダーで嬉しくてさ。「2023年の今、A.B.C-Zに歌ってほしいビートやメロディ、言葉を曲にしよう」と思って作れたんだよね。だから俺としてはフルスイングですよ（笑）。で、採用されたあと、河合くんの脱退の話を聞いて。2番の「♪近くにいちゃ見えないやさしさだってあるだろうソファーで眠る横顔 ぬぐった涙もすべて集めて～」の歌詞だけは彼が辞めるって知ってから書き加えた。ジュニアの頃とか、楽屋も大広間とかで、舞台の昼と夜の幕間に皆、眠るやん。その時代の感じも入ればいいなぁ、と。

戸塚　『JODEK!!』は自分の中でも冥土の土産みたいな曲というか。最後の最後『JODEK!!』っていうのがいいんですよね。「エンディングでJODEK!!ソロールが終わったあとが楽しみやん！」みたいな。またどこかで歌いたいですね。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

やっぱりあれがやりたかったっていうか、あれを5人でやったら絶対カッコいいぞって思ってたんです。それができたんで、郷太さんには超感謝してます。

郷太　ニュージャックスウィングって、基本的には生のストリングスやホーンを使ったゴージャスなサウンドではなくて。むしろ、80年代終わりから、90年代に管弦楽器をコンピュータでサンプリングしたり、打ち込んだりすることで爆発した文化。それが船山さんによって書かれたスコアで、歌謡曲やJ-POPの歴史との融合したというか、あのプレンド具合が絶妙なんだよね。日本でトップクラスの管楽器、弦楽器奏者がスタジオに集結してお金もかかってるし（笑）。70代のド天才・船山基紀さんが編曲で、当時40代最後だった自分と20代半ばの大樋ゆう大が共作してることもポイントで。あの曲を50年くらい歳の差があるメンバーで作った曲と考えただけで、ある意味、日本の音楽界の歴史が詰まっているとも言えるんだよ。

庄慎　本当に。

郷太　大樋ゆう大は、最近の東京ドームでのNewJeansのバンドマスターも任せられたマルチ・インストゥルメンタリスト。それで言うと、この前、神宮オーボーディスト、

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

少年隊メドレーがあったのよ。坂本（昌行）さんが東山さん、井ノ原くんが錦織さん、長野（博）さんが植草（克秀）さんのポジションで。『What's your name?』で始まって、次が『ダイヤモンド・アイズ』『デカメロン伝説』、それから『君だけに』『レイニー・エクスプレス』、最後は『まいったネ今夜』で終わって、それがもう、めっちゃ良くて。

戸塚　良いですね。

郷太　その日のバックバンドのドラマーが、俺の先輩ミュージシャンの古市コータローたぶん21～22歳ぐらい。仲良くしている先輩の息子が『君だけに』とか『What's your name?』を演奏しているのが、もう本当に胸熱で。新たな世代の人たちが、少年隊メドレーだったり、V6の曲を演奏してる。だから今A.B.C-Zが目指している伝統の方向性は、時代に必要とされてるって俺は思う。

戸塚　なるほど、今自分たちがやってることって志食ってるかもしれないですね、韓国で『ギンギラギンに～』も流行っているわけですし。

郷太　『JODEKI』に関して言うと、とっつーの抑えたトーンのボーカル、あのニュアンスが本当に良いと思った。あやって、言葉に強弱をつけながら表現する感じは、歌だけ

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

ではなく、個性としてセリフや演技を身体に叩き込んだ人だからなのかなぁ、と。

戸塚　ありがとうございます。意図的に表現していたわけではないので、郷太さんにそう言っていただけると嬉しいですね。僕、「やっと自分に慣れてきているのかな」と思うんです。わりと良い感じに力が抜けてきているかもしれません。今まではグループのことを"運命共同体"だと思っていて、グループ愛が強かった。でも今は良い意味で、A.B.C-Z以外に視野を広げてもいいともえていて。『JODECI』で5人でやりたいことはやり切ったと思います。音楽には関わっていきたいと思いますし、これからも音楽には関わっていきたいと思います。音楽部分がめるんですよね。もちろんこれからも音楽には関わっていきたいと思います。

郷　個性てりから。

戸塚　あと、とっつーと言えば、のエピソードなんだけど。それこそ7、8年前かな？

郷　誕生日、おめでとう！」「ありがとうございます！」「仲間とパーティでもしてるんだろうね、ごめんね！」「舞台稽古の後、今、一人ですよ」って（笑）。

戸塚　ありましたね（笑）。

郷　いくようと俺は静岡から仕事で帰るところだったんだけど、「せっかくの誕生日なんだから、ちょっとよね。結果2年連続になった気が（笑）。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

戸塚　（笑）。僕にとって郷太さんは尊敬すべき音楽家でもあるんですけれども、どこか兄ちゃんみたいな感じもあって。気にかけていただいていて嬉しいです。でも僕、誕生日に1人とかだと、なんか逆に嬉しいんです。

郷太　それ、時々言うけど、なんでなん？（笑）

戸塚　もちろん誰かと一緒にいたい気持ちもあるんですけど……。ひょんなことからエンターテインメントの世界に足を踏み入れて、20年以上が経ちました。その間、いろんな人に応援し続けていただいているんですよ。俯瞰で眺めると、とっても不思議な人生だと思いますから……。誕生日に1人でいるくらいのことがないと、僕の人生は〝プラマイゼロ〟にはならないかな、みたいな気持ちを持って生きています。

郷太　ストイックやわー……。でもアイドルを仕事にするって、そういうことなんだなと思って。俺はミュージシャンを長く続けていて、スケールはともあれ自由に感覚の赴くままにやってこられた部分がわりと多いと思う。それだけに、年齢は俺のほうが上なんだけど、とっつーのふとしたひと言が、勉強になるんですよ。今日は、本当にありがとう！

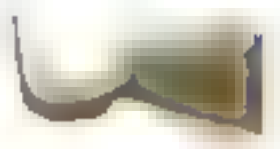
CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

いしだあゆみ

『ブルー・ライト・ヨコハマ』

2021版「ブルー・ライト・ヨコハマ」を京平先生に捧ぐ。



昨年末、武部聡志さんから「筒美京平先生のトリビュートアルバムにプロデューサーとして参加してほしい」とオファーが。聞いてみると、僕が担当するのは今を時めくガールグループ〈BiSH〉のメンバーでソロシンガーとしても注目を集めているアイナ・ジ・エンドさん。それは新鮮なことで嬉しかったんですが、20代のアイナさんがいしだあゆみさんの「ブルー・ライト・ヨコハマ」を歌いたいと彼女自身が選曲したと聞き、正直、最初は動揺しました。

武部聡志さんが既に指名されていたのは、亀田誠治さん、本間昭光さん、小西康陽さんなどいずれも日本を代表するトッププロデューサー。海千山千の先輩たちと同じ土俵に乗るためにも、自分が一人のリスナーとしてリア

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

ルタイムで愛し尽くした歌、少年隊やC-C-Bなど、「80年代ヒット・チューン」を選ぶべきではないか、と……。1968年12月25日にリリースされ大ヒットした「ブルー・ライト・ヨコハマ」は京平さんの代名詞的存在ではありますが、僕の生まれる5年前のヒット曲。直接の思い入れはなくて。でも次の瞬間、僕は気を取り直しました。アイナさんがソロ歌手としてMondo Grossoにフィーチャーされた「偽りのシンパシー」を聴き、そのハスキーで胸を打つボーカルのすごさに心を揺さぶられたんです。自ら作詞・作曲も手掛けたソロアルバムも2月にリリースされたアイナさんは、シンガーソングライターとしても天才！　僕が送ったデモに自分で仮歌を録音してファイルで返してこられたんですが、そのスピードとクオリティにも感動しました。

結果的に、「ブルー・ライト・ヨコハマ」を歌うべきと決めたのはB-SHIのプロデューサーであるWACK代表の渡辺淳之介さんだった、とアイナさん本人から聞いてさらに驚きました。プロデューサーであるはずの僕自身が、指名してくださった武部さんや、選曲された渡辺さん、そしてもちろん京平さんのタイムレスな楽曲に逆にプロデュースされていたという不思議な体験で。アイナさんのボーカルを聴けば、新しい世代の才能をいつも探求し愛された京平さんがニコッと笑ってくださるはず、と確信しています。

（『BRUTUS』2021年3月15日号掲載）

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

大滝詠一
『Velvet Motel』

落とし穴に注意、一筋縄ではいかない歌

大滝詠一（オオタキエイイチ）。1948年岩手県生まれ。1970年代にはっぴいえんどのボーカル&ギターとして活躍。解散後は自身のレコードレーベル・ナイアガラを創設。1981年発表のソロアルバム『A LONG VACATION』は日本のポップス史に残る名盤。1997年『幸せな結末』が月9ドラマの主題歌として大ヒットを記録した。2013年12月30日逝去。

2023年3月の□□□□□に記載

今回のテーマとなる曲は、僕が特にシンガーとして尊敬し、お会いしたくても会えなかった大先輩の1人、大滝詠一さんの『Velvet Motel』。この原稿を書いている2023年は、彼が2013年12月30日に亡くなって10年という節目の年でもあります。僕は昨年から、日本の名曲のカバーを中心とするソロアルバムを作りたいなと制作に取り組んできたのですが、そこでも『Velvet Motel』を選曲させてもらいました。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

少し前から、シティポップブームといわれていて、１９７０年代から８０年代半ばの日本のポップミュージックが若い世代から再発見されています。たしかに、その名曲の時系列、時代感覚はわかりとこわや出せになってしまったポイントだったと思います。"Sister"が収録された原史的名盤『A LOT OF VACATION』が発売されたのは１９８１年３月21日ですから、１９７３年生まれで今年50歳になる僕でさえ小学１年生の頃"当然、大人の音楽"を聴く年齢ではありませんでした。なので、僕にとってもいわゆる"シティポップ"は、すべて後追い。リアルタイムではなかったという感覚は今の若い世代と全くわからないんです。"

今回のカバー企画では、１９９６年生まれの大橋ゆう大くん（SASUKE）がパーソナリティやプロデュースを担当してくれました。彼はお父さんがジャズドラマーで、幼少期からピアノを学びクラシックの教育も受け、ベースもドラムもフルートも演奏できるというマルチプレイヤー。ジャンルなのですが、これまでどんな難曲も余裕綽々の表情でこなしていた彼が、超絶ドラムが速いわけでもなく、難しいわけでもなく、聴く分にはメロウで11期染みも良く、すんなりスムーズに聞こえてしまうのが逆に難しい"と言っていました。"Velvet Hotel"も、シンプルで演奏した曲の中で　番複雑で難しい"と言いました。間違えそうな細かいリズムやトリッキーな曲展開に取り組んでみると、実は同じようなフレーズの繰り返しで、仕組みさえ理解できれば意外と簡単に弾けてしまう"ボーカルも同じだそうです。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

のようなものが綴り込まれた冊子というか、ファンクラブ会報というか、そんなものが届くようになりました。なんとなく最近ようやく分かってきました。なんとなく最近ようやく分かってきました。

身近な存在

今回は歌だけに、マーカスしてみましょう。ご本人から何度も語られていることですが、

に正しい音や

めーにー」と、「に雨」の部分を聴いてください。この場所では、チェロやバイオリンのように息継ぎせずにつなげて歌っています。「ふむふむ、そういうルールか」と思っていると、次の行の同じメロディ部分「♪数えるお前の」のところでは「る／お前の」とちゃんと定石通りブレスを入れているのです……同じ歌詞でも回数によってリズムが違うタイミングだったりして。僕もナチュラルに勘違いしていたメロディ、ブレスが寸前までありました。単に思い込みを信じて気持ち良く歌ったり演奏していたりしたら容易に間違えてしまうんです。

もう1つ、大滝さん自身が語っていた彼の歌唱の特徴は〝鼻濁音〟です。例えば「がぎぐげご」と発音するとき、彼は意図的に子音の発音時に鼻で抜く〝鼻濁音〟（少し「が」に「な」を混ぜたようなイメージ）を歌唱に取り入れています。この『Velvet Mote』で象徴的なのは、「♪俺たちーが悲しーい」と歌う場面の「が」と言いつつ「ん」をかなり小さく、そして鼻に抜くことで柔らかく発音して衝撃、アタックを減らす。日本の伝統芸能・能の稽古でも、この鼻濁音の使いこなしが古来から行われていたそうで、より楽器的な滑らかな響きを得る方法として理にかなっているとのこと。というわけで、〝大滝ルール〟は単に複雑なわけではありません。大滝ルールを知って、守りさえすれば、作り手として何度聴いても飽きることのない究極レベルのポップソングの醍醐味をより感じることができる。その意味で、大滝さんの楽曲をカバーしたり、その構造についてを考え始めると迷宮に入り込んだ

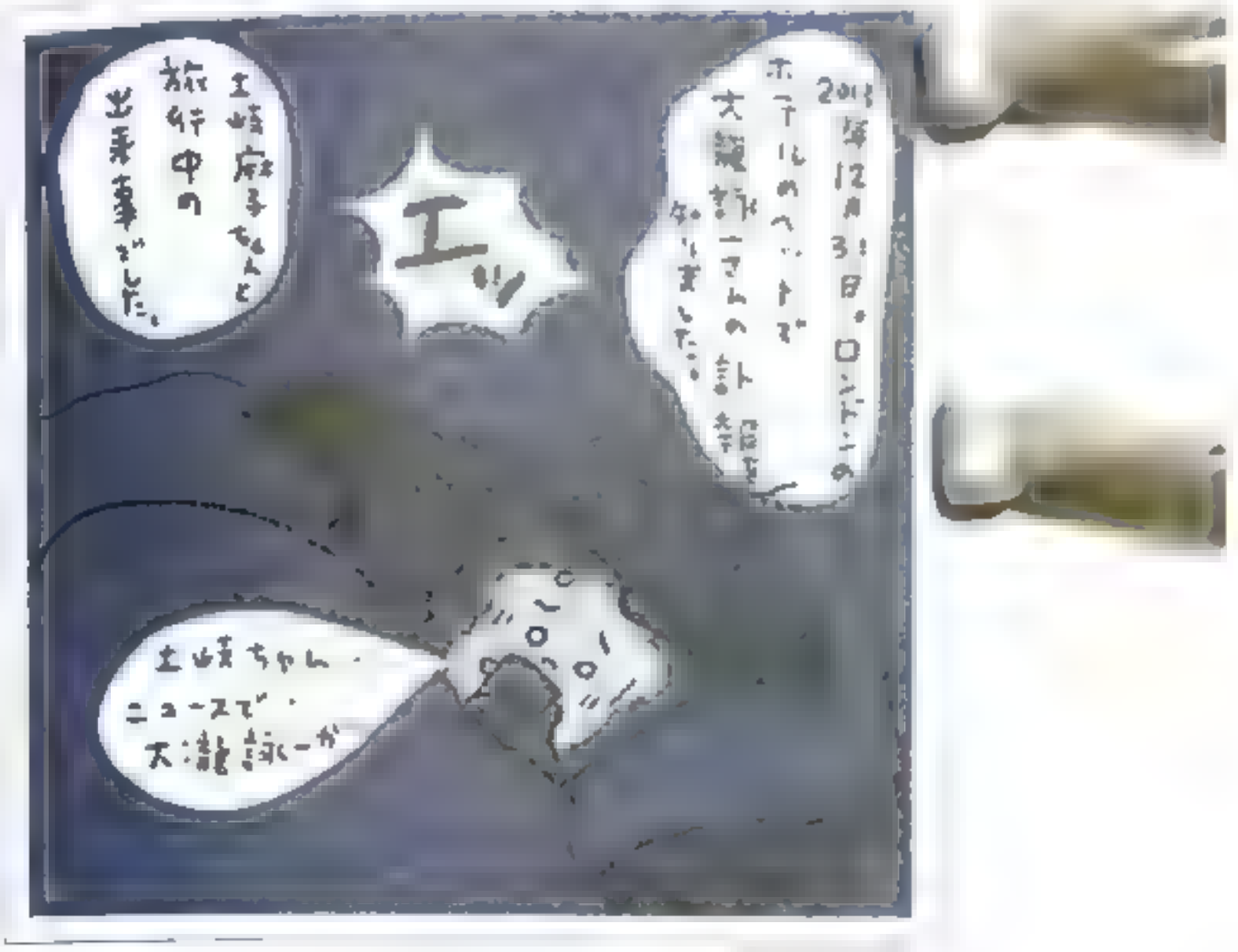
CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

ように書かれるんです（笑）。絵の具で例えるなら、まと青を混ぜた〝緑色〟も、混ぜ合いの違いだけで何千色も存在するみたいな感じでしょうか。

「歌詞はなんでもいい」の真意

大滝さんは、良くも悪くも「歌詞の内容に思い入れがない」と公言されてきました。もちろん彼ほど〝歌詞のクオリティ〟や〝響きの心地良さ〟を研究し、日本語でポップスを自作し歌うパイオニアとして実践、思考を繰り返してきた方はほとんどいないわけですが。ただ、大滝さんがあえて繰り返された「歌詞はなんでもいい」という発言の対極にあるのが、学校などで歌を教える音楽の先生の「作詞者が何を言いたいのか、歌詞の情感や意味、場面を想像し、思いを込めなさい」という指導です。個人的な例えばアイドルグループのプロデュースをする際、「できるだけ



CamScannerでスキャン

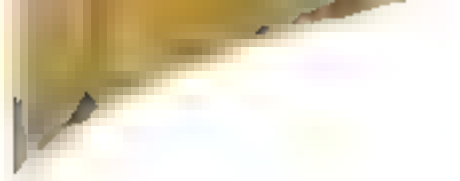
CamScannerでスキャン

フラットな感情で歌ってほしい」とディレクションすることが多いんです。その理由は、「楽曲は全体で感情を動かすものなので、"歌と歌詞だけ"ではない」、「聴く人の立場になって考えると、歌手の感情や思い入れでわざわざ出やしゃばったりしないほうがいい場合もある」と思っているからです。

よく知られるエピソードですが、『A LONG VACATION』の制作時、作詞を依頼していた松本隆さんが、妹さんを若くして亡くすという悲劇に襲われました。そのため大滝さんに「別の作詞家に頼んでくれ」と告げたそうです。大滝さんからの返事は「松本ありきで考えてるからほかの誰かじゃ駄目なんだ。だから待つ」。ショックで渋谷を歩くと街が真っ白に見える。つらい経験を越えた松本隆さんが書かれた詞が、アルバム1曲目の『君は天然色』。だからと言って、大滝さんのボーカルが必要以上に湿ることはありませんでした。限りなく瑞々しく明るくフラットに響くその歌声と豪華絢爛な演奏、アレンジ。しかし背景を知り、歌詞を読めばその表現の中に、無理に入れなくても絶対に感情は含まれてしまうんです。答えは1つではない。隠された不安やさりげない優しさがプリズムのように乱反射していく。松本隆さんの素晴らしい歌詞と、大滝さんの一瞬歌詞の味付けを薄めるような、ニュートラルで、しかもブツ切りで構築されたボーカルが混ざり合う。そこに生まれる解釈の広さこそが『A LONG VACATION』が時代を超えて愛され続ける理由なのではな

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン



松田聖子『SWEET MEMORIES』

ほぼ同率のベスト5

僕が松田聖子さんを初めて意識したのは、小1だった夏。当時、彼女のセカンドシングル「青い珊瑚礁」が大ヒットしたんです。歌番組を観ればいつも〝スーパーアイドル聖子ちゃん〟が登場、みたいな世代です。なので聖子さんの楽曲を聴くのは、ドーナツ盤やLPからというよりも、もっぱらテレビ。特に個人的に思い入れがある聖子さん楽曲は、1985年1月にリリースされた『天使のウィンク』まで。歌番

松田聖子（まつだせいこ）　1962年福岡県生まれ。1980年にシングル「裸足の季節」でデビュー。3rdシングル「風は秋色」からは24曲連続でオリコンシングルチャート1位を達成。高い音楽性と個性的な歌声により、国民的ポップス歌手の地位を不動のものとした。1990年には全米デビューも果たしている。デビュー以来、さまざまなブームを作り、常にその動向を注目されている。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

組で流れていた彼女のシングル曲に限られているというのが正直なところです。

松本隆作詞、大村雅朗作曲・編曲の『SWEET MEMORIES』を含めて、僕の好きな松田聖子楽曲、ほぼ同率ベスト5を最初に挙げると、呉田軽穂（松任谷由実）作曲、松任谷正隆編曲の『小麦色のマーメイド』、『瞳はダイアモンド』。Holland Rose（佐野元春）作曲、大村雅朗編曲の『ハートのイアリング』。そして何と言っても忘れられないのが、少し時代が飛んで僕が中3の春、88年4月にリリースされた25枚目のシングル『Marrakech ～マラケッシュ～』です。

偶然か必然か、作詞はすべて松本隆さんによるもの。まず、大村さんによるアナログな生演奏とデジタルシンセサイザーのひんやりとした質感を練り込ませた作曲・アレンジが、37年の時を経てもタイムレスな魅力を放つスタンダード『SWEET MEMORIES』の素晴らしさを話す前段として、『Marrakech ～マラケッシュ～』に触れたいと思います。

作曲はオリビア・ニュートン・ジョンに『ハート・アタック』（1982年発売／全米ビルボードシングルチャート3位）を提供したポール・ブリスとスティーヴ・キプナーのコンビで、デイヴィッド・フォスターがプロデューサー。なので、歌詞以外、サウンド的には〝完全に洋楽〟とも言ってしまえるわけですが。この世界的な大物プロデューサーを招聘する流れは、聖子さんが全米各地でレコーディングに邁進し、90年に満を持して全編英語詞のアルバム『Se

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

『Seiko』の中で、個人的にはニュー・エディション、ニュー・キッズ・オン・ザ・ブロックの立役者のモーリス・スターが携わっている楽曲が好きです。当時勢いに乗りまくっていたアイドルグループ・ニュー・キッズ・オン・ザ・ブロックの〝やんちゃ担当〟ドニー・ウォルバーグとのデュエット『ザ・ライト・コンビネイション』は、今も鼻歌でよく歌いますしね。正直、リードボーカリストのジョーダン・ナイトならともかく、ラブバラードはキャラクター的にもドニーには似合わなくて、歌の絡みはどうもチグハグですが（笑）。

ほかの曲も、プロデューサー陣を見るとフィル・ラモーン、ジョルジオ・モロダーなど超豪華。当時のCBS Records社長であるトミー・モトーラも、それなりに力を注いでいたんだなあ、と思います。ただ逆にアメリカ進出を成功させようという気合いと善意のあまり、外野のプロの意見を集め過ぎたのかもしれません。船頭多くして船山に上る、じゃないですが。

そういう、アルバムの結果を知ったうえで改めて聴くと、『Marrakech ～マラケッシュ～』の魅力が際立つんですよね。つまり、松本さんによる歌詞面からのプロデュースと、聖子さんのボーカルの相性です。特にこの曲は、あえて日本人に受けるウエットな部分、安易な情緒にまったく訴えることなく〝アミューズメントパーク的〟な高揚感と言葉の魔法のみで完結しているのが素晴らしい。例えるなら「ジェットコースターに乗りました。楽しかったねー。さようなら」。それだけ。後腐れなし。そのほうが実は難しいと思うんですよ。切なさを伝えると

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

か、歌手自身の熱いメッセージで感動させることよりも。自分にとってポップミュージックの理想の1つがこの曲にあります。

本人もお気に入り

さて、1980年の衝撃的なデビューから3年後。1983年8月に細野晴臣さん作曲による『ガラスの林檎』との両A面シングルとしてリリースされたのが、今回のテーマにセレクトした『SWEET MEMORIES』でした。

「ガラスの林檎」もそうですが、多数の松田聖子楽曲以外にも、吉川晃司『LA VIE EN ROSE』、大沢誉志幸『そして僕は途方に暮れる』、渡辺美里『My Revolution』など数々の名曲を手がけた大村雅朗さんが、シングルとしては初めて、作曲者としてクレジットされています。

船山基紀さんと並んで、大村さんの話もこの本ではこれから何度も登場することでしょう。なので今回はサッパリと。興味がある方は2017年に出版された『作編曲家 大村雅朗の仕事』という本を読んでみてください。松田聖子さん、松本隆さんを筆頭に、関係者、ファン、ディスク、エンジニア、レコードマンによるさまざまな証言がまとめられて

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

います。

Why ゼロベース

[SHEET MEMORIES]

います。

この曲、ともかくカラオケでもカバーでもプロ、アマ問わず絶大な人気を誇るんですが、僕も御多分に漏れず大好きで、ギタリストやピアニストと組んだアコースティックライブで何回かカバーしたことがあるんです。ともかく大村さんによる曲自体の完成度があまりにも高いので、どんなタイミングで歌っても場の空気がスピリチュアルで神聖なものに変わるんですよね。無数のヒット曲を持つ聖子さん自身も高い確率でコンサートのレパートリーに組み込んでいるお気に入りの曲らしいですが、それも納得のクラシックです。

Why なぜに？ パターン

作詞面に注目してみましょう。松本さんのプロデューサー的視点が一番発揮されるのは、アーティストとファンが年齢を重ねていくことを前提とした表現なのかなと思います。関係性を決定付ける〝1行目のツカミ〟がともかく凄いんですよね。

少年隊の『ＡＢＣ』では、「♪恋は最初じゃないのに めぐり逢うたびこわい」という冒頭の2行で主人公の2人にある程度の恋愛経験があることを印象付けました。同じように、『SWEET MEMORIES』も、出だしから「♪なつかしい痛みだわ ずっと前に忘れていた」と、

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

物語は急展開していきます。タイトルを逆読みすると“甘い思い出たち”。なのに、痛みというネガティブな表現がいきなり出てくるショック。「え？甘い思い出って書いてたのに？」。パレンジも、“Sweet”という言葉よりも人一倍（？）かき添えたくストイックなのくくり置くんでくりよね”リビの綿めくくり、♪甘い、甘い……の部分も“甘い”の表現にこだわりのハートなの今日も歌詞を並べて申し訳ありません。矢沢永吉さんの“アリよさらば”で秋元康さんが書かれた、♪さよならなぜに……バターンですね。

このテクニックは、僕も歌詞を書くときに実践しています。筒美京平さんも、スタジオで僕に、“大事なことはともかく2回は繰り返しなさい”とよくおっしゃっていました。メロディと歌詞の合わせ方も匠の技。サビ終盤の「♪あまいーい きおーくうー」の歌詞の部分で

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

「いーい」と「くぅー」はそれぞれ低音から1オクターブの駆け上がりを繰り返すんですが、「あー」「おー」と自然に喉が開く音を選ばず、「いーい」「うぅ」と、口を締めないと出ない苦しい言葉を置くことで、聖子さんの独特の、キュンとくる歌唱の切なさと心の葛藤を引き出していて……直前のハイトーンで伸びる箇所が、毎回「今はーぁ」、つまり、あ行で心地良く伸ばせたのに、次の瞬間いきなり締め付けられる、という落差です。そういう部分も僕らがカラオケやステージで歌っていて「決まった！」と思うポイントです。歌い心地が少し苦しいからこそ、メロディやコードと相まって最高の快感を生むと言いますか。

2番は英語詞になり、「♪ Don't kiss me baby We can never be」と始まるんですが、当時のソニー信濃町スタジオのチーフエンジニア・鈴木智雄さんが先述の書籍で語られた証言によると、レコーディングの際、聖子さんが英語の歌指導の方に「厳しくお願いします」と頼んでいたそうです。結果的に、作曲・編曲者としてこの名曲を生み出した大村雅朗さんも、聖子さんも、90年代に突入しようかというときに渡米されるわけですが、そういうときにすべては繋がっているな、と。短期的に見れば失敗に終わったと言える聖子さんの海外への挑戦でしたが、彼女がパイオニアとして切り拓いてきた現在までの長いキャリアは、そういった姿勢があってこそなのだなと……畏敬の念しか浮かばないですね。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

吉川晃司

『LA VIE EN ROSE』

カリスマ・ボーカリストのスタイリッシュな芸能人生

『ザ・ベストテン』でバク転ダイブ

1984年2月1日にシングル『モニカ』で鮮烈なデビューを果たした吉川晃司さんを初めて『ザ・ベストテン』で目撃した夜のことは、鮮明に覚えてます。1984年4月5日、『モニカ』は第7位にランクイン。当時18歳の吉川さんは、前年「せめて高校は卒業してから」という周囲の反対を押し切って上京し、中退した広島の母校・修道高校からの中継で登場されました。彼が水球部時代に練習に励んでいたプールに特設されたステージから、歌い終わってバ

吉川晃司（キッカワコウジ）　1965年生まれ。広島県出身。1984年に歌手と俳優でデビュー。主演映画の主題歌『モニカ』が大ヒット。1988年には布袋寅泰とロックユニットCOMPLEXを結成。COMPLEXは1990年の活動休止後も、断続的にライブを開催。ソロシンガー・俳優として一線に立ち続けている。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

フォーマンス最後にスーツを着た上水面に伝説のバク転ダイブ　さは曲の印象が消えるほど驚きよ　ズムのエッセンスやノスタルジ　ブラネット・アース」と同じく　さんの初期作をリリースしたブリ　なお話を聞いてきたんですが、　で一番好きなんだよねー」とお　で握手しました（笑）。

沢田研二さん、大沢誉志幸さん、山下久美子さん、個性豊かな

BUMP OF CHICKEN など、70年代から現在までそうそうたる面々を

る木崎さんと、若かりし頃の吉川さんがプロデューサーからの名指しの予約殺到の音楽的冒険、衝突と実験。当時のいわゆる"音楽指向"の作詞・作曲・編曲家　プロデューサーやディレクターにたってもらわれる中で　面白い

スタッフ、プロデューサーやディレクターにたってもらわれる中で　面白い

こと、実ったことができる場所として自分に機能　ものが、初期の

はないでしょうか。吉川さんはそ　ノノノノ

クションというか、さらに事件　ノノノノ

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

[illegible]ように音楽を聴きはじめたころの八神さんにとって、吉川さんの存在が特に好きでした。マイケル・ジャクソンだったら「オフ・ザ・ウォール」に収録された『ロック・ウィズ・ユー』や『アイ・キャント・ヘルプ・イット』が好き、『スリラー』であれば『今夜はビート・イット』より『ヒューマン・ネイチャー』が好き、みたいな感覚と言いますか。若くて煌めく個性と才能に満ちた天才ボーカリストだからこそ、他者が作る歌詞やメロディが乱反射する中で、深みと軽やかさが生まれると信じています。そのプリズムこそがすべて。１９８４年の『モニカ』、『サヨナラは八月のラプソディ』、『LA VIE EN ROSE』、翌85年の『You Gotta Chance ～ダンスで夏を抱きしめて～』までのシングルは、大村雅朗さんによる編曲。松田聖子さんの『SWEET MEMORIES』の回にも大村さんの作曲や編曲について触れましたが、バラードはもちろんアップチューンに関しても、ともかくエレガントで芳醇で……確かに当時の最先端、今にしてはチープなプログラミングサウンドなんで、〝80年代感〟に好みはあるかもしれないですが。ヴェイパーウェイヴ、レトロフューチャー的な観点で２０２０年代の若い人が聴いたら、どう思うのか知りたいですね。

『LA VIE EN ROSE』は、１９８４年9月に発表された吉川さんのサード・シングル。作詞は売野雅勇さん、作曲は大沢誉志幸さんという無敵の布陣。極めて洋楽的なメロディなので、日本語詞を乗せるのは無理だろうと思いながら曲を渡したら、売野さんが見事に日本語の歌詞

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

吉川さんとの思い出

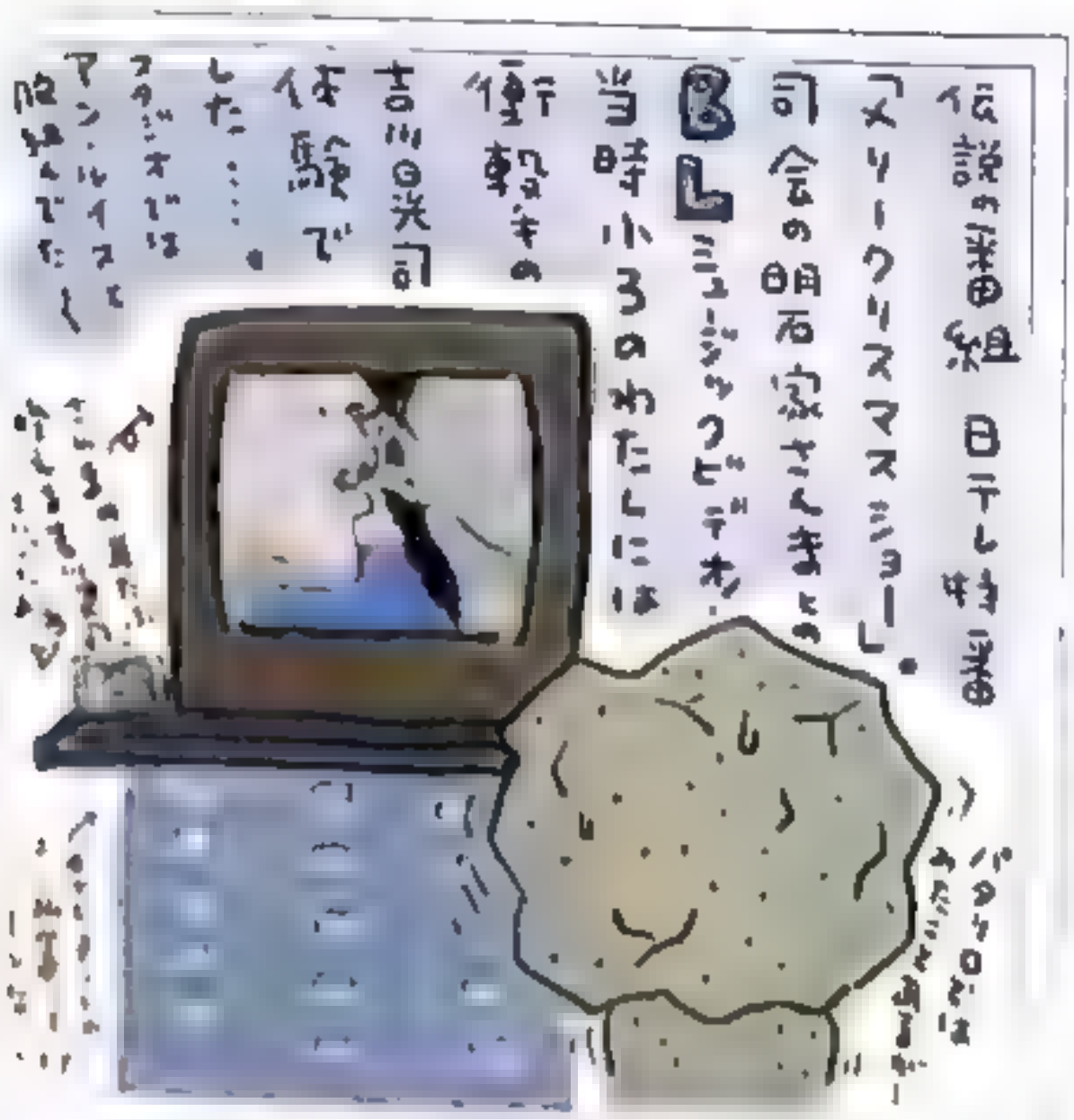
2007年に、2015年REEVESが「Club Radio Jungle」というイベント うちのバンドのライブでのメンバーは、当時、ドラムの小松シゲル、

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

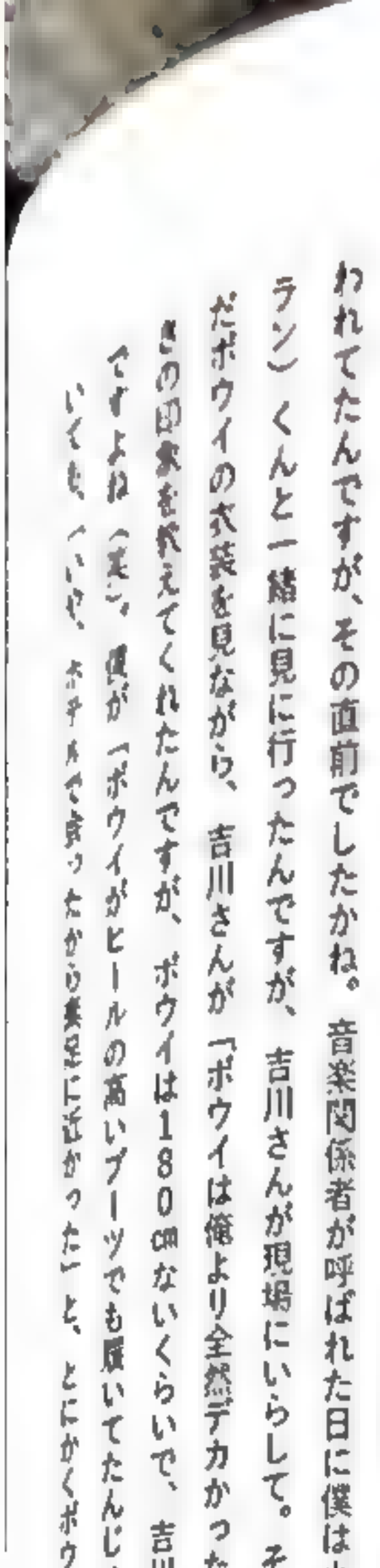
出せるな」と驚かれていたのをよく覚えてます。そのときは吉川さんのバンドに僕が加わる形で COMPLEX の『BE MY BABY』、ノーナに吉川さんが参加される形で『Juicy Jungle』を演奏しましたー！　感動的でしたね。ライブの打ち上げは名古屋で行ったのですが、忘れられないのが、そのとき仲の良いスタッフの1人が結婚されて。ちょっと前にどこかでご挨拶した奥さんが可愛らしい人だったんで、そのままの印象で「おめでとうございます！　可愛らしい奥さんですね」って僕が褒めたら、隣にいた吉川さんに怒られました。「郷太！　人の奥さんをそんなふうに『かわいい』とか言っちゃいけないんだ」と。「ルールなんだ」と。なるほどな、と思い、それからはその大人社会の教えを守ってます（笑）。

そんな流れもあって、2011年のアルバム『KEEP ON KICKIN'!!!!! ～吉川晃司入門ベストアルバ



CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン



『1』（タイトルも秀逸！）に収められた「ヒーローズ」「ヒーロー」「ヒーローズ（ビルボード・ミックス）」の誕生秘話とかけてみたんですが。そのとき、もう1つ考えた案がマイケル・ジャクソンの『ムーンウォーカー』にインスパイアされた『シンバルキッカー』。これもいいなと思ったら「絶対にシンバル蹴ってるだけじゃないぞ！（笑）」と言われて、却下されました（笑）。吉川さんとのやりとりは本当に細かいことまでよく覚えていますね。すごく痩せて、若い頃のようにマッチョな体に戻された時期があって、「どこで鍛えたんですか？」と質問したら「公園で鍛えた」とおっしゃったときも笑いました。「ジャングルジムとか鉄棒で」と言うんです。吉川晃司が公園で鍛えてたらみんな見ちゃいますよね（笑）。

最後にお会いしたのは数年前のデヴィッド・ボウイの回顧展『DAVID BOWIE is』のときでした。天王洲の寺田倉庫で、ボウイが亡くなってちょうど1年が経った2017年1月から行われてたんですが、その直前でしたかね。音楽関係者が呼ばれた日に僕は小宮山雄飛（ホフディラン）くんと一緒に見に行ったんですが、吉川さんが現場にいらして。そのとき、会場に並んだボウイの衣装を見ながら、吉川さんが「ボウイは俺より全然デカかったんですが、ボウイは180cmないくらいで、吉川さんは182cmなんですよね（実）。僕が「ボウイがヒールの高いブーツでも履いてたんじゃないですか？」と聞いたら、「いや、ボウイのほうが背が高かった」と、とにかくボウイルで決まったから実生に近かった」と、とにかくボウ

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

ナンとかするんです。「影武者ちゃいますか？」みたいに返したんですけど、何回もそうおっしゃるんで、それからボウイの音楽を聴いてもそのことばっかり頭に浮かんで…それが吉川さんと両近で喋った内容です（笑）。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

小林明子「恋におちて -Fall in love-」

西寺少年、酔いしれる

「恋におちて -Fall in love-」は、1985年8月にリリースされた小林明子さんのデビュー作。その年の「第27回日本レコード大賞」で彼女は新人賞と特別賞を受賞し、ミリオンセラー歌手となりました。TBSドラマ「金曜日の妻たちへIII 恋におちて」の主題歌であるこの曲で、作曲も担当された小林さんは、もともと東京大学教授の秘書を経て、音楽出版社に勤務されていたという異色の経歴でした。本稿を執筆する際、この曲の作詞家の湯川れい子さんに

時代を超えて愛される 叶わぬ恋の歌

小林明子（コバヤシアキコ） 1958年生まれ。1985年、「花におちて -Fall in love-」で歌手デビュー。1980年代半ばから1990年代にかけて、アイドルや女性シンガーたちへの楽曲提供でも評価を得る。1992年に拠点をイギリスへ移したのちは、日本と行き来をしながら音楽活動を続けている。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

インタビューしたところ、湯川さんに作詞の依頼が来る前、小林さんが仮の英語で歌うデモテープの段階で既にドラマのタイアップソングに決定していたそうです。〝大人のAOR〟の芳醇な香りに溢れた、我が国最高のポップスの1つであり、世界に誇れるマスターピース。僕自身、小学6年生の夏にリリースされたこの曲に酔いしれ、シングルレコードを買い求めてから、今に至るまでカラオケの十八番として愛し続けています。

ツイートを消しに湯川さん宅へ

ちなみに湯川さんは、1960年にジャズ評論家としてデビューされて以降、ラジオDJ、コメンテーター、作詞家など、華々しくキャリアを重ねられています。2021年現在（本稿執筆時）に至るまで、SNSを駆使して日々発信されるエネルギッシュな姿勢にも驚かされ続けています。

湯川さんとの出会いは、1984年夏に初めて手に入れたジャクソンズのLPレコード『ビクトリー』のライナーノーツ。宝物のように大事に聴き、何度も繰り返し読みふけってもらったこともあり、音楽の先生、恩人のような人だと思っています。湯川さんから音楽を教えてもらったという人は広い世代にたくさん存在しているはず。作詞家としてだけでなく、

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

担当ディレクターだった新人時代から知っていて、本名で"渡辺くん"と呼んでいたと聞き、1981年に湯川さんと京平さんが共作された松本伊代さんのヒット曲"センチメンタル・ジャーニー"もそういう関係性から生まれたのかと。京平さんはメディアにめったに登場しないこともあり、長きに渡って"伝説の存在"というムードをまとわれていました。その京平さんより5歳上、改めて湯川さんの比類なきキャリアの長さに気が付いたものでした。

湯川さんが目の当たりにした"冒険活劇"

さて。『恋におちて-Fall in love-』は、いわゆる"アメリカンポップス的歌謡曲"というジャンルの完成形と言える作品。なんといっても湯川さんほどに"アメリカンポップス"を理解し、愛され、実際に多くの伝説的なアーティストと交友関係を保ち、評論家としても、作詞家としても体現され続けてきた方は存在しません。湯川さんが目撃してきた歴史の数々は、さながら冒険活劇のよう。例えば湯川さんが1971年9月、レッド・ツェッペリンの初来日ツアーに同行したとき、泥酔したジョン・ボーナムが日本刀で旅館の掛け軸をぶった斬ったり、乱闘寸前になった広島に居合わせていたとか、エルヴィス・プレスリーに結婚証明書の証人としてサインをしてもらい、隣にいる夫公認のもと、唇にキスを頼って実現させてみたり……。オノ・

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

レクターからの連絡が……。当時、FAXが普及し始め、東京からの遠隔仕事はこなせるからと何度かやり取りしたはしいのさが、らぬよう英語詞でお願いします」とのオファーだったはずが、「やはり日本語でするので」と変更に。小林さんの声がカレン・カーペンターに似ているカレンをイメージして〝清潔なラブソング〟としてもう一度完成させたところ、ん、これ不倫のドラマなんでもっとドロドロした感じで」と突き返されてしまったそうです

函館で目の前を子供たちが走り回る平和で牧歌的な状況で不倫の歌なんて思い浮かぶわけがない。そう思ったと湯川さんは1人、東京・四谷の当時の自宅に戻ることを決断。深夜、窓に悩みながら新宿方向に立ち並ぶマンション群の灯りがまだ点いているのを眺めている瞬間、「もしかしてあの窓の光は、誰かを待っているからなのかな?」と想像の扉が開いたそう。そうして最初の案からなんと8回もの書き直しに応えた結果ようやく完成させたのが、この世紀の大ヒット曲だそうです。僕が「湯川さんでもそんなに書き直しを要求されるんですね……と驚くと、「当然よ。阿木耀子さんと話したときに、私が『まさか阿木さんはそこまで書き直しなんてないでしょ?』と聞いたら、阿木さんも『これじゃダメ!』とディレクターに何回も何回も突き返されて、最後の最後に追い詰められて出てきたフレーズが〈山口百恵ちゃんの『馬鹿にしないでよ』だったって言ってたわ。だから私の作詞家としての姿勢はオートクチュー

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

カラオケで歌われ続ける理由

湯川さんご自身が個人的に思い入れが強い楽曲は、信頼し合うソングライターチームとしてキャノチボールが楽しかったという井上忠夫さんとのシャネルズ『ランナウェイ』、大人の女性の、激しくももどかしい年下の恋人への思いをアン・ルイスさんがリズミックに叫ぶ『六本木心中』（作曲：NOBODY）とのこと。湯川さんが手がけた歌詞はともかく発語の快楽に満ちていて、『恋におちて -Fall in love-』においても「♪もしも願いが叶うなら」の冒頭のパートだけでも、その発声の心地良さは驚異的なものがあります。時を超えてカラオケで歌われ続ける理由は、その快感に秘密が。僕も徳永英明さんのカバーバージョンのキーでこれからもカラオケで歌わせてもらおうと思ってます。そうすると湯川さんに3円が入るそうです（笑）。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

山下達郎「土曜日の恋人」

今なお人々の共感を呼ぶ永遠の名曲

山下達郎（ヤマシタタツロウ）…1953年生まれ。東京出身。1975年にシュガーベイブを結成し、1976年のデビューアルバム「SONGS」やシングル「DOWN TOWN」でヒット。1980年にソロデビューアルバム「RIDE ON TIME」をリリース。「RIDE ON TIME」「土曜日の恋人」「クリスマス・イブ」などのスタンダードナンバーを数多く生み出している。

「土曜日の恋人」は、ひょうきん族

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

「土曜日の恋人」は、1985年にリリースされた、通算15枚目となるシングル。

同名映画と主題歌「オレたちひょうきん族」（ビートたけしや明石家さんまが出演）のエンディングテーマでした。『ひょうきん族』は、まだ深夜放送だったフジテレビ系バラエティ）のエンディングテーマでした。『ひょうきん族』は、まだ深夜放送だったフジテレビ系バラエティ）のエンディングテーマでした。『ひょうきん族』は

当時、世間からまるで下ネタなども多い俗悪番組とされていましたが、クラスメイトや僕はこの番組を楽しみにしていました。番組のエンディングで"土曜日の恋人"が流れると土曜日を楽しみにしていました。番組のエンディングで"土曜日の恋人"が流れると土曜日を楽しみにしていました。番組のエンディングで"土曜日の恋人"が流れると土曜日

が始まると、「あぁ、明日はもう日曜日だ。そしてその次の日は、もう学校なんだな」と、が始まると、「あぁ、明日はもう日曜日だ。そしてその次の日は、もう学校なんだな」と、が始まると、「あぁ、明日はもう日曜日だ。そしてその次の日は、もう学校なんだな」と、

心から楽しめないような、なんとも言えない寂しさを味わったものです。この曲がテレビから心から楽しめないような、なんとも言えない寂しさを味わったものです。この曲がテレビから心から楽しめないような、なんとも言えない寂しさを味わったものです。この曲がテレビから

流れていた期間を改めて調べると、1985年10月から1986年9月までの1年間。達郎流れていた期間を改めて調べると、1985年10月から1986年9月までの1年間。達郎流れていた期間を改めて調べると、1985年10月から1986年9月までの1年間。達郎

さんは初期（シュガー・ベイブのファースト・アルバム『SONGS』のリリースから10年、ソさんは初期（シュガー・ベイブのファースト・アルバム『SONGS』のリリースから10年、ソさんは初期（シュガー・ベイブのファースト・アルバム『SONGS』のリリースから10年、ソ

ロ・デビューからは9年）。僕自身に当てはめると小学6年生の秋から中1の秋まで。ロ・デビューからは9年）。僕自身に当てはめると小学6年生の秋から中1の秋まで。ロ・デビューからは9年）。僕自身に当てはめると小学6年生の秋から中1の秋まで。

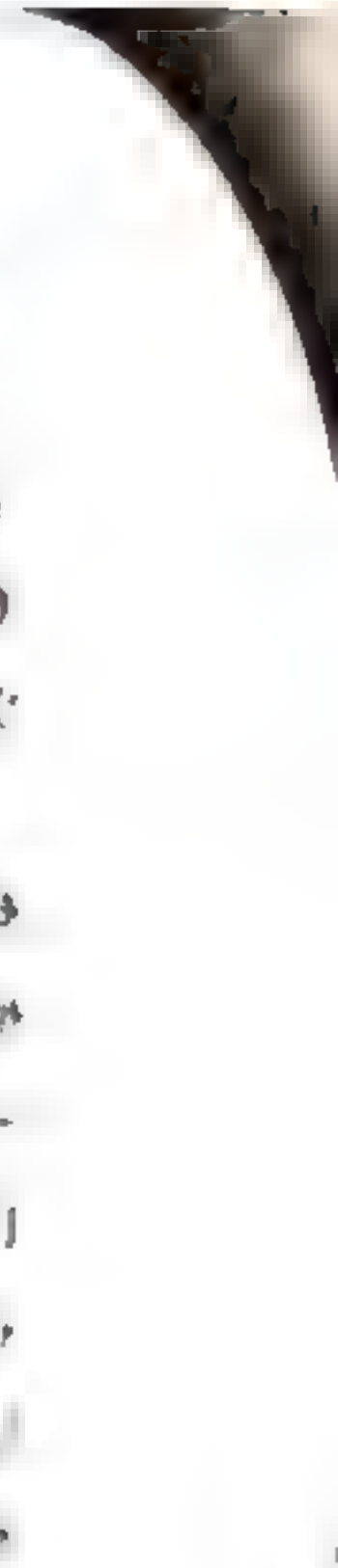
大人から子供へ伝える、爽やかな切なさ

いきなり「ごうきん族」の最初のエンディングテーマはEPOさんによるシュガー・ベイ

・DOWN TOWN」のカバーでした。EPOさん自身の作詞・作曲による『土曜の夜はパラ

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン



CamScanner でスキャン

月本の命を大切な人と

ャー・ハイブというバンドに対する、大人になった達郎さんなりの返答とも思える「微笑んだ君は やわらかい宝石」という曲。作詞は達郎さんご本人。僕が20代の終わりにカバーしたときは、あまり歌詞の意味を深くまえずに歌っていたのですが、年を重ねて改めてこの曲の歌詞を読んだとき、あることに気付かされたんです。この曲が発売される前年、達郎さんと竹内まりやさん夫妻の間に娘さんが生まれているんですよね。これは、あくまで僕の推測でしかないのですが、もしかしたらこの曲は、娘さんと過ごす楽しいひとときに、赤ん坊の彼女を抱きしめたときに生まれたラブソングなんじゃないか？と。『ひょうきん族』を家のテレビで観ているということは、土曜日の夜に自宅にいるということ。当時はバブル景気に日本が突入していく空気感に満ちていて、週末となれば若者や大人たちが街に繰り出し、バンバンお金を使って大騒ぎしていたような時代。そうした世の中の雰囲気とあえて逆行するように、達郎さんは週末の夜を大事な家族や恋人と家で過ごすことの幸せみたいなものをこの曲で表現しようとしたんじゃないかと思ったんです。

CamScannerでスキャン

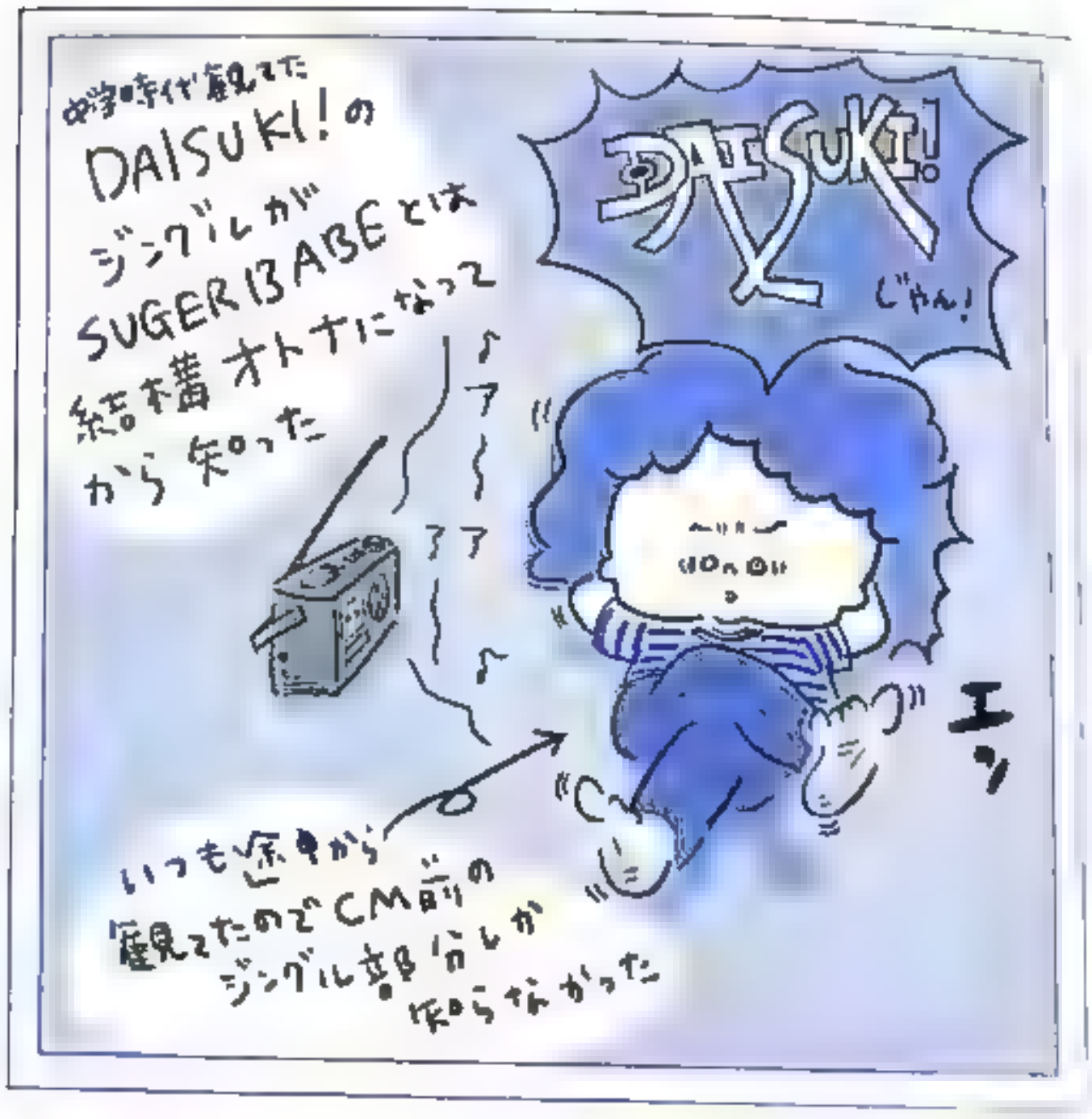
CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

物語をそだてるために

CamScannerでスキャン

[illegible]へと変わって下[illegible]
リクの[illegible]が　真正な[illegible]へと動かした夜、
初めてバーでお話しさせてもらった夜、
[illegible]は[illegible]さんの音楽を詳しくは知ら
ないんです」と本人に話したら「え、そう
なの？」と驚かれて。『ひょうきん族』の
エンディングに流れていた『土曜日の恋人』
は大好きでカバーもさせてもらったのです
が、あくまでもそれは子供の頃にテレビを
通して好きになった楽曲であって、早い段
階からアメリカやイギリスから届くヒット
曲に夢中になったので、日本の音楽を掘り
下げて聴くことがなかったんです」と正直
に伝えると、リラックスしたような表情で



CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

渡辺美里

『My Revolution』

TKは、マイケル、プリンス、山口百恵と同学年です。

今この原稿を書いているタイミングは、小室哲哉さんが引退会見をされた直後。昨夜も編集者に誘われ深夜のスナックに入ってみると、次々と酔客が小室さんの楽曲をリクエスト。否応なく彼の生み出したサウンドや楽曲について、改めて考える時間となりました。

小室さんは、マイケル・ジャクソン、プリンス、マドンナと同じ1958年生まれ。僕が勝手に「花のゴッパチ」と呼ぶ、昭和33年4月から翌年3月までに生まれたこの学年は、洋邦ともに音楽界の大物揃い。桜田淳子さん、森昌子さん、山口百恵さんの「中三トリオ」に加え、岩崎宏美さんや玉置浩二さんも同じ年。そう考えてみれば、80年に結婚し21歳の若さで引退された山口百恵さんの早熟さに驚くと同時に、小室さんのある種の現役感に

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

のほか、藤原基央さんのエレファントカシマシ「keep yourself alive」。椎名林檎「ここでキスして。」参加のglobeの「seize the light」。椎名豊の大和那智さんの「My Revolution」。椎名林檎「丸の内サディスティック」。椎名豊の小室哲哉さんのソロ「RUNNING TO HORIZON」。椎名林檎「Overnight Sensation ～時代はあなたに追いてる～」。

同じ誕生日（11月27日）生まれの縁もあるので、いつかきちんとお会いして、マイケルにネバーランドに招かれた時の話などを聞かせていただきたいなと思っています。

（『BRUTUS』２０１８年３月１日号・掲載）

BOØWY
『PSYCHOPATH』

メロディーと氷室京介の歌唱

日本中の少年たちにもたらした影響

1980年代後半、日本にバンドブームが到来しました。まさに第2次ベビーブーム、この時期の中で一番出生数の多い73年生まれの僕の学年を中心とする世代が中高校生となった時代のことです。何度も書いたり話したりしている通り、僕自身は小学校高学年で洋楽ポップスに完全にハマるのですが、中学生になると、それまでゲームやマンガ、スポーツに夢中だった仲間やクラスメイトがどんどん音楽好きになり、楽器を買ったりしていくのが素直に嬉しかった

BOØWY（ボウイ）1981年結成。1982年に「MORAL」でレコードデビュー。1986年解散。解散ライブの音源を収録した『LAST GIGS』は、ライブ・アルバムとしては異例の150万枚以上の売り上げを記録。ボーカルの氷室京介、ギターの布袋寅泰をはじめ、煌めく才能が集まったロックバンドとして、今もJ-POP史に足跡を残している。

2022年6月28日

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

イト 始 1987年 中2のときにテビュー した THE BLUE HEARTS の衝撃と、彼らと入れ替わるように解散を発表し、その後も影響力を保ち続けたBOOWYの存在は圧倒的でした。パンキッシュでストレートにありのままの言葉を伝えるブルーハーツと、アダルトかつ都会的な音楽性に足を踏み込み、さまざまな実験も繰り返しながらポップに聴かせるBOOWY。ソロアーティスト、シンガーソングライターは主人公のみに焦点が当たりますが、BOOWYはボーカルやギターのみならず、4人それぞれが個性的でした。パンク的なサウンドからニューウェイブ、エレガントなAORなどまで、短い歴史ながら、その音楽性はアルバムごとに急激な変化の連続。だからこそ、聴く側もいろんな入り口から入り込むことができたのかもしれません。曲によっては松井恒松（現在は松井常松）さんのストレートでシンプルで分かりやすいベースの見せ場もあったり、最年長で、バンド結成前に既にキャリアを重ねていた高橋まことさんによる、疾走する8ビートからダンサブルなフィーリングまでをカバーするドラムも魅力的で。花形楽器のギターのみならず、我々世代の日本中の少年たちがリズムセクションを含めた“バンドアンサンブル”に興味を抱けたのは、BOOWYの影響が大きいと思っています。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

氷室が生んだ永遠の名曲

解散から34年が経った今もなおカリスマバンドとして支持され続けているBOØWYですが、彼らのオリジナルアルバムは『MORAL』、『INSTANT LOVE』、『BOØWY』、『JUST A HERO』『BEAT EMOTION』、そして人気絶頂の中で1987年に発表されたラストアルバム『PSYCHOPATH』の6枚のみ。いずれも名盤。改めて約6年という活動の短さと濃密さに驚きます。楽曲に関しては氷室京介さんが作詞、布袋寅泰さんが作曲と編曲をするイメージが強いですが、今回セレクトした『PSYCHOPATH』では、氷室さんが作曲、アンナ・パシュビーさんが作詞を担当されています。曲数で言えば、氷室さんが作曲した楽曲はそんなに多くないんですが、どれも素晴らしい曲です。今回BOØWYを語るうえで、メロディメーカーとしての氷室さんの才能には改めて注目すべきだと思いました。

あくまでも作曲面でBOØWYをビートルズに例えるなら、ジョン・レノンとポール・マッカートニーを足した絶対的存在が布袋さんで、数は少ないけれどどこか優しく切ない名曲を生み続けたジョージ・ハリスン的な役割を担っていたのが氷室さんと言えるのではないでしょうか。

（なお余談にちょっと意外でもあるんですが、ビートルズで最も聴かれた楽曲を Spotify で確

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

ノート ノルウェイの森 ノルウェイの森 ノルウェイの森

ノルウェイの森バラード『サムシング』も大人気で、彼の『打率』の高さが分かります。同じように氷室さん作曲の『わがままジュリエット』（サード・シングルの表題曲で『JUST A HERO』の録音）、『CLOUDY HEART』（『BOOWY』収録曲）などはBOOWYの人気曲ベスト10に必ず顔を出す傑作ですが、ジョージも氷室さんもお互いにどこか不器用で、〝心の弱さ〟のようなものに焦点を当てた美しいメロディが特徴のソングライターだな、と僕は思うんです。ビートルズで言えば、特にポールは無尽蔵にメロディや発想が湧き出てくるタイプの完全無欠のメロディメーカー。そして生まれながらの天才作曲家。布袋さんもそのタイプな気がします。最初から正解が見えているがゆえに、ハイレベルな楽曲を連打できる凄まじい才能。でも、ジョージや氷室さんの制作スタイルは〝紡ぐ〟という言葉が近い気がして。一生懸命に言葉を探しながら、「どうすれば100%に近い思いが伝わるのか」を考えながら、音楽に対してラブレターを書くように作っていく。そんな純粋さこそ、永遠の名曲を生み出せるポイントなのかも、と思ったりもします。ちなみにファースト・アルバム『MORAL』収録の『DON'T ASK ME』も大好きです。

『IT TO ME』や、『BEAT EMOTION』収録の『GIVE HERO』と、破

BOOWYのアルバムの中では、エレガントで実験的なアルバム『JUST A

成の美しさをカラッと響かせたラストアルバム『PSYCHOPATH』が特に好き

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

まジュリエット』は、今で言う80年代AORやシティポップそのままの魅力を彼ら独自の視点で真空パックしていると思います。当時の関係者のインタビューなどを読むと、あの曲がシングルになるのを反対したスタッフも多かったようです。いわゆる典型的なロックバンドとしてのBOØWYのイメージにそぐわないと。1982年のデビューから4年経ってはいますが、少なくとも歌詞に関して最初は完全なパンクバンドのテイストでしたから、確かについていけなかった人も多いでしょう。振り返れば、スタート地点から音楽的には実験も多いバンドだったことが分かるのですが。氷室さんがBOØWYが構築したサウンドを驚くほど踏襲しています。大人のアーバンミディアムというか、熟成したその雰囲気に最初は違和感もあったのですが、聴き込むほどに「これはこれで良いな」と好きになっています。改めて強調することでもないですが、ともかく歌が凄くて。もしかしたら、氷室さんご自身が、フラットに肩肘張らずに聴くためにリメイクされたのかなと思ったりもしました。作詞・作曲家として永遠の財産のような曲ですからね。

まるでバンドアレンジの教科書

『PSYCHOPATH』は、布袋さんのギタリストとしての異常なリズム感の良さも楽しめる最

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

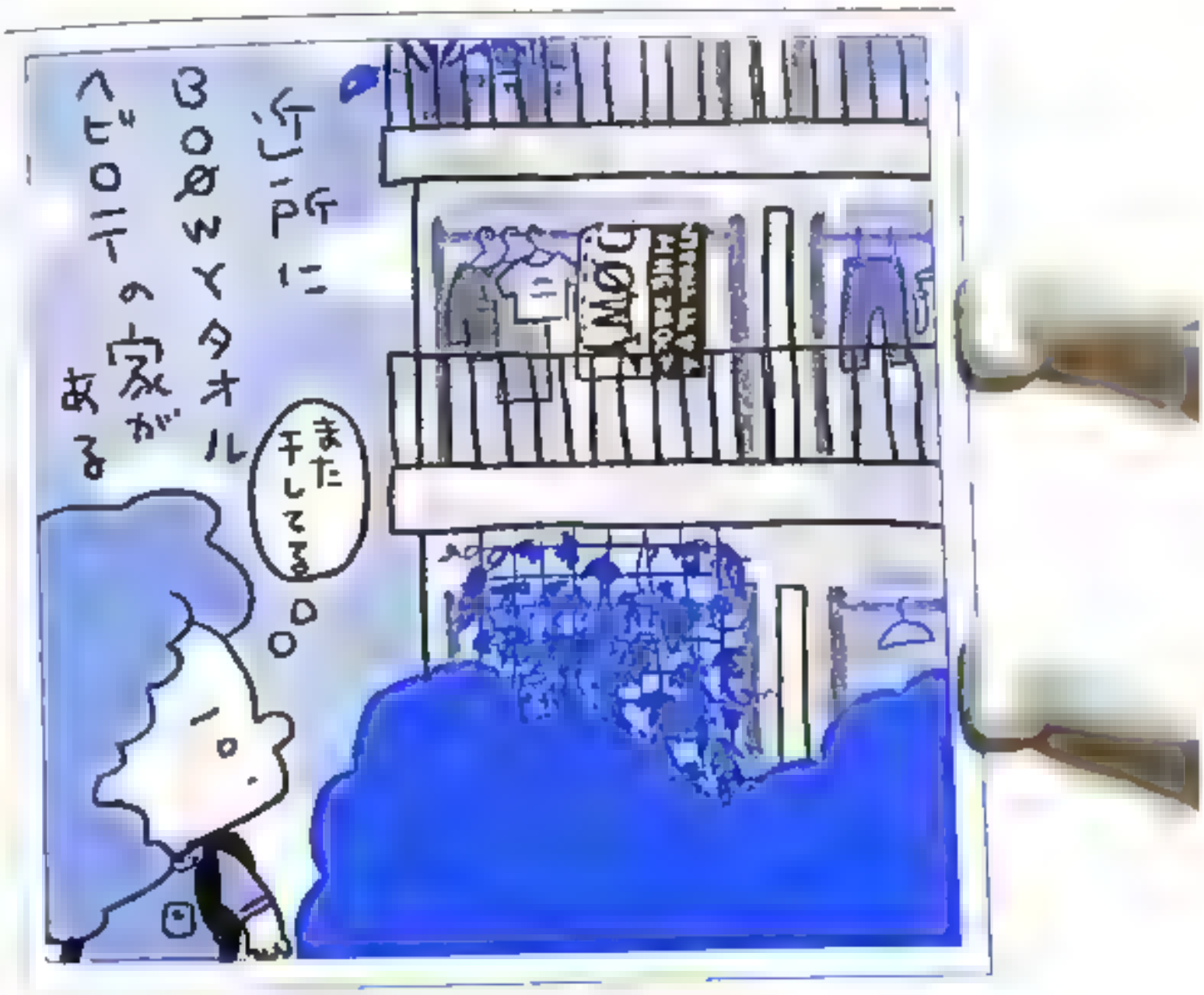
イチオシの氷室ソロ曲

氷室さんのソロ作品で特に好きな曲を3曲挙げるとするならば、まずは1992年に発表さ

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

れたグルーヴィな『アーバン・ダンス』。ドラムなどにロックバンドのムードを残しながら、大人のファンクとしてまとめ上げたそのサウンドは『PSYCHOPATH』の発展形。1994年リリースの『VIRGIN BEAT』も最高です。氷室さんらしい、瑞々しくも切ないAメロ、BOØWY時代を彷彿とさせる縦ノリのBメロと、洋楽的で美しいCメロ（『MY LOVE STAY WITH ME』の部分）、このうえなくキャッチーで派手なサビがポップミュージックの最高点まで到達しているマスターピース。ソロになられてからは、松井五郎さんや森雪之丞さんなど信頼するプロフェッショナルに作詞を任せ、氷室さん自身は練りに練りながら作曲に専念された印象がありますが、これだけの完成度を突き詰めていくのも仕方がないなと納得せざるを得ないクオリティです。



CamScannerでスキャン

ロックが作詞を担当したケニー・ロギンスの「デンジャー・ゾーン」を聴くと、体が盛り上がってしまうんですが、同じように『VIRGIN BEAT』も扇動的な出だしによって構築された完璧な〝興奮創出装置〟としてのロックンロールの完成形なのではないでしょうか、とうしても巧みなコードワークで涙を誘うバラードなどのほうが作曲家のテクニックが理解され賞賛されることが多い気がするんですが、この圧倒的な爽快感はなかなか作ろうとしても作れないんです。

『魂を抱いてくれ』（1995年10月にリリースされた氷室のソロシングル曲）も素晴らしい楽曲。氷室さんならではの、ウェットで優しく、どこかフェミニンな歌謡曲感を醸すメロディと、松本隆さんによる男性視点のハードボイルドな歌詞と組み合わさることで〝ざらざら〟が生まれ、新たな次元のバラードとして完成している。言うまでもなく松本さんはバンドマンからこそ、氷室さんの強靭なスーパーヒーロー／カリスマとしてのイメージと、弱さのようなものの双方に想像力を働かせて詞を書かれているような気がします。〝筆名〟は、ずに言うと、作詞家・松本さんの本気、〝バンドマン出身ならではの性格の悪さ〟のようなものがこの歌詞には存在する気がして。職業作詞家は、もう少し分業に対して優しいと思うんです。『魂を抱いてくれ』には、ソロ作品でありながらバンド特有の緊張感真剣勝負のぶつかり合いが存在する。だからこそ、BOOWY時代のような

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

いるのが最大の魅力だと思います。

今回は氷室さん中心に語らせていただいたので、次回は布袋さんについて考察していきたいと思います。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

BOØWY

『1994 -LABEL OF COMPLEX-』

2022年8月15日 ロストアラリー 掲載

完璧を目指して突き進むエンターテイナー

『PSYCHOPATH』の回でも触れましたが、BOØWYの活動期間はわずか6年間。結成までの準備期間を入れたとしても、解散まで足掛け8年。彼らの音楽的進化と変遷、バラエティ豊かな傑作の数々を考えれば信じられないほど凝縮された時間です。

こうしてコラムとしてまとめ、文章としてアウトプットを重ねると、それまで漠然と頭の中にあった数片が、自分の中でパズルのピースのようにピタッとハマることがあります。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

んの美学、行動の力学の違いについて改めて考えてみると、見えてきた世界がありました。

まず、絶対的フロントマンの氷室さんは究極の匠であり、ファン思いのエンターテイナー。ともかく〝完璧〟を目指し、自らが設定した壁を越えるためにストイックに突き進む人のように思えます。ダーツで言えばど真ん中。中心を貫くまで研究し、狙いを定めて投げ続けるタイプ。ソロになってからはタイムレスな代表作を何度も何度も磨き上げ、キャリアを築かれました。メディアへの派手な露出は極力控え、ご自身の〝氷室スタイル〟が確立されてからは、ファッション含め、そのビジュアルコンセプトにほぼ変化がありません。インタビューやさまざまな発言を読んでも優しさが滲み出ていて、何より自分自身の心に嘘がつけない真摯な方なのだなあという印象です。

氷室と布袋が出会うとき

少しのズレも許さないその厳しさの原点は、BOØWY結成前の氷室さんの苦い記憶にあるように思えます。彼がスピニッヂ・パワーという芸能的座組みのバンドに3代目ボーカルとして短期間参加されていたことはファンの間ではよく知られていますが、デビューシングル〝スピニッヂ（ほうれん草）の力〟と名付けられ

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

関係性でタッグを組んだこともポイントだったと思います。ただガムシャラに戦い抜いた数年を経て、自分たちが0から作り上げたバンドも想像以上に巨大化していった。先ほどの例えで言えば、〝ダーツの中心を射抜いた完璧な瞬間〟を『JUST A HERO』、『BEAT EMOTION』といった充実期のアルバムから全身で感じたからこそ、輝いている状態のまま、美しいまま終わらせる必要があったのではないでしょうか。

何度聴いたか分からない。布袋が生み出したあの1枚

対して日本ロック史にその名を刻むギタリスト、サウンドメイカーの布袋さんは、多少の失敗やアップダウンも糧にしながら貪欲に新しい音楽的挑戦を続ける〝好奇心の人〟に思えます。音楽を愛し、音楽に愛された男。80年代のBOØWY活動中もさまざまな他プロジェクトに参加するなど先鋭的なギタリストとして活躍していた彼は、バンド解散後、ビートルズの本拠地であったロンドンのアビーロード・スタジオに向かいました。ソロアルバム『FLOWERS for ALGERNON』をリリースした氷室さんに遅れること1カ月。1988年10月5日、布袋さんは全編英語詞でボーカルも務めたファーストアルバム『GUITARHYTHM』をリリースしています。このアルバムを、僕は何度聴いたか分かりません。今も「日本人が作り上げたアル

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

袋さんの声の響きが、今も僕は好きです。高校に入ってからは、男子全員がこのアルバムを聴いているくらいのイメージがありました。

ただ、僕も夢中になり、「しばらくこの道を追求してほしい」と願った布袋さんの〝洋楽的な方向性〟は瞬く間に終了してしまいます。矢継ぎ早に彼は吉川晃司さんとのユニット・COMPLEXを始動させ、デビュー曲『BE MY BABY』を1989年4月に発表、世間を驚かせることに。COMPLEXについてはまたいつか書き記したいのですが（最高です！）、ただこの解散後のタイミングだけに着目しても、ファースト・アルバムでその後のソロキャリアの〝縦〟への1本線を提示した氷室さんと、ユニット結成、楽曲提供やプロデュースなどその活動領域を〝横〟に広げ、50歳でロンドン移住を決断されるなど、可能性を試し続けるロンドン移住を決断される布袋さんの雑食性、つまり2人の音楽家としての歩み方の縦軸と横軸の違いが伝わってきます。

日本最高峰のボーカリスト同士が激突

さて、本稿で紹介するのは、強い個性を持つBOØWYの4人が、まさに完璧なバランスでぶつかり合った4枚目のアルバム『JUST A HERO』から、『1994 -LABEL OF COMPLEX-』。ゲストボーカリストとして、なんとまだ19歳の吉川さんを迎えてレコーディングされた楽曲で

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

1986年8月4日、土砂降りの雨が降る中、東京都庁完成前の新宿都有3号地でBOOWYと吉川さんが『1994 -LABEL OF COMPLEX-』をパフォーマンスするライブ映像を観たことがあるでしょうか？　吉川さんは「ずぶ濡れのお客さんと同じ状態になる」と言ってスタッフにも勧めたバケツを頭上でひっくり返してもらい、パフォーマンスをスタート。吉川さんは既に〝アイドル〟としてテレビスターになっていましたが、逆に〝コアなロックファン〟からは far くルックスの良い人気者ゆえ、軽んじられることもあったと思います。ただし、BOOWYのメンバーは年齢差のある吉川さんの努力と、その年リリースされた『JUST A HERO』に誇ったのです。

『1994 -LABEL OF COMPLEX-』の面白さを例えるならば、日本版『アンダー・ブレッシャー』。

BOOWYがクイーンで、吉川さんがデヴィッド・ボウイ。僕は86年秋にリリースされた大ヒットアルバム『BEAT EMOTION』大ヒットのタイミングでBOOWYの魅力を知り、

ライブ・ビデオ『CUT A』の形で『CUT A』ではなく、バンドの過去を振り返る形で『CUT A』

ライブ・ビデオ『CUT A』ではなく、バンドの過去を振り返る形で『CUT A』

ライブ・ビデオ『CUT A』ではなく、バンドの過去を振り返る形で『CUT A』

CamScannerでスキャン

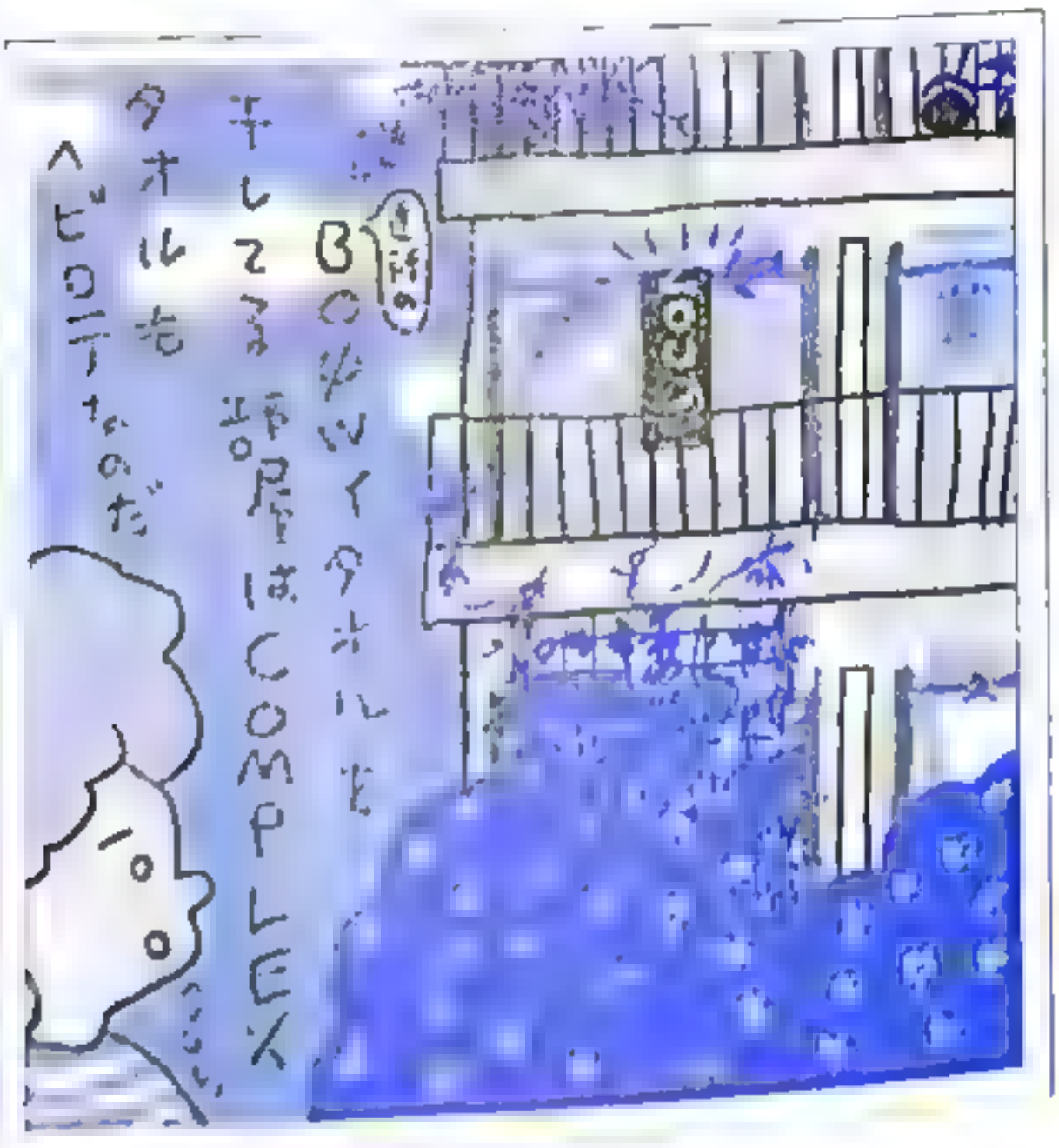
CamScannerでスキャン

ド感の心地良さが、布袋さんのギターや楽曲世界と相性抜群なことはこの時点で証明されています。

多くの若者がコピーした理由

もう1つ。作詞家として氷室さんが『JUST A HERO』で完成させた「笑い転げるデモクラシー」「マテリアルだけのキャピタル」（いずれも『1994 -LABEL OF COMPLEX-』の歌詞）など、英単語と日本語をリズミックに練り上げた〝ロック言語的歌詞〟の発明と定着について。

1982年のパンク的な『MORAL』からのBOØWYの歌詞世界、イメージの劇的な変化の時系列を振り返ると、84年5月に1年間のニューヨーク滞在を経た佐野



CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

感じています。

どうしても、はっぴいえんど周辺の細野晴臣さん、大滝詠一さん、山下達郎さんたちの音で日本のロック、ポップスが語られることが多い気がするのですが、本当の意味で日本の人たちが国内の音楽ばかりを聴くようになった要因の1つは、BOOWYが素晴らし過ぎたからではないでしょうか？

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

少年隊「星屑のスパンコール」

2020年2月20日『音楽ナタリー』に掲載

男性アイドルグループの最高傑作

僕はよく「自分には四天王がいる」っていう言い方をするんですね。マイケル・ジャクソンおよびザ・ジャクソンズ、プリンス、ジョージ・マイケルおよびワム！、そして少年隊。少年隊はトークも歌もすごいんですけど、何よりもダンスが世界中の〝ボーイバンド〟史上一番のグループだと考えているんです。

今現在、彼らの映像作品は正規では手に入りにくいので、ファンやマニアがダビングして僕

少年隊（ショウネンタイ）錦織一清、植草克秀、東山紀之による3人組アイドルグループ。1985年『仮面舞踏会』でレコードデビュー。以降シングル『君だけに』、『ふたり』などをリリース。94年『第31回ゴールデンアロー賞』演劇賞グランプリを獲得。また、ミュージカル『PLAYZONE』に出演。08年まで23年間続く。20年に錦織と植草が脱退。活動休止状態に。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

の事務所に貴重な映像を送ってくださったりもするんですけど。一種のシンジケートのようにファン同士が連帯して次世代に伝えているといいますか。

少年隊は3人での活動は、2009年のミュージカル公演『少年隊 PLAYZONE FINAL 1986～2008 SHOW TIME Hit Series Change』以降はないんですが、彼らのファンって今、若い世代にも実は増えていて。何らかの方法で観てるんでしょうね。観ればすぐ分かりますから。「これはすごい」と。

僕が錦織一清さんを知ったのは、1983年2月にかけて放送された、彼がバク宙をピタッと決める"キャンパスリップ"のCM（日清食品）。それからしばらくたってからは、小学校になった錦織さんを認識したのは、明治製菓の"DELA"というチョコレートのソロでCM。彼らはデビュー前からテレビで流れまくるCM曲のレコードを予供なりに必死で探したんですけど、よだデビューしてなくて聴いたりしたよね"て、CMに出ていたんですけど、少彼らの前に浅羽していたアイドルは10代半ばでデビューすることが多かったんですけど、海外母隊はマイケル・ジャクソンの振付師だったマイケル・ピータースの指導を受けたりと、海外でもトレーニングを積んでいて。錦織さんが20歳、東山紀之さんと植草克秀さんが19歳のときにシングル『仮面舞踏会』（1985年12月発売）で満を持してデビューをしました。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

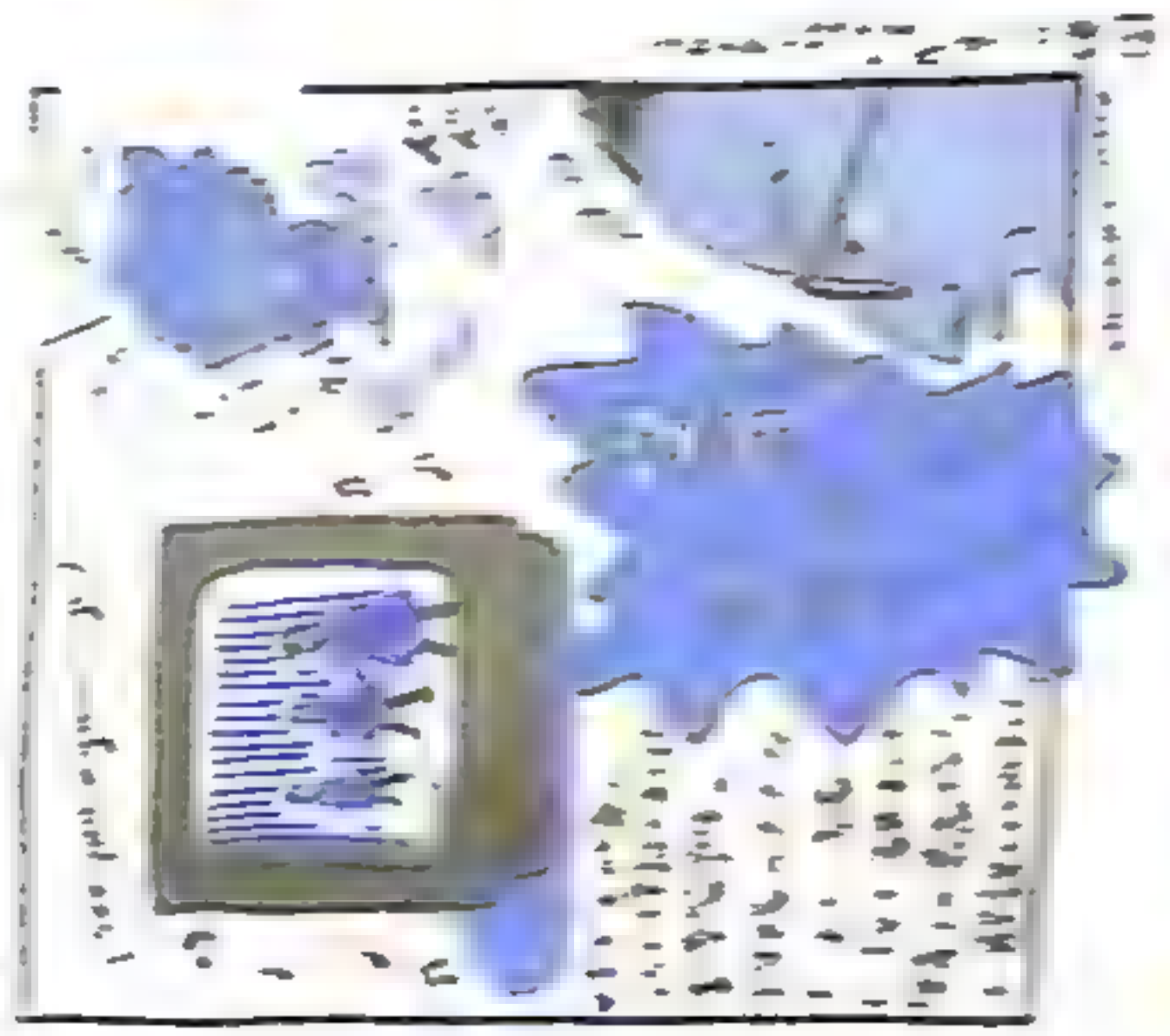
最近、僕は編曲担当の船山基紀さんと20th Centuryの『グレイテスト・ラヴァー』を共同アレンジさせてもらったりして、スタジオやご自宅で何度もお話する機会がありますが、「少年隊のデビュー曲のときは、大ヒットが前提のプレッシャーが凄かった」と回想されていましたね。

30年以上歌い継がれるクラシック

少年隊の曲のうち20曲くらいはほぼ同率で好きなので悩ましいところではあるのですが、たとえここで取り上げる『星屑のスパンコール』（1986年9月発売のファーストアルバム『翔SHONENTAI』収録）は、僕が考えるジャニーズソングの金字塔で外せないな、と。この曲はKAT-TUNやKing & Prince、SixTONESといった後輩グループたちに長きにわたり歌い継がれてきましたから、若い世代のジャニーズファンも好きな人が多いんじゃないでしょうか？だからオリジナルが少年隊だということを知らない世代も多いかもしれないと思ってセレクトしました。個人的には6人時代のKAT-TUN版も大好きです。KAT-TUN版には、少年隊にはないアウトローの匂いもあって、あまりにもカッコ良過ぎるなと（笑）。でも、結局事務所の世界観まっしぐらのライオンで、やっぱりどんなやんちゃ小僧も〝上品〟なムードに

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン



CamScannerでスキャン

んによるアレンジも素晴らしいですが、『星屑のスパンコール』の魅力はやはり安藤芳彦さんによるシアトリカル、演劇的な歌詞の設定でしょう。それがこの楽曲を、30年以上歌い継がれるクラシックに導いたのだと思います。歌詞の主人公は、まさに当時の少年隊のような女の子にとって憧れの上のスーパースターのアイドル。その彼がリムジンに乗って全国のライブツアーを回っているという設定です。今も昔もリムジンで移動するアイドルっていないと思うし、逆に街でサングラスをしてこっそり歩いているとも思うんですけど（笑）。知らない街でサングラスをしてこっそり歩いていると、あるものが彼の存在に気づく。2人は迷い込んだディスコで暗がりに紛れて一緒に踊るんだけど、別れの時間が来る。その後、女の子への気持ちを募らせていた主人公は、リハーサルを終えたコンサート会場の客席に彼女の姿を見つけたというストーリーです。

スターとファンとの間に生まれるファンタジー

いまだにあの事務所のアイドルって、良い意味で他よりもファンとの関係性を隔てるパリアがありますよね。ネットにもほぼ登場しない時代も長かったですし。基本、ライブ会場でしか[illegible]

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

なぜか。そうすると有名人によく遭遇するんですよ。もっと目を凝らして歩けば、有名人が意外と近くを歩いているかもしれない。『星屑のスパンコール』のようなシチュエーションに陥る可能性もなくはないです（笑）。

最後に。この曲を選んだもう1つの理由は、やっぱり楽曲を音だけで聴いていても完結しない部分がジャニーズ的だな、と。あくまでも『星屑のスパンコール』は照明の煌めくライブ会場で、客と、本来は手が届くわけもないスター、両者が共鳴した瞬間完結する。そしてそれは儚くて、同じメンバーがずっとそこにいるとは限らないし、関係性も年齢も永遠ではないから響いてくるんじゃないかな、と。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CHAGE and ASKA
『恋人はワイン色』

2020年5月12日「ポポタろう」投稿

歌ってみて分かったCHAGEの声

2000年の2月末にキーボーディストである高木壮太さんのユニット・井の頭レンジャーズとのコラボレーションで、CHAGE and ASKAの『恋人はワイン色』をロックステディのスタイルでカバーして、アナログ盤でリリースしました。このレコードは、プリンスをミニー・パワー・シモネーションが1991年に歌った『マネー・ドント・マター・トゥナイト』のカバーや原盤、アナログを同人同仕様

CHAGE and ASKA（チャゲ アンド アスカ）1980年デビュー。1981年に『ひとり咲き』でデビュー。『万里の河』、『モーニングムーン』などのヒットを経て、'91年ファイナル『SAY YES』、'92年ベスト・アルバム『SUPER BEST II』、'93年の第45回ファイナル『YAH YAH YAH／夢の途中』はいずれもアルバムチャート1位を獲得。その他もヒット曲多数。'19年にASKAが脳梗塞を発症したが、名曲の数々は今も愛されている。

して、同じジャケットデザインで、プリンスサイドは"ハ[illegible]フル"、CHAGE and ASKA サイドは"ワイン色"に。

いざカバーしてみて、分かることがたくさんある。レコーディングをしてみたらCHAGEさんのハーモニーハートでかなり苦戦したんです。CHAGEさん、めちゃくちゃハイトーンボイスなんです。「恋人はワイン色」がリリースされたのは1988年。僕が中2の冬からずっと好きな曲なので、常に鼻歌では歌ってきたんですか[illegible]て、その直後、ASKAさんが3月に10枚目のオリジナルアルバム『Breath of Bless[illegible]』を発[illegible]から、ASKAさんと対談されませんか[illegible]してのASKAさんの大ファンなんですけど、CHAGE[illegible]いわけではないんです。じゃあ、なぜそんな[illegible]ると、光GENJIがタイトルにクル[illegible]カラスの十代、パラダイス銀河、[illegible]て携わっていたから、ということがた[illegible]て

作家的才能のぶつかり合い

1987年夏に『STAR LIGHT』でデビューした光GENJーの衝撃は凄まじくて。僕と同い年のメンバー、佐藤敦啓（現・佐藤アツヒロ）さん、赤坂晃さんが国民的スーパースターになられているということ自体、わりと最初の経験で驚きだったのですが、何より、CHAGE and ASKA お2人のソングライティングが光る、1988年1月リリースのデビューアルバム「光GENJー」が素晴らし過ぎた。僕は当日頃から、「この作品は、日本人が作ったアルバム史上最高傑作だ」と訴え続けてるんですよ。発売当時、僕は中学2年生。小学生の頃からプリンスやザ・ビートルズにも夢中、ビルボードのヒットチャートを必死で毎週追いかけているようないわゆる〝洋楽マニア〟だったんです。ただ、少年隊と光GENJーの世界観やクオリティにだけはぶっ飛ばされた感じでした。対談のときASKAさんに伺ったところ、彼らにオファーが来たとき、「光GENJーのデビューアルバム、シングルも連続して3枚を任せてほしい」と伝えたそうですが、トップダウンで、あっという間に決まったと。今の視点で見れば、〝STAR LIGHT〟、〝ガラスの十代〟、〝パラダイス銀河〟の3連打が衝撃的なクオリティを持つ傑作シングル群だと分かるんですが、期待をかけた新人グループをいわゆる職業作家でないCHAGE and ASKAのアーティストに託切る、その感覚が凄いですよね。例えば筒美京平さんや馬

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

岡野康二さんに作曲を、松本隆さんや康珍化さんに作詞を、船山基紀さんに編曲を依頼するとか、それまでのヒットソングの方程式はいくらでも使えたはずなのに。子供だった僕にとってCHAGE and ASKAは、『ザ・ベストテン』で観たワーナー時代の『万里の河』での演歌フォーク的なイメージしかなかったんです。ただ事務所は2人がキャニオンに移籍してすぐの二モーニングムーン』やアルバム群、それぞれの自宅仕事に潜んだ才気を見抜いていたんでしょうね。これは勝手な憶測ですが、もしかすると制作のブレーンだった方は作詞・飛鳥涼（ASKA）、作曲・CHAGEというコンビ最初は期待していたのかもしれません。

古き良きアメリカンポップス的なグッド・メロディを紡ぎ、そのうえで、聴く心地の良いけに留まらず、アクとパンチのある歌詞を乗せることができるCHAGEさんとASKAさん。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

1984年にCHAGEさんが作曲され、石川優子さんとデュエットして大ヒットした『ふたりの愛ランド』で、CHAGEさんの明るく伝統的なメロディを書く才能が発揮されたと思うんです。そしてその前年、葛城ユキさんの歌唱で大ヒットした『ポヘミアン』では飛鳥涼さんが破壊力のある歌詞を作り上げました。そういった流れをくむと、戦略としては2人の作家的な才能のぶつかり合いに賭けたのではないかと。これはあくまでも僕の想像ですが。

実際、STARLIGHT、はCHAGEさんがポップなAメロからBメロまでを書かれ、「♪カソー亜いと思わない」のブレイクから感動的なブリッジに至る部分をASKAさんが書かれたようです。ネットに出回っている情報では「ブリッジの作曲だけがASKAさん」とされていて、実は僕もその情報の拡散に加担しちゃってたんですが、直接ASKAさんに尋ねたあと、コードの癖などを改めて研究してみると、もっと入り組んだ共作になっていると思いました。ただ、シングルを重ねることにASKAさん個人のパワーが爆発していき、最終形の『荒野のメガロポリス』に至っては、磨き抜かれた光GENJーのパフォーマンスも含めて、とんでもない領域に達することになりました。

ASKAの歌詞は洋楽的

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

アルバム『光GENJI』が1988年1月に出て大ヒットする中、2月に『恋人はワイン色』がリリース。僕がこの曲を初めて耳にしたのはJFN系で土曜日のお昼に放送されていた『コーセー化粧品 歌謡ベスト10』というラジオ番組でした。なぜ〝火曜（かよう）日〟に放送してないんだろうとリアルに疑問に思っていました（笑）。

この曲を作詞作曲したのはASKAさん。「♪すれ違う 君に見とれて スローモーションは ねたワイン」という冒頭の歌詞で、たぶん、立食パーティのような場所で出会ったのであろう男女のイメージが想起されます。次に「♪君のドレス 紅に染まって 戸惑いは 恋の顔」。ワインをかけてしまった主人公と、かけられた女性が恋に落ちるという展開の早さ（笑）。主人公はその女性のオレンジを絞る横顔が好きだったようで、2番にその描写が出てくるんですが、サングリアでも作っていたんでしょうか（笑）。「♪アバルトのミセス達は 噂好きで 君のさよならの理由に花を咲かせていた」という歌詞もありますから、2人は高級マンションで同棲していたんでしょう。

自分で歌ってみて実感したんですが、ASKAさんの選ぶ言葉とメロディ、その感性がかなり洋楽的と言いますか、グローバルな音楽に聞こえるんですよね。音符を1個ずつ追いかけると不思議な表現も多いんですが、音楽として聴いたときのケミストリー、歌ったときの唇や胸の響き、謎と快楽がハンパない。僕はよく言うんですが、日本人の多くが好む歌詞、言葉っ

CamScannerでスキャン

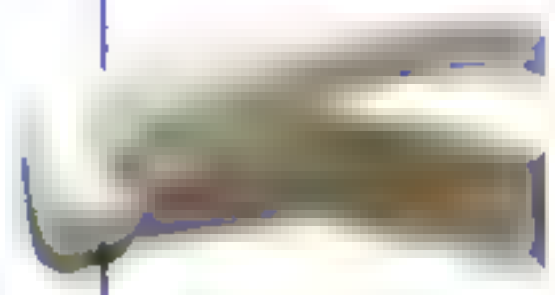
CamScannerでスキャン

て、「何て言ってるか、よく分かる」ということが、かなり重要なポイントになってるんです。もちろん、「聴いて意味がすぐに伝わる」「正しく理解できる」ということは当然大切ですけど、音楽の素晴らしさってそれだけじゃないと思うんですよ。答えが1つしかないわけじゃないと言うか、仮にロールプレイングゲームだとしたら、ゴールにたどり着き一番強い敵を倒すだけで終わりじゃない、そういう歌詞や楽曲作りに僕は魔力を感じるんです。

恋人はワイン色　にはキラーフレーズも多いんですが、あくまですべてが〝イメージ〟といいますか、敢えて細かく描写しないからこそ、聴く人それぞれの心の中に物語が広がりやすいのだと思います。だからASKAさんの楽曲は聞き取りやすいし、てかムって1回クリアしたらもう遊ばないしゃないですか。

CamScannerでスキャン

ASKA×西寺郷太



CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

した。この7インチは、井の頭レンジャーズとコラボレーションで作りまして。今回そのリリースがきっかけでASKAさんの対談相手として僕に声がかかったと思うんですが、ASKA　ありがとう。

西寺　2017年にリリースした僕らのアルバム『MISSION』の中に『NOVEMBER』という曲があるんですけど、作曲はギターの奥田（健介）で、作詞は僕が担当したんですね。奥田がデモを持ってきたときに、すごい曲だなと。で、「作詞を書く際に参考になるのは、ASKAさんの世界だな」と直感したんです。それまでNONA REEVESで歌ってきた世界観よりもさらに本格的なAORで、大人の恋愛の曲、女性目線の歌詞を僕が歌うのはどうかなと。そうやってASKAさんの歌詞を研究して作った『NOVEMBER』は、今、僕らのライブでも指折りの人気曲なんです。今回リリースした7インチは両A面で、プリンスの曲もカバーしているんですが、プリンス・サイドは紫色のジャケットで、CHAGE and ASKAサイドはタイトルに合わせてワイン色にしています。ちなみに、今日の僕もワイン色っていう……合わせてきました（笑）。

ASKA　芸が細かいね（笑）。プリンスはいつごろから好きなの？

した。この7インチは、井の頭レンジャーズとコラボレーションで作りましてリリースがきっかけでASKAさんの対談相手として僕に声がかかったとASKAさんと直接、音楽の話ができる日を心待ちにしてました……。

ASKA　ありがとう。

西寺　2017年にリリースした僕らのアルバム『MISSION』の中に『NOVEMBER』という曲があるんですけど、作曲はギターの宮田（健介）で、作詞は僕が担当しんですね。宮田がデモを持ってきたときに、すごい曲だなと思って、作詞を書く際にASKAさんの世界だなと直感したんです。それまでに『NOVEMBER』は、今、僕界観よりもさらに本格的なAORで、大人の恋愛の曲、女性目線の歌詞をうかなと。そうやってASKAさんの歌詞を研究して作った『NOVEMBER』らのライブでも指折りの人気曲なんです。今回リリースした7インチはンスの曲もカバーしているんですが、プリンス・サイドは紫色のジャケットで、and ASKAサイドはタイトルに合わせてワイン色にしています。ちなみにもワイン色っていう……今日の僕の服ASKA　良く細かいね（笑）。ノリンスはいつごろから好きなの？

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

西寺　僕は1973年生まれで、プリンスは9、10歳くらいから好きですね。

ASKA　僕は、実はね、プリンスってよく分からなかったんだよ。なんとなく、漂う雰囲気が自分とは違う人だなって。音楽自体も……なんていうんだろうな。攻撃的であって、ポップやロックなどいろんなものを融合しているんだけど、自分のポップス感覚にフィットした曲がそもそもなかったんだよ。そんなときに『パープル・レイン』が出てきて、やっぱりもうド頭で掴まれたよね。

西寺　プリンスは78年デビューで、79年デビューのCHAGE and ASKAとほとんど同じですよね。僕は『パープル・レイン』をASKAさんが歌ったらハマりそうだなって、もう映像まで浮かんでいるんですけど……。

ASKA　『パープル・レイン』の頭って、コードはナインスで始まるでしょ？　それをF add9、Eb add9って下降していくパートでしょうか。プリンス&ザ・レヴォリューションのギタリスト、ウェンディがその部分のコードを付けたと言っていますね。ウェンディの父親はジャズ・ピアニストで、多数のヒット曲に携わってきたマイク・メルヴォワン。幼い頃から複雑で甘美なコード感覚を磨いてきた才女が、プリ

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

人にも伝わるコ　ドのエレガントさがありますよね。

ASKA　そこが僕がプリンスに対して引っ掛かっていた部分なんだよね。

西寺　ところで、プリンスやマイケル・ジャクソン、マドンナ、ASKA（58歳）さんはみんな58年生まれじゃないですか。

ASKA　そうだね。

西寺　ASKAさんとCHAGEさんは早生まれなので、日本の学校だったら、プリンスやマイケル・ジャクソン、マドンナより学年が1つ上なんですけど、もし仮にASKAさんが、自衛官のお父さんの都合でアメリカに行っていたら、アメリカの学校は9月スタートなので、8月29日生まれのマイケルとASKAさんは同級生になって。ともかく日米ともに凄い学年だな、と（笑）。僕は勝手に〝花のごっぱち〟って呼んでいるんですけど。

ASKA　（笑）。プリンスとは1993年にモナコで行われた『World Music Award（モナコ音楽祭）』で会ったことがあってね。全世界でトップセールスを挙げた人たちがモナ

CamScannerでスキャン

コの王子に選ばれて晩餐会に招待されて、その晩餐会の様子は全世界に放送されるんだけど、その放映権をチャリティに寄付するという趣旨で。そこにプリンスやマイケル・ジャクソンがいて、2人はゲストだったと思うんだけど、本番前日にプリンスがGIGをやったんだよね。

西寺　ASKAさんも観に行かれたんですか？

ASKA　もちろん。小さい会場で、アーティストがアーティストを観るためのGIGだったんだけど、それはもうカッコよくてね。プリンスやマイケル・ジャクソンと同じあの空間にいるというのは、自分たちが今どの位置にいるのか分からなくなるような感覚になったよね。

西寺　実は、仲の良いDJに、今回『恋人がワイン色』のカバーの裏面がプリンスだよと伝えたら、モナコ音楽祭の話になって。当時CHAGE and ASKAのお2人がラジオでプリンスをライブで見たら小さくて、遠くから見ているからそう見えるのだろうと思って近くに行ってたら、もともと小さかった』みたいな話を楽しそうにしていたという情報を事前に聞いていたんです（笑）。

ASKA　プリンスは黒いブーツを履いていたこれ（笑）。でもリブ

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

されるよね。音楽が凄いのはもちろんだけど、出てきたときのたたずまいがね。バーマースも凄かった。まあ、転ばないか心配だったけどね（笑）。

コンサートのお客さんは増えるのに、『ザ・ベストテン』には……

西寺　ASKAさんはMVの撮影でアイスランドに行かれていましたよね。

ASKA　『歌になりたい』のMV撮影でね。

西寺　実は僕は1990年代からずっと〝飛鳥涼・日本のボノ説〟を勝手に唱えているんですけど……。

ASKA　（笑）？

西寺　大学生の頃に新宿駅でU2の4人に遭遇したことがあるんです。ボノって身長はそんなに高くないんですけど、握手してハグしていただいたときに、胸が樽みたいでどっしりした体型というか。そんなときにテレビでASKAさんを見て、「あれ、歌い方、スタイル、声の響き……凄いな、ボノみたいだな」と。CHAGEさんはちょっとジ・エッジ感ありますし（笑）。で、僕は最近までASKAさんは生粋の福岡生まれ、福岡育ちだと

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

思っていたんですけど、中高生の頃は北海道で過ごされていたんですよね。

ASKA　そうだね。

西寺　『歌になりたい』のMVを拝見して、アイルランド出身のU2の、空気が冷たい大地でパーンッと響き渡らせるようなイメージを、僕はどうしてASKAさんに感じていたのかなと思っていたら、ASKAさんは北海道で暮らした時期があったと言いますか。ASKAさんとボノの〝北の荒野に響く歌声感〟がリンクして。今回のアルバムの1曲目の『憲兵も王様も居ない城』も、個人的にはU2やザ・ポリス的な感覚で聴いたりしました。ASKAさんは、本当にいろんな形にメタモルフォーゼされる音楽家というイメージがあります。最初にCHAGE and ASKAが『ザ・ベストテン』に出た頃は、確かフォークデュオ的な2人組でしたよね？　当時僕は7歳くらいでしたけど。

ASKA　7歳でも、我々が出てきたときの記憶は残っているんだね。

西寺　めちゃくちゃ残っています！　その頃は、まだ自宅にビデオ・デッキがなかったんで、ヒット曲を1回で覚えようとにかく真剣に観ていました。

ASKA　西寺くんは音楽に関しては早熟だったんだね。

西寺　とは言え最初に音楽を自主的に好きになったのは、1980年なんで小学校1年

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

あのスタイルをモノマネしてクラスの人気者にならせてもらったり（笑）。でも僕は、時も今も日本の音楽はほとんど知らないんです。先ほどもお伝えしましたけど」、アン』のあとに、小4でプリンス、マイケル、その後はビートルズ……。

ASKA　それは早いね。早熟もいいところだよ（笑）。

西寺　親が英語の教師だったので、中1の夏休みに頼み込んでアビー・ロード・スタジオやリバプールに連れて行ってもらいました。で、中2の夏に『STAR LIGHT』で光GENJーがデビューして旋風を巻き起こして。その直後に『恋人はワイン色』を知って……ASKAさんの歌っているときの言葉の乗せ方が凄いな、と。個人的には、ポニーキャニオン移籍後、86年の『モーニングムーン』でCHAGE and ASKAがかなり変わったと感じているんですが。

ASKA　そうだね。あの当時は、まだ小学生の西寺くんは音楽業界を表面で見ているときだね。『ザ・ベストテン』という歌番組があって、それに出ることにアーティストた

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

ASKA　いなかったけど、『ベストテン』に出ていれば記憶でいうところの、"ベストテン"だったから。出ていなければブームで終わる人たち。あの頃からだよね、一発屋な んて言葉が出てきたのは。アーティストからすれば酷い言葉だよ。その一発をヒットさせるのに、どれだけの運とどれだけの労力があり、どれだけの人が動いてくれているか。僕らは一発屋とは呼ばれないグループに入れてもらえてはいたけど……。その近くはウロウロしていたかな（笑）。

西寺　『万里の河』以降しばらくは、少し焦っていたところもあったのでしょうか？

ASKA　業界内に"シングルレコードは売れないのに常にコンサートは満杯になるグループ"ということが広がっていったから、そういう意味では心配はしていなかった。でもやっぱり、シングルが売れないことに対して、責任を感じていたことはあるね。それは自分の音楽に責任を感じるということではなくて、「コンサートに来て応援してくれているファンの人たちに、『ベストテン』のあの鏡のドアから出てくる姿を見せてあげたかったな」って。でも、その気持ちもデビュー10年目にはなくなったね。ちょうど89年あたり。そのころに『PRIDE』とい

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

うアルバムを出したんだけど、プロデューサーから、10年よくはヒット曲なんかを気にしないで好きな曲をやって」と言われて……。

西寺　結局、そこからめちゃくちゃヒットするじゃないですか（笑）。

ASKA　そうそう（笑）。

西寺　89年というと、ちょうど〝ベストテン〟も終了したもんね。

ASKA　そうだね。よく知っているね。西寺くんはデータ人間だね（笑）。

西寺　僕はその辺りの時代に関してはよく知っているんですよ（笑）。CHAGE and ASKAは、89年代半ばにワーナー・ミュージックからポニーキャニオンに移籍されますよね。それはお2人が雰囲気を変えたいからレコード会社を変えようと思ったのか、「万里の河」以降、ちょっとアレだよね……」とワーナーから話が来たのか。どちらだったんでしょうか？

ASKA　それは自分たちからだよ。やっぱり、「レコード会社の人たちは、自分たちにどれくらいの情熱を注いでくれているのかな？」っていうのを、どこかの瞬間で感じたんだ。でもそれはね、仕方がないと思っている。アルバムは売れていたけれど、ツアーでいくらお客さんが入ったところで、シングルが売れなかったらレコード会社としてはおいし

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

…ったね。そんな裏話からの移籍だったな。

その点それで生まれたのが『モーニングムーン』ですよね。CHAGE and ASKAのお2人と編曲の佐藤準さんの組み合わせ、めちゃくちゃ良いですよね！

ピアノの中に思い描いた曲の世界が詰まっていた

西寺　僕はCHAGE and ASKAの作品をずっと熱心に聴き込んでいるミュージシャンではないんです。ピンポイントでノックアウトされていると言いますか、特に86～89年あたりの、AOR的でアーバンなCHAGE and ASKA、本格的なアレンジャーと組んだエレガントな香りの漂う楽曲が好きで。同じポニーキャニオンにおニャン子クラブがいたり光GENJIがいたりして、あのアイドル音楽が爆発した時代に、ASKAさんが、ソングライターとしてボールの弾み方を実験したりして楽しめた。そしてCHAGE and ASKA本体の活動も再起動させたという意味で、レコード会社の移籍は大正解だったのかな、と。

ASKA　西寺くんは、レコード会社の移籍の経験は？

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

西寺　4回くらいあります。最初はASKAさんと同じワーナーで、移籍したあと、また戻ったりして。でも僕が今思っているのは、レコード会社に頼りきりにならず、ラジオやSNSなどいろんなメディアを活用して自分から発信できる場所をたくさん持つこと。そこで一生懸命伝える努力もするしかないと。

ASKA　そうなんだよね。僕も今はレコード会社に所属していないからね。でも勘違いされたくないのは、所属がないことがカラ元気に取られると嫌で。さっき西寺くんが言ったように、〝自分のアウトプットする場所〟さえあれば、レコード会社に所属しなくてもいいと思っているんだ。

西寺　『Breath of Bless』もそうですし、MVの撮影でアイスランドに行かれていることもそうですけど、レコード会社に所属されていなくても、予算をかけて制作しているのが分かりますし、アルバムの曲もASKAさんのオリジナリティが感じられて凄まじい。プリンスは、ベイズリーパークという本拠地にスタジオを作って、自分のレコード会社を作って、途中からは自らの作りたい音楽を作れる場を構築しました。プリンスという人で、リンスもまさにそういう思えばASKAさんも88年にスタジオを作られていますよね。

ASKA　BURNISH STONE STUDIOだね。当時の日本は、スタジオは利益が出ないと

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

クジオを持っている。たから実験的にスタジオを作ってみようと、始めたんだよ。そうしたら日本の音楽業界始まって以来のことで、「こういうアーティストが日本にも出てきたのか」ってことで、みんなが協力してくれてね。BURNISH STONE STUDIOをきっかけに、そのあとアーティストがスタジオを持つようになったよね。でも僕は、ほかの人に影響を与えようなんて思っていなくて、時間がかかっても音楽を作れるような場所が欲しかった。思いきってそれをやってみたら、「なんだ、できるんじゃん！」ってね。

西寺　それはASKAさんがイギリスに行かれる前ですか？

ASKA　そうだね。

西寺　そう言えば、ASKAさんは制作にMacをめちゃくちゃ早く導入されたと聞いたんですが。

ASKA　Macもイギリスに行く直前から使っているから、89年だね。その前の86、87年にカモンミュージックのシーケンスソフトを使っていたんだけど、これが怖くてね。キーボードに〝K〟ボタンがあって、それをうっかり押したらデータが全部消える（笑）。Ctrl+Zを入力すると前の操作に戻るUndo（アンドゥ）機能がないから。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

西寺　それ、最悪じゃないですか！（笑）

ASKA　僕は譜面を書くのに時間がかかるんだけど、そのときは初めてストリングスの譜面を書いていたんだよ。3日かかって16小節。自分の中ではかなり良いものができたから、「ストリングスの部分だけをカセットテープに録音しておこう」と思って席を立った瞬間……Kを押した（笑）。

西寺　〝カモンミュージック〟という名前とのギャップがいいですね。「カモンって言うてるのに消してるやんー！」みたいな（笑）。

ASKA　（笑）。三日三晩かけて制作して、ストリングスだけでも11、12時間はかかっている。消してしまったのはたしか夜中で、呆然としていたんだけど、でも僕はデモテープは完璧に作りたくて、イチから作り直した。そうしたら今度は3時間もかからなかった。1回やったことは覚えているんだと。そのことはすごく良い経験になったよね。Macにはundoモードがあって、びっくりした（笑）。

西寺　そこからはMacを駆使してご自身で作られて……。

ASKA　そうだね。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

めてギターを持つまでは　結構たる気恥少年たちだったんですよね。

れて、大学4年でデビューされました　その歌も書いてすぐ

してからキーボードを始められて　最初のノアールも重ねられて。

はいち早くMacを使われたり、ご自分でプログラムも作られたりして、ご自分でプロデュースもなさってしまうくらい

ちゃくちゃ忙しかったと思うんですけど、その合間でどうやってピアノを身につけ、コードを研究したのかな？と。

ASKA　おそらくそれはね、西寺くんはまだ、ギリギリのところに行ったことがないからそう思うんだよ。

西寺　ギリギリ、ですか？

ASKA　結局、僕はコードもおぼつかないまま、ほかのアーティストのコピーをすることもなく当たりのみでデビューしたからね。高校3年の秋にギターを始めて、大学4年でデビューしたから、アマチュア期間は4年。この間、場末さんみたいな

[illegible]

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

…ました。ニューヨーク…ライブハウスなんかにつながったりもして。ニクイ…ながらも「歌いたい！」曲を作りたい！」が先で……。大体のミュージシャンがたどってきた、バンドのコピーをしたり、コード分析をしたり、誰かに影響されたりっていう、僕にはそういうバックボーンが何もない。映画音楽ばかり聴いていたし。

西寺　インタビューで映画音楽がお好きだったと読んだことがあります。映画音楽のインストゥルメンタルとかから余計に陽水さんの曲が巧みに感じたんだろうね。

ASKA　そう。だから余計に陽水さんの曲が巧みに感じたんだよ。陽水さんの歌を聴いたときに、歌謡曲とは明らかに違う音楽だなって思ったんだよ。自分の音楽の入り口は、フォーク。でも、自分の中では別の物があるのに、〝こんな感じ〟って、自分でわざと殻を作ってしまっていたんだ。じゃあ、その〝別の物〟とは何かというと、それが分からなかった。でも、こんな感じでデビューしたし、こんな感じの枠で、こんな感じの曲を作らないといけないっていう……その〝こんな感じ〟がどういうものかをようやく分かるようになってきたのは、もう何も出てこないくらい、自分が〝フル〟になったとき。そのときにね、「あー、もうだめだな」「もう曲は書けないな」って思ったんだよね。まあでも

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

ほら、幸せなことだよ。ライブをすれば全国各地でお客さんは満杯になってくれるし。そういう時期から5、6年が経って、「これだけやれたから良かったんじゃないかな」って思ったときに、どうせこのまま音楽ができなくなるんだったら、ギターじゃなくて鍵盤でやってみようと思って、鍵盤を仕入れたんだよ。幼稚園のときにオルガン教室には通っていたんだけど、〝ド〟の位置も分からなかったよね（笑）。指で2本で押さえながら3本になったら、「あ、これコードだ」って。で、それが4本になって、ベースがオクターブになって、テンションを押さえるようになって、「もしかしたら、フォークじゃなくてピアノの中に自分の思い描いていた世界の曲が詰まっているのかも……」と思ったんだ〟それがちょうど、86、87年くらいだね。もうね、面白いように曲ができたんだよ〟

西寺　ピアノはめちゃくちゃ練習されたんですか？

ASKA　練習はしないんだけど、コードを覚えていったよね。

西寺　ギターで弾いていたのが、「これがこれでこういうテンションでこういうことか……」みたいな。剣道のストイックな訓練とかに似てるんでしょうか〟集中して〝型〟を覚えるような。

ASKA　そうだね。ギターでテンションを見つけるときって〝開放弦なんかを使ってい

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

るど、一瞬「これ、なんのコードだ?」って思うでしょ。ピアノ弾きえたらもうコードだから。シンプルで、見たままなんだよ。そこから研究して、分子ってきえていくと、音楽は数学に似ているな、と。そして、それから間もなくコンピューターでしょ? コンピューターの時代になってMC・4っていうシーケンサーが出てきたんだよ。4トラックのね。それで打ち込みを始めて画面で見ていくうちに、あ、音楽は数学だと思って……。

西寺 数学と仰る感じ、分かります。それにしても、僕はスポーツ少年がギター弾き語りの世界からピアノにいって、そこからコンピューターにシフトし、自分の本格的スタジオまで作ってしまうっていう……、デビュー時から5年、10年を経たときのCHAGE and ASKAのアーティストとしてのイメージの変化というか、飛鳥涼さんがASKAとなって変貌していく進化のスピードにものすごく興味があって。

ASKA 自分の中で気を付けていることがあってね……。ごめんね、言葉を選ばないで言っちゃうけど、僕は、常に新しいものに向かって壁にぶつかって、その壁をぶち破ってきた気がするんだ。それはある意味、開拓者であり、改革者である人の宿命なんだよね。新しいものにぶち当たったときは、破らなきゃいけない。そのときは破ることが目的だか

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

ら、破り方はスマートじゃないんだよ。それで、破られた壁のあとをいろいろな人たちが通って行くときに、その壁のデザインを決めたりして、キレイにしてくれる。すると、破った人のことはとりあえず置いといて、その綺麗にデコレーションしてくれた人をみんなが見る（注目する）んだよね。

内寺　確かに2人目、3人目の方が美しく突破できる。そして評価する人はそこにしか目がいかない、というのはあるかもしれませんね。評価って基準が定まらないとできない人が多いんで。よほどの審美眼がなければ怖いんじゃないですか？　だから大抵はほかの人と同じになる。

ASKA　自分がやってきたことの後ろには、誰かが必ず通ってきたことの後ろには、誰かが必ず通って舗装整備してくれる。そのときに、自分がやった部分を、今度は自分がやったということはもうどうでもいい。いかに自分がもう1回綺麗に使っていくかを考えようって。それはいろいろなバネになっているよね。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

手のついていない領域で、
何をやっても新しい光GENJーのプロジェクト

西内　先ほどの光GENJーの話で、自分のファンもしっかりいらっしゃるシンガーソングライターが光GENJーの楽曲を作るっていうフォーマットを考えると、その点に関しても僕はASKAさんは開拓者だと思うんです。

ASKA　光GENJーに関して話すと、それまでジャニーズの曲は作曲家や作詞家などの、いわゆる〝先生〟と呼ばれる商業作家の人たちが手掛けていた。でも光GENJーというローラースケートを履いたこれまでになかったグループをデビューさせるにあたり、ニューミュージック系、ロック系の作家を起用しようという話になってね。当時僕らはポニーキャニオンに移籍して、「シングル4枚、アルバム3枚出します」と公言して達成した年で、それを事務所が見ていたんだね。

西内　〝モーニングムーン〟で打ち出したアダルトなアーティストイメージとアイドル音楽のイメージって、普通の人にはそもそも結びついていなかったと思うんですけど。それが〝STAR LIGHT〟で一気に……。あの当時、光GENJーであれば、コンペで100

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

人くらいに曲を書かせてそこから10曲を選ぶこともできたのに、アルバム全部をCHAGE and ASKAに任せたというところが、もう……。

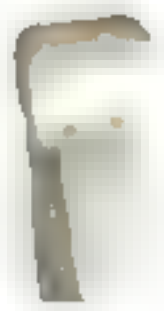
ASKA　コンペという言葉が出てきたのは光GENJIのデビューから5、6年経った頃からだよね。アルバム制作は面白かったよ。最初、依頼されたときに、シングル、3曲続けてやらせてください」ってお願いしたんだよ。

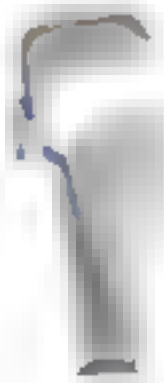
西寺　『STAR LIGHT』『ガラスの十代』『パラダイス銀河』ですね！

ASKA　「1、2、3とステップを上げていきましょう」と。先方はミーティングのその場で僕らの意見を呑んでくれて。そのあとアルバムの話になって、「コンセプトはどうしましょうか」と。でも僕はコンセプト自体が苦手だから、〝全部良い曲〟のアルバムを目指して。

西寺　『光GENJI』は最初からベストアルバムのような内容ですもんね！　あと、その後しばらくしての『荒野のメガロポリス』（1990年）も大好きで。バブルもあの曲が一番完成されているし、まさに今の東京オリンピックを巡るコロナ騒動や世界の動きを予見したような歌詞で。

ASKA　自分の持ち味は〝バリエーション〟だと思っているから、光GENJIは楽し





CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

かったよね。手を付けていない領域で、もう何をやっても新しいから。すべてがやりやすかった。そう考えたらビートルズもやりやすかったんだろうなと思うよね。今は全世界でビートルズより良いメロディだと感じる曲を書くアーティストがごまんといる。でもそれは、ビートルズがやったからであって。ビートルズっぽい人は山ほどいるけど、でも評価はされないよね。ビートルズが作った枠の中で目立つのはすごく難しいことだから。だからそういう意味では、常に世の中というのは、何か扉が開いていたり、川の向こうに1つ橋ができたら、そこをいかにうまく渡るか、いかに魅力的に渡るかで、ソフィスティケートされていくんだよね。

西寺　ASKAさんはどちらかというと、不格好でもボーダーを潰してきたという意味で仰ってるんだと思うんですが。今回、ご自身のレーベルからリリースされたアルバムが、まさに瑞々しく、まさしくインディペンデントで驚きました。特にミディアムメロウナンバーの『どうしたの？』は、イントロの鍵盤の響きから何もかも大好きです。ASKAさんの最近のインタビューを読めるものは全部読んだんですけど、ソングライターとして驚くほどに興味深い内容でした。その中で「僕は〝アルバム〟をすべて〝ベスト・アルバム〟のつもりで作っている。常に1曲1曲を〝最高の曲〟にして集中していれば、おのず

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

といいアルバムになる。だから、特別コンセプトなどにこだわっていました。ただ、そうは言っても、4曲目の『未来の人よ』で突然セリフが入ることで、ふっと気が持っていかれることも含め、古き良き時代から続く〝アルバム〟という感じがするんですよね。最後の『Breath of Bless ～すべてのアスリートたちへ』だったりも含めて、ストーリー性を感じられるアルバムでした。光GENJIのファーストアルバムの素晴らしさも、まさに物語的な構造にあると思うんです。

ASKA　「こう感じてもらえたらいいな」っていうのを、そのまま西寺くんが感じてくれたんだね。僕は楽曲というのは並びが大切だと思っていて。ライブでもそうでしょ？それには要素がいくつかあって、テンポと、前の曲がカットアウトで終わるかフェードアウトで終わるか。それと、次の曲の入りがカットインなのかフェードインなのか。それからい、「何度離れているか」とかね、そういう絡み合いで楽曲を埋めていくと、詞は関係ないんだよね。

西寺　いや、ASKAさんほど詞のことを考えている人いない気もしますけどね（笑）。

ASKA　（笑）。アルバムって詞的なことを並べがちじゃん。「これを言ったらこれが来て、これを言ったらこれが来ようと、音のほうを重視す

CamScannerでスキャン

るよね。

西寺　あともう1つ、僕が本当に凄いなと思うのは、昔からASKAさんの歌はどちらかというと溜め気味というか、リズムに対して粘っこくファンキーに、ビートよりも後ろにメロディを乗せてくるイメージがあって。そういうところが、真似されるほどのオリジナリティにもつながっていると思うんです。そしてそういう〝タメ〟、年齢を重ねるごとに増していくシンガーってよくいるじゃないですか？　自分の歌の美味しいポイントをどんどん後ろに置きにいって、「これ、ビートの直線どこやねん」っていう（笑）。でも今回のアルバムを聴いて、ASKAさんはその溜め方が昔と変わらないというか、年齢を重ねてもめちゃくちゃフレッシュでジューシーで、もともとの〝ASKA印〟のまま。そこに驚いたんです。むしろ今のキャリアを考えると、とても若々しいんですよね。聴いていくうちに、「この人は一体何歳なんだろう？」って思わされる、青春の香りが漂うボーカルで。

ASKA　西寺くんが言っているのは間違いじゃなくて、僕も子どもの頃、同じことを感じていたんだ。「どうしてそうなるんだろう？」とは思っていたけど、そこは分析してない。大体、ビートものもそうなんだけど、ロックもそうだよ。オンビートよりも少し……

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

「本当に僅か」って感じるくらいの遅さ、ちょっと後ろで歌うと、楽曲のスピード感が増すんだよね。いわゆる、〝オケに引っ張られてボーカルがついていく〟。逆にボーカルが引っ張ってしまったら、オケのほうが遅く聞こえる。それを気にしてずっとやってきたんだけど、あるときからオンビートで歌うことを目指し始めたんだよね。

西寺　うぉー！　こういう話、大好物です（笑）。シンガーとしてはもちろん、ASKAさんの作詞家としての力を、僕は『恋人はワイン色』をカバーして改めて感じまして。特に2番のAに登場する「♪オレンジをしぼる横顔　まぶしくて好きだった」のパート。最初は正直「なんなんだろう？」って思ってたんですよ。「オレンジを絞る横顔かぁ……主人公は彼女と同棲してんのかな？」「なかなかオレンジ絞った横顔って見ないよな」って思っていたんですけど、「お〜れん〜じを〜しぼるぅ〜しぼるぅ〜」って、声を音に乗せたときの感じが問答無用に気持ち良くて（笑）。ピカソの抽象画のように、その女性と過ごしたいろいろな一瞬のシーンがパコーンとハマる快感もありつつ。

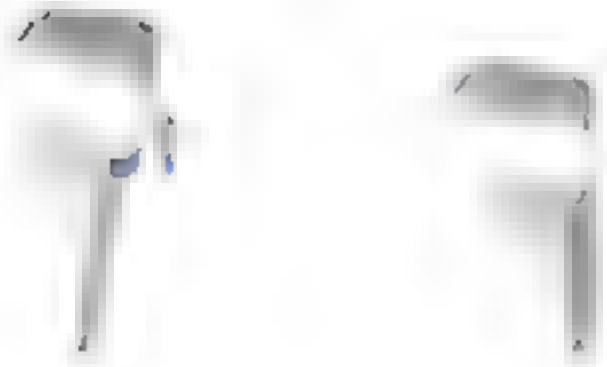
ASKA　（西寺がカバーした『恋人はワイン色』を聴いて）このワイン色、ニュアンスは感じるね。この曲を選んでくれてありがとう。あとでゆっくり聴かせてもらうね。

CamScannerでスキャン

聴いてもらいたいから、それに値する楽曲をしっかり作る。プロなんだから。

西寺　僕の理想は、CHAGE and ASKA のように自分の音楽を純粋に追求しながら、光GENJIのようなアイドルをプロデュースして老若男女に届けるというか、その2つの動きをパラレルに進めることで。

ASKA　89年の終わりにイギリスのロンドンに生活の拠点を移してね。戻ってきてからもう一度向こうで生活したので、合計1年間ノースセントラルのフィンチェリーに住んでいたんだけど、向こうのミュージシャンに対しては、日本の業界は〝外タレ〟って表現して委縮するんだよ。僕もそうだった。〝外タレ〟が日本に来れば武道館だし、ライブ会場は満杯だし、やっぱり特別感があるよね。自分たちとはクラスが違う人だ、階級が違う人だと、そういう意識下の中で僕らは育ってきた。それはコンプレックスだよね。でもロンドンに住むことになり向こうで生活しているうちに、どんどん環境になじむわけでしょ？　隣ではジョージ・マイケルがレコーディングスタジオに入るわけでしょ？　向こうのレコーディングスタジオに入るわけでしょ？　隣ではジョージ・マイケルがレコーディングしていたりして……。



CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

三三　僕、ジョージ・マノケルのファンなんですよ！　映画に言えば、ジョージ・マイケルはさしずめ、「インスピレーション・ワンズアウト・プレジュディス」（1990年）というアルバムをもっていたはずです。ASKAさんがイギリスに行かれた89年は、日本は平成に入り、平穏では5月に天安門事件があったり、夏前の秋にはベルリンの壁崩壊もあったりと、激動の年でした。

ASKA　イギリスで暮らしてみて、洋楽と邦楽の間仕切りがまったくなくなったよね。それで最近、自分のキャリアとかいろいろなことを認められるようになって、やっとそれを言葉に出せるようになったんだけど、「やっぱり音楽はワールドワイドでないといけない」と思っていて。日本という島国の中で、日本は人口が多いからミュージシャンとして成り立つ人も多かっただろうけど……。芸術性なんていう言葉は堅苦しいから使いたくないけれど、でも音楽はやっぱり〝作った作品〟だから、この作品をなぜ日本国内だけのものに……。さっきの殻の話と一緒だよね。なぜ殻の中に入れてしまうんだと。自分では、日本以外の国のことも気にしながら曲を作っているよ。

三三　ASKAの作品は、中国でもめちゃくちゃ人気ありますもんね。『万里の河』などを今の視点で聴くと、オリエンタルでワールドワイドな魅力を持っていて。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

ASKA　別に音楽に特化した話じゃないんだけど、すべてにおいて〝気を込める〟ってすごく大事なことだと感じていて。ここ数年……いや、数年というと浅いな。もう少し前から気付いていることなんだけど、言葉であったり、音であったり、声であったりというのは伝達手段の1つであって、それを超えるものは〝気〟だと思う。その〝気〟を込めた歌をステージ上でどれだけ再現できるかどうかで、残る人、残らない人の振り分けができる。これはね、ステージングがうまいかどうかという話ではなくて、今、自分がどれだけのことを感じて、分かっていて、〝それを分かっている自分〟にステージで到達できるか、それ以上のものができるか。それって〝気〟だから。それこそテクニックだったら、誰が叩いても誰が弾いても一緒、上手な人はいっぱいいるからね。だから、〝決めの一発の気〟が大事。そこで伝わるものは大きいはずだと思っているんだ。

西寺　僕は今回のアルバムを聴いて、先ほどASKAさんが仰られた、数学という部分を感じて。〝気〟と、さっき仰っていた数学的な計算、相反するように思えるその両面からの答えを探す冷静さが、凄いなと。

ASKA　そうだね。〝込めるもの〟がしっかりできていないと、作品が作品として届いていかないから。さっき「どちらかというと音にこだわる」とは言ったけど、でもやっぱ

CamScannerでスキャン

…曲作りに…。歌詞って十何年に…いている…、歌を超すこ…
意に戻っていても、何…をするにしても、歌こえてくるのはメロディだよ。歌詞は大きくな
いからさ。でも、そこに自分で言葉をつなげていくうえで、「これくらいでいいだろう」
と思ったものは、どこかで何かに触れるから。そこは大切にしようと思っていると
のは、どこかで何かに触れるから。しっかり書いて自分の中で満足できたも
西寺　詞の書き直しはされるんですか？
ASKA　もちろんするよ。でも昔は1週間、10日、長いときは1カ月かかっていた詞が、
ここ4、5年は4時間を超えてないよ。
西寺　集中されているんですね。
ASKA　自分の中でいろいろなことがあったから、どこかを1周して原点に帰ってきた
ような気持ちにもなるんだけど、言葉を選ぶスピードがすごく早くなったかな。
西寺　僕は『Breath of Bless』を聴かせていただいて、すごく自然というか、ナチュラル
に聴こえたんです。今回の曲数の多さもそうですけど、ここ5、6年のディスコグラフィ
ーを見ても、ベスト盤があるにしても、めちゃくちゃリリースされているじゃないですか。
ASKAさんは、今ちょうど整ってきたというか、やりたいことがすーっと素直にできる

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

状況なのかなとも思ったりして。技術の進歩もあると思うんですけど、ASKAさんのやりたいことと、世の中がようやくこう……。もちろん、これまでも合っているときもあったと思うし、めちゃくちゃ合っていたからあれだけヒット曲が出せたんだと思うんですけど、またそれとは違う意味で、ASKAさんの作りたい作品が素直に届いているということを、このアルバムを聴いてすごく感じました。

ASKA　僕たちはプロだからね。ポップスであろうが、ファンクであろうが、ロックであろうが、ブルースであろうが、カントリーでもいいけど、作っていくらか自分が満足してあろうが、それは語ったところで、相手が受け付けられなかったら聴き流されてしまうだけでしょ。それは寂しいよね。やっぱり作ったものはちゃんと聴いてもらいたい。だから、それに値する楽曲をしっかり作っていかなきゃ。プロなんだから。

西寺　そう言えば、いろいろまだ聞きたいこともありましたよね。

ASKAさん、ボール・マッカートニーと対談されていましたよね。

ASKA　実はボールと会う前、89年にロンドンに行ったときに、娘のステラ・マッカートニーと先に知り合っているんだよ。そしてボールが日本に来たときに、ホテルのファミリーパーティに呼ばれて。そこでボールに家族を紹介されたときにステラが出てきてね。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

「はじめまして」みたいな会話から、「いや、実は昔に会ったことがあるんだよ、ロンドンで会った日本人だよ」って言ったら思い出してくれて。そうしたらポールが、「なんだ、もう知り合いだったのか」って。そんなやり取りがあったね。そこで会ったポールのバンドメンバーが、僕が後にアルバムのレコーディングでロンドンに行ったときに、偶然にもスタジオにいたりして。ポールほど、ポップやロックの中にアカデミックさを持ち込んだ人はいないよね。ジョン・レノンは存在感と、カリスマ性、声の良さ……。もちろんメロディも良い。ジョンはロック寄りのカッコよさだよね。ポールのカッコよさは、ロック寄りなところがありながらも、メロディアスでクラシカルなところ。

西寺　そうかもしれないですね。

ASKA　楽典的にはポール・マッカートニーなんだけど、やっぱり、ポールとジョンの2人が合わさったときのビートルズの魅力は素晴らしいものがあるよね。

西寺　いやあ、僕が好きなアーティストたちの〝第一次情報〟と言いますか、直接のエピソードがどんどん出てくることに本当に感動しています。ただアメリカやイギリスのスーパースターだからと言って萎縮することはなくて。当時の音楽市場の規模でいっても、日本というマーケットは大きかったですから。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

ASKA　世界第2位だよね。

西寺　そうですよ。プリンスやマイケル・ジャクソン、ポールもそうですけど、そういうアーティストと実際にCHAGE and ASKAが肩を並べていたというのは、ビリッとするだろうし、負けてはいけないと思うだろうし。ASKAさんがイギリスから日本に戻って、普通の気持ちでいられるわけありませんよね。彼らと戦わなきゃいけない、というか……。

ASKA　負けてはいけないとか戦うというよりも、楽曲に関しては作るうえではなんの遜色もないよ。

西寺　今回、ASKAさんとお話しできたことで、大きな刺激をいただきました。ASKA　今は、誰もが簡単に自己発信できる時代。そういうこともあってから、いろいろなところで〝使われちゃいけない〟という気持ちが大きくて、「使う側にならなければ……」って、まずはそれを考えることが多いよね。ただ、使われるときには、愛情をもって使われたい。そういうときは使われに行きたいと思う。それ以外の部分は、自分から使っていかないと。これから日本の音楽はますますインディペンデント化していくだろうね。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

米米CLUB『TIME STOP』

ブラックミュージックとエンタメ精神で再起を

2020年8月20日 読売ナタリー に掲載

『TIME STOP』で窮地を救う

米米CLUB（コメコメクラブ） 1982年結成。1985年にメジャーデビュー。ダンサーやホーンセクションなどを含む大所帯でのパフォーマンスとエンタテインメント性の高いライブ演出、卓越したアートワークなどで注目される。『浪漫飛行』、『君がいるだけで』などヒット曲多数。1997年の解散を経て、2006年に再結成。2020年代に入っても、活動を継続中。

“カラオケ文化”が一般化したのは、僕が高校生だった1980年代末から90年代初頭にかけて。それ以前、カラオケといえばスナックやバーのような空間で大人たちが演歌やムード歌謡を歌っているイメージしかありませんでした。僕にとって“カラオケ文化”最初の記憶は、1976年11月27日土曜日、3歳の誕生日のこと。当時140万枚のセールスを記録し大ヒットした“北の宿から”を母親と共に歌ったんです。近鉄伏見駅前の大型ス

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

バー・イズミヤのイベントスペースに機械が置かれ、司会者が参加者を募っていたところ、温
生日プレゼントを買いに店を訪れた僕が「どうしても歌いたい」と直訴したようで。父親の回
想によると、当時はまだ「人前で素人が歌う恥ずかしさ」「カラオケ自体に不慣れ」という理
由で歌うことに二の足を踏んでいた人が多かったそうです。ともかく、その日は参加賞として
歌った音源がもらえたので、僕自身の最も古い歌唱音源は、このとき歌った"北の宿から"と
いうことになります。"ザ・ベストテン"などのテレビの歌番組を観ていた子供もリアルタイムの流歌をヒット曲としてよく覚えていたんですよね。
さらに思い出すのが、それから7、8年を経た小学校高学年の頃。家族旅
バスのバック旅行で兵庫県の有馬温泉を訪れたとき、温泉のヘルスセンター大宴会場で、大
よしみさんのショーを観たんですよ、ホントの目の前で。私、有名人
てなー」みたいなことが言われんですか。それから高くなんかカラオケボックスやメ
毎回「昔、有名になったら思い出して」と言われたりあ"だからなんやね
ん、というエピソードではありますけど"家"、ともかく、カラオケボックスが生ま
半から半ばまでの"ガッチ"って、こういう幅世代の人間のムードを
を記しておきたかったんですよ。
高校時代は、よく仲間と"カラオケはしんで、休日は男だけんで、
はかのクラス仲の

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

子とグループで行ったりしたときはカッコつけてバラードを熱唱したりしてました（笑）。よく歌っていたのが尾崎豊さんの『I LOVE YOU』や『OH MY LITTLE GIRL』、B'zの『LOVE PHANTOM』、オリジナル曲も作ってましたし、オリジナル曲もやってましたけど、「カラオケにはカラオケ用の曲がある」「TPOをわきまえる」と言いますか。それはそれで好きに歌ってました。特にその中でも、米米CLUBの『TIME STOP』が、僕の十八番だったんです。イントロの〝ブーン〟というベースのスライドから、精鋭ホーン集団・BIGHORNS BEEによるゴージャスなアレンジで場の空気が変わるんですよね。カラオケだとシンセ音源ですけど、それでも雰囲気がしっかりしているんで、ちゃんと煌びやかなムードで響くんです。長めのイントロを使ってお辞儀してみたり、ベタですけど1人ひとりと握手したりして（笑）。数年前に、ライムスターの宇多丸さんのラジオ番組『ウィークエンド・シャッフル』でも話したエピソードなんですが、高校3年生のときだったかな？　文化祭が終わったあと、友達と打ち上げと称して地元・京都の祇園に遊びに行ったことがありました。そのとき、フラフラと入る店を探していたら声をかけられてカラオケに誘われたんですが、そこはいわゆる〝ぼったくりバー〟だったんですよ。バブル全盛の時期で、店の中央に小さいけどキラキラに彩られたステージがあって。頼んでもないフルーツがいきなり出てきて焦る、みたいな。「これはヤバい。最悪や」と思ったんですけど（笑）、どうしようもないなら、1曲くらい歌うかと。開き直って『TIMES

CamScannerでスキャン

TOP』をリクエストしてステージに上がって熱唱したら、そこにいた一番偉いであろう強面のオッサンが、「兄ちゃん、歌、めちゃめちゃ上手いやないか」みたいなノリで急に褒めてくれまして。未成年であることはバレバレだったんで、「酒はあかんぞ」と言って、飲食代をおごってくれました（笑）。今思えば、最初から単に良い人だったのかもしれません（笑）。ともかく一緒にいた友達には「窮地を救ってくれた」と感謝され、自分にとって〝歌を武器にできた〟最初の経験でしたから、この曲には感謝してるんですよね。

日本エンタテインメントのDNA

米米CLUBが『I・CAN・BE』でデビューしたのは、1985年の10月21日。少年隊の『仮面舞踏会』より2カ月早い感じです。そう思うと、時代の空気より少し早いというか、米米CLUBの凄さが分かります。この年は、春にUSAフォー・アフリカのアフリカ救済ソング『ウィ・アー・ザ・ワールド』がリリースされ、夏にはクイーンの映画『ボヘミアン・ラプソディ』でもクライマックスに使われた大規模イベント『ライブエイド』が開催された年でもあります。デヴィッド・ボウイとミック・ジャガーによるモータウンソング『ダンシング・イン・ザ・ストリート』を筆頭に、ビッグアーティストたちによるコラボレーションもブーム。なんという

CamScannerでスキャン

か、海外も日本もある意味浮かれていたと言いますか、若いミュージシャン同士で集まっていろんな企画番組やイベントを作るのが流行っていたんじゃないですかね。ただし、やっぱり突貫工事的に作り上げたイベントやお祭りって、クオリティがキープできないバカ騒ぎで終わってしまうことも多くて。そう考えるとアース・ウィンド&ファイアや、ファンカデリックといった70年代の大所帯バンドから影響を受けている米米CLUBって、ステージに立ったときの華やかさや、しっちゃかめっちゃかした刺激、危うい魅力を自分たちだけで賄える珍しいグループでしたし、景気も良く享楽的な時代の要請にも合っていたんだろうな、と。

ただ彼らもデビューしていきなりお茶の間に認知されたわけではありません。初めて彼らの楽曲を知ったのは、米米CLUBのデビューから2年後、僕が中2の春の頃に発売された4枚目のシングル『PARADISE』でした。僕は生徒会に入っていたのですが、生徒会の3年生の女子で同じ会計という役職を担当していた青野さんという先輩が教えてくれたんです(笑)。彼女はかなりの米米CLUBマニアで、既に洋楽に完全にハマっていた僕にも、米米を受け入れる素養があると見抜いていたんでしょう。受け身だった僕が、米米の元に買って夢中になって繰り返し聴いたのは、1988年のアルバム『GO FUNK』。アルバムに先駆けてリリースされ大ヒットした同年のシングル『KOME KOME WAR』は、イントロからペースラインがマイケル・ジャクソンの『今夜はドント・ストップ』の引用で、メロディ

CamScannerでスキャン

は『BAD』そのままというパロディソング。アルバムのアウトロで『スリラー』ばりに、狼みたいに「アオーーッ！」って吠えてみたり……同じレコード会社なのに大丈夫かと思いました（笑）。

『KOME KOME WAR』は、彼らなりの黒人音楽への愛と、「どういうファンクなら日本全国の中高生から受け入れられるのだろうか」という実験の集大成という気がします。特に、Aメロやサビでキープしたストイックでファンキーなグルーヴを、2分40秒あたりからの〝旨味のある大サビ〟のブリッジ部分で急に流麗なメロディや保守的なコードと混ぜて〝歌謡曲〟としてまとめる感じが彼らの真骨頂。緊張と緩和。共同プロデューサーとして参加された萩原健太さんの影響もあるのでしょうか、白人的、黒人的音楽の伝統のみならず、演歌やムード歌謡も好きな、それまでの日本人の音楽芸能の遺伝子をもキチンと押さえた曲作りができたことこそ、彼らの人気が国民的なものまで拡大した理由だと思います。スナックやいわゆる〝夜の街〟で映えるんですよね。端的に言えば、彼らには〝あまりにもカラオケ向き〟の歌詞とメロディが作れてしまう才能があった。初期の大ヒット『浪漫飛行』に関しては、カールスモーキー石井さんがインタビューで、自分が中心になって作ったとおっしゃっていましたが、確かにプログラミングサウンドで。80、90年代は今以上にカラオケのサウンドは貧弱でしたし、生演奏の微妙なグルーヴは出せませんから、『浪漫飛行』のようにデジタルな打ち込みのほうが、オリジナルとカラオケとの〝差異〟は生まれにくくて受け入れられやすいわけです。そのあたり

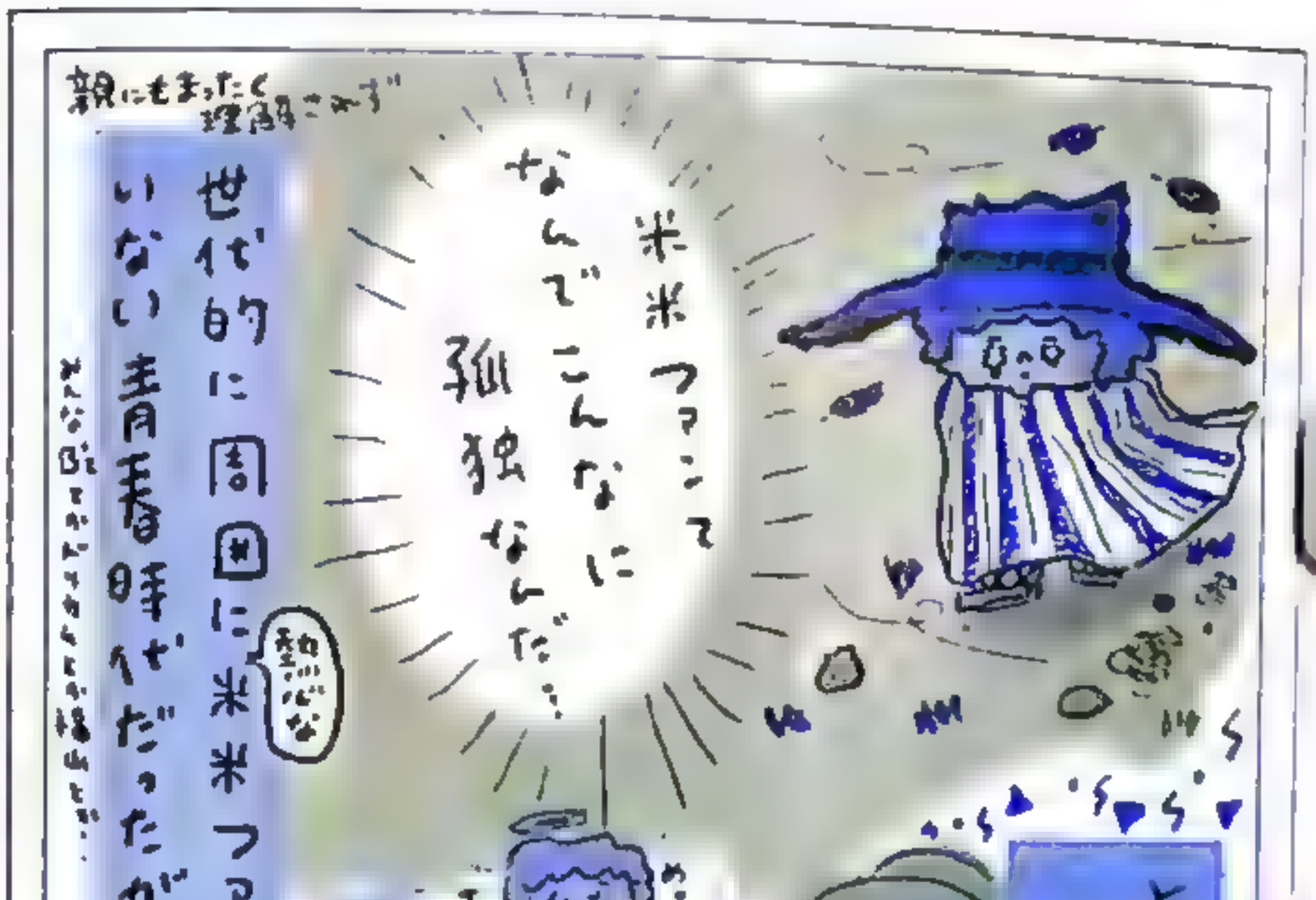
CamScannerでスキャン

が成功したがゆえ、大所帯バンドにとってはジレンマもあったのかもしれません。

ボケ倒す石井さん

カールスモーキー石井さんが自身の音楽作りについて、「彼女がいきなり最寄り駅に来て『家に遊びに行きたい』」と言い出して、10分ぐらいで慌てて部屋を掃除した、そういう締め切り前の焦りと積み重ねで音楽を作ってきた」という例え話をしていて。すごくいい話だなと個人的に座右の銘にしていたり、彼が映画『河童』を撮ったときは映画館に行きましたし、そういう事実を列記してみると、大学生までの僕は、けっこう彼と米米のファンだったんじゃないかと思ったりします。

ただ、僕がデビューした数年後、スペースシャワーTVでいとうせいこうさんが司会をされていた『梁山泊』というクイズ番組で共演させてもらったことがあって。石井さんが全部の問題



CamScannerでスキャン

にポケ倒して1回も当てにいかないんですよ。ずっとふざけていて、周りがどう対処していいか分からないくらい最初から最後まで注意されることしかされないんですよ。そのときは正直、「普通に答えるのも混ぜろよ！」と腹が立ちました（笑）。でも今思えば、究極的に繊細でシャイな方なのかなとも。そういうすべての身のこなしも含めて〝TEISI石井竜也〟なのでしょう。

2018年の『YATSUI FESTIVAL!』に出演したとき、僕は『TIME STOP』を歌いました。2019年のあるイベントでは、これも大好きな米米のシングル『ひとすじになれない』を米米CLUB愛好家のしまおまほちゃんと、Calmera の生演奏でデュエット。特に『TIME STOP』は、いつかソロとしてきちんとレコーディングして記録に残してみたい、人生の1曲です。

CamScannerでスキャン

少年隊『A・B・C』

アイドルソングの最高峰

1987年の少年隊

1985年12月12日、大きな期待を集めながら表舞台と下積み双方の経験を重ねてきた少年隊が、満を持してシングル『仮面舞踏会』でデビューしました。

当時僕は小学6年生でした。忘れられないのが、マイケル・ジャクソン、ライオネル・リッチー、スティーヴィー・ワンダー、ブルース・スプリングスティーン、ポプ・ディラン、ビリー・ジョエルなどのビッグアーティストたちが、アフリカの飢餓救済のために集結したチャリティプロジェクト『USAフォー・アフリカ』。プロデューサーは名匠クインシー・ジョーン

2020年3月19日『音楽ナタリー』に掲載

CamScannerでスキャン

ズです。

彼らの

は、世界

中に中継された歴史的コンサート『ライブ・エイド』が行われました。クィーン

画『ボヘ

『Live Aid』です。少年隊がデビ

年7月の

ミアン・ラプソディ』でも描かれた鮮烈な野外ライ

ューしたのはその半年後、と言えばなんとなく当時

のファッ

ションや時代の空気感が伝わるかもしれません。

発売された『仮面舞踏会』は、翌86年のオリコン年間シングル売上ランキング

年末に

位。作詞はちあき哲也、作曲は筒美京平、編曲は船山基紀という鉄壁の布陣でした。特に

の『YES MY LOVE』や、ライフでタオルを投げる定番曲『止まらないエa～エa』も

永吉さん

、ちあきさんによる歌詞は、派手なフックがありながら、大人びてもいるという意味

手がけた

ドルのデビュー曲〟としては新機軸だったのではないでしょうか。確実にヒットを狙

で、〝アイ

ェクトでありながら、タイトルに使われた『仮面舞踏会』というワード自体が歌詞に

うプロジ

ないのも客を子供扱いしていないと言いますか。

は出てこ

少年隊は『仮面舞踏会』のヒットに始まり、『デカメロン伝説』、『タイヤモンド・アイ

86年の

ズ』、『バラードのように眠れ』とシングルを次々リリースしてその地位を固めて、きます。た

だ、これはあくまで個人的な見解ですが『仮面舞踏会』以降の86年の彼らのシングル群は少年

という根強いアイドルグループの"若さ"と"実際の実力から放たれるイメージ"のバランスが今ひとつ取れていなかった気がするんです。もちろん3人がデビューしたばかりのフレッシュな新人であることは間違いないんですが、成人した彼らのパフォーマンスは、いわゆるそれまでの日本のアイドルホップスの枠組みにとどまらない成熟の領域に達していたと思うんです。

そのハーモニーとハマったのが、87年だと思います。ここに関しては、と思っていた時期もありました。

1985年から、制作スタッフのプロデュース能力、メンバー3人の歌唱力、ダンスのレベル、さまざまな経験。すべてが日本歌謡界において前人未到の領域に達し、大爆発したのがこの年の彼らのシングル3曲だと僕は考えています。ちょうどマイケル・ジャクソンが『BAD』を発表し、日本にもチンパンジーのバブルスくんを連れてきた、あの3月に『ストライプブルー』、6月に『君だけに』がリリースされます。そして、日本にもチンパンジーのバブルスくんを連れてきた、あのグループが第2弾シングル『ガラスの十代』をリリースしたのが11月26日です。その約2週間前、11月11日に少年隊が発表したのが今回紹介する『ABC』。僕にとって人生で一番ややこしいまさ三さんやライムスターの宇多丸さんも以前、同じようなことをおっしゃっていましたが、ここらでホップ、ステップと来て、愛してやまない人は多いはず。

CamScannerでスキャン

編曲をされた船山さん自身も「自分が関わった筒美京平先生の曲で一番好きな曲って思い出すのは『ＡＢＣ』だね。アレンジするときも大好きな曲だったから、本当に嬉しかったとおっしゃっているほどです。

『ＡＢＣ』が織りなす手作りのゴージャス感

まず、船山さんが構築されたこの幸福感溢れる豪華絢爛なアレンジ、音像から解説していくと、結果的に１９８０年代版の〝ウォールオブサウンド〟。〝ウォールオブサウンド〟とは、直訳すると〝音の壁〟。１９６０年代前半に名プロデューサーのフィル・スペクターは録音で多重録音によって音像に迫力とキラメキをプラスする手法です。スペクターはオーケストラ数の少ない時代に独特の音の厚みを出すため、多数のミュージシャンを使ってギターやピアノをいくつも重ね、そこで生まれる〝膨らみ〟や〝揺らぎ〟の中に魔力が潜むことを発見し、世界中に衝撃を与えます。ザ・ビートルズやザ・ビーチボーイズを筆頭に、フィル・スペクターがその後のポップミュージックに与えた影響は計り知れないのですが、ともかく１９６０年代初頭にそういったムーブメントが存在しました。

それから20数年の時を経た１９８７年。『ＡＢＣ』において、当時考えられる最高レベルの生

CamScannerでスキャン

演奏とデジタル楽器の全盛り、その時期までの録音技術の集大成である〝日本のウォールオブサウンド〟が鳴り響いた、と僕は感じているんです。船山さんにインタビューしたところによると、レコーディングはビクトスタジオ。〝FAIRLIGHT CMI IIx、SYNCLAVIER、ROLAND TR-808、YAMAHA RX7 でプログラミングされた多重のサウンドにリズム、ROLAND TR-808、ンに鳥村英二さんが生ドラムを重ね、シンセベースはOBERHEIM OB-8とMIDIで動くように改造されたMOOGでした。そこに高水〝大仏〟健司さんによる生ベースのミックス。ピアノやYAMAHA DX7などのシンセサイザーは今剛さん。そして、シンセプラスと生プラスも両方ダブルに重ねてレコーディングしているんです。

鳴っているというように、ほぼすべての楽器をデジタルと生、わざわざダブルに重ねてレコーディングしているんです。

今は当時に比べてレコーディングの予算が限りなく少なくなっていますから、例えば、「予算がないから、できるだけシンセサイザーはそっくりにシミュレートして、バイオリンは1本だけ生のうまい人を呼んで質感にリアルさを出そう」とか、悲しいかなそういう場合も多いんですが、このときの『ABC』は全然違っていました。

船山さんの構想のもとで莫大な予算をかけて、あえてデジタルと生を混在させた一大絵巻。日本はこの時期、いわゆるバブル景気の真っ只中であり、少年隊は日本歌謡界の看板アーティスト。潤沢な予算と磨き上げられた職人技を使った、その時点で考えられる最高のレコーディングによって作られた作品だったと言えます。プログラミングやマニピュレートも、機材の限界で今のように簡単に速く作業するのは不可能なので、そのすべての譜面を船山基紀さんが書かれていた、というわけです。

生のストリングスをレコーディングする場合、アレンジはもちろん楽器隊の人数分のギャラや天井が高く広いスタジオ代などかなりお金がかかります。現在はパソコンのソフト上でいろんな音を自由に、簡単に重ねられるのですが、当時はMIDIという一種の信号を使って複数のシンセサイザーを同期させるしかなかった時代です。船山さんから実際に伺ってちょっと想像して笑ったんですが DX7 が3台、OB-8が2台、SEQUENTIAL CIRCUITS Prophet-5、改造された MOOG、どデカい FAIRLIGHT をスタジオに集めてレコーディングしたようです。今なら

CamScannerでスキャン

ノートパソコンでできなくもない作業ですが、スタジオに機材を搬入することを想像するだけでも気が遠くなるような話ですよね。今、たまにYouTubeの動画などで複数のシンセを並べて往年のヒット曲を再現するような配信してる人もいて、観るぶんには『ピタゴラスイッチ』みたいで面白いんですけど。

僕は90年代半ばに本格的なスタジオレコーディングを始めたので、まだテープでの録音ではありましたが「同じ機種のシンセをわざわざズラっと並べて……」みたいな体験はなくて。船山さんは、「名匠・内沼映二さんのレコーディング／ミックス・エンジニアとしての手腕があったからこそ、無数の楽器が破綻することなくまとまったんだ」とおっしゃっていました。

ただそんなふうに予算と手間隙をかけたからこそ、『ABC』の音像は、アナログ的なそれ以前ともデジタル的なそれ以降の世界にもない異常な〝手作りのゴージャス感〟に溢れているんですよね。『ABC』は、15年の時を経て嵐の『a Day in Our Life』（2002年2月発売）にもサンプリングされていて、彼らの初期の代表曲に。僕も錦織さんが演出を務められたA.B.C-Zの舞台『ABC座2016株式会社応援屋!!～OH&YEAH!!～』のテーマ曲『サポーターズ!』で、思い切りオマージュを捧げています。

CamScannerでスキャン

アルファベット3文字の威力

松本隆さんによる歌詞に触れると、「・・・恋は最初じゃないのに めぐり逢うたびこわい」という歌い出しから1987年夏にローラースケートに乗った光GENJIの最初のシングルで、ある種禁断のある男性と女性が主人公であることが分かる。1987年夏にローラースケートに乗った光GENJIの最初のシングルで、ある種禁断のある男性と女性が主人公であることが分かる。1987年夏にローラースケートに乗った光GENJIの最初のシングルで、ある種禁断のある男性と女性が主人公であることが分かる。

という後輩が登場して以降の少年隊は、もはやジャニーズの最若手グループではありません。長い下積み時代を過ごし、デビューから2年経った少年隊を応援しているファンも歳を重ねて大人になり、今、何度目かの恋の季節を迎えていることを印象付けています。松本さんの歌詞の凄さは今後何度も掘り下げることになると思います。

ちなみに『ABC』は、先ほども触れましたが、マイケル・ジャクソンがアルバム『BAD』を発売し、来日公演を行った直後にリリースされました。『ABC』と『BAD』というアルファベット3文字の威力。マイケルにとってもジャクソン5期の2枚目のナンバー1シングルですし、モータウンから繋がる歴史も感じさせます。この曲で少年隊の3人はマイケルが『BAD』のジャケットで着用しているような上下黒の衣装を着て舞い踊るんですが、日本に衝撃を与えたマイケルにかなりダイレクトにインスパイアされたであろう楽曲だ、というのも両者のファンとしてシビれるところです。

BUCK-TICK 「ICONOCLASM」

U2と似てる

美しく狂おしくまぶしくて

高校時代（1989〜91年）、大流行していたいわゆる〝バンドブーム〟の中で、僕が一番ハマった日本のバンドはBUCK-TICKです。今回も、「その理由はなぜか?」という部分を含めて自分なりに考察してみたいと思います。

BUCK-TICKの歴史を調べると大抵の場合、まず「1984年3月、前身の5人組バンド・非難GO-GOを結成」と記されています。バンド名は、ギタリストでメインコンポーザーの今

BUCK-TICK（バクチク）　1984年結成。1987年メジャーデビュー。'88年のシングル『JUST ONE MORE KISS』のヒットで、ブレイクを果たす。『HURRY UP MODE』、『太陽』など、数々の名アルバムをリリースし、2023年に逝去。

CamScannerでスキャン

井寿さんが付けたようです。次の重要トピックとしては「当初ボーカルだったメンバーがて、ドラマーだった櫻井敦司が志願しボーカルに転向」と続きます……日本のロックバンド史上でもっとも容姿端麗かつ存在感があるシンガーの1人、櫻井さんが当初ドラマーだったとは知ったときは、ご多分に漏れず僕も驚いたものです。その頃、彼らの同郷である群馬県の、それも同じ藤岡高校出身の先輩であるBOØWYの氷室京介さんが「お前、顔がいいからボーカルやったほうがいいよ」と櫻井さんに向かってアドバイスしたこともあるそう。ただこれは、ルックスはもちろん、櫻井さんが放つカリスマ性やオーラも含めた氷室さんの言葉だったと思います。

櫻井さんがボーカルになる、そのタイミングでベーシスト・樋口豊さんの兄であるヤガミ・トールさん（前橋育英高校出身）が正式ドラマーとして加入しました。1985年冬にBUCK-TICKのオリジナルメンバー5人が固まってからは、デビュー以来現在に至るまで35年間1度もメンバーチェンジなし。メジャーな存在感をキープしつつ、常に新しい実験を繰り返し、制作ペースを落とすことなくコンスタントに作品を発表したうえで、ご本人たちも楽しみながらバンドをローリングさせているという稀有な存在として君臨しています。

今でも普通に、メンバー5人で居酒屋を探して飲むというメンバーの仲の良さは、海外で言えば、メンバー同士がプライベートも家族旅行などで一緒に過ごすU2を想起させます。U2

CamScannerでスキャン

もアイルランドの首都・ダブリン、マウントテンプル高校の掲示板にドラムスのラリー・マレン・ジュニアがメンバー募集の張り紙を出したことがきっかけで集まった地元の仲間同士。ただ個人的には単純に同郷ゆえの信頼関係の深さだけでなく、リズム革新への興味と実践に関してもこの2つのバンドは似ていると思っています。2020年9月21日にリリースされたばかりのBUCK-TICKのニューアルバム『ABRACADABRA』を何度も聴きながらこの文章を書いていますが、1990年代初頭のU2の『アクトン・ベイビー』『ズーロッパ』的なダンサブルなムードを感じるんですよね。1990年代のヒットチャートでは、ヒップホップやダンスミュージックが主流となり、サンプリングサウンドが多用されていきます。その中で生演奏のロックバンドのグルーヴ探求は、メンバー間の感覚の差によって軋轢が生まれる結果となり、多くのバンドが解散やメンバー脱退のピンチに陥りました。普通に考えたら、優秀なドラマーは自分自身のリズムで気持ち良く叩きたいわけです。でも作曲者であるボーカリストやギタリストは、新技術であるデジタル的リズム解釈を試したくなるもの。その意味で、U2とBUCK-TICKはドラマー自身も意識的にプログラミングとの有機的な共存を選べたから生き残れたバンドだった、そんなふうに思えます。

なぜ、BUCK-TICKは二重線の表記が著しかった80年代から90年代を、バンドとしてサバイバルできたのか、という問いに対するもう1つの答えは、先ほどの発言にあるある意味同じなんです

が、絶対的フロントマンの櫻井さんが、短い間にせよ、元ドラマーだったという事実。そもそもリズムに対する興味があったからドラムという楽器を最初に選んだわけで、その軸が〝櫻井敦司〟というボーカリストの根本にあることは大きい。リズム重視の姿勢とタイムレスなソングライティング能力こそが、生き残るバンドの秘密。仲が良いバンドは、ほかにもたくさんいたはずです。でも大切なのは、実は〝メンバー間のリズム解釈の一致〟なんですよね。時代を越えられるかどうかの差はそこにある。

天才的な音が鳴っている

僕がBUCK-TICKを初めて聴いたのは、中学時代に友達が貸してくれた『SEXUAL DISCOMODE』というインディーズ時代のファースト・アルバムでした。1曲目の『PROLOGUE』を聴いたときに「プリンスみたい」と思ったんですよね。「あれ？　いきなり天才的な音が鳴ってる」って。この感覚は日本のバンドで初めてでした。タイトル曲も、アフロビートから展開するサビの美しいメロディ、エスニックな歌謡感もあるジャーデ摩訶不思議な名曲。87年のメジャー1曲目『EMPTY GIRL』も勢いがあってカッコいい。逆立てた髪や、クールで派手なビジュアルに目が行きがちですが、心から音楽が好きでバンド

CamScannerでスキャン

活動をしているというのが伝わってきました。当時既に作曲家を目指していた僕は、特に今井さんの紡ぐメロディやコードの奇想天外で予測を裏切る気持ち悪さと、癖になる心地良さを完全に同居させる天才性に痺れました。そのうえで、めちゃくちゃキャッチーなんです。

髪を派手に逆立たせ、今井さんの頬には「B-T」の文字。今でいう炎上商法的な過激なビジュアルイメージで登場したBUCK-TICKでしたが、早い段階で80年代ロックバンドが基本としたスピード感のある8ビートの〝縦ノリ文化〟からいとも簡単に脱却しています。高校卒業前に組んだバンドという意味ではスタートも遅く、そのわりに楽器を持って2年後にデビューというスピード出世ゆえ、確かに当初は歌唱、演奏面に不安定さも感じられました。ただデビューからの数年の武者修行のようなライブ活動で、もともとポテンシャルのあった彼らはどんどん覚醒していきます。個人的には87年の『TURRY UP MODE』から、89年の『ABOO』、90年の『惡の華』、91年の『狂った太陽』あたりまでを、特に夢中になって聴いていました。

思い出深い曲だらけ

今回、テーマに選んだ『ICONOCLASM』は、アルバム『TABOO』の1曲目です。『T

CamScannerでスキャン

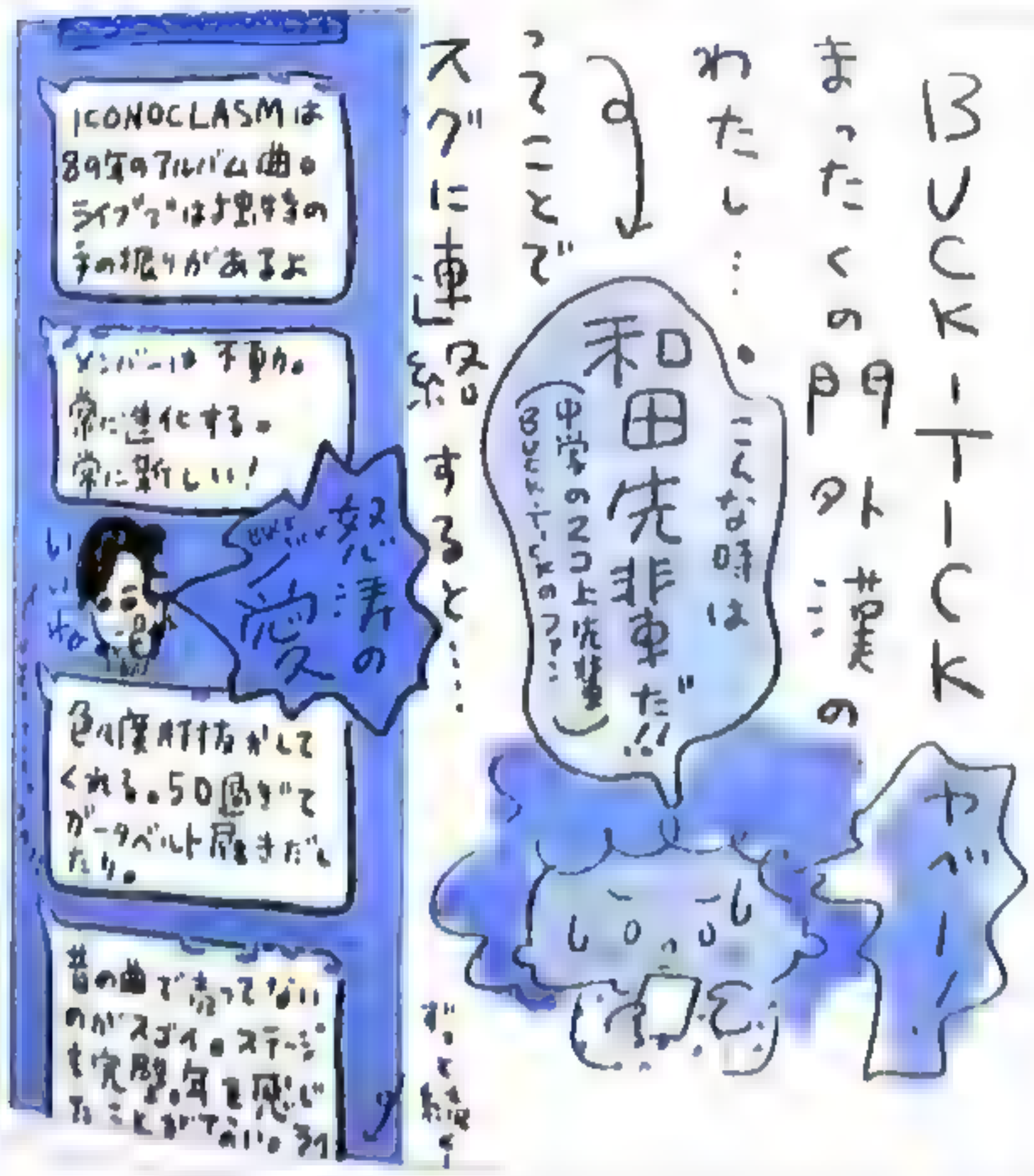
ABOO』はイギリス・ロンドンで1カ月かけて制作されたこともあり、それまでのアルバムと一線を画すパワフルでスピード感のあるサウンドが特徴です。『ICONOCLASM』を初めて聴いたとき、感動で震えました。曲がスタートしてからベースがずっと同じラインを繰り返す、日本のロックバンドにほぼないストイックなグルーヴがカッコ良過ぎて。「さすが、兄弟バンド!」というウネリを生み出す樋口さんのベースとヤガミさんの鉄壁のリズムセクション。今井さんと星野英彦さんによる縦横無尽なギター2本の絡み。リフとカッティングのコントラストも素晴らしい。

この完璧な『ICONOCLASM』が、3年後の1992年にリリースされた『殺シノ調べ』において、"デジタル的90年代"にリメイクされたときの力不足感は正直ありました。元のバージョンがカッコいい、と。たとえばバンドが進化していることで証明されていますね。『殺シノ調べ This is NOT Greatest Hits』というタイトルに表れているように、"殺シノ調べ"のかというと、"80年代に作り上げたハンズのイメージ、リズム、サウンドクオリティ"のベストアルバムなのだと思います。今井くんと92年に『ICONOCLASM』もなかなかいいアルバムだったと思いますが、よりユーモラスに遊び心を前面に出した『殺シノ調べ』。実は今井さんのボーカルが、ここまで表情豊かになったのは、90年代に入ってからなんです。『殺シノ調べ』も『ICONOCLASM』もBUCK TICKをよく知る人にとっては、どちらも素晴らしいアルバムです。

CamScannerでスキャン

ヤガミモデルのスネアドラム

実は僕が愛用しているスネアドラムは、ヤガミさんのモデルなんです。10年くらい前に、僕が「スネアが欲しい」と、うちの



ドラマーの人選で迷うときは、選ばれたバンドの音楽性を考えるといい。〝ノイロティクの感応会〟のようなバンドなら、〝ノイロティクの感応会〟のようなドラマーが選ばれる！（Paint It,Black）」とも言える『幻の都』、トンネルの中のようなエフェクトの渦巻く『LOVE ME』。『狂った太陽』からはシングル曲『スピードの渦巻く製鉄

『NATIONAL MEDIA BOYS』、アラビア的旋律が相乗効果を生む『JUPITER』は代表曲だ。

ノイズ的な『MAD』、あるいは『JUPITER』は、思い出深い曲でもあります。

ノイズ的な『MAD』、あるいは『JUPITER』は、思い出深い曲でもあります。

ドラマーの人選で迷うときは、選ばれたバンドの音楽性を考えるといい。〝ノイロティクの感応会〟のようなバンドなら、〝ノイロティクの感応会〟のようなドラマーが選ばれる！（Paint It,Black）」とも言える『幻の都』、トンネルの中のようなエフェクトの渦巻く『LOVE ME』。『狂った太陽』からはシングル曲『スピードの渦巻く製鉄

CamScannerでスキャン

X JAPAN 「UNFINISHED」

X JAPAN 世界中を熱狂させる理由

洋楽オタクも夢中に

「X JAPANの全オリジナルアルバムを買って、学生時代には相当聴き込んでいた」と言うと、イメージと違うと驚かれることが多いんですが、1973年生まれの僕はいわゆる“第2次ベビーブーマー”“団塊ジュニア”と呼ばれる、バンドブーム直撃世代。ちょうどノーナンバーの脱退、逝去、新規加入などの中で、2020年が彼らと同じワーナーミュージック・ジャパン（X JAPANは厳密に言えばアトランティック）と契約した1997年、Toshlさんの脱退を引き金として、X JAPANは解散を発

X JAPAN（エックスジャパン） 1982年結成。1989年にアルバム『BLUE BOOD』で、X名義でメジャーデビュー。『紅』、『ENDRESS RAIN』など伝説的なヒット曲多数。1992年、X JAPANに改称。1997年に解散を経て、2007年に活動を再開。メンバーの脱退、逝去、新規加入などの中で、2020年代もバンド活動は継続中。

表。大晦日に東京ドームでラストライブ、そのあと出演した『第48回NHK紅白歌合戦』が最後のステージとなりました。僕らはその秋にメジャーデビューしたので、社内に前年1996年11月発売の『DAHLIA』のポスターが貼られているのを見て、「大きく言えば、XJAPANのオリジナルアルバムが最初にインディーズでCDを出したのは、1996年12月なんで、そこから24年もの月日が経とうとしているんですが、XJAPANのオリジナルアルバムは何枚出ているのかと考えると、ある意味悲しくもなります（笑）。彼らは通常では考えられないほど寡作なバンドで。それでいてバラードも高速ナンバーも代表的なシングルばかり。解散後のくつかの新曲を発表しながらバンドは巨大な人気を誇ったまま結末、2007年にXJAPANは再結成を果たし、hide with Spread Beaver を率いて大活躍されていた hide さんが急逝。紆余曲折の末、2007年にXJAPANは再結成を果たし、いまに至るまで彼らのオリジナルアルバムは結局4枚しか存在しない。その間に僕は何枚出しているんですが、よく考えてみると、僕ただ、よくこれだけ続いています。

XJAPAN（当初のバンド名はX）の特徴は、何よりも個々の楽曲がクイムレスでハイクオリティなこと。いわゆる〝ヴィジュアル系〟などと呼ばれたその後のブームの牽引者でもあるので、派手なパフォーマンスや見た目に話題が集中してしまうのは否めないんですが、そして特に、亡くなられた初期ベーシストのTAIJI

ーさんや、ギタリストのｈｉｄｅさん在籍時は、さまざまなベクトルでアレンジの巧妙さも圧倒的で。そもそもメンバーたちの発想が、かなりストレートに洋楽的なんですよね。クラシック、アメリカンハードロック、アバンギャルドな実験性など、あらゆるアイデアが集約されている『BLUE BLOOD』に収録されている『UNFINISHED』でしょうか。インディーズ時代のアルバム『Vanishing Vision』の収録曲『UN-FINISHED…』の完成形。ザラついたｈｉｄｅさんのボーカルとＹＯＳＨＩＫＩさんのピアノから始まり、ＹＯＳＨＩＫＩさんのピアノ、ＴＡＩＪＩさんのメロディアスなベース、ｈｉｄｅさんのツインギターやベースも「ここぞ」というタイミングでしか鳴らない。そして一般的なこのタイプのバラードに比べて、ドラムの音量が大きい（笑）。イントロからアウトロまで完璧な高校１年生だった僕は夢中になったのです。周囲の仲間、クラスメイトのほとんどがＸファンになっていたんで、一緒に会話できるのも嬉しかったですね。

CamScannerでスキャン

ユーモア溢れるキャラクター

数あるバンドの中で彼らが飛び抜けていたのは、あるバンドのキャラクターの濃さ。X JAPANのデビュー当時、世界で一番勢いのあったロックバンド、ガンズ・アンド・ローゼズにも同じ印象を持つんですが、メンバーそれぞれのファッションや方向性の違いを打ち出すことで、個性がくっきり分かれていましたよね。特に僕は、Toshiさんのフロントマンとしてのカがほかのバンドとの差つ、コメディアン的なエンターテイナーとしての魅力もある人。僕がさすがだなあと感じただなと感じているんです。パワーがあってパンチがある素晴らしいボーカルの持ち主で、かのが、X JAPANが再結成を果たした東京ドームでのライブでした。Toshiさんが一週刊誌に報道された〝洗脳騒動〟からも復活したタイミングで、お客さんも「大丈夫か

CamScannerでスキャン

な？」と心配して客席にもピリピリした空気感があったんですけど、イントロが始まって「お前らー！」ってTOSHIさん「らー」が裏返って変な感じになっちゃって（笑）。するとすかさず、「声が裏返ってしまいましたー！」と叫んだんですよ。そしたら会場中が大爆笑でスイッチが入って。例えば、つまづいてコケたとか、失敗したときにそのことをツッコミづらいほどクールな雰囲気の人っているじゃないですか。XJAPANが単純なハードロック、〝ヴィジュアル系バンド〟という枠に留まらなかったのは、TOSHIさんを含むメンバーのユーモアセンスがポイントなのかなあ、と。カッコよさ、面白さの両面から人を惹き付けられるボーカリスト、フロントマンってすごく少ないので、尊敬しています。

世界の人々を虜にする純粋なパワー

バンドの場合、作詞・作曲を担当するのはボーカリストであることが多いんですが、XJAPANにはそれが当てはまりません。彼らの楽曲の多くは詞・曲共にドラマーのYOSHIKIさんが書いた『Forever Love』が大好きなんです。シングルにもなった「長いかな？」って思うんですが、聴き始めるとこれが

CamScannerでスキャン

異様に心地良い。歌詞の内容もメロディもシンプルで、これまでのYOSHIKIさんが書かれてきた世界観と同じような言葉が繰り返されるんですが、いつも曲の最後のほうで「終わって」ってなるんですよ（笑）。毎回引き込まれて、「ポップソングが3分とか5分とかって、誰が決めたんだ」とまで思っちゃう。たぶんチューニングや録音の響きの調整などにも時間をかけてベストな状態を追求してるからでしょうね。最初、リリースされたときは「またバラードか？」とも思ったんですが、時間が経つと何もかも関係なくなって。ジョン・レノンの『イマジン』とか、マイケル・ジャクソンの『ヒール・ザ・ワールド』、オアシスの『ドント・ルック・バック・イン・アンガー』のような、世界的なクラシックのレベルに到達したとんでもない名曲だなと思います。そのうえで、最強のToshlさんとYOSHIKIさんに加え、hideさんという日本音楽史に名を刻む指折りの天才がXJAPANの音楽面、ビジュアル面を支えていたわけですから、凄まじ過ぎて、こんなバンドが存在したこと自体が奇跡だと思ってます。それにしても早く96年の『DAHLIA』以来のオリジナルアルバムを出すべきだとは思いますが……（笑）。

YOSHIKIさんが作った曲を中心に、XJAPANの楽曲には耐久性があって、濃さと重みと深みがある。少しJ-POP的でスペイシーな『Rusty Nail』も、『WEEK END』も、hideさん作詞作曲の陽気なポップロック『Joker』も最高。ある種歌舞伎のような

な、1曲聴くと映画や舞台を鑑賞したような満足感を覚える『Silent Jealousy』も圧倒的。そして脱退後、若くして亡くなられたベーシストTAIJIさんが作曲、Toshiさん作詞の『Voiceless Screaming』も大好きです。TAIJIさんのアコースティックギターがまた素晴らしくて。世界各国には多くのX JAPANマニアがいるそうですが、それは言葉や国籍を越えて熱狂させる音楽の純粋な力があるからではないでしょうか。ともかく、たくさんの曲が溜まっているそうですから、一刻も早くアルバムをリリースしてほしいですね。ポップミュージックの歴史的に、あまりにも1つの作品にこだわって煮詰め過ぎると、内容的にも上手くいかない結果になることも多いのですが、X JAPANの新作がそうならないことを祈ってます。

CamScannerでスキャン

少年隊「まいったネ 今夜」

天才音楽家・宮下智が紡いだ ニュースソングの雛形

2020年4月2日 [音楽ナタリー] に掲載

激動の1989年

すでに紹介した『ABC』から1年7カ月後、少年隊の14枚目のシングルとして1989年6月にリリースされたのが『まいったネ 今夜』。この年の日本は、正月が明けるとすぐに昭和天皇が崩御して、新元号・平成が始まりました。世界的にも6月に天安門事件があり、11月にはベルリンの壁が崩壊し、長く続いた東西冷戦期が終結するなど激動の年でした。レコード会社や芸能事務所が巨額の費用をかけた"アイドル"が、徐々にクールだと見なされなくなっていたり、ニッポンを元気とする

ノンノンパンチ（ノンノンパンチ）
細が少、好き（細が少、好きでした）
われていて悲しかった記憶があります。
キを買ってきたんですが、それまでテレ
は一期一会〟という感じでした。でもビデオで録画ができるようになったことで、その時期からより個人の音楽の好みの細分化は進みます。
ドルも一緒くたでしたから。
少年隊の3曲目として取り上げる『まいったネ 今夜』は、1989年6月19日にリリースされました。デビュー曲『仮面舞踏会』以来通算10曲目の第1位を『ザ・ベストテン』（1989年7月6日放送）で記録しています。青山劇場でのミュージカル『PLAYZONE '89 Again』初日を終え、そのままTBSに駆けつけた少年隊が半年ぶりの新曲で初登場第1位を獲得したこの夜……真っ赤なドレスに身を包んだ司会の黒柳徹子さんが『ザ・ベストテン』の3カ月後の終了を〝宣告〟したことをよく覚えています。横に並ぶ田原俊彦さん、工藤静香さん、斉藤由

CamScannerでスキャン

書さん、南野陽子さんなどその日の出演者たちも、黒柳さんの言葉を聞きながら、まさに1つの時代の終焉をヒシヒシと感じているような悲しい表情で。実際、そのあと完全にミュージッククシーンの潮目が変わったわけですが。

謎に包まれた天才ソングライター

僕が最初に自主的に音楽を好きになったのは、1980年、僕が小学1年生のときにデビューした田原俊彦さんでした。特に今回のテーマ『まいったネ今夜』の作詞作曲家でもある宮下智（みやしたとも）さんが手がけた『ブギ浮ぎ I LOVE YOU』、『キミに決定！』などが大好きで。どれも編曲は少年隊の『ABC』を担当した船山基紀さんです。

宮下さんがサンフランシスコ音楽院を首席で卒業したクラシック畑の若き天才音楽家だったことでも、彼女の正体を知っているんですが、ゼロ年代になって検索文化が浸透するまでは、ずっと謎に包まれたままでした。

事実を、今でこそ知っているんですが、ゼロ年代になって検索文化が浸透するまでは、ずっと謎に包まれたままでした。

僕だけじゃなかったんだと思い込んでいました。

勝手に男性だと思い込んでいました。

宮下さんはスタジオに顔を出されたことがないらしく、レコードジャケットにもタッグを組んで何度も名曲を残してくださった、一度も会ったことがないと言うんです。

ところが宮下さんは、意外にも

CamScannerでスキャン

アメリカ人のコンピュータデザイナーとご結婚されたあと、音楽業界を離れて渡米された宮下智こと、本名〝ユミコ・ウォーマック〟さんは、2019年8月に『世田谷トリュフ』というチョコレート屋さんを奥沢で開店されていました。いわゆるショコラティエ。サンフランシスコとリヨンで修行して、カリフォルニア州ナパでワイントリュフを作って大人気になっていたけれど、2017年の山火事で現地でのお仕事を中断して、帰国されたそうです。『世田谷トリュフ』は、2019年末のテレビ番組で田原俊彦さんと宮下さんが共演されたことから、全国のトシちゃんファンの聖地になっているのだとか。正直「え!?」と驚きました。宮下さん、Sting & Princeに『愛のすべて』を提供されるなど音楽活動を再開されているんです。それでこの前、この連載のこともあるのでご挨拶してみようとお店に行ってみたんですね。そうしたら、そこでお話しすることもできて、彼女も喜んでくださいました。宮下さんとのツーショット写真を船山さんに送ったら、「郷太すごい！俺も会ったことないのに！」という返信が（笑）。結局、田原俊彦さんの中野サンプラザ公演を訪れた際に、僕がお二人を紹介し合

自由な解釈で楽しむジャニーズソング

宮下さんが作る楽曲は何もかもすごいんですが、やっぱり歌詞は特別です。70年代までの楽曲の多くを占めていた〝説明的な歌詞〟にはない、良い意味でポップで、ぶっ飛んでいて、ちょっとユーモアを感じる歌詞。物語的で湿った世界観のフォークソングとは真逆というか、ドライでキャッチーな歌詞の乗せ方が革命的だったなと思います。もともとクラシック出身で、音楽を専門的に学ばれた経験があるからこそ、『まいったネ 今夜』などジャズタッチの素晴らしいメロディが作れるのは理解できるんですが。

そもそも僕は日本語で説明的に歌われるメッセージソングが苦手なんです。音楽を洋服屋さんで例えると、僕はショーウインドウを眺めて、良いなと思ったらドアを開け、ひと通り自分のタイミングで店内を見て、気に入った洋服や靴をある程度選んでから、サイズやデザインで悩んだときに店員さんのアドバイスをもらいたいタイプなんです。お店の前を歩いていたら、手を握られてお店のほうまで連れて行かれて、店内に入ったらピタッとマークされて「お客さんにはこれがいいと思いますよ」なんて連呼されると、「ちょっと待って！」と言いたくなる。これはあくまで好みですが。ただ放っておくべきと言っても、歌詞にまったく意味がないほうがいい、誰が書いてもいい、という意味ではありません。接客にしても絶妙な距離感の作り方こ

CamScannerでスキャン

そにすべてが現れるじゃないですか。いずれにしても、個人的に、作詞家はむしろ作曲家よりも重要な役割を担っているんじゃないか、と思うようになりました。

ジャニーズソングの魅力は聴き手が自由に解釈できるところだと思います。歌っている本人が歌詞を書かないからこそ生まれるファンタジーや、伸びしろの大きさがある。答えは1つじゃない。それぞれ違うから、乱反射するようなイメージの中に聴き手やファンが自分なりのキラメキを投影できる。その雛形が田原さんの楽曲群にあるんじゃないかな、と。そして、80年代以降のジャニーズ音楽の方向性を決定付けたのは、実は思い切り良く斬新な言葉を散りばめた作詞家、宮下智さんの功績なのでは？と。〝明るく能天気な貴公子・田原俊彦〟という軸があったからこそ、そのあとのいろんな仲間や後輩たちのキャラ付けも定まったというか。そして田原俊彦作品でのデビューから9年……。〝作詞・作曲家＝宮下智〟の完

自由な解釈で楽しむジャニーズソング

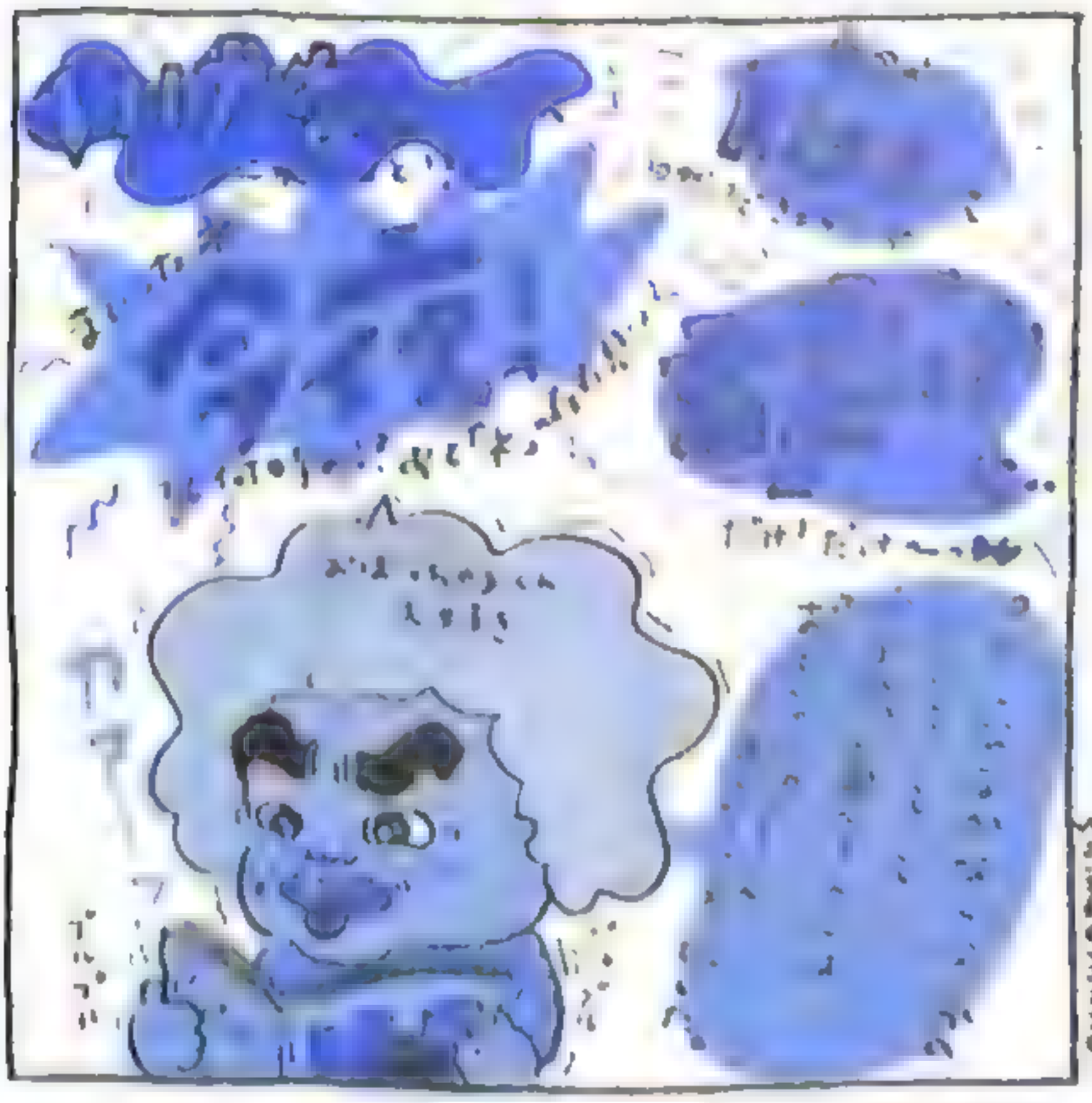
宮下さんが作る楽曲は何もかもすごいんですが、やっぱり歌詞は特別です。70年代までの楽曲の多くを占めていた〝説明的な歌詞〟にはない、良い意味でポップで、ぶっ飛んでいて、ちょっとユーモアを感じる歌詞。物語的で湿った世界観のフォークソングとは真逆というか、ドライでキャッチーな歌詞の乗せ方が革命的だったなと思います。もともとクラシック出身で、音楽を専門的に学ばれた経験があるからこそ、〝まいったネ 今夜〟などジャズタッチの素晴らしいメロディが作れるのは理解できるんですが。

そもそも僕は日本語で説明的に歌われるメッセージソングが苦手なんです。音楽を洋服屋さんで例えると、僕はショーウインドウを眺めて、良いなと思ったらドアを開け、ひと通り自分のタイミングで店内を見て、気に入った洋服や靴をある程度選んでから、サイズやデザインで悩んだときに店員さんのアドバイスをもらいたいタイプなんです。お店の前を歩いていたら、手を握られてお店のほうまで連れて行かれて、店内に入ったらピタッとマークされて「お客さんにはこれがいいと思いますよ」なんて連呼されると、「ちょっと待って！」と言いたくなる。これはあくまで好みですが。ただ放っておくべきと言っても、歌詞にまったく意味がないほうがいい、誰が書いてもいい、という意味ではありません。接客にしても絶妙な距離感の作り方こ

CamScannerでスキャン

そにすべてが現れるじゃないですか。いずれにしても、個人的に、作詞家はむしろ作曲家より も重要な役割を担っているんじゃないか、と思うようになりました。

ジャニーズソングの魅力は聴き手が自由に解釈できるところだと思います。歌っている本人が歌詞を書かないからこそ生まれるファンタジーや、伸びしろの大きさがある。答えは1つじゃない。それぞれ違うから、乱反射するような イメージの中に聴き手やファンが自分なりのキラメキを投影できる。その雛形が田原さんの楽曲群にあるんじゃないかな、と。そして、80年代以降のジャニーズ音楽の方向性を決定付けたのは、実は思い切り良く斬新な言葉を散りばめた作詞家、宮下智さんの功績なので は？と。〝明るく能天気な貴公子・田原俊彦〟という軸があったからこそ、そのあとのいろんな仲間や後輩たちのキャラ付けも定まったというか。そして田原俊彦作品でのデビュー から9年……。〝作詞・作曲家＝宮下智〟の完



CamScannerでスキャン

成形こそが、『まいったネ 今夜』じゃないか、と僕は思っているんです。ゴージャスでファンタジックなショービジネス感、古きよきエンターテイナーの世界を描いた『まいったネ 今夜』は、リ・バーストーン、に少年隊がランクインした最後の曲となりました。

劇団のー役は名もなき青年。彼が憧れている女の子が、年上でお金持ちの男性の銀色のリムジンに吸いこまれていくところから物語はスタートします。そういえば『星屑のスパンコール』の物語にもリムジンが出てきます。あの曲では主人公のアイドルがリムジンに乗っているんです。

ふりそそぐ好景気の真っ只中。僕は、このあと日本の音楽シーンが宮下さんに代表される80年代はバブル経済と呼ばれた好景気のようにも感じるんです。同時期に宮下さんと別れの歌のようにも感じるんです。

は、簡単に平さん作曲、船山基紀さん編曲による田原俊彦さんのシングル『さようなら』から はじめよう』も作詞されていますが、そのものズバリなテーマだったと思います。実際、90年代に突入するとさまざまな音楽番組が終了していきました。ビシッと煌めくスーツと完璧なダンスで魅せる少年隊の主戦場は、いよいよ本格的に舞台、劇場に移っていくということにもなります。

そんな宮下さんに「何より歌詞が凄まし過ぎて」と話すと「そんなそんな。本当にテキトーに書いてるだけなのよ、私は。あんまり考え過ぎるとダメなのよ」と笑顔でおっしゃっていましたが、僕はそんな彼女の思い切りの良い歌詞が大好きです。それまでの日本のヒット曲は、絵

CamScannerでスキャン

で例えるなら、細部まで描き出す写実こそが評価される世界観。宮下さんが作るジャニーズソングには、デフォルメした赤い丸だけで花を表現するみたいな、詳細や輪郭をぼかすことによって聴き手の想像力をより刺激していく魅力がある。赤い丸がダリアなのかデイジーなのかカーネーションなのか、それこそスイートピーなのかを歌詞では説明しない。『まいったネ 今夜』の歌詞においても、大事なのはシンプルさ。メロディ、コード、演奏、アレンジ、そして少年隊3人のダンスと歌唱がそのまま伝わる。あのドリーミーでゴージャスな世界を自由に堪能させたうえで、英語のタイトルや言葉で埋め尽くすわけでもなく、〝まいったネ 今夜〟という絶対に忘れられない日本語ワードをぶち込んでくるパワーには圧倒されます。

また3人が一緒に歌い踊る日が来るのを願っている

『まいったネ 今夜』の発売時点では、錦織一清さんは24歳になったばかり。1学年下の東山紀之さんと植草克秀さんは誕生日前で22歳。デビューから4年の日々を経てここまでアダルトでジャジーな楽曲を歌い上げ、ダンスを仕上げている少年隊を思い返すと、改めてため息が出ます。

ここ10年ほどお三方と個別にお酒を飲んだり食事をすることもあるんですが、皆さんそれぞ

CamScannerでスキャン

れ惚しいんです。この前錦織さんが、植草さんと共にお酒を召し上がっていた席くださいました。そのとき、植草さんが「俺が見てきた中で、ニシキが一番歌も踊りもうまいんだ」と僕に自慢してくれました。錦織さんは笑っていらしたんですが、本当にそういったすべての瞬間がファンとして嬉しいんです。そういったことから、いつも感じるのが、東山さんから錦織さんへの、錦織さんから東山さんへの愛も強く感じていますが、3人がそろって歌い踊られることはしばらくなかったですが、いつの日か絶好のタイミングがあれることを心から願っています。

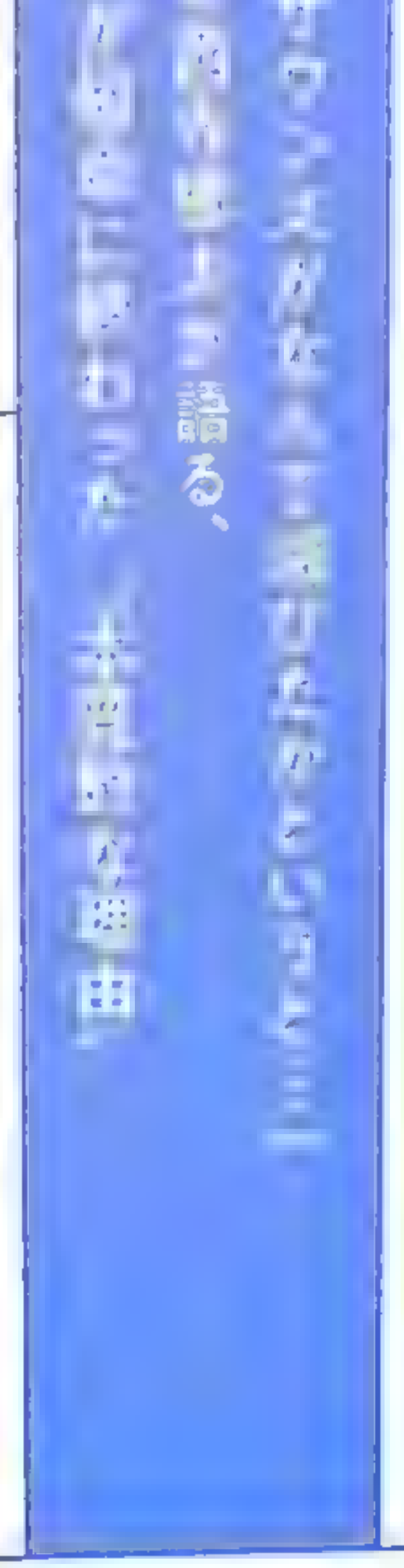
CamScannerでスキャン

スペシャル収録

近田春夫×西寺郷太

語る、グループサウンズ

近田春夫さんの新刊『グループサウンズ』は1960年代後半に日本の音楽史に突然現れて大ブームを巻き起こしたグループサウンズの当時の熱狂と現在の音楽シーンに与えた



近田春夫（ちかだはるお）1951年生まれ。東京都出身。'72年に近田春夫&ハルヲフォンを結成。'75年にシングル『TOKYO』でデビュー。'86年にヒップホップレーベル『BPM』を設立し、'87年にビブラストーンを結成。'95年に解散。'19年にベストアルバム『近田春夫ベスト〜世界で一番いけない男』を発表。CM音楽のジャンルでも手腕を発揮。代表作に『チョコボール』（森永製菓）、『爽健美茶』（日本コカ・コーラ）など。音楽評論家としての経歴も長く、'97年から週刊文春でコラム『考えるヒット』を連載中。グループサウンズ』（文春新書）を始めとした著作も多数。

CamScannerでスキャン

長[illegible]します。

しのきをお[illegible]ていた下北沢を舞台にした自伝的小説です。

ミュージシャンとしても活動されているおふたりに、

話題から、グループサウンズの魅力まで、熱く語り合っていただきました。

――『グループサウンズ』と『90's ナインティーズ』は描かれた時代は違いますが、どちらも熱気を感じる本です。それぞれの本に対してどのような感想を持たれましたか？

西寺　『グループサウンズ』、一気に読ませていただきました！　世代的にそれぞれのバンドの小刻みな映像や楽曲のイメージはいくつか知っているんですが、どうしても流れがわかりづらかったことがこの本でかなりすっきり身体に入ってきて。

近田　ありがとう。わりとグループサウンズのことって、ときどきマニアックな人がマニアックな文章を書いたりするんです。その部分では断片的な知識というのはわりとみんな持っていたりするんですよ。だけど、もうちょっと全体として何だったのかという、保守

CamScannerでスキャン

本流と言うと変だけれども、オーセンティックなグループサウンズというものを形にしておきたいなというのがあったんですよ。

西寺　歴史書ですね。もちろん堺正章さんや井上順さんのような芸能界のスーパースターや、沢田研二さん、ショーケンさんはじめ、むしろ成熟した俳優やエンターテイナーとしての姿は小さい頃からテレビで観てはいたんですが、それ以前のバンド時代は知らないことだらけで。

近田　そりゃ俺より若いんだから。当然そうだよね。

ワイルドワンズの思い出

西寺　なにより若き日の近田さんご自身がワイルドワンズのバックでキーボードを弾かれていたのはめちゃくちゃびっくりしました（笑）。

近田　ワイルドワンズのキーボードは、ほんとは渡辺茂樹がいたんですけど。

西寺　チャッピーさんですね。実はこの本で彼の存在と当時の人気の大きさを知って、動

CamScannerでスキャン

「裕福な大学生の審美眼」のような純粋さ

西寺　ただバックグラウンドを知ってから、よく考えてみるとワイルドワンズがソウル・ミュージックに傾倒してゆく、感じも理解できるというか。今の耳で彼がフルートもキーボードも歌声もめちゃくちゃ魅力的で驚いましたが、加入の時点で17歳とかですよね。

山田　残念ながら2014年にお亡くなられたんですけどね。

西寺　僕が知ったのは、けっこうグループサウンズの最後の頃で、いろいろなグループがどんどん売れなくなって解散していくような時代の中で、ワイルドワンズはいわゆるバンドの形でやっていくのも、ある意味で「負け」ヤクザっぽいというか、ヴァー・ヤン・ヴォイ・グッバイ」を歌ってグループ解散しちゃったんですけどね。

山田　かなりの富豪の息子たちが、ノリでやっていたわけがなくて、すぐ解散しちゃったんですけどね。

西寺　でも、当然うまくいくはずはないとは思うけど。

CamScannerでスキャン

に聴くと、ワイルドワンズの音楽が一番素直に好きになれるかもしれないです。「ロック」と言うよりタイムレスな「グッド・ミュージック」と言いますか。ある種、後の「90年代渋谷系」のミュージシャンたちにも似た「裕福な大学生の審美眼」のような音楽に対する純粋さを彼らからは感じます。ポリティカルなメッセージ性とかハングリー精神、上昇志向とも違う。タイガースやスパイダース、テンプターズにはもっと狂気的な一種の怖さみたいなもの、「ロックとは、ブルースとは何か?」みたいな、「生き様」のカッコよさ、パイオニア的な追求精神が伝わってくるんです。僕の世代だと、わりともうショーケンさんが個性的な役者になってからの世代なので。

近田　もう大御所っていうかね。

世界も日本も大きく変わった70年代

西寺　僕は73年生まれで、もうすぐ50歳なんです。それですら『太陽にほえろ!』『傷だらけの天使』みたいな若いショーケンさんをリアルタイムで見ていた世代じゃないので

CamScannerでスキャン

ども、まず60年代にイギリスからビートルズが出てきたのが大きくて。それまでは、いわゆる洋楽、ポップスというのはアメリカの音楽中心で、しかも職業作家の書くものが中心だったんです。ビートルズが出てきたことによってそこからいろいろな刺激を受けた人たちというのは音楽だけじゃなくて、ファッションだってそういうものがあったと思うんです。

西寺　音楽が、変わった。

近田　そう。ビートルズがそれまでの大成功したスター、たとえばフランク・シナトラやエルビス・プレスリーと違うのは、自分たちでお金を出して音楽スタジオを作ったこと。『リボルバー』のあたりからですけど、要するにスタジオ録音の面白さを知ったというか。

西寺　そうですよね。レコーディング技術の進化もビートルズのおかげ。それまで技術者優先のものだったのを彼らが実際に莫大な利益をレコード会社にもたらした結果、アーチスト目線に変えたというところは大きいですよね。

近田　その海外の様子が、いろいろな形で日本まで伝わってくるじゃないですか。そのあたりから音楽を演奏する楽しさと別に、録音芸術としての音楽を表現する楽しさの可能性

CamScannerでスキャン

グループサウンズが滅びた理由

二三　70年代にレコーディングをきちんとやっていくアーティストというのが認められるようになると、グループサウンズ的なつくられたものは否定されていくことになったんですか。

近田　グループサウンズがなんで滅びちゃったかというとね、もちろんレコーディング技術のこともあるけど、それ以前にグループサウンズをやっていた人たちというのが、よく言えばお人好しだったというのがあると思うんだよね。楽曲も基本、専門家に頼んでいたし。自分たちが女の子たちにワーワーキャーキャーと騒がれている中で、これから自分たちがどういうふうに展開していくかを考えていなかったというか。

西寺　前例がないですもんね。

近田　気がつくとだんだんお客さんも減っていくという。グループサウンズの人たちの中

CamScannerでスキャン

にも次の世代の音楽の中に入っていく人もいたけれども、ほぼみんな時代についていけないことやりたかったというか。

西寺　人気のレベルが今の芸能人と違いますもんね。女の子達が暴動レベルで車を追いかけたり囲んだりはしないじゃないですか、今は。当時は色んな誘惑も激しかったでしょうし。

近田　でも、それゆえのはかない魅力というのが俺らにはたまらなかったというのはある

アイドルの世界は楽曲中心から人間中心に

西寺　『グループサウンズ』にも書かれていますけど、今のアーティストって3年とかって、普通に生き延びますよね。アイドルがたとえば歳を重ねて40歳ぐらいで「グループやめます」と言っても「なんで?」となるじゃないですか。

CamScannerでスキャン

[illegible]

それまでは30歳を超えて「キャーッ」と言われることはそんなになかったんじゃないですか？

大　やっぱり「アイドルの延命措置」みたいな技術がすごく上がっていったんでしょう。海外の事情はわからないんだけど、日本の場合にはなんでアイドルの人たちの命が長くなったかというと、ファンクラブを作ったということなんですよね。つまりね、それまでのグループサウンズの時代にもいくつかファンクラブはあったけれども、形だけだったの。最初にファンクラブというものをガッチリ作り始めたのは、それこそワイルドワンズのマネージャーだったナベプロ（渡辺プロ）の大里洋吉。そのあとキャンディーズをやったんですよ。大里さんは今のアミューズの会長。その後、ナベプロから独立してね。彼はそのキャンディーズが78年の4月に解散するまでの約半年間に、とにかく盛り上げようということで、いろいろストーリーを与えていったわけですよ。ファンクラブを通じて。それはやっぱり音楽だけじゃなくて、人間・キャンディーズの魅力を目一杯に伝えていくという

CamScannerでスキャン

CamScanner でスキャン

自伝的小説 90'S ナインティーズ」

「たぶん、近所を一周した」

「90'S ナインティーズ」

――西寺さんの自伝的小説『90'S ナインティーズ』を読まれて近田さんはどのような感想を持たれましたか？

近田　やっぱり君はバンドが好きなんだなっていう感じがしたね。その「バンドに魅力を感じる」ということは何かというと、音楽を作ることだけじゃなく、いろいろな変な人間関係にもあると思うのよ。バンドの中で先輩後輩があるとか、同世代でもあいつは俺より才能が落ちるなとか、そういうことをお互いに感じたりとか。でも、基本みんな友達じゃ

CamScannerでスキャン

んみたいな。その幸せな感じというのは、自分が20代の頃、60年代らいに感じていたのとまったく同じで変わっていないんだなと思ったり、別れたり。それで疎遠になったり。

近田　ただ僕らの頃に比べて、郷大君の本で描かれている90年代は、それは読んでてほんとにうらやましいなと思ったら。

西寺　90年代はもちろん近田さんも活躍されていましたけど、豊富だったから、それは読んでてほんとにうらやましいなと思ったら。

り上がっていたと思います。レコード業界にもっとのりそれも、気持ちの面以外の事も一

いう意味で言うと情報量が増えても、

それぞれの筒美京平「先生」の思い出

――『グループサウンズ』と『80s ナインティーズ』に共通して筒美京平さんと弟の言葉プロデューサー・ディレクターの男性

CamScannerでスキャン

近田　俺は京平さんよりも弟の忠孝さんのほうが昔からよく知っているんで。

西寺　近田さんの前の本（『簡美京平　大ヒットメーカーの秘密』）では忠孝さんと対談もされていますね。

近田　あの人、ロックの人だったからね。

西寺　忠孝さんは、90's ナイトインティース」にも登場してもらってるんです。僕らがインディーズでやり始めた頃にディレクターとして「メジャーにおいでよ」と誘ってくれた恩人で。ほんとうに話も合って。

近田　R&B系とか郷太君とはすごく話が合うと思うわ。

西寺　京平さんが若い僕のことを「すごくかわいらしい」って言ってくれていましたし、研究好きな性格も伝わっていたみたいで。もちろん僕の曲も京平さんはすごく聞いていたんですけど（笑）。音楽性ももちろん大きな影響を受けてリンクしてくれて、しばらくは忠孝さんからアドバイスを聞いていて。最初デビューしたワーナーには結局5年いたんですけど、4年目ぐらいに本腰を入れてヒット・シングルを作りたいというタイミングで京平さんに会わせていただいたんです。あの兄弟、かわ

CamScannerでスキャン

いかったり面白い男の子が好きじゃないですか。

か引っかかる男子が好きというか。僕のことも、

近田　わかる、わかる（笑）。

西寺　その流れで京平さんと実際にお会いしてから丸2年ぐらい、作曲の手ほどきを受けて。バンド全体で仲良くさせていただきました。

近田　郷太君の本を読むと、けっこう中身濃かったようだもんね。

「京平先生には1回も怖い目に遭ったことないのよ」

西寺　近田さんほどではないですが、僕の世代では珍しい関わり方だったかもしれません。京平さんのご自宅で、1対1で一緒に曲を作ったりもしていたんです。ワーナーを離れた後、2007年に近藤真彦さんがシングルを作るときに、京平さんの曲に僕の歌詞っていうことになって、『情熱ナミダ』という曲で共作させてもらいました。CHOKKAKU さんがアレンジで。個人的に最初にレコードを買ったマッチさんの曲で共作というのも光栄で。

CamScannerでスキャン

もしかすると、京平さんも「郷太君ならいいよ」って言ってくれたのかなと思うと、しみじみうれしかったですね。

近田　いや、だからさ。俺も郷太君とまったく同じでさ、京平先生には1回も怖い目に遭ったことないのよ。いつも「近田君いいんじゃない、それで」っていう（笑）。逆に相手にされてなかったんじゃないかなと思って。

ここちゃ　その通りで、若い近田さんから怖がられたくなかったんじゃないかなと思いますよ。頂点をにらみつつ、感覚的も手放さない人じゃないですか。

近田　この間もたまたま鷺巣詩郎君から怖い話を聞いたのよ。何かの曲で、京平さんが鷺巣君に「16分音符で作って」とアレンジを頼んだわけ。それを鷺巣君がやっぱエイトじゃないかなと思って勝手にエイトにしてスタジオに行ったら、京平さんが急にやたら不機嫌になって。結局全部その場で書き直させられたんだって。ほんとに大変だったみたいよ。

鷺巣君の話では、京平さんはアシスタントに厳しすぎて、アシスタントが「先生、私は先生の奴隷ですか？」と問うたら、言下に「そうよ！」と返答されて、返す言葉が無かった、と（笑）。そういう京平先生の怖いところは俺にはほんとになかったんですよ。

CamScannerでスキャン

[illegible]

近田　そうかもしれないね。

西寺　近田さんに関しては鋭角的な部分というか、ヒップホップももちろんですし、何か近田さんから学びたいという気持ちが京平さんにあったんじゃないかと。

近田　ああ、その感じはわかるよ。

西寺　僕のときはたぶんヒットすれば弟の忠孝さんを助けることもあったし。面白そうな奴をちょっと学ばしてやろうという気持ちもあったのかなと。

近田　まあ、そうだね。

西寺　京平さんに最初に会ったとき、「京平先生」って最初みんな周りは呼ぶんですが、僕は「京平さん」って言ったんです。そうしたらレコード会社の人から「先生って言った

ほうがいいよ」って言われて。次話すときに先生って呼んだら、本人から不機嫌そうに「先生はやめて」って言われて。でも亡くなった後に身に染みたのは、「ああ、ほんとに京平さんは僕の先生だったなあ」って。

小山　いや、あの人は先生ですよ、僕にとっても。

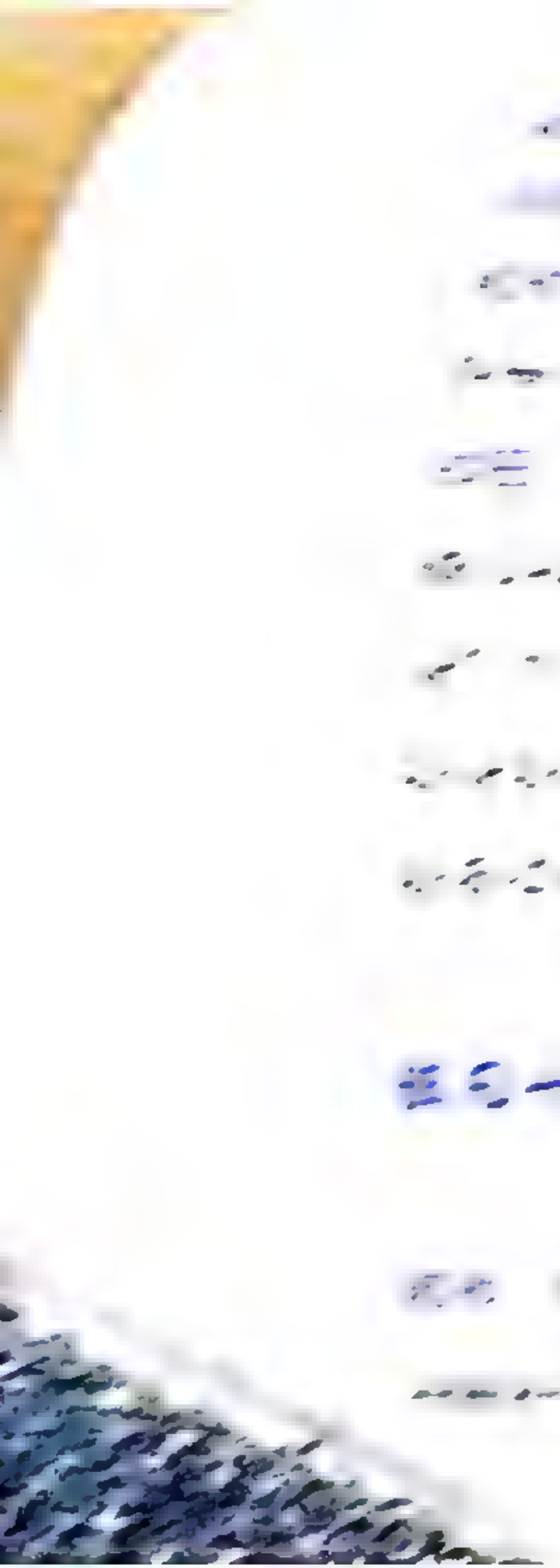
近田　近田さんと京平さんのことをお話しできたのは僕にとってすごくうれしいです。

CamScannerでスキャン

酒井　近田さんがジャニーズ楽曲を好きになったきっかけを教えていただけないでしょうか？

近田　俺はねえ、やっぱりとにかくすごくバンドの中のエレキの音が好きだったから、最初の頃はジャニーズはむしろ敵だと思っていたわけよ。というのは、それこそ60年代の頃にウエスタンカーニバルでグループサウンズがいっぱい出てくるんだ。当時のウエスタンカーニバルというのは全体としてはナベプロが仕切っているわけだけど、一部はジャニーズ事務所がやっていたんですよ。だんだんとジャニーズとか、フォーリーブスとかが人気出てきてね。それで少しずつジャニーズ枠が大きくなってくわけ。俺としてはやっぱりグループサウンズは大きく分けるとロックなわけよ。それに対してジャニーズは大きく言うとなんかもう……。

CamScannerでスキャン



のうちの誰がどこを歌っているのか分かる。

近田　そうね。言われてすぐメンバーの顔が浮かんだもん。

僕、ＳＭＡＰに、１回だけ曲を書いたことがあって。スタッフから、ニューヨークでオマー・ハキムのドラムとウィル・リーのベースで録ってきましたと、歌もありますと。「それはすごい！」と完成版を聴かせてもらったんです。初めて聴いた瞬間の感動が忘れられませんね。ああここ、やっぱりこういう歌割りなんだみたいな。キャラクターが声に完全に乗っている感じ。テクニックや声量の大きさなど上手い下手で歌を論じる人は多いですが「誰が歌っているか一般大衆がわかる」というブランドに勝るものはないと僕は思います。

近田　そうだよね。でもジャニーズ事務所自体があんまりそのことに気づいてないかもしれないけどね。やっぱりそれは他の事務所にはないことであることは確かだと思うんです。

僕　そうなんですよ！　大人数のグループはしょうがないのかも知れませんが。ＡＫＢだろうと何だろうと、素人声で見分けつかないもんね。

近田　あと近

CamScannerでスキャン

田さんの本『考えるヒット　テーマはジャニーズ』でも書かれていましたけど、SMAPのボーカルの「タイム感」について僕も近田さんと同じ感想なんです。パッと聴いたら下手と思う人もいるかもしれないけど、音感ではなくて、間の取り方というかタイム感が実は半端ないんだみたいな。

近田　いや、やっぱりそれはね、ジャニーズのタレントというのは基本的に……。

西寺　ダンサーだから。

近田　そうなんですよ！　歌い手じゃなくて「踊り子」だからね。だから歌も仮歌でいいのよ。ショーをするダンドリのための。

西寺　ああ、ダンスのための。実は今度僕、少年隊の錦織一清さんが出した本（『少年タイムカプセル』）の聞き手を担当させてもらったんです。その中で錦織さんが、「大事だと教えられたのは、イントロと間奏と後奏だから」って言ってて。

近田　そうそうそう。

西寺　2時間のミュージカルを4、5分にキュッと縮めた曲、ダイジェストのような目眩くショータイムを演出したいという意図を感じます。日本版『ウエストサイドストー

リー』を作りたかったと。

山田　あの時代から脈々と続く踊りの見せ方と音楽の関係というんですかね。それを換骨奪胎して月曜にフレビでものすごく使いやすい形にするというか。ミュージカルをキュッと縮めたみたいな。80年代にはマイケル・ジャクソンがMTVのショート・フィルムで作品として完成させましたが、ジャニーズに関していうとテレビの歌番組や舞台でアウトプットして終了という部分もあり、完全に作品化されていないのがもったいないと今改めて思ってます。

近田春夫が選ぶジャニーズ楽曲ベスト3

西寺　近田さんのおすすめ3曲をあげていただけますか？

山田　それなら新しいところとそうでないものから3つ。修二と彰の『青春アミーゴ』（2005年）と永田英二の『恋をあげよう』（1970年）とSMAPの『がんばりましょう』（1994年）、この3つだね。

[illegible] ……ああ。

[illegible] 『青春アミーゴ』は、[illegible]言葉を[illegible]て、[illegible]ノファンクなものなんです。でもそれが組み合わさったときに、いわゆるJ－POPとは違う、もうちょっと、昔の歌謡ポップスみたいなものがあってさ。1周くぐり抜けて違うところに来たような、J－POPとは違う意味での今の時代の面白さがあってね。

西寺 『青春アミーゴ』の作曲チームは今、スマイルカンパニーの社長になった周水さんとスウェーデンのソングライター・チームとのコラボレーションで。

[illegible] そう。最初はスウェーデン人だと知らなかった。それが逆にすごく面白い。

西寺 スウェーデンのソングライター文化は独特の発展を遂げて、90年代から世界中の人々の琴線に触れるメロディの産地となりましたね。プロデューサーのトーレ・ヨハンソンやカーディガンズ、あとエイス・オブ・ベイス。

[illegible] エイス・オブ・ベイスって良かったよね。

西寺 エイス・オブ・ベイスのファースト大好きなんですよ。全曲[illegible]てるんですけど（笑）。ちなみに永田英二さんについては、僕はどういう人か知らないので[illegible]さんに[illegible]

く聞きたいです。

江田　初代のフォーリーブスのメンバーだったんですけどね。当時小学（6年）生で、児童福祉法の問題で夜6時以降テレビに出られないんで抜けたんです。そのあとハイソサエティーっていうんだよ（笑）。

西寺　面白すぎますね（笑）。

江田　そのあとソロになって、永田英二っていう名前で出したときの2曲目なんだけど、これがいい曲でね。

西寺　（曲を聴いて）へえ。いい声。当時14歳だったんですね。

近田　作曲は鈴木邦彦さん。永田英二は俺より若いんだけど、いろいろあってさ。

西寺　仲いいんですか。

近田　いや、あんまり彼がどうしようもねえから、もう縁切ったんだけどさ。でもこの間、なんか間違えて電話しちゃったんだよ。

西寺　腐れ縁というか、さすが、近田さんはエピソードの宝庫で面白いですね（笑）。縁

ぶったんの設定をわざわざして、つまりイバリット母に綴ぶという（笑）。で、もう1母はSMAPの代表曲のひとつ『がんばりましょう』。面白いですね（笑）。

近田　ジャニーズってラブソングがあんまりないんですよ。『がんばりましょう』にしても違いますよ。

西寺　確かに実はそうなんですよ。1対1の恋愛みたいなものを上手に避けた歌詞が多い気がします。

近田　ラブソングの曲もあるよ。だけどほとんど応援歌だったりするからね。要するに「僕は君のことが好きでたまらない」みたいのはないんですよ。なんでだろうかと考えたんだけど、それをやると恋愛対象がこの現実社会の中にいるんじゃないかとファンの子たちが思ってしまうと。それはマイナスになるから、そういうイメージをなるべく抱かせないもの歌詞の曲を作ろうと。でもその中でもこの『がんばりましょう』という曲は突出していると思うなあ。だってさあ、東京タワーで買ったみやげ物がなんとかとかだよ。こんなテーマであれだけのヒット曲が出せるというのは、もうすごいよね。

西寺　僕が近藤真彦さんの『情熱ナミダ』という曲で筒美京平さんと共作させてもらった

CamScannerでスキャン

んですが。その時、全体のプロデューサーだったメリー藤島さんから制作スタッフを通じてリアルな恋愛を彷彿とさせる歌詞を変更するべき、とアドバイスが届いたんですよね。なるほどな、これが長い人気の秘訣なのかと思いました。『がんばりましょう』の歌詞「♪東京タワーで昔　見かけたみやげ物にはりついていた言葉は『努力と根性』」って、すごいハンク的というか。いわゆるそれまでのアイドルが歌ってきた歌詞では全くない。当時かなり革命的でしたよね。

近田　変じゃない。努力と根性ってさ（笑）。そんなものが1位になるんだよ。なかなか他の人にはできないことだと思うんですよ。もちろん曲がいいっていうのはありますよ。だけどさ、SMAPくらいのアイドルだったらさ、もうちょっとファンの人の目を見ながら「僕は君が好きなんだよ」というものを歌っていいじゃない。そんな要素が『世界に一つだけの花』とかの中にもないじゃん。なんかわかんないけど。

西寺　『らいおんハート』がそういう意味では一番直接的かもしれませんね。「♪君を守るためそのために生まれてきたんだ」って。ちなみに、その年に木村拓哉さんが結婚されたんですよね。

CamScannerでスキャン

近田　そうそう。そうだね。

西寺　とは言え、歌詞的に言えば、基本はさっきの「1対1」のリアルな1人の女性ではなく、女性という存在全員に「ありがとう」と伝えている歌ということがポイントで。例えば「背が高い君の」とか「君の大きな二重瞼が」みたいな、限定する歌詞で表現すると「私じゃない誰かのことね」となってしまう。だからこそ、もっと大きな対象として意識的に漠然と女性全てを対象にして楽曲を作っている。

近田　なるほどね。

西寺　あと、SMAP以降のジャニーズの曲は、男にもちゃんと向けられているというか。『がんばりましょう』はもちろんそうだし、『SHAKE』や『たぶんオーライ』などは特に。V6の『WAになっておどろう』も注意して聴いてみると一大好きな娘がいるならはずかしがってちゃダメね」って、男の子を応援している立場ですし。

近田　俺はやっぱり大きな流れで見ると、たとえばK-POPなんかはさ、世界をマーケットと捉えているじゃない。それで社長がタッキーになったときは、わりとそういう海外のマーケットを意識してましたよね。なんだけど、K-POPと比べると同じものをや

CamScannerでスキャン

ありますよね、たとえばStray Kidsとか。ぼくも紅白歌合戦見て思ったんだけど、ジャニーズは見てみればちょっとずつが追いついていないK-POPみたいなものが多いんですよ。じゃあ僕はジャニーズというものの世界戦略というのを考えているとかはないのかといったら、実は逆にもう完成みたいにさ、日本でしか見られないものをみんなが楽しみにしてくれるという方向に進むほうがいいんじゃないかと。

西口　僕はその意味でも1990年代、90年代のJ-POP楽曲の伝統にあえて戻る、そして新しい解釈を混ぜていくというのが結局は大事なんじゃないかと思ってます。近田さんとマンツーマンで話せるなんて光栄な経験でした。ありがとうございました。

近田　ありがとう。君は僕と似ていると思いますよ。音楽をやって文章も書いてさ。これからこそ、よろしくお願いしますよ。今日は楽しかった!

CamScannerでスキャン

長渕剛

「JEEP」

『文化の恩恵』で見せた“ありのままの姿”

街の手拍子禁止令

1977年2月に船山基紀さんのアレンジによる『雨の嵐山』というデビューを果たした長渕剛さん。ただ、このときはデパートの屋上でアイドルの前座を強いられるなど、フォークシンガーとしての姿勢を認められず、名前の読み方も「ながぶちごう」と変えられてしまって。本人の理想とまったく違う活動に嫌気がさしてすべてを自然に戻し、一旦故郷の九州に帰られているんです。

翌78年10月、元はっぴいえんどのバイタリティで復活を遂げた彼は、改めて上京。

長渕剛（ナガブチツヨシ） 1956年生まれ。鹿児島県出身。1977年デビュー。『巡恋歌』、『順子』、『乾杯』、『とんぼ』、など、代表曲・ヒット曲は多数。2020年代の現在も、精力的に音楽活動を行っている。

CamScannerでスキャン

ひいえんどの鈴木茂さん編曲によるシングル『巡恋歌』で再デビューを果たします。ファースト・アルバム『風は南から』のメインアレンジャーは、前年にアリスの『チャンピオン』をグループ最大のヒット曲にし、「♪ You're King Of Kings ～」の低音ボイスも聴かせた石川鷹彦さん。アルバム全体の手触りはビートルズの『ザ・ビートルズ』（ホワイトアルバム）、特にポール・マッカートニーっぽい『不快指数100%ノ部屋』は1分8秒の小曲ですがシンプルな名曲で、今回テーマに掲げた1990年の『JEEP』と11年の日々を越えてつながっていると感じます。

80年に『順子』で初めてチャート1位を獲得。もともと『順子』はセカンド・アルバム『逆流』の中の1曲て、有線放送で火が点き、ファンやリスナーの熱いリクエストによってシングル化されたという経緯があります。僕が最初に彼の存在を知ったのは、まさにこの『順子』のタイミングでした。ただ、歌そのものというよりも、80年8月7日放送の『ザ・ベストテン』に中継で登場した彼がギター1本で弾き語りし始めたとき、その場にいた共演者が手拍子をするのを嫌がって「ちょっと待って。これは失恋の歌なんで、ひとつ手拍子は勘弁いただきたい」と演奏を止めて最初からやり直すシーンが衝撃的でした。最近調べたら、その一連のやりとり自体、長渕さんがいろんな場面で何度もやってたようですね。今で言う〝バズった〟〝ネタ〟みたいな感覚で、ともかく子供心には異常なインパクトがありました。あく

CamScannerでスキャン

までもアルバム収録曲で、順子、を代表曲として捉えられたくないと長渕さん自身もシングルカットを半年ためらった、と聞くと、そのあたりのイメージ戦略の中に、〝手拍子禁止発言〟もあったのかな?という気がします。結局、その後も『ザ・ベストテン』の総集編が放送されるたびに何度もそのシーンは流されていました。

アコースティックサウンドへの回帰

僕が初めて買った長渕さんのシングルは、小学4年生の秋、1983年9月発売の『GOOD-BYE青春』。この曲は長渕さんの主演ドラマ『家族ゲーム』のD-BYE青春』。この曲は長渕さんの主演ドラマ『家族ゲーム』の主題歌です。忘れられがちですが、『GOOD-BYE青春』は秋元康さんがメインで歌詞、長渕さんが補作詞としてクレジットされているんですよね。ボブ・ディラン的な言葉の洪水と羅列、メロディの上下よりも歌詞のビートの連なりで聴かせる手法が、当時小学生の自分には無骨で新鮮に感じたことをよく覚えています。その後、長渕さんは1985年に『勇次』、'87年に『ろくなもんじゃね え』、'88年に『乾杯』『とんぼ』など、ティーンにも刺さるタイムレスなヒットを連発します。

高校時代、友人たちの間で長渕さんの人気は凄いものがあって、友達の家に遊びに行くと耳に入ってくるんですよね。で、僕が一番好きなのは高校2年生の夏、1990年7月にシングル

CamScannerでスキャン

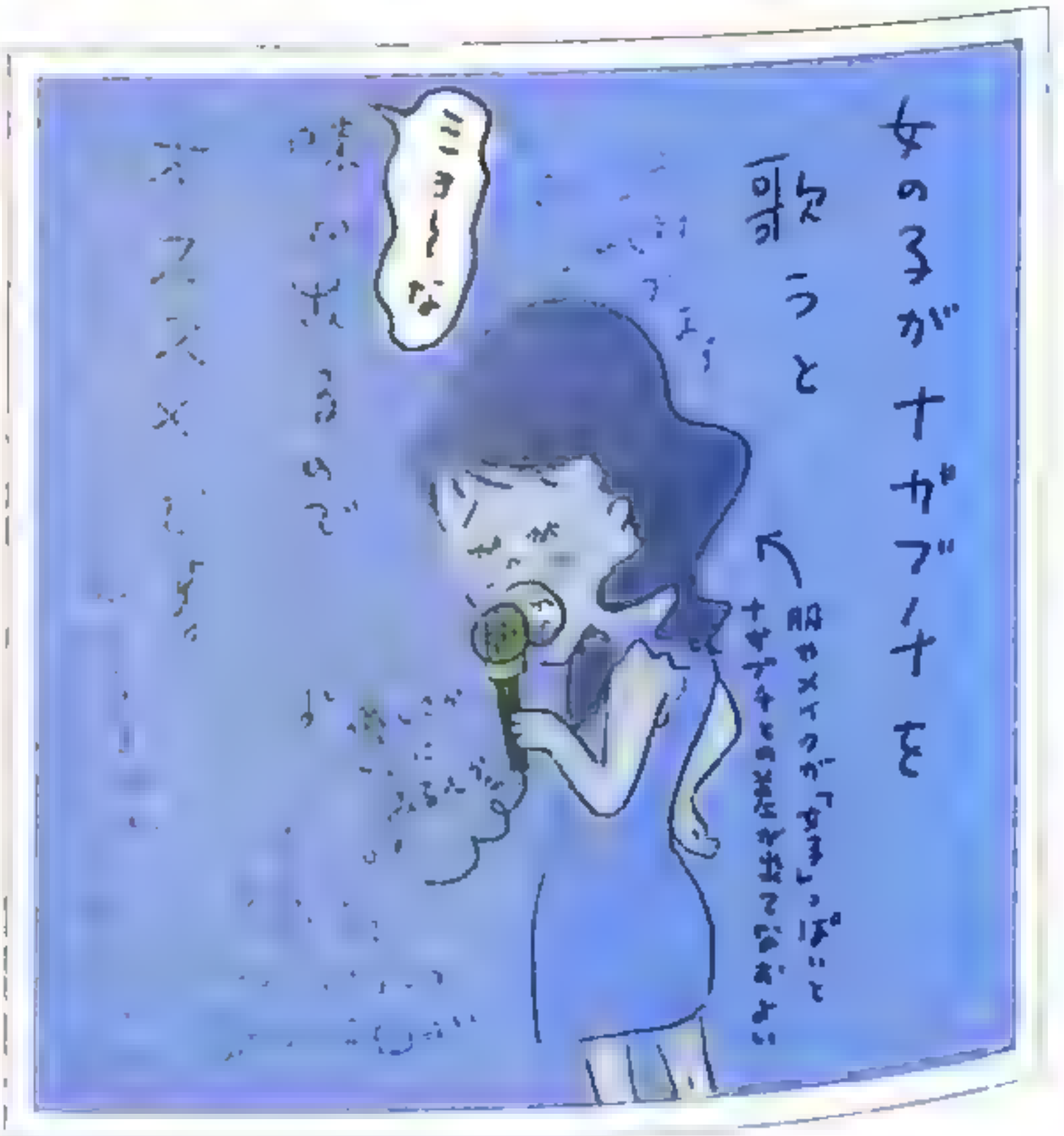
激動の年でした。昭和が平成に変わり、ベルリンの壁が崩壊し、冷戦が終了。シンセサイザーやプログラミング至上主義の〝足し算〟の音楽作りが飽きられ、ルール変更が起こった年です。

ただし、世の中の多くの人々はその変化の重大さに気が付いてはいなかった。僕の大好きなジョージ・マイケルは1987年にコンピュータプログラミングを前面に押し出したアルバム『フェイス』を大ヒットさせ、グラミー最優秀アルバム賞も獲得しましたが、1990年に『フェイス2』を待ち望んでいたファンやレコード会社の予想を裏切る『Listen Without Prejudice Vol. 1』という作品を発表するんです。このアルバムは、生楽器中心のアコースティックサウンドでした。このとき、ジョージはレコード会社から「売る気がないのか？」と作品を否定され、大激怒してトラブルに発展するんですが、その後すぐ、90年代に巻き起こった一大潮流がアンプラグドブーム。つまりアコースティック・クラプトンの『アンプラグド』への回帰でした。92年8月にリリースされたエリック・クラプトンの『アンプラグド』は、全世界の2600万枚の大ヒットとグラミー賞の最優秀アルバム賞が象徴的ですが、90年代になると生ドラムやアコースティックギターによるシンプルな音楽の良さが見直されていくんですよね。

CamScannerでスキャン

ヘミングウェイのような文学性

『JEEP』は、天才シンガーソングライター長渕剛の魅力を凝縮した楽曲だと僕は思っています。冒頭の「♪ワークブーツにはきかえ 赤いジャンパーひっかけ」という1ラインで、ワイルドだけど派手好きな主人公の趣味趣向をまず説明しています。例えばこの主人公が着ているジャンパーの色を、試しに「黒ーい」「青ーい」「黄色ーい」「茶色ーい」と変えてみてほしんですが、「赤い」以外、響きの〝答え〟がないんです。「赤ーい」は、英語の〝Can〟に似た口触りで、〝ワーク〟〝赤い〟での〝カ行〟の使い方こそがリズムを作る秘訣。最高に気持ち良いんですが、「♪夜明けまえの湾岸道路を 俺は西へと走らせ 背中に東京（まち）が遠ざかり」というフレーズから長渕さんが実家のある鹿児島や九州に近い方向を目指しファンも多いと思うんですが、



CamScannerでスキャン

ているように思えます。世田谷あたりから、第三京浜に乗って神奈川方面に進んで海を見に行っている、みたいな。そのあと「フロントガラスの向こうからやっと太陽が昇った」で彼が早朝に家を出たことを描写し、そして「♪俺はできたばかりの唄を カーステレオから流しジシャンにしてみればこの1行は本当に〝あるある〟なんですよね。全部が凄まじ過ぎますが、ミューをドライブしながらラフミックスなどを聴いて「どうしたらもっと良くなるかな?」って試行錯誤してるときが一番楽しいんです。でも、ミュージシャンがデモテープやラフミックスや完の共感だけを求めていれば書けない。できたばかりの歌をカーステレオから流すなんて人の数は少ないはずですから……。

そして、特に『JEEP』の中でもっとも僕が驚嘆するのが、「♪ウエットスーツの若者が朽ち果てた流木とたわむれ 俺は無性にコーヒーが飲みたくなった」という歌詞です。おそらく長渕さんが本当にJEEPで早朝に海に行って、実際に見た景色が歌詞につづられているんでしょう。逆に100%の想像だとしても、「ウエットスーツの若者が」って、歌詞にはしづらい。でもめちゃくちゃ情景が浮かぶすごいワードです。主人公がジャンパーを着て外に出て、次に「♪シーズンOFFのドライブイン」と言ってるから、たぶん季節は冬、春や秋にせよ朝

CamScannerでスキャン

は寒い時期。でもウエットスーツを着た若者は、単純に好きだから超早起きして海辺でサーフィンしているわけです。このあたりの情景描写、ヘミングウェイの小説のように小刻みで、ハードボイルド。ドライな言い切りは文学的で、1行たりとも無駄がない。出発時に悩みを抱えていたこの曲の主人公も、もともとは〝単純に好き〟だから音楽の道を選んだんだよな、と。自分のそもそもの出発点に気付いたのかな？とそんなふうに思えるまでの描写があまりにも自然で。再デビューから12年、芸能の世界でも頂点を極めた彼の心の独白、その細かい部分はあえて説明されないんですが、最後「♪Oh my JEEP 幌をはずした」というフレーズで、主人公の新たな決意が表明されています。ＪＥＥＰは一般的な車と違って天井の幌が外せる構造になっていて、寒い季節だけれど、剥き身になってもう一度街に戻って前進するんだ……と。こうやって歌詞をたどっていくと、細かな描写から、『ＪＥＥＰ』こそ、デビュー時のシンプルな路線への原点回帰に賭けた長渕さんの勝負作だったんだろうな、と思えるんです。僕が長渕さんをリアルタイムで聴いて夢中になったのは『ＪＥＥＰ』が最後だったんですけど、この作品の素晴らしさはもっと取り上げられるべきだと思います。

CamScannerでスキャン

X JAPAN

『DAHLIA』

高い音楽性とどこかコミカルで人間くさいX JAPAN。

X（当時はまだ〈X JAPAN〉ではなかった）がメジャーデビュー・アルバム『BLUE BLOOD』をリリースしたのは、1989年4月。この年、北京では天安門事件、ベルリンでは壁が崩壊、日本では元号が昭和から平成に。栄華を誇った歌番組『ザ・ベストテン』が終了する中、バンドブームの決定打として登場したのがXでした。デビュー時から世界を視野に入れていた彼らの音楽性に、日本のバンドにあまり興味がない洋楽マニアだった僕もふくめ心酔。何より、曲のクオリティ、普遍性が圧倒的に高い。

特にデビュー時のYOSHIKI、TOSHI（現・Toshl）、HIDE、PATA、HAIJIという5人の個性は、「漫画的」なほど際立っていて、メディアを通じて伝えら

CamScannerでスキャン

れる破天荒な逸話も含めた「虚構性」は海外バンド以上のカリスマ性を放っていました。

〈ＸＪＡＰＡＮ〉のライブを、今年7月、横浜アリーナで初めて観ました。ＹＯＳＨＩＫＩさんは昔の緊急手術のリハビリ中なのでドラム演奏はなし、という別メニュー的なアコースティックセットだったのですが、その歌ってよ、とＹＯＳＨＩＫＩさんが、当然Ｔｏｓｈｉさんは相当するはずが、ぎりのＳＥＸＹボーカルボイスに「長く伸長くしていたけどＴｏｓｈｉさんのメンバーのソロの間、楽屋を離れていた、幼稚園時代からの幼馴染みなどＴｏｓｈｉはいない時期もあった。まるで違う星に行ってたような時があった。〝洗脳星〟だって？」と笑いが止まらないＹＯＳＨＩＫＩさん。Ｔｏｓｈｉさんも〝洗脳星〟っていきなりギンギラギンにさりげなくギンギラギンにピアノで奏でる宇宙ｓｈｉｔｏｓｈｉさんのハイトーンヴォイスがにアノに重なると、〈ＸＪＡＰＡＮ〉のオリジナル楽曲のように聞こえるのがさすがでした

て、ありそうな星の名前、言うなよ！」と笑って返します。

バンドを出さない完璧主義的な側面とカリスマ性を放っていました。

となくコミカル、ユーモラスな人間くささが、彼らが最強たる理由だな、と。

いきなり

は〝ギンギラギン〟だね。〝ギンギラギン〟だけなく、

りげなく、

が無茶振りで、

んですが、

ぎりのＳＥＸＹボーカルボイスに

できなり

ピアノで奏でる宇宙ｓｈｉｔｏｓｈｉさんのハイトーンヴォイスがにアノに重なると、〈ＸＪＡＰＡＮ〉のオリジナル楽曲のように聞こえるのがさすがでした

LUNA SEA

STRUCTURE

新たなるステージへ

LUNA SEA（ルナシー）　1989年活動開始。1991年にインディーズシーンで、X JAPANらのSUPPORTでライブを重ねる。1992年にファーストアルバム『LUNA SEA』でメジャーデビュー。ヒット曲に、『CHILD』、『TRUE BLUE』、『IN SILENCE』などがある。2000年に活動休止。現在も各メンバーは、様々なシーンで活躍中。2010年に活動再開。

ルナシーの新たなるステージが始まった。

ルナシーが活動休止中のファーストアルバム『LUNA SEA』に対する第一印象でした。重いボディの鋼鉄のようなリズムの中で、真矢さんの軽く変角的で安定感のあるドラム、リズムからはみ出ないようにしながらも、自由に動き回るベース、ギターソロ、ボーカルがほかのバンドとはまったく違う

CamScannerでスキャン

たんです。SUGIZOさんが弾いていた、プリンスを彷彿とさせる〝クラウドギター〟に気が付いたのは、そのMVを何回か観たあとのこと。LUNA SEAに関しては、今に至るまでJさんのベース、INORANさんのカッティングやリフを含めてリズム隊がカッコいいバンド〟というイメージがあります。

ここのところSUGIZOさんには僕のポッドキャスト番組（『西寺郷太の最高！ファンクラブ』）に来ていただいたり、彼が率いるサイケデリックジャムバンド・SHAGのライブを観させていただいたりと交流がありますが、デヴィッド・ボウイやプリンスなどに夢中になったルーツは彼と共有できる予感に満ちていたんですが、意外だったのは、80年代初期のMTV世代という意味で、ワム！のファースト・アルバム『ファンタスティック！』やカルチャー・クラブの作品も大好きだとおっしゃって意気投合できたことです。ワム！のヒットシングル〝クラブ・トロピカーナ〟におけるアンドリュー・リッジリーのカッティングについて真剣に話せる〝クラウドギター〟に気のは、ミュージシャンになってからSUGIZOさんが初めてで、僕もめちゃくちゃ嬉しくて、マイケル・ジャクソンの『スリラー』のサウンド面での捉え方なども含めて、4歳の年の差を超えた音楽への愛はつながっているなと感激しました。

SUGIZOさんとお話しできた最初のタイミングは、2021年春にサエキけんぞうさん

CamScannerでスキャン

からお誘いを受け出演した『The DAVID BOWIE Tribute Live』の楽屋でのこと。そこで立花ハジメさんや土屋昌巳さんなどそうそうたる面々と、初めてゆっくり話すことができました。その日の中心に存在した〝デヴィッド・ボウイ〟は、キャリアの中でR&Bやソウル、ディスコも含めたダンスミュージックを取り込んで自らの音楽性に昇華した人ですから、当然と言えば当然なんですが、なんだか同じ音楽的遺伝子が流れているからか、キャリアや年齢の幅は広かったものの、とても居心地が良かったです。この日のライブにおいて（XJAPANのウェンブリー公演でも追悼パフォーマンスをされていましたが）、ボウイの代表曲『ライフ・オン・マーズ』をSUGIZOさんはバイオリンで弾いていました。SUGIZOさんのご両親は東京都交響楽団で出会い、お父さんがトランペット、お母さんがチェロの奏者だったことは知られています。音楽一家に生まれた彼は小さい頃から「バイオリンで主席になれ」と厳しく育てられ、その強要のせいで音楽が大嫌いになった時期もあったと話してくださいましたが、彼の幼少期からのクラシックを含めたすべての積み重ねの結晶としてこのライブでは、現在SUGIZOさんも所属されているXJAPANのPATAさんのギターの放つブギー感、グルーヴ感もまじまじと体感することができたのですが、間近で体感することができたのですが、間近で体感するPATAさんのギターの放つブギー感、グルーヴ感も凄まじく、改めて驚きました。どうしてもジャンルが細分化されていく今の音楽活動につながっているのだと感じ入った夜でした。

ちなみにこのライブでは、現在SUGIZOさんも所属されているXJAPANのPATAさんのギターの放つブギー感、グルーヴ感も凄まじく、改めて驚きました。どうしてもジャンルが細分

Aさんとも一緒にリハーサルに入ることができたのですが、間近で体感するPATAさんのギ

幼少期からのクラシックを含めたすべての積み重ねの結晶としてこのライブでは、現在SUGIZOさんも所属されているXJAPANのPATAさんのギターの放つブギー感、グルーヴ感も凄まじく、改めて驚きました。どうしてもジャンルが細分

今の音楽活動につながっているのだと感じ入った夜でした。

CamScannerでスキャン

化されていく中で、ギターバンドは〝ロック〟、ダンサブルなミュージシャンは〝R&B〟などと分けて考えてしまうことが多いですが、天才オドラマーのジョン・ボーナム率するレッド・ツェッペリン然り、爆音でフロア全員の体を揺らす〝ハードロック〟ってもともとはダンスミュージックなんだよな、と……いわゆる〝ジャンル〟を超えて再認識できた貴重な体験となりました。

すべての楽器が主役、平等な関係性

5人それぞれのメンバーの音楽的個性が明らかに違うことがSEA。彼らは1996年に一時活動休止し、メンバーそれぞれ、ソロ活動に力を入れていきます。90年代は、DJカルチャーの発展や進化が著しい時代で、いわゆる普通の4ピースやピースのロックバンドがどのようにサンプリングビートやクラブミュージックに適応、対応もしくは拒否するのかが最大の課題になっていました。オーソドックスなバンドサウンドと、ロントマンであるボノの熱いメッセージを武器にしていたはずのU2ですら（シ・エッジのエフェクター使いは時代とシンクロしていたとは言え）、90年代には大きな変化を遂げています。七変化するダンスビートをまとい、メカニカルに構築されたミディアム

CamScanでスキャン

ンポの楽曲で心地良く踊る、〝ある種、下世話な〟快感を追求したサウンドに、ファンの賛否両論が巻き起こりましたが、僕はむしろそこからU2のファンになったタイプ。

なので90年代半ば、僕はLUNA SEAもU2のように予想もつかない音楽的変化をせてくれるのではないかと考えていました。ちなみにその20数年後、LUNA SEAもU2のように予想もつかない音楽的変化を見2019年のアルバム『CROSS』で、U2を支えたプロデューサーのスティーヴ・リリーホワイトとタッグを組んだことには本当に驚きました。ただし、まだ90年代半ばの世の中のイメージは「黒尽くめの衣装を着て、化粧をし、高速ビートのメロディックなキラーチューンを連発するバンド」。音楽的自由を求めた挑戦を選んだ5人の個人活動の充実、そのうえで今もバンドとして結束し、ファンを大切にされている姿を見ると、活動を休止したことには大きな意味があったんだろうと思います。

LUNA SEA楽曲の最大の特徴は、イントロが始まってボーカルが入る前に既に異常なほど情報量が詰め込まれていること。アルペジオやリフ、カッティングなどの〝リズム面〟に特化し「ソロは弾かない」と立ち位置を決められたINORANさんと、リードを含めた世界観を担当するSUGIZOさん、ギタリスト2人の個性やバランスもあるでしょうし、ヒットしたシングル曲の多くの土台を作られたのがベーシストであるJさんであることにも関係しているのかもしれません。

ともかくLUNA SEAの音楽はすべての楽器が主役。楽曲の最初の数十秒で既に楽曲が完成しているんです。そのうえで、活動休止中の1997年11月にはソロアルバム『Love』をリリースし、200万枚以上の大ヒットを記録している河村隆一さんが源として歌い始めるわけですから、パンチ力が凄まじい。通常のバンドならフロントマンがソロであれほどの大成功を収めてしまうと、どうしても〝歌手とバックバンド〟のように見えてしまうんですが、LUNA SEAは良い意味で全然違う。どこまでもメンバーの関係性が変わらず、平等。その姿にはほれぼれします。例えば目立つギタリストのシグネチャーモデルの楽器が売られ、浸透することはそれ以前もありましたが、LUNA SEAほどメンバー全員の独自のブランド、特別モデルが永続的に愛され、バランスを保ち、手に取られている例はそれまではかになかったのではないでしょうか。

5人が定着させた〝リズム幕府〟

SUGIZOさんと話したときに、「LUNA SEAのヒット曲の数々は、リズムがシンコペーションし、ビートの『クイ』が心地良く突き刺さるアレンジが多い」と感想を述べたことがありました。例えば『TRUE BLUE』のイントロは真矢さんの叩くハイハットから〝チッ、

CamScannerでスキャン

チッ タッ、タッ、ダッ、ダッ、ダッダー！”とスタートするのですが、真矢さんが鳴っているとき以外の“無音の瞬間の共有”なのではないでしょうか？」と僕が言うと、即座にSUGIZOさんが「能の太鼓には“叩かないと”……つまり出すことができたのがLUNA SEA。その根本にあるのは“無”の瞬間、音像がんな教育を子供の頃から受けていたから、抜群のリズム感が備わっているんです」と教えてくださいました。

LUNA SEAは当時のほかのバンドとの最大の違いは、稀代のドラマー・真矢さんのビート感覚を軸に、INORANさんのギターを含めたリズム隊によるJさんのペース、瞬間の絶妙なコントロールにあった。静寂と爆発を自在に操る、日本ロックバンド界における“リズム革命”。それこそ、“歌とその他”に大きく分かれがちだった日本の音楽界に大きな変化をもたらし、10代の少年少女が楽器を手にしたことにつながったと僕は思っています。短い間にバンド活動を絶頂のまま終えたBOØWYが織田信長のような存在とすれば、天下を獲ってすぐに本能寺で倒れたXJAPANは豊臣秀吉。ある種の冷静さを持ってメンタリティ・アメリカを目指した

CamScannerでスキャン

バー個々の自由な活動を保ちながら日本のバンド文化に〝リプズム幕府〟を完全に定着させた徳川家康のようなSEAなのでは、と。ソロ活動は〝参勤交代〟と言いますか。今、思い付いた例えですが（笑）。

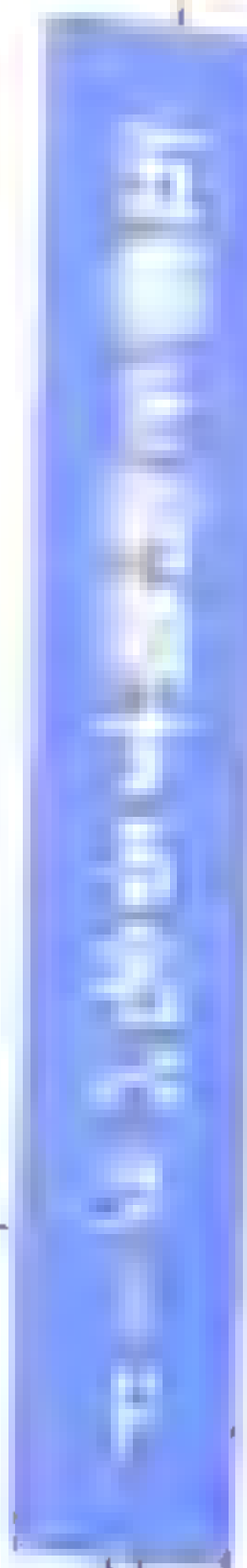
僕が一番好きな楽曲で、90年代終わりから2000年代の初頭にカラオケで歌っていたのが『STORM』。リリース当時、僕も既にミュージシャンになっていましたが、クラブでDJした前後や、飲んだ流れでカラオケに行くことがあって、そのときは『STORM』を全力で歌って仲間内で好評を博していたことを思い出します（笑）。このアルバム（1998年7月発売）はリアルタイムで購入し、よく聴きました。ソロを経た隆一さんのボーカルスタイルの変化には少し驚いたのですが、曲が入っている『SHINE』というアルバムのポーカルスタイルの変化には少し驚いたのですが、『STORM』のアレンジや構成、何度聴いても飽きないスリリングなスペクタクルは「さすが」

CamScannerでスキャン

のひと言。1曲の中にアルバム1枚分ぐらいの情報量が詰まっているように思いますし、LUNA SEAの曲のアレンジは、音域の被りも考えられ、練り上げられているからか、音響的に貧弱な当時のカラオケでも〝重厚ないい感じ〟に聞こえることも勉強になりました。歌っていて凄く気持ちいいんですよ。最近もお笑いコンビのかまいたちが中心になってしまして、LUNA SEAのコピーバンド・GACHI SEAを組み、濱家（隆一／かまいたち）さんがSUGIZOさんのパートも無駄がなく芳醇で、コピーしたら全員が本当に楽しいだろうなと思います。

CamScannerでスキャン

宇多田ヒカル
First Love



ジャネットの新曲？

宇多田ヒカルさんのデビューシングル『Automatic/time will tell』がリリースされたのは、1998年12月9日でした。初めて耳にしたのは、年をまたいだ翌年の1月頃だと思うんですが、聴いた瞬間のシチュエーションは鮮やかに覚えています。

その頃の自分は、デビューして丸1年が過ぎ、25歳になったばかり。インプットディーズでアル

宇多田ヒカル（ウタダ ヒカル）　1983年米ニューヨーク生まれ。1998年12月にシングル『Automatic/time will tell』でデビュー。ミリオンヒットを記録した。翌年3月に発表したファーストアルバム『First Love』は765万枚を売り上げ、日本国内のアルバムセールス歴代1位を獲得。この記録は現在まで破られていない。2004年10月にはUTADA名義でアルバム『EXODUS』もリリース。全米メジャーデビューを果たしている。国民的アーティストとして活躍を続けている。

パムを2枚発表し、メジャーと契約後、シングルやEPと呼ばれるミニアルバムを3枚重ねて、ようやくファーストアルバム『アニメーション』（99年2月5日リリース）が発表されるということで、日々雑誌の取材を受けたり、全国のラジオ局を回ったりと、キャンペーンをしていました。CDは既に多数リリースしてましたが、「はじめまして」の土地や局ももちろんあったりして、気分はまだ新人、若手というモード。そんな中で、TBSのラジオ番組に呼んでいただいたとき、9階のエレベーターを降りて歩いている最中に耳に飛び込んで来たのが『Automatic』だったんです。

ラジオ局って天井にスピーカーが埋め込まれていて、放送中の番組が小さく流れているんですが、デパートの店内放送みたいに、聞こえる場所と聞こえない場所があるんです。完全には集中して聴くことができない中で、最初「あれ？　知らない曲だけど、まぁ知ってる、あ！　ジャネット・ジャクソンの新曲かな？」と思ったんですよ。グルーヴ感や[illegible]きがかり方良くて[illegible]にそう感じたんです。で、ちょっと意識を曲に向けたときに、「あれ？　日本語だ！」と[illegible]気付いて「えっ？」と。ラジオ局の人に「歌っているのは誰ですか？」と聞くと、「新人の[illegible]多田ヒカルさんです。まだ15歳みたいですよ」と……。驚きましたね。90年代の女性R&Bシンガーの主流には、ホイットニー・ヒューストンのような驚異的な歌唱力で声量を重視と実質の渦に巻き込んでいく正統派タイプと、ビートに心地良く寄り添って、ウィスパー的なボーカ

CamScannerでスキャン

ルを軽やかに乗せていくジャネット
多田さんは後者だと感じました。

最大のホイントはタバコの“flavor”

その後、1999年の彼女の大爆発は日本のポップミュージック史上でも比類なきもの。16歳の誕生日を迎えてすぐの2月17日にセカンドシングルの『Movin' on without you』がリリースされ大ヒットした勢いの中、3月10日に発売されたファーストアルバム『First Love』は累計売上枚数約767万枚という途方もない記録を打ち立てています。全曲作詞・作曲されているとということで、僕も当時、手に入れて聴き込んだのですが、まず驚いたのがサードシングルの表題曲でアルバムのタイトルにもなった『First Love』のアレンジの構成でした。

『First Love』がレコーディングされたのは宇多田さんが14歳から15歳の終わりのタイミングとのことですが、まずは21秒のフェイク混じりのインストロのあと、歌い出した最初の2行の歌詞、「ホントのキスはタバコの flavor がしたニガくてせつない香り」に惹きこまれました。短い2行の間に「最後のキス」、つまり恋愛関係が終わって回想するそれまでの2人の時間を想像させる情景と、実際の唇を合わせた“触覚”、「タバコの flavor」という舌を通じた“味

CamScannerでスキャン

覚〟、〝タバコ〟の白くて細長いイメージの〝視覚〟、「ニガくてせつない香り」という〝嗅覚〟など、五感の多くを巧みに刺激している。そのうえで、「その若さでこの歌詞を書ける？　そのうえで、「その若さでこの歌詞を書ける？　そのうえで、「その若さでこの歌詞を書ける？」という驚きを聴く側に与える衝撃的な導入部。最大のポイントは〝タバコの flavor〟という言葉を選ばなければ、演歌やそれまでの歌謡曲の失恋ソングにでも登場しそうな、いわゆるベタなシチュエーションでもある。曲が始まって早々に「タバコの flavor」と歌うことをネイティブな英語を使う宇多田さんが、曲が始まって早々に「タバコの flavor」と歌うことで、1999年の音楽として響かせることに成功しているのではないでしょうか。

初恋を表現し尽くしている

この曲、例えばカラオケなどで歌った場合でも、始まってすぐに歌の主人公の立場へと没入できる素晴らしいAメロです。「この切ない心地良さ、〝傷付いた快楽〟をもっと味わっていたい」。そんなふうにも思うほどです。でも、僕が今でも本当に凄いと思うのは、この次の展開です。僕自身ソングライターとして展開を予測しながら聴いていて、「典型的な作りのバラードであれば、このAメロのフレーズのあとにもう1度同じメロディが繰り返されるのかな？」と思ったのですが、この2行を歌い終わり43秒に到達した時点で、予想に反してすぐに「♪明日の

CamScannerでスキャン

頃には」とBメロに突入！　このタイミングでイントロから続いてきたコード進行が変化するので感傷に浸れずいきなりドキッとしてしまう。そして、1分5秒で「♪You are always gonna be my love」とサビに到達するという、このスピード感！

バラードという形態はテンポが遅いので（例えばこの曲の場合はBPM90）、安易に作ると、アップテンポの楽曲よりも、Aメロからサビまでの展開の時間が長くなってしまうもの。しかしこの曲は、スタンダードでオーソドックスな美しいメロディ&歌詞のラブバラードでありながら、その構成の切り替えの早さで、ミドルティーンの少女が味わった初恋の終わりの哀しみ、主人公が持つ性急な心の動きの儚さを自然に伝えている。大人の恋じゃない。2番のBメロで「♪明日の今頃にはわたしはきっと泣いてる あなたを想っているんだろう」という歌詞が選ばれています。初めての恋が終わって大切な人が去っていったことの重大さは分かりつつも、まだ涙を流していない。まだどうしていいか分からなくて呆然としている。でも明日の今頃、わたしは泣いているだろう。それは予測できる。少女ならではの心の動きがリアルに伝わってきます。

その後の「♪いつか誰かとまた恋に落ちても I'll remember to love You taught me how」。直訳すると「愛することを忘れないよ、あなたはその方法を私に教えてくれた」。このサビの[illegible]。当時も携帯に電話がワーッと走ったような感覚になっ

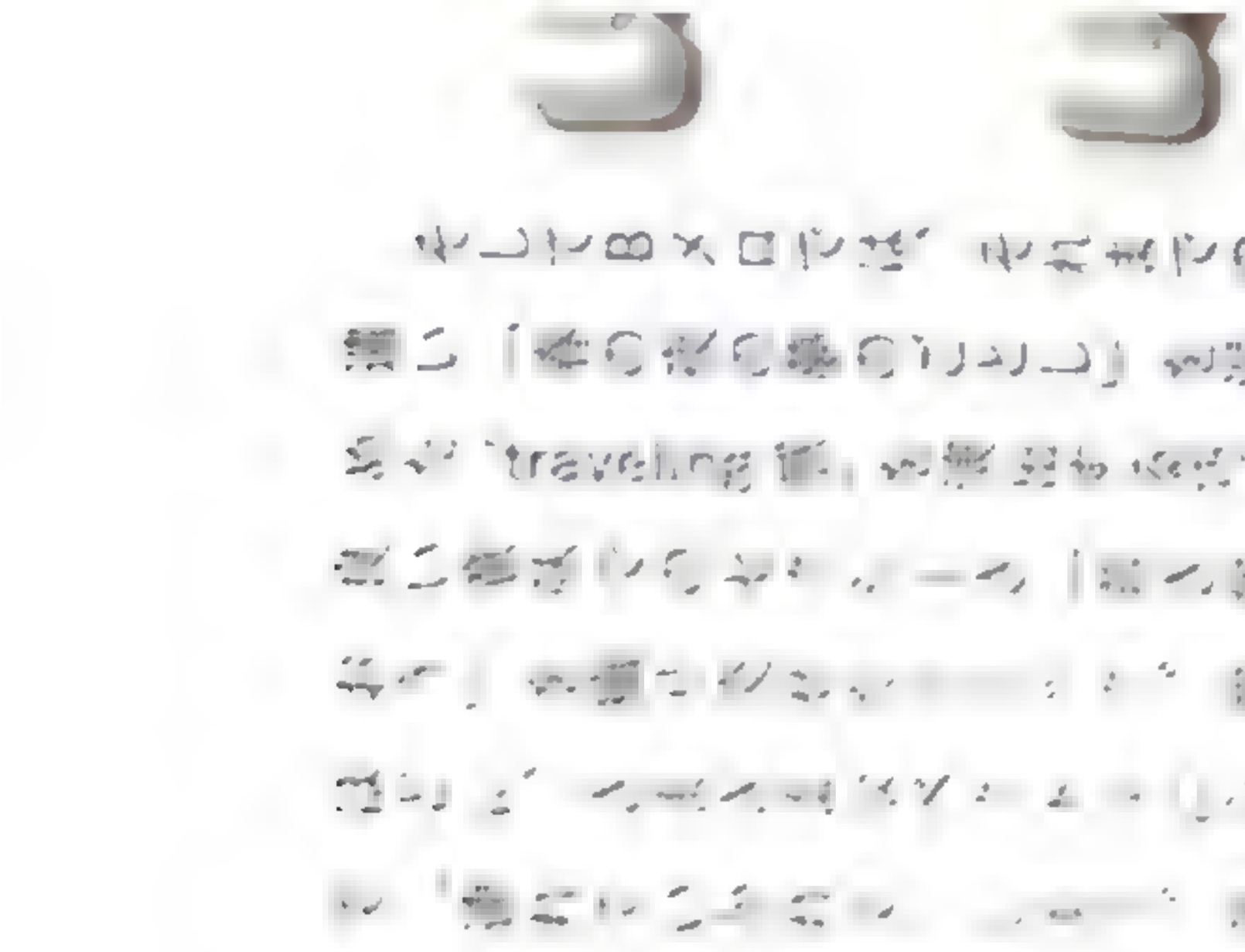
CamScannerでスキャン

たものですが、2024年でリリースから四半世紀という長い年月にもかかわらず、聴く者の心の1つひとつの細胞に美しい水のように染み渡るボーカルにはただの感動しか出ません。この曲はタイトルの『First Love』という言葉を歌詞に直接的にはは織り込んでいませんが、まさに楽曲全体で初恋のありさまを表現し尽くしている。登場した時点で幾百のパラード作家との圧倒的の差を見せつけた永遠のマスターピースだと思います。

ドライバーとの日常会話

宇多田さんの長いキャリアの中で大名曲は無数にありますが、特にアッパーな曲で今も大きな曲が9枚目のシングル『traveling』。リスミックなメロディに乗せられた日常会話。例えば「どちらまで行かれます？」「閉めますが素晴らし過ぎるんです。まず印象的なのが、それまで」「不景気で困ります」「ドアに注意」といったテンポのいいJ-POPの中にはあまりないようなタクシーのドライバーとの日常会話。例えば「どちらまで行かれます？」「閉めます」「ドアに注意」といったテンポのいい現代的なフレーズからは、腰を屈めてタクシーに乗り込む情景が否が応にも浮かんできます。それが、アミューズメントパークのアトラクション"的なこの曲の世界観に聴く者が自発的に参加してくれるような効果を演出している。

CamScannerでスキャン



トたちではないでしょうか。なんだかんだ自分の作る曲や歌詞など、音楽制作の中での言い訳がまったく通用しない天才が、自分よりも歳下のミドルティーンで登場してしまったわけですから。

例えば僕はもともとプリンスと同じミネアポリスという街から登場した彼の仲間、ザ・タイムというバンドから独立したジャム&ルイスというプロデューサーのジャム&ルイス、ジミー・ジャムとテリー・ルイスこそが、本稿の最初で僕が名前を挙げたジャネット・ジャクソンのプロデューサーなわけですが、宇多田さんはデビューアルバムの成功を受けて99年11月にリリースした4枚目のシングル『Addicted To You』、翌年発売した5枚目のシングル『Wait & See ～リスク～』のプロデュースを彼らに依頼し、ミネアポリスのフライト・タイム・スタジオに合宿のような形で旅をして一緒に作られているんです。

アメリカやイギリスの素晴らしいアーティストへの憧れのようなものや探究心が募り、本を読んだり、アルバムを買っては聴き込んだり、エピソードを集めたり、という中で少しずつ階段を登ってミュージシャンになった自分のような世代。90年代前半から半ばにかけての〝渋谷系〟と呼ばれたムーブメントは、世界的に見ても濃厚な音楽マニアたちが、上手に日本と海外の文化の良いところを混ぜようと試行錯誤する中で生まれてきたものだと思っています。そん

CamScannerでスキャン

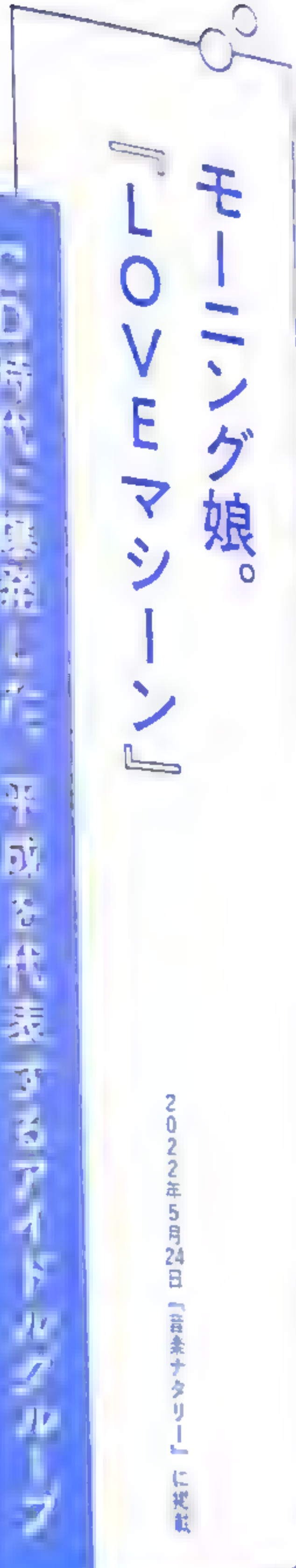
な中、実際にミネアポリスでジャム&ルイスとぶつかり合って曲作りをしたうえでレコーディングアックな愉しみに終わらせず日本中をあっと驚かせているアーティストが登場したとなると劇場が狂いはじめます……。常に自分の心に正直に音楽的に攻めたうえで、それでいてヒット曲も望まれるという宇多田さん登場は鮮烈で、そこからどのように立るキャリアにも尊敬の念しかありません

単品売上枚数767万枚というファースト・アルバムの特大ヒットは、CD文化の円熟期だった1999年という時代の波、人々の要請にジャストでマッチングしたからこその記録という側面もあるでしょう。ただし、やはり作詞・作曲・ミックスなどの面で驚異的なクオリティを誇りつつ、実質「大衆に気に入られよう」と媚びた作りではない宇多田さんの楽曲が、これほどまでに日本中の老若男女に愛されたという事実。それこそが、音楽を職

CamScannerでスキャン

き、愛する側の〝一般の人々〟の感覚が信じられるものだという証ではないでしょうか。日本中のミュージシャン、ソングライターの言い訳を許さなくした大きな存在。2020年代の音楽シーンに台頭してきた藤井風さんにも同じことを感じたのですが、何年かに1度、本当に音楽業界に変革を起こす凄まじいアーティストが現れることは素晴らしいことだと改めて思います。

CamScannerでスキャン



〝玄人〟も虜に モーニング娘。「LOVEマシーン」

2022年5月24日『音楽ナタリー』に掲載

1999年9月9日に発売されたモーニング娘。7枚目のシングル『LOVEマシーン』。平成11年ですか。無数のポップミュージックがある中で、『LOVEマシーン』は平成日本を彩った象徴的な曲と言えるでしょう。平成28年から29年にかけて大ヒットした星野源さんの『恋』（2016年10月発売）、米津

モーニング娘。（モーニングむすめ。）テレビ番組「ASAYAN」内の企画「シャ乱Qロックヴォーカリスト募集オーディション」に落選した女性5人により、1998年1月に結成されたアイドルグループ。1997年秋にシングル「モーニングコーヒー」でメジャーデビュー。1999年9月発売の7枚目のシングル「LOVEマシーン」は初のミリオンヒットを記録するなど、今日まで女性グループが持つ数々の記録を更新し続けている。2014年1月にアーティスト名を「モーニング娘。'14」に改名。以降は毎年元日にアーティスト名をアップデートしている。

CamScannerでスキャン

玄師さんが手がけたFoorinの『パプリカ』（2018年8月発売）などと並んで、「大人から子供まで幅広く愛された」という観点で、この楽曲は〝平成の楽曲ベスト10〟があれば上位にランクインするような社会現象を巻き起こしました。『LOVEマシーン』のリリース後には、「次はどんな曲が聴けるんだろう」という世間の期待に応え、モーニング娘。は『恋のダンスサイト』（2000年1月発売）、『恋愛レボリューション21』（2000年12月発売）、『ザ☆ピース！』（2001年7月発売）など次々とヒット曲を世に送り出します。曲や詞の素晴らしさ、グループのメンバーの魅力、さまざまな角度で時代と融合して生まれた魔力と言いますか……。特に2000年前後は、それまでヒップホップや海外のソウルミュージックに夢中だったミュージシャンやDJの仲間、先輩がどんどんモーニング娘。のマニアに変貌していったのも印象的に思い出されます。いわゆるお茶の間だけでなく、そういった〝玄人筋〟からの評価の起爆剤、ポイントとなったのは、『LOVEマシーン』以降の主要曲の編曲を手がけられたダンス☆マンさんの働きかな、と。

僕はもともと、ゴージャスでダンスミュージック感に満ちたシャ乱Qのシングル『ズルい女』（1995年5月発売）が大好きでした。ホーンのアレンジを担当された森俊之さんは、Original Love&の元メンバー。今振り返っても90年代の中で指折りの素晴らしい楽曲、アレンジだと感じています。

CamScannerでスキャン

（…ノってくる…）

・…歌詞の意…

ヴァンギャルドな…

に…

例えばデニムにしても、ギターにしても、「ダサい」色が違せたいしてい…がち…

と言ってただ単にめちゃくちゃにデニムをはいたり、歌詞も単純にキレイだったり、ありきたりなフレーズ、先人が誰も言葉にしてこなかった感情を忍び込ませたり、どこに遊び心をプラスするか、が重要だと思うんです。

例えば60年代にジョン・レノンが書いた、ザ・ビートルズの『ヘルプ！』も不思議な歌詞です。初訳すると「助けて！」と訳している。ネイティブの人が最初に聞いたときはびっくり

CamScannerでスキャン

したと思うんですよね。しかも前奏がないわけで。ザ・ビートルズは世界一のロックバンドとして一種の権威になったわけですが、かなりイビツな歌詞も多い。そういう意味でもつんく♂さんの言葉選び、楽曲作りはおそらくご自身の根っこにザ・ビートルズや筒美京平さんの〝王道〟の要素があるから、トリッキーな試みをしても軸がブレないんじゃないか、と。

リリース1カ月前にアレンジの依頼

『LOVEマシーン』の編曲を手がけたダンス☆マンさんとは、僕も交流がありますし、彼が楽曲をセレクトした2001年にノーナの曲のリアレンジを頼んだことがありますし、『JADOES ゴールデン☆ベスト -JADOES FUNK LOVE CLUB!!-』というアルバムで歌わせてもらったこともありますので、今回この時期のアレンジワークスと、ご自身のキャリアについて直接話をさせてもらいました。ダンス☆マンさんは宇宙から来られていますので、見えは彼が小学生の頃を思い返して話される場合、すべて「あなた方地球人で言えば小学生の頃」という前提で話してもらっていることをご了承ください（笑）。

ダンス☆マンさんは5歳の頃にピアノを始められて、我々で言う中学生、高校生の頃にベースに転向。ブラックミュージックを演奏するようになったそうです。そして20歳の頃にベースで

CamScannerでスキャン

ノック、夢中になり、複数の楽器を操るマルチプレイヤーとして音楽活動を続けていました。

1984年、それまでのシック『グッド・タイムス』、マイケル・ジャクソン『オフ・ザ・ウォール』などに代表される生演奏のディスコ、ファンクから、シーケンスはかんテノレ・オア・アライヴなどの新勢力が登場し始め、時代の変化を感じたそう。

1999年8月、ダンス・マンさんは六本木のディスコ、ヴェルファーレ』（2007年に閉店）で箱バンを務められていました。「DJではなくバンドの生演奏で踊らせる」というミッションを日々重ねながらアルバムもリリースされていたのですが、そのときにつんくさんの関係者から連絡が。ここからは彼がさまざまなインタビューで話しているのでファンの方々の間ではよく知られているエピソードですが、『MIRRORBALLISM 2～New Generation Dance Classics』というダンス・マンさんのアルバムの収録曲『ダンス部 部長南原』の共作オーダーが届いたというオーダーが届いたとのこと。

今度のモーニング娘。の新曲をアレンジしてほしいと

と。

ただし、シングル発売日は決定していて、9月9日。連絡が届いたのが8月9日。お盆休みそこそこに、という急な話あり得ない過密スケジュールです。ダンス・マンさん日ダンス・マンの姿のままで移動してミーティングしたことも

ある、と。歌詞カードの印刷やCDのプレスもあるので、8月15日までに工場に入れなければいけない――つまりオファーから1週間でアレンジ、プログラミング、バンド演奏、メンバーの歌録音、ミックス、マスタリングを終わらせなければいけない。ダンス☆マンさんの記憶では、もともとつんく♂さんが作った『LOVEマシーン』のデモはアコースティックギターの弾き語りで、歌詞はなく鼻歌。シャ乱Q、もしくはご本人が歌うために作られていた曲だったが、時期がズレたのでモーニング娘。のシングルに選んだという流れではないかと。

これらのエピソードを知ると、つんく♂さんが歌われた『ズルい女』のようなグルーヴィでセクシーなテイストを、主にティーンの女の子たちがファンキーに背伸びして歌い踊ることで、より新しいステージ映えした楽曲、世界観が生まれたのが発明だったのかなと。ダンス

CamScannerでスキャン

マンさんも、"アイドル音楽"として簡単にしなければ」「お茶の間に受け入れられるように味を薄めよう」という意識では作られてはいなかったそう。この時期、僕も何度もモーニング娘。のライブに行きましたが、本当に時代を巻き込んだ革命に参加しているような気分になるほど、観客を巻き込んで繰り広げられていました。

クラブに満ちていた幸せな空気

かなり長い間、ごく一部の洋楽ファンやミュージシャン、アイドルソングがメインにかかるイベントも増えてきました。僕も三宿Web（現在は閉店）を中心に、イレギュラーですが携わっていましたが、DJイベントが大きなきっかけとなって、日本のア

でしょうか。個人的には2000年代って、自分が好きな音楽、求めている音楽と世の中の空気がまったくリンクしない孤独な思い出が多いんですが、全力投球でアイドルを応援できたり、皆で飲んだり踊ったり、クラブの中に幸せな空気が満ちていたなと、コロナ禍になってつくづく思います。

ミュージシャンとしてのハロー！プロジェクトとの関わりで言えば、2021年秋に公プロダンス部（ダンス好きの石田亜佑美［モーニング娘。'21］、佐々木莉佳子［アンジュルム］、稲場愛香［Juice=Juice］、秋山眞緒［つばきファクトリー］、平井美葉［BEYOOOOONDS］で構成）とLIPPSのコラボ動画に、それぞれのプロフェッショナルな魅力、満ちてくる〝王道〟としての歴史と重みに本当に感動してしまいます。

CamScannerでスキャン

嵐『A・RA・SHI』

『改革型アイドル』を代表するキーカリスト・大野智のカリスマ性

ヒット連発の先輩、大旋風の後輩

嵐（あらし）1999年結成。同年にシングル『A・RA・SHI』でデビュー。人気コミック『花より男子』を原作としたドラマの主題歌『WISH』、同作『花より男子2（リターンズ）』の主題歌『Love So Sweet』、同映画『花より男子F』の主題歌『One Love』で、人気を不動のものとする。'20年12月31日にグループの活動を休止した。

2020年現在、嵐が日本を代表するアイドルグループであることを否定する人はいないでしょう。ただ、嵐が彼ら自身の物語を振り返る際、デビューしてしばらくの間、順風満帆というわけではなかったことが必ず語られます。その理由は明白で、"嵐の時代"は、ジャニーズ事務所に所属するデビュー組の数が、それまで

CamScannerでスキャン

前例のないレベルで、百花繚乱、充実していたからではないでしょうか。

これはジャニーズに限らず、世界の音楽の話ですが、それまでのいわゆる複数の少年たちが組んだアイドルグループ、ボーイバンドのスタイルで一世を風靡したユニットは、20代前半までを人気の頂点とし、ファンが年齢を重ねると共に解散の道を選ぶのが普通でした。もちろんテレビから本格的ミュージカルに活躍の軸足を移した少年隊のような例外は除きますが……。しかし、1991年9月にデビューしたSMAPがその歴史を塗り変えました。彼ら以降、1994年のTOKIO、1995年のV6、そして1997年のKinKi Kidsと 一度が1999年には、脂の乗り切った先輩グループからハノエノイでの大活躍もあって凌ぎを削り、ブラウン管の中でヒット曲を連発、その勢いはとどまるところを知らず、同世代の仲間たちや、後輩たちの台頭も続きました。クォーターを再し、〝ジャニーズJr.黄金時代〟と呼ばれる2000年代に入ると、〝8時だJ〟で人気（2003年）、関ジャニ∞（2004年）、特に生まれた成人した大旋風を巻き起こしたKAT-TUN（2006年）の登場には、新時代の到来を感じたものです。

それだけでなく、ある種の〝逆風〟の中で、5人が国民的ポップグループにまで上り詰めた理由を音楽家である僕なりに探っていきたいと思います。

CamScannerでスキャン

テビューシングルをノーナのラジオで猛プッシュ！

1989年11月にリリースされた嵐のデビューシングル『A・RA・SHI』が発売当初からとにかく好評でした。自分が文化放送でMCを担当していたラジオ番組『LIPS PARTY 21.jp』でファンの方からリクエストしてもらうことを思い出します。まだ、ミュージシャンがジャニーズのグループをプロモーションすることも珍しい時代でした。僕はもともとジャニーズのグループのデビュー曲とはレコード会社の先輩グループのデビュー曲を流すものですが、それまでの先輩の曲調に衝撃を受けたんです。いくつかの曲を切り貼りしてコラージュしたような複雑な作りが面白くて、舞台のために作るメドレーの発想に近いという か。僕がそのとき何度もアピールしたのは、「この曲はプリンスにおける『パットダンス』な んだ」と。『パットダンス』は、1989年にプリンスが放った全米ナンバー1獲得曲で、映画『バットマン』のサウンドトラックからのシングルカットです。映画に登場するセリフをサンプリングし、別々のテンポの数曲を組み合わせて1曲にまとめた、予測不能のかなり〝変態〟的〟な楽曲なんですが。テーマに出てくる「バットマーン！」という超キャッチーなコーラスと、プリンスの小気味のいいギターカッティングが最高で、世界的に大ヒットしたんです。

『タモリ倶楽部』でタモリさんと安斎肇さんが担当するコーナー『空耳アワー』のファン的に

CamScannerでスキャン

は、5分10秒過ぎに連呼される「農協牛乳！」でよく知られていますよね。

3つ以上のテンポが混在するトリッキーさ

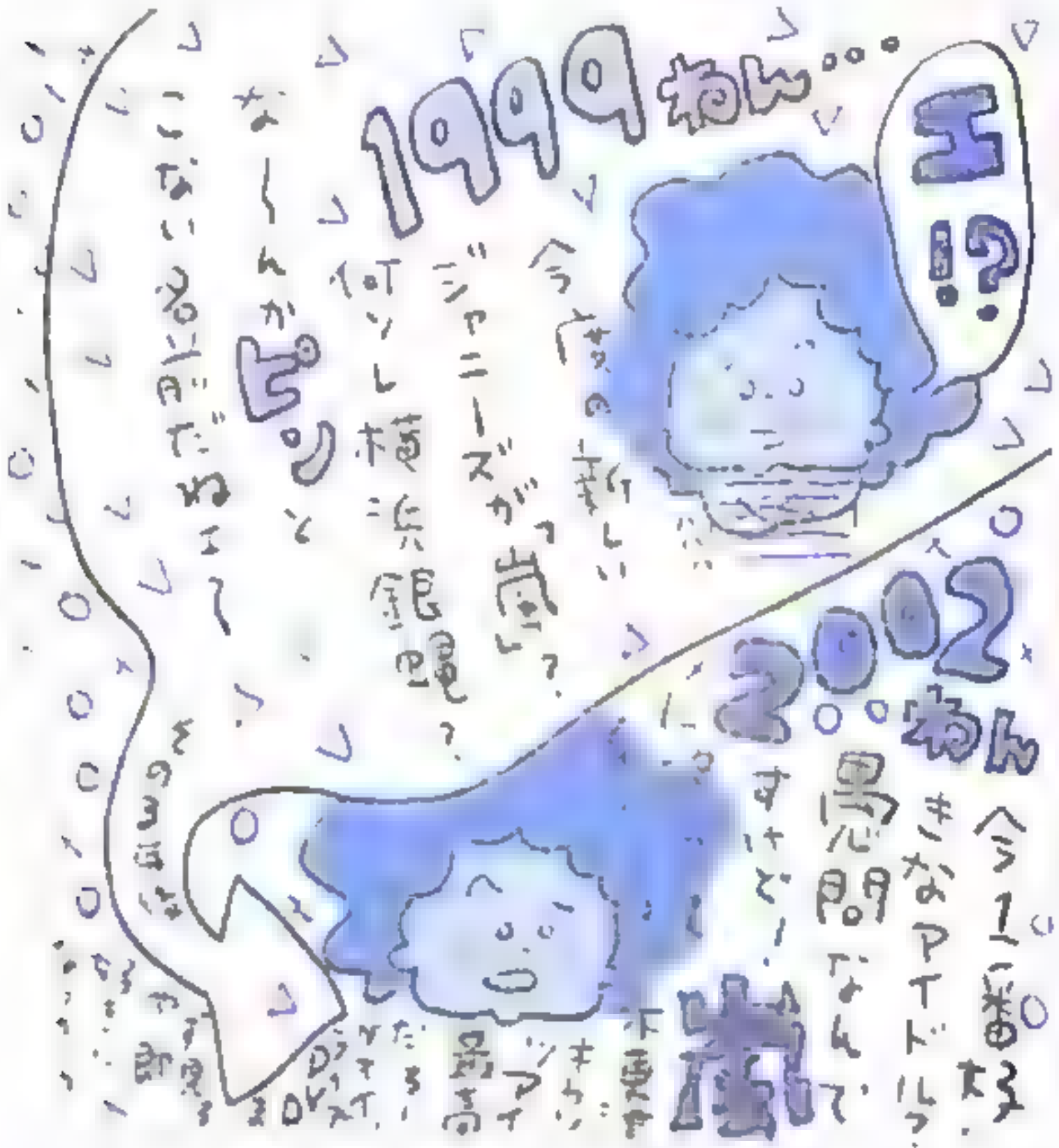
『A・RA・SHI』には、異なる3つのテンポが混在しています。で愛されている楽曲の98％くらいは、イントロからエンディングまでのテンポが一定。テンポが混在している場合があるとしても、最初はバラードで、元気になってテンポアップしてスタートというアレンジが多いんです。中居正広さんのソロから始まるSMAPの『君色思い』みたいなパターン。3つ以上のテンポが混在するとなるとクィーンの『ボヘミアン・ラプソディ』のような組曲っぽい作りになって、そもそもかなりトリッキーなんです。細かく分析していきましょう。まずスタートから1分40秒までは、BPM118。〝BPM〟は〝beats Per Minute〟の頭文字。つまりBPM118とは、1分間を118回に分割したテンポで進む、ディスコ的な、心地良く軽快に乗れるビートです。この曲、いわゆる通常のAメロ（ラップ）から展開されていて、1番Aメロに相当する場所はありません。櫻井翔さんが担当するラップで展開されていて、1番サビに突入。Bメロに相当する場所はありません。そして「♪You are my SOUL! SOUL!」の1番サビかと思いきや、いきなり大野智さんがソロで歌う「♪

Step by step～」部分く。これは横浜上BメロにもBPM126まで上がり、さっきまで小刻みに時間を使っていたことが嘘のように長めの間奏が繰り広げられます。この辺りの間奏ゆえの盛り上がりはSnow Manの『D.D.』にも踏襲されていく、宮らの事務所の伝統芸ですね。しばらくしてラップが復帰、テンポは上がったままブリッジ（Bメロ？）の大野さんのソロバート「～Step by step～」。3、4回目のサビを挟み返す間にまたラップが重なってくる。盛り上がり切った3分40秒でテンポがいきなりBPM125まで下がってガクンとテンポダウン。5回目となる「～You are my SOUL! SOUL!」の懇願的なソロボーカルとハーモニーエフェクトレンジセクションは、これまた大野さんのわけです。

CamScannerでスキャン

大野智をマネしなさい

『A・RA・SHI』で何よりも特徴的だったのは、やはりこの楽曲のエンディングと2度の転調大サビ（「♪Step by step～」）で展開される大野さんのソロパート。「こんなに歌の上手い人はいない」というのが大野さんに対する最初の印象です。僕がそれまで特に好きだったジャニーズのシンガーは錦織一清さんと、1996年にSMAPを脱退した森且行さんでした。これはあくまで個人の趣味ですが、リズムの中のこしかないという一瞬の隙間、あるべき艶妙な〝ホケット〟に素直に乗っかって、抗わずに歌える人が好きなんです。1994年発表の「がんばりましょう」の情景で森さんが「♪かっこいいゴールなんてさ」と歌い出すんですけど、ビートとコードに乗せてい



CamScannerでスキャン

ノガーカルの変幻性が表現もし、
リとにおいもだしてこなし、演奏なボー
しから、ガがかなしくも多い。幼な
に脱ってしまうことが多いまで、ナ野
ヴを包みこむような"究極のリズム感"でした。

僕はこのピアノクリー「ムムの下にいる鳥の
ているんですが、そのまで印象だ
野"の後ろで鳴ってアラしなさい。一
親と認識する習性と一緒で、ほかの
んです。おたらこそ、一番のアナをしな
話きたたことたらも、一瞬と誤りはナ野
んじゃなしたなと。僕は、重な言葉
ちょっとも言葉に賛、ては十野さん
でマナを、ここに止まるんじゃな
最初に、ソニーノプ、色まったテン
かこの確立、その後のいE清こ

CamScannerでスキャン

いける！」と思われたんでしょうか。錦織一清さんの話によると、舞台第1幕に、伝統的に「2番のAメロ、Bメロ」が戻ってくる展開は嫌われて「同じパートがもう1回くるのはなんで？」と思われたんでしょう。

意味で『A・RA・SHI』のようにラップありバラードあり、聴いていて飽きさせないジェットコースターのような作りは、独特の感覚。ちなみに作詞を手がけているJ&Tはジャニーズ風磨さんのお父さんだそうですね。風磨さんがグライターの菊池常利さん。Sexy Zoneの菊池風磨さんのお父さんだそうですね。風磨さんが父親のことを黙ったまま入所したあと「なぜ教えないの？」と叫責されたことはよく知られるエピソードです。

嵐の曲が愛される理由

今にして思うと「なぜ嵐5人のボーカルがこれほどまでに愛され続けるのか」という謎に対する答えは、先ほど指摘した〝大野智を中心にした圧倒的ユニゾンのふくよかさ、彼ら全員の信頼関係〟に尽きるのではないかと思います。メンバーが互いの才能を信じ、同じ方向を向いている。特に凄い魅力を持つパーソナリティが集まり栄華を極めたグループであればあるほど難しい〝協力〟を彼らはここまで続けられた。もちろん、近年の『Reborn』シリーズでのト

CamScannerでスキャン

ライは現状のシーンに対応したまったく別のベクトルなので、それについてはまた機会を改め
て触れたいですが。日本語ラップを好きな彼
櫻井さんとは2002年頃、一度だけお会いしたことがあります。
らしくYOU THE ROCK★さんと僕らがタッグを組んだ『D!!〜とどかぬ想い〜』を
てくれていたのは嬉しかったですね。

CamScannerでスキャン

中島美嘉『STARS』

天才作家陣が作り上げた不朽のJ-POPバラード

2020年6月25日『音楽ナタリー』に掲載

21世紀のシンデレラガール

中島美嘉（ナカシマミカ）　1983年鹿児島県生まれ。2001年にシングル『STARS』でデビュー。2002年リリースの1stアルバム『TRUE』はミリオンセラーを記録。以降も『雪の華』を始め、ヒット曲を連発。女優としても活躍し、2005年公開の映画『NANA』では主役のナナ役を熱演した。その後、アコースティックライブや海外での単独ライブも開催するなど、精力的な活動を展開している。

『STARS』は2001年にリリースされた中島美嘉さんのデビューシングルで、60万枚の大ヒットを記録しました。自分はこのとき、プロになって既に5年が経っていました。オーディションのファイナルで、同世代の作曲家・川口大輔くんと、1999年の段階でノーナもプロデュースしてもらったことがあった編曲家・冨田恵一さんが作り上げた歴史的な傑作が浸透したことと

CamScannerでスキャン

に、喜びと羨ましさの入り混じった、大きなショックを受けたことを覚えています。

『STARS』は、中島さん自身もヒロイン役で出演したドラマ『傷だらけのラブソング』の主題歌。完全に日本の音楽界が総力を結集して生み出した、〝21世紀のシンデレラガール登場！〟というイメージでした。ただ、やはりそれも中島さん本人に、ミステリアスな雰囲気やパワーがあってこそ。特に、媚びないよう〝冷徹な目を持つ少女〟だけが、汚れた世界で真実を射ジャンヌ・ダルクのように、選ばれた凛とした歌心は山口百恵さんを彷彿とさせます。抜く……そんなイメージで、そういう系譜はピリー・アイリッシュなどにもつながる1つの形。『STARS』が収録されたファーストアルバム『TRUE』も、発売から3週間を待たずミリオンを突破するなど、まさに破竹の勢いでした。

中島さんは自身でも数多くの作詞をされています。同じくミリオンセラーとなった2003年のセカンドアルバム『LOVE』収録の『You send me love』は、中島さんが歌詞を担当し、僕が作曲家として参加することになったこともあり、個人的にも思い入れ深い、ミドル・バラード。僕の周りの30代の女性には、初めて買ったCDが中島さんの作品だっていう女性が多いんですよね。「『You send me love』は好きだったけど、あの曲、郷太さんの曲なんですね!!　幼かったので、クレジットなんて見ていなかったです」と驚かれることが本当に多くて。

CamScannerでスキャン

クレジットト泥棒したくなるＤＫ楽曲

改めて記すと、『ＳＴＡＲＳ』は秋元康さんが作詞、川口大輔くんが作曲、冨田恵一さんが編曲。６分を超えるＪ-ＰＯＰバラードの最高峰じゃないかと。６分を超える大曲で、今ならブリッジの展開も含めてここまでドラマチックに仕上げはしないかも、という気もしますが、この曲が示した世界観が、Ｊ-ＰＯＰの歴史をど真ん中から書き換えたのは間違いありません。

『ＳＴＡＲＳ』のリリース当時、秋元さんは42歳。80年代はおニャン子クラブのプロデュースをはじめ輝かしい功績を残して来られましたが、もしかすると90年代は秋元さんの全キャリアの中では、今思えば試練の時期だったんじゃないかと。92年に発売されたとんねるずの『ガラガラヘビがやってくる』でチャート１位を獲られてはいますし、Ｖ６の『ＭＵＳＩＣ ＦＯＲ ＴＨＥ ＰＥＯＰＬＥ』の人気も含めて、もちろん変わらずヒットメーカーではあったんですが。

川口くんは同じ大学の後輩で、僕の２つ下。普段はＤＫって呼んでます。後輩と言いつつ、大学時代は彼とは直接の接点はなかったんですが。川口くんが土岐麻子さんや和田唱（トライセラトップス）くんと渋谷区立西原小学校で同級生だった、という話は、土岐さんや和田くんからよく聞いていました。仲良くなったきっかけは、Ｋくんが２００６年にリリースしたアル

CamScannerでスキャン

パム『Music in My Life』の収録曲『Last Love Song』を僕が作詞、川口くんが作曲したこと。

「自分が作ったことにしたい！」と思えるかどうかをソングライターとしての心の基準にしてるんですが、川口くんの作品にはそういう、浅ましくなるような、“クレジット泥棒”をしたい楽曲がたくさんあります（笑）。

本稿を執筆するにあたって、川口くんに電話でインタビューしてみました。彼はもともとソニーの新人オーディション、SDで育成された新進気鋭のシンガーソングライターで、最初は、2001年3月のCHEMISTRYのデビューシングル『PIECES OF A DREAM』の“当て振り”のミュージシャンとして仕事をしていたと。テレビ番組やライブなどでバンドをバックに歌うわけですが、実際、川口くんはめちゃくちゃピアノがうまいんです。あくまでも番組のために雇われていたらしいんですが、当時CHEMISTRYが爆発的なムーブメントを起こした流れで、本当に忙しくなったらしく。“弾いているフリ”すらしないと」とテレビ局の帰り道でヘトヘトになりながら「自分は作曲家として曲を書く側にならないと」と強い決意を持って、真夜中に空を見上げたことを思い出す、と語ってくれました。最初にトライした2曲が、結果CHEMISTRYの2枚目のシングル『Point of No Return』との両A面となる『君をさがしてた～The Wedding Song～』と、この『STARS』だったと聞くときなり順風満帆過ぎますけどね（笑）。

川口くんは2002年、中島さんの大傑作『WILL』も担当。その後、CHEMISTRYもボーカルで参加した2002年の『FIFAワールドカップ』の公式テーマソング『Let's Get Together Now』も手がけ、時代の寵児になりました。今に至るまで、JUJU、土岐麻子さんの楽曲をはじめとして数々の名曲を手がけているんですが、10代でアメリカ・ロサンゼルスやブラジルで暮らした経験もあることで、ほんのり多国籍的なグルーヴ、ラテンの香りが漂うのが彼の作風なのかなと感じます。ちなみに川口くんはシンガーソングライターとして、2004年にアルバム『Sunshine After Monsoon』でソロデビューもされています。

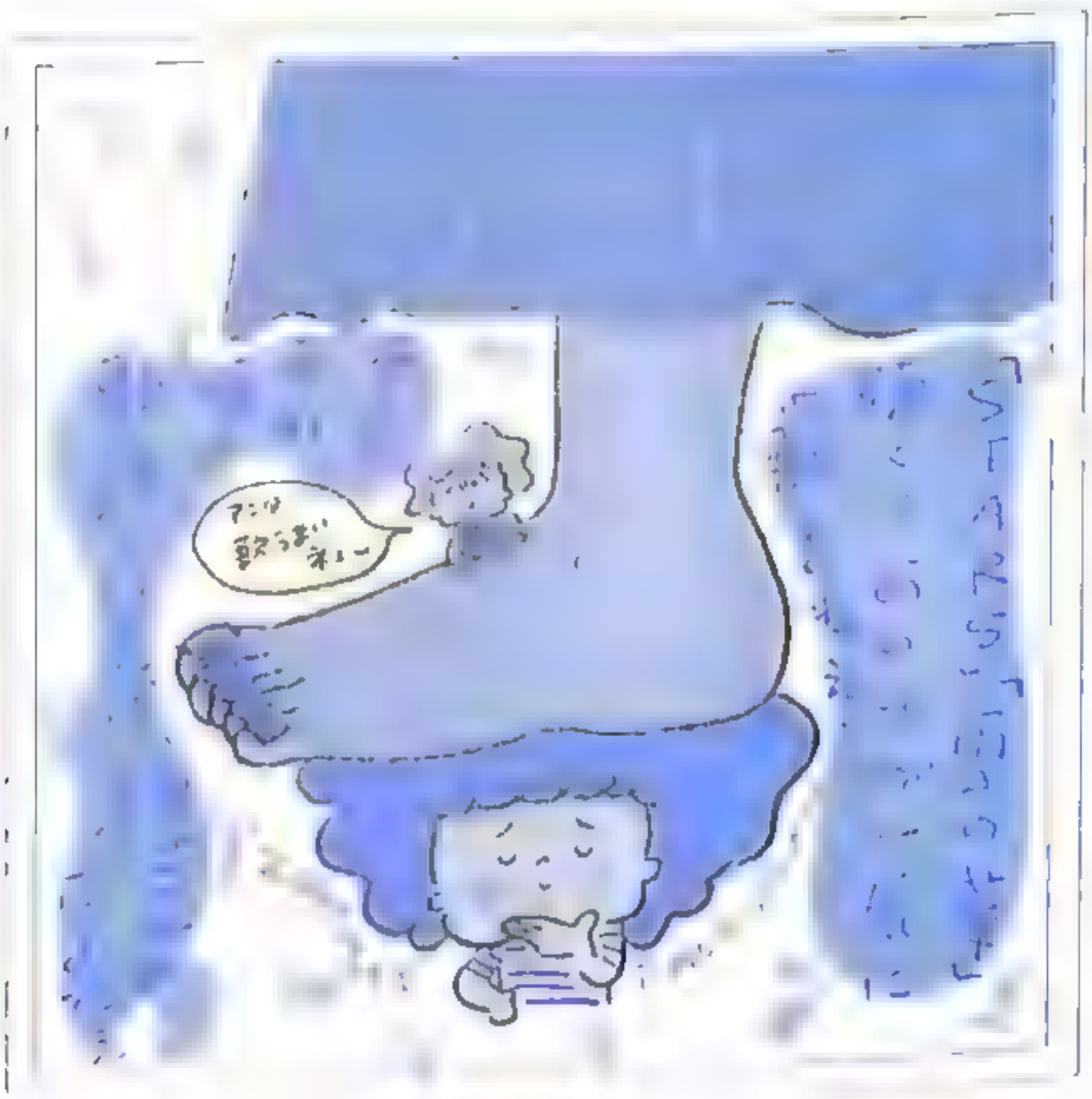
トップスピードに入った富田恵一

富田恵一さんは90年代後半、キリンジのプロデューサーとして頭角を現し、2000年のMISIA『Everything』、2001年の『STARS』で、綿密にデザインする編曲スタイルで、アレンジャーとしての実力を存分に発揮。その名が世の中に広く知れ渡りました。変な表現になるかもしれませんが、僕は音楽家として〝バラード〟という形態がそもそも好きじゃないんです。というか、「ほぼすべての安直な作りのバラードが嫌い」と言いますか。「こういうコード進行なら、こういう歌詞を乗せて、込み上げるように歌唱すれば人は感動するだろう」みたい

CamScannerでスキャン

な軽い甘えが1つでも混ざると、プロとして分かっちゃうんですね。ドラマや映画で言ったら、〝恋人が死んでしまう〟みたいなプロットに近いのかもしれません。そうすればそれなりに人の心は動かせるので、「またか」みたいな。ただ、冨田さんが手がけるバラードのアレンジはそんな低いレベルではありません。2000年だけに注目してみても、『Everything』の2週間後にキリンジの代表曲『エイリアンズ』がリリースされていて、どちらもJ-POPバラードのクラシックになっていることを考えると、この頃から本当にトップスピードに入ったんだな、と。

で、冨田さんの凄味は生ドラムを完全に打ち込みで制作するグルーヴコントロールにありますが、当時冨田さんはあらゆるタイプのマイクやドラムセットを使って、いろんなスネアやキック、クラッシュ、タムなどの音源をサンプリングして保有し、時間をかけて自分



CamScannerでスキャン

好みにプログラミングされていました。すべて、ヒューマニックな生ドラムをすべて緻密な設計図をもとにプログラミングするのマジカルな瞬間を、僕は実際にスタジオで見て衝撃を受けました。その前のタイミングで富田さんにプロデュースしてもらえたことは忘れがたい経験でしたが、そのとき、彼の音楽は点だけで描いた教会の巨大な宗教画のようにも思えて、畏れさえ抱きましるのだな、というか、安易さや甘えを感じさせない場所に到達できた。だからこそ〝バラードのその先〟というキーワードを入れていたんです。結果、

ボーカリスト、作詞家として訴えかけるもの

中島さんの歌唱の最大の魅力は、低音から高音にかけて急速に駆け上がり、ファルセットを混ぜるときのスリリングさにあります。『STARS』で言えば、「♪無力な言葉よりも」でFからDまで駆け上がるメロディ。そこでゾクっとするんですよね。実は、僕らノーナの『重ね た唇』という楽曲は、もともとは中島さんのために作った曲でした。彼女が化粧品のCM用だから、〝唇〟というキーワードを入れていたんです。結果、当されていて、シングルのコンペティション依頼を受けて提出したんですが、返ってきたことに。

CamScannerでスキャン

自分の代表曲になって感謝しているんですが、誰かに歌ってもらおうとして作ると、域を広げることができるんですよね。『重ねた唇』の低音から急に上がるようなメロディ、サビ最後の「♪思い知る」あたりは、『STARS』における「♪無力な」と同じ音程の駆け上がりで、中島さんを想定して考えたもの。残念ながら返されはしましたが、彼女に歌ってもらえたら絶対にハマるだろうな、と今でも思っています。

『STARS』は、2005年のベスト盤に収録されたとき、ボーカルが録り直されています。確かに、そちらのほうが安定した〝中島美嘉感〟が出ている。ライブやテレビなどで何度も歌われて、シンガーとしての個性が確立されたあとのスタイル。改めて聴き比べてみると、個人的には、キャラクターの表現の仕方を探りさぐり歌っているような、デビュー・シングル版の純粋な感じに惹かれてしまいます。

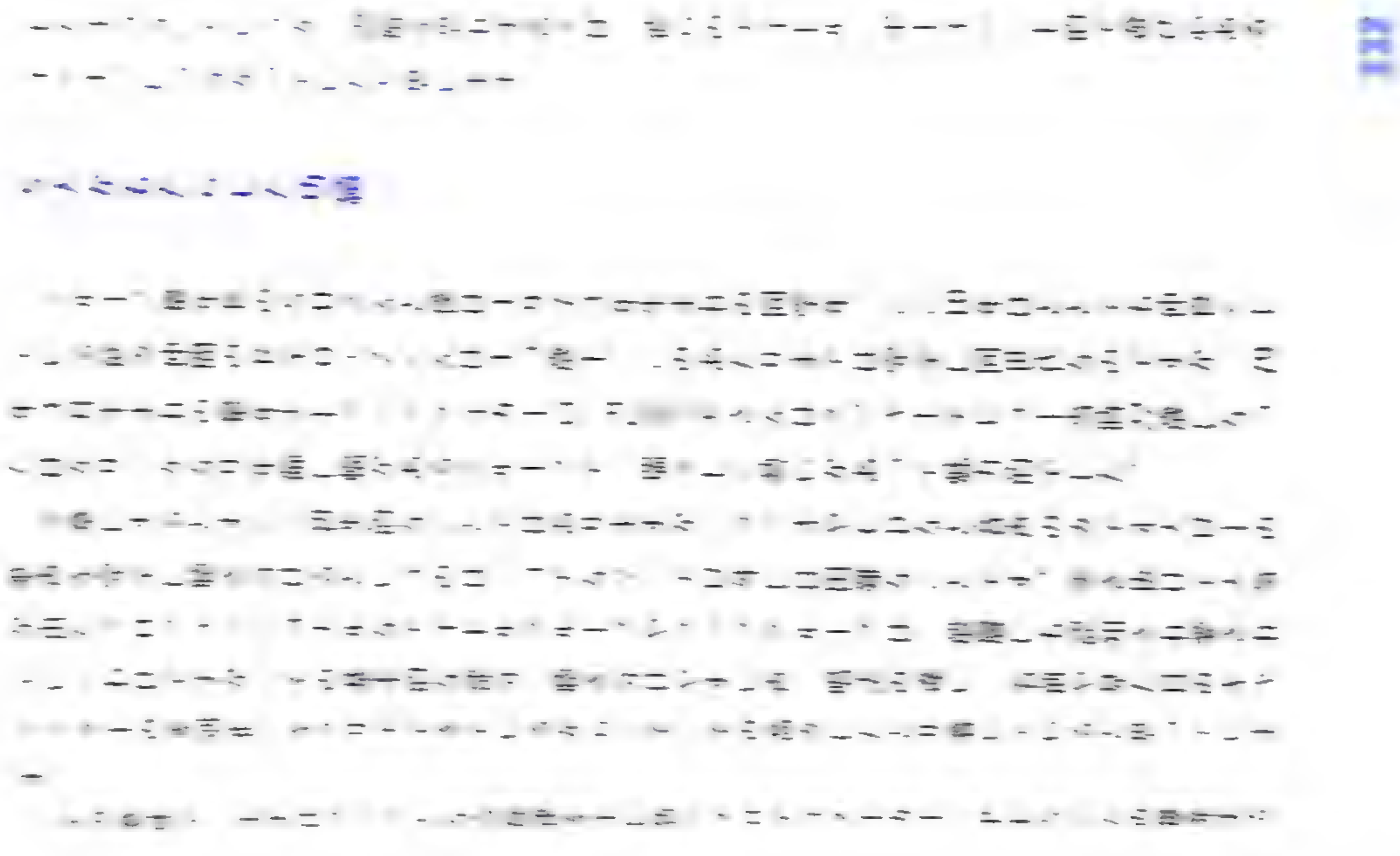
CamScannerでスキャン

RIP SLYME

「楽園ベイベー」

RIP SLYME のアルバムは全曲ヒットポテンシャルが高いのが特徴。KICK THE CAN CREW との

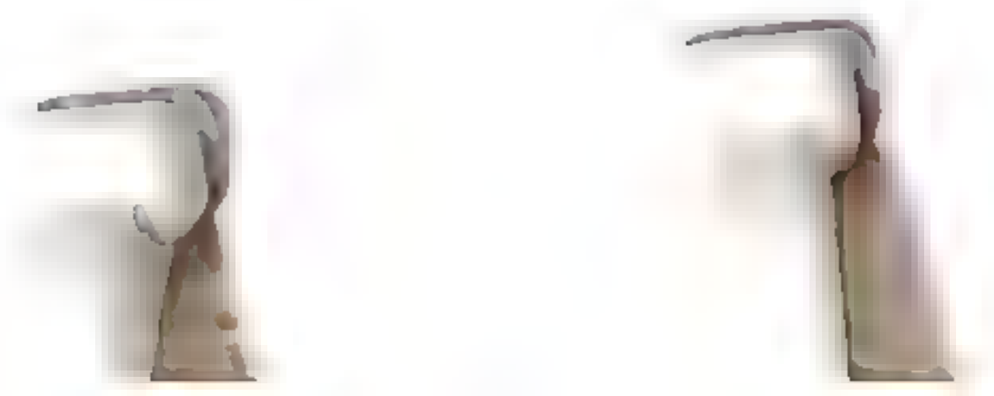
RIP SLYME の楽曲は、



[illegible]

大切に取り扱ったりとは、RIP SLYME の大きな功績の1つだと思います。

そのPESのくんの、明るくカリッと突き抜けながらも重厚のある最強のハイトーンボイスと、それと対比を成すような、SUさんの胸と喉を鳴らすような野性的な魅力をはらんだキャッチーな低音。さらに、スモーキーで色気と深みのあるうっとりなILMARIさんの美声はラッパーの枠を飛び越え、どこかジャズシンガーのよう。そしてトークの中心にもなるリーダーRYO-Zくんの、縦横無尽なムチのようにリズムがしなるフロウは、RIP SLYME の最高。ラッパー4人全員が輝いていて、全員違って、どのパートをマネして歌っても心地良くなれる。10代半ばで歳上のメンバーたちから信頼とリスペクトを集め加入することになった若き天才DJ／トラックメイカー FUMIYA さんを擁する RIP SLYME は、既にミュージシャンになって何年も経っていた自分にとっても最強で、とにかくカッコよかっただです。



フォー・トップスの楽曲をサンプリング

勢いよくスター街道を駆け上るRIP SLYMEの人気を決定付けたシングルが、2002年6月発売のサマークラシック『楽園ベイベー』。のちに、飲んでいる席や僕のポッドキャスト番組などでRYO-Zくんから聞いて驚いたのが、この完璧に思える爽やかで切ないトラックと魅力的なラップの融合は、思いがけないアクシデント、ハプニングから生まれた〝偶然の産物〟だったという事実です。

彼曰く、「もともとは、ワーナーのスタッフからシングルで『名曲のサンプリングをガッツリやってもいいからヒット曲を作ってほしい』と言われた。それで、インディーズの頃にフォー！トップスの楽曲『オール・マイ・ラブ』（74年）を16小節丸々サンプリングしたが、権利的に無理ということで断念していた楽曲をそのタイミングで復活させようと思った。それが『楽園ベイベー』の元曲だったんだけど」とのこと。

あえて説明すると、ヒップホップ黎明期や、10代の学生などが趣味でトラックを作る場合には、さまざまな過去の名作のレコードを大胆にサンプリングすることが可能（というより、新しい文化だったので考え方も整理されておらず無法地帯のような状況）だったのですが、90年代半ば以降は日本でもヒップホップからメガヒットが生まれ続けたことにより、リリース前に

[illegible] ました。ただし、これは非常に直感的に、ある意味人間的なやり取りでもあることが難しい部類で……。先方が作品を聴いて「いいよ、この額で」と認め交渉成立すれば可能ですが、どれだけお金を支払っても嫌だと断られる場合もあるし、スピード感にも欠けるので、特にレコード会社は嫌がるわけです。せっかく作った楽曲がリリースできないというリスクを孕みますし、あまりにも大金を提示された場合、仮にヒットしてもライセンス料を払うと作った側の取り分がなくなる場合も多い。

ということで、このタイミングでレコード会社から「サンプリングをガッツリやってもいい」と言われたことは、ある意味ご褒美というか、「ここで大きなヒットを出すんだ」という姿勢の表れ、最高の状況だということ。それを彼らも喜び、過去にあ

きらめていたアイデアを復活させてすこぶる心地良いサマーソングを完成させました。RYO-Zくんが「スチャダラパーの名作『サマージャム'95』のように、メロウで涼しいムードの夏の曲を自分たち流に作ってみようとした」という『楽園ベイベー』だったのです。

失楽園ベイベー

ただし、ここから予想外の展開に。いい感じに完成して喜んでいたメンバーを驚かせたのが、フォー・トップスの楽曲が結局使えないという連絡。「なんだよ、いいって言ったからそれで作ったのに！」と文句を言ったとて、作品をリリースすることは決定してしまっています。リリックや歌詞は当然完成している。やむを得ずバックトラックをすべて入れ替えなければ、という追い詰められた状況の中で、FUMIYAさんが3日間スタジオに籠り、その結果生まれたのが、現在我々が知るボサノバ的なあのトラック。完成したとき、FUMIYAさんの髭がボーボーに伸びていたと、RYO-Zくんは微笑みながら回想していました。

結局トラックを最初のゆったりしたバージョンから変え、改めて勢いよくラップし直したその変更が功を奏し、タイムレスなヒットソングに仕上がったのこと。スチャダラパーに呼ばれた幻のバージョンは「失われた楽園ベイベー」「失楽園ベイベー」とメンバーに呼ば

CamScannerでスキャン

TOKIO『AMBITIOUS JAPAN!』

音楽的才能にあふれる"ロッカーズ"と昭和レジェンドたちの融合によって生まれた傑作

2021年4月1日 音楽ナタリー」に掲載

TOKIO（トキオ）1990年結成。'94年『LOVE YOU ONLY』でデビュー。'03年に発表したシングル「AMBITIOUS JAPAN!」は、JR東海のキャンペーンソングとして'23年まで使用された。その後、メンバーの脱退などを重ねながらも活動を継続している。

90年代にデビューした同世代グループたちのTOKIOへのインタビューした同世代グループたち

2003年10月にリリースされたTOKIO通算28作目のシングル曲『AMBITIOUS JAPAN!』は、彼らにとって3曲目の、デビュー曲『LOVE YOU ONLY』は、オリコンランキングで首位を獲得した曲になりました。ちなみに、今もなお愛される彼らのデビュー曲『LOVE YOU ONLY』は、その国民的浸透度から意外に思える最高3位。2001年5月に発売され、首位に上り詰めた『メッセージ

CamScannerでスキャン

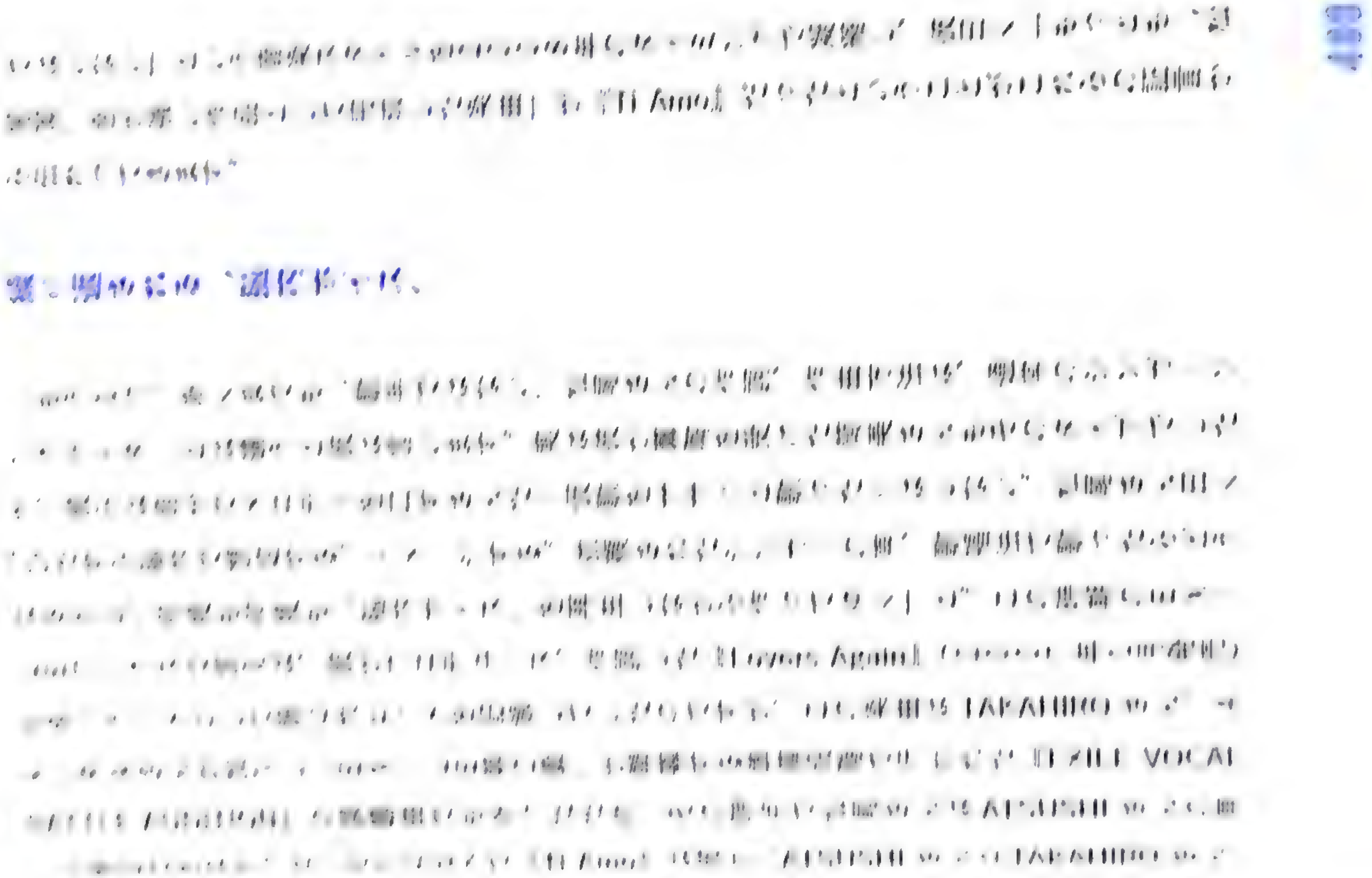
／ひとりぼっちのハブラシ』までのデビューから6年8カ月の間、TOKIOのシングルチャート最高位は2位に留まっていました。

1990年代はヒップホップ、ダンスミュージックの勢いがアイドル音楽の世界にも波及。エンターテインメントの実戦教育を受けてデビューした群雄割拠の天才たちは、それぞれのメンバーが持つ個性を生かす〝打ち出し方〟や〝時代にフィットした音楽性〟を探求し、その才能を爆発させていました。

TOKIOには3つの特徴がある！

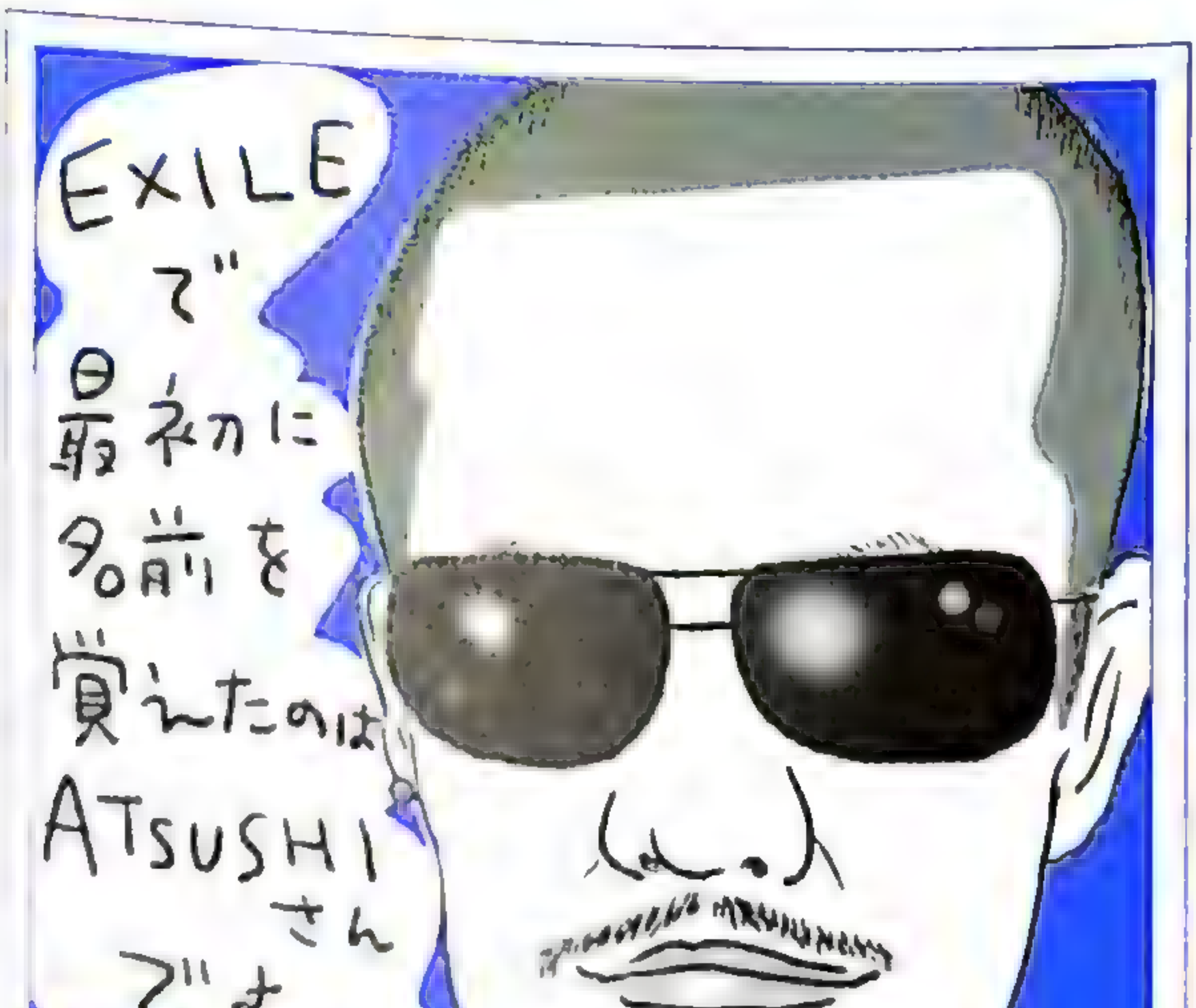
さて、TOKIOがほかの同世代グループと違うポイントは、3つあると僕は思っています。まず始めは、彼らが〝楽器を演奏するバンド〟だったということ。ボーカルおよびギター、ドラム、ベース、キーボードとそれぞれのパートがある。楽曲の中で歌割りは縦横無尽に交錯しますが、絶対的センター、フロントマンが最年少の長瀬さんであることはデビュー時から変わっていません。これはある意味珍しいことです。ジャニーズでバンドと言えば、TOKIO以外に、ベースの高橋和也（旧芸名・一也）さん、ギターの成田昭

CamScannerでスキャン



2人の個性的な声を同時に脳内で再生しながら作ることができた初めての曲、という鮮なコラボレーションとなったわけです。

「もしもほかの歌手が歌うことを想定するなら、平井さんが歌うことをるかもしれないね」と松尾さんがおっしゃったことは、彼のプロデュースワークのたようで、イントロデュースワークの秘密に触れありました。つまり、僕もそうなのですが、〝ジンガー〟とピュアーとしての快感がしてもある種、歌い手としての本能的な心地良さで歌い切ることで簡単に満足してしまう危険性がある。達者なギタリストやピアニストが弾く流麗なソロも同じように思います。テクニカルで上手いから、それなりの形がナチュラルに流れるようにできてしまう。しかし、松尾さんは実際に歌わないからこそ、〝脳内ボイス〟を繰り返し再生することで、どこまでも作品と一定の距



誰を傍ら、冷徹に職人として最適な答えを探し出そうとする。

何よりキャリアを重ねた百戦錬磨のメンバーと、新加入の若い世代の新鮮さが混じり合い、完全なる上昇軌道に乗っていた２００８年のＥＸＩＬＥが大人の男性の魅力を全方位的に振り撒けるグループであったことが最大のポイントだとは思いますが、パフォーマンスと楽曲、個々のパーソナリティの完璧なコンビネーション、愛と計算とフレッシュさの奇跡的な最高沸点があの曲には存在する。

『Ｉ Ａｍ』は既にタイムレスなクラシックとなり、玉置浩二さん、徳永英明さん、久保田利伸さんらにもカバーされるなど、多くの歌手から愛されています。この〝ムード歌謡的なラテングルーヴに満ちた、ビビッドでありながらどこか懐かしい〟ゼロ年代を代表する名曲は、これからも、多くの人々に歌い継がれていくことでしょう。

CamScannerでスキャン

V6

「Sexy Honey Bunny」

愛がすべて、それ以上は…

V6は永遠です！

を全員と交わさせてもらった最終でした。

corin.さんともよく話すんですが、「最のこれまでの「職業音楽家」人生でいちばんエキサイティングだった瞬間は、「Sexy Honey. Bunny!」のレコーディングだったな、と。ちょうど2回目のコロナ禍の現在のように、10年前の日本も混迷の中にあり、メディアも「絆」「連帯」などのメッセージを全面に押し出し続けていました。そんな時でしたから、V6のシングル曲に選ばれたメロディとトラックのデモテープが、作詞を依頼された際に届いた時も「シリアスで癒やしを求める人を元気づけるバラードだ」と勝手に思っていたんですよね。だし、聴いてみると悪ノリ感にギャッチーな、ーりの80年代のデッド・オア・アライヴを彷彿させる淫靡なディスコ三昧な

しまいました。

でくださるようなものになったんだ」と。

たんです。

ンバーが一人ひとりにあてたものをつくられたその集大成でもあります。

今回で、愛、三方鏡文の重奏でハーモを構築してくれた「BRUTUS」ならこその伝説ある盟友でありながら完璧でした。すべてにファンクションしていこまず、重要からの携わることができ、作詞を依頼された際もイメージ通りの楽曲に届いた時からも、作詞を依頼された際にキャッチーの世界観をイメージ通りに表現してくれる

Negicco

『Melody Palette』

アラサーの Negicco が突入する
前人未踏の領域。

今年結成16周年（！）を迎えた新潟在住の3人組女性アイドルグループ〈Negicco〉のデュースの新曲「I Love Your Love」を久しぶりにプロデュースしました。

Negicco といえば、なによりメインプロデューサーの connie さんが生み出す楽曲のクオリティの高さに定評がありますね。connie さんは、一時期は東京で生活していたアイドルマニアのサラリーマン。地元・新潟に帰り就職した頃、偶然 Negicco の最初のライブを観てファンになったそう。イベントに通うたび、あまりにも彼女たちが同じ曲を歌い続けているのを見かねて、あくまでもファンとして曲を「プレゼント」したことから感謝されてプレイヤーに。1990年代J-POPに傾倒した彼のポップでキャッチーな楽曲群は、

CamScannerでスキャン

Negiccoの代名詞となりました。

6年半前、僕の作品のファンだというconnieさんから依頼されてプロデュースした「愛のタワー・オブ・ラヴ」という楽曲は、テンポがBPM122という、当時のアイドルソングにしては遅いテンポでしたが。ディスコやダンスミュージックでは一番気持ち良いテンポなんですよ。そのはかなさが素晴らしいフェスなどで見ていても当時の女子アイドルは異常な高速、情報過多のタテノリ楽曲ばかりで似たような印象だったので逆に振ってみたんです。次に関わった「ときめきのヘッドライナー」は、作詞がジェーン・スー、僕が作曲とアロデュースを担当。演奏はノーリーツス。僕がアイドル作家として尊敬する飛鳥涼さんが書いた光GENJI「勇気100%」にインスパイアされた、バラードがスタートの定番に。

僕はその後も、たくさんの女子アイドルの仕事をしましたでも解散してしまったりメンバーが大幅に代わったグループもあって。切ないんですよ。そのはかなさが素晴らしさでもあるんですが。

再始動シングルで、Negiccoは、メンバー2人が30代に。前人未到の「現在進行形女子アイドル・ヴォーカル・グループ」となりました。僕からの、Negiccoはもちろん、歌い踊ることから卒業していった女子アイドルたちに捧げるダンス・チューン。ストリーミングでも聴けるのでぜひ。

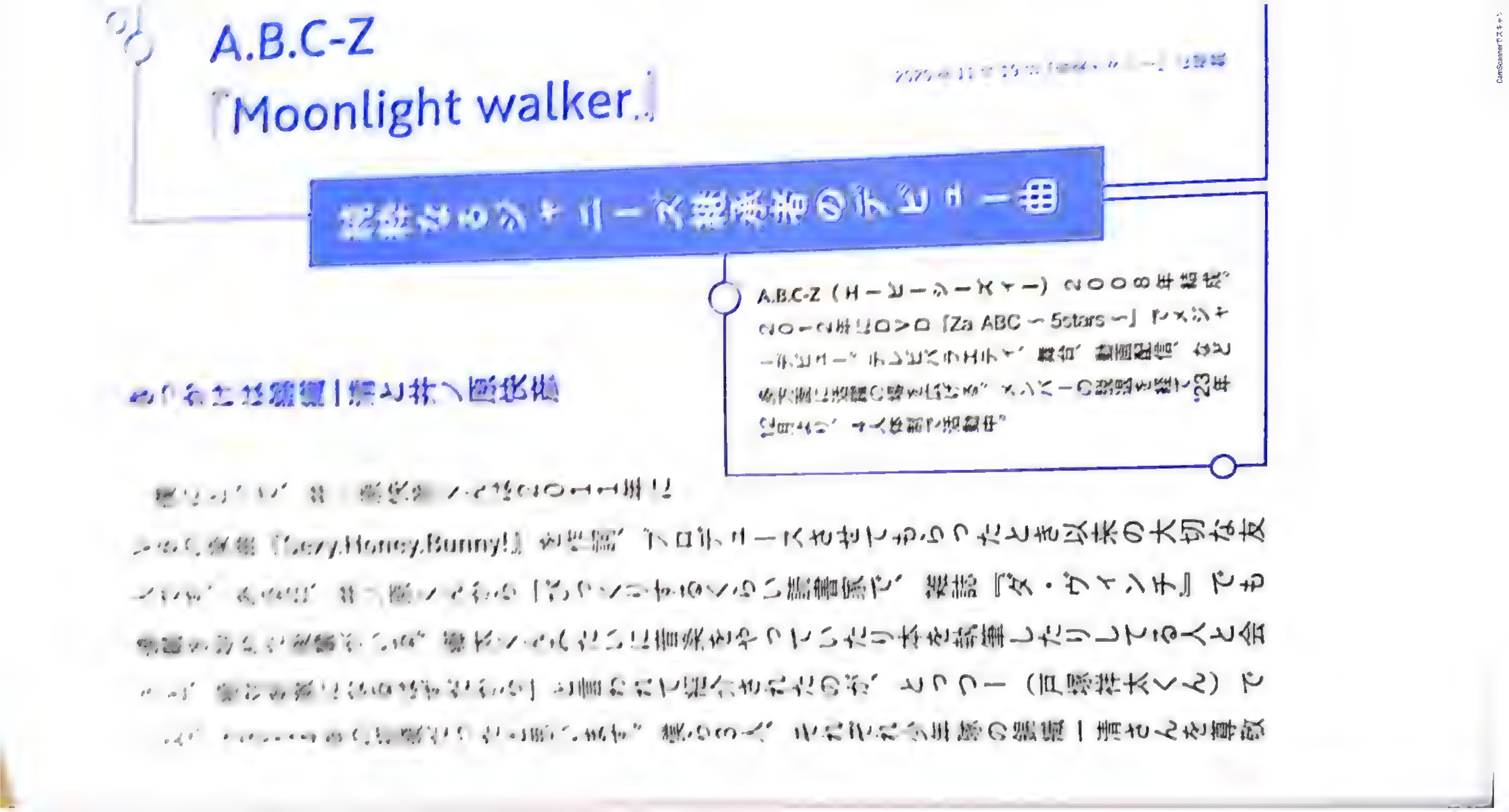
（構成：いのうえゆきひろ）

CamScannerでスキャン

A.B.C-Z
『Moonlight walker』

一冊ごとの独特なストーリー性溢れる物語

A.B.C-Z（エービーシーズィー）2008年結成、2010年に「Za ABC ～5stars～」メンバー5人でデビュー。ジャニーズJr.内ユニットとして、数々の舞台に出演。2023年には、デビュー15周年を迎える。



しているということもあって、すぐに打ち解けて盛り上がりました。

A.B.C-Z と僕の仕事はその後、濃密なものに発展していきます。演出を手がけた『A New Musical 『JAM TOWN』』という舞台が、2016年1月13日から30日まで行われました。僕が音楽を担当することになり、とっつーと仲良くなったのは、そのための準備をしていた頃でした。その間とっつーも「めちゃくちゃ楽しみです！」と言ってくれていたんですが、ちょうど『JAM TOWN』が上演されている期間に、A.B.C-Z も出演した舞台『JOHNNYS' World』の日程が丸々重なっていて。その翌日から別の舞台の稽古がスタートすると聞いたので、無理かなと思っていたんです。でも、『JOHNNYS' World』の最終日が昼公演で終わるということで、当日夜の『JAM TOWN』に、仕事のあった橋本良亮くん以外のメンバー4人が横浜まで駆けつけてくれたんです。終演後に、僕と錦織さんがいた部屋に4人が挨拶しに来てくれましたね。錦織さんが原案および演出を手がけたKAAT神奈川芸術劇場『JAM TOWN』という舞台がスタートしました。僕が音楽を担当することになり、とっつーも「めちゃくちゃ楽しみです！」と言ってくれていたんですが、ちょうど『JAM TOWN』が上演されている期間に、A.B.C-Z も出演した舞台『JOHNNYS' World』の日程が丸々重なっていて。その翌日から別の舞台の稽古がスタートすると聞いたので、無理かなと思っていたんです。でも、『JAM TOWN』の最終日が昼公演で終わるということで、当日夜の『JAM TOWN』に、仕事のあった橋本良亮くん以外のメンバー4人が横浜まで駆けつけてくれたんです。終演後に、僕と錦織さんがいた部屋に4人が挨拶しに来てくれましたね。錦織さんが錦織さんに「こんなカッコいい舞台、どうやったら作れるの？」と聞いていました。その瞬間、錦織さんが後ろにいた僕にクイッと顔をやって「音楽なら郷太に頼めばできるよ」と答えたんです。そしたら河合くんがクルってクーンして、僕に頭を下げながら「ぜひお願いします！」と言ってくれたんです。驚きましたね。そんな流れで実現した舞台が、2016年秋に日生劇場で行われた『A B C座2016 株式会社応援

CamScannerでスキャン

コロナ禍で見たジャニーズの底力

2020年、その舞台を原案として、ジャニーズタイトルで、ハロー!

だのニ∞ン と階口す。て

CamScannerでスキャン

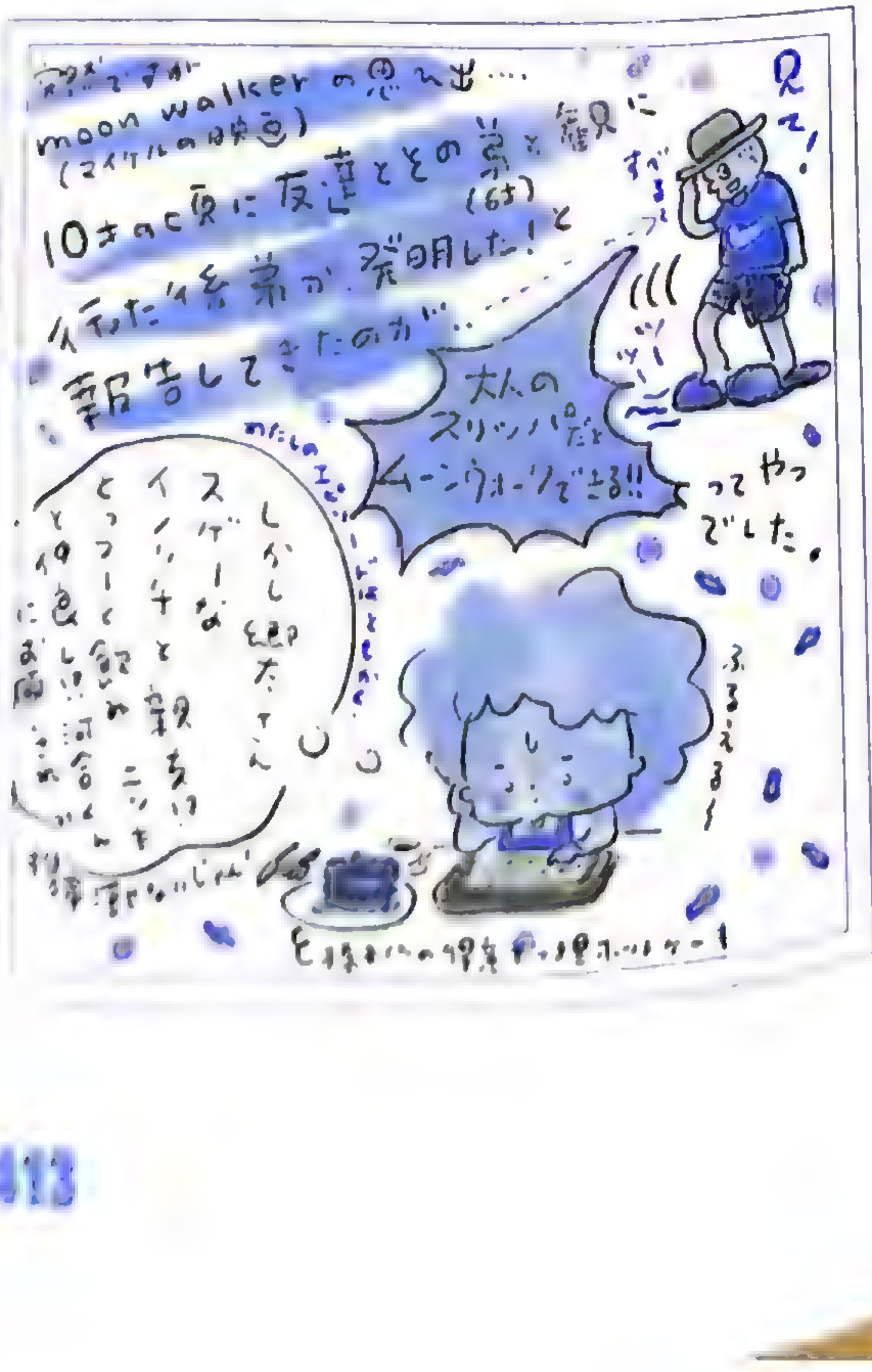
主演映画も公開されました。実はその映画、本当に一瞬だけですけど、僕も出演しているんです（笑）。昨年の僕の誕生日11月27日に、早朝4時起きでロケ地に行き、メンバーのサプライズを仕掛ける、という企画が持ち上がったんですよね。ただ、実際ロケバスに乗って衣装に着替えて、役になりきったつもりで撮影に挑んでみると、むしろ「なんで？急に太さん来るの？」とキョトンとしていたので、失敗な気もしました（笑）。衣装と役柄のせいか、気付かない人もいて、ＳＮＳの反応を見てても面白かったです（笑）。その映画の設定の前日譚が、さらに２０２０年10月に『ＡＢＣ座２０２０ オレたち応援屋!! Ｏコ Stage』という タイトルで舞台にもなりました。２０２０年版の映画も舞台も、僕自身は脚本などには関わっていないのですが、日本青年館ホールで行われた『ＡＢＣ座２０２０ オレたち応援屋!! Ｏコ Stage』に関しては、テーマ曲『チカラノアリカ』を依頼されたので、この夏、全力で作らせてもらいました。

アレンジを船山基紀さんが担当してくださるということを知って僕が歓喜したのは、言うまでもありません。凄腕ミュージシャンが結集し、ストリングスやホーン隊もフルでレコーディング参加したスーパーゴージャスなサウンド！ コロナ禍でもできる限りのエンタテインメントを生み出し続ける事務所の底力を感じ、レコーディングスタジオでは譜面を目で追いかけながら涙を流しそうになりました。今年、稽古を含め演劇公演を開催するのは苦労ばかりだった

■再価値化AIGスーパーヒーローの誕生へ『Moonlight walker』

■■■

入るとっつーと河合くんによる「What's your name?」のセリフは、メンバーに直接聞いたところによると、現場で「何か引っ掛かりが欲しい」と生まれたアイデアだそう。「What's your name?」と言えば、『Moonlight walker』と同じく馬飼野さんが作曲をされ、『まいったネ今夜』の回で取り上げた天才ソングライター・宮下智さんが作詞された少年隊の名曲。そのワードのセレクトから、事務所の伝統の継承者・A.B.C-Zに対する期待を強く感じました。〝船山アレンジの真骨頂ここにあり〟という間奏のスリリングで流麗なストリングスと、アタックの強いホーンのフレーズ！　アウトロもまるで1本の大作映画を観たかのような余韻を残す重厚感に満ちた響き。いかにコンピュータのプログラミングのみで生まれる、シンプルで素晴らしい音楽が現代にあったとしても、20世紀を制した巨人たちによる、〝匠の集大成〟と言うべき楽曲のスケールを知ると、演奏者の



CamScannerでスキャン

A.B.C-Z は大人っぽい曲が似合う？

A.B.C-Z のニューシングルでは、夏の雰囲気・雰囲気満々で、ポップで爽やかなイメージですが、今までの夏曲とは違うような気がします。

戸塚　今までの夏曲は大人っぽい曲が多かったので、「Fantastic Ride!」も最高。僕はどうしても少年隊を軸とする事務所の伝統を踏襲されたスタイルが好きなんです。なので、A.B.C-Z には少年隊と共にお仕事をさせていただいたような、少し大人っぽいムードの『仮面舞踏会』、『ABC』、『だれったいね』のような楽曲が似合うなあ、と思いますし、自分がそういう楽曲は大切にしていきたいと思っています。

橋本　僕はどうしても少年隊を軸とする事務所の伝統を踏襲されたスタイルが好きなんです。なので、A.B.C-Z には少年隊と共にお仕事をさせていただいたような、少し大人っぽいムードの『仮面舞踏会』、『ABC』、『だれったいね』のような楽曲が似合うなあ、と思いますし、自分がそういう楽曲は大切にしていきたいと思っています。

河合　僕はどうしても少年隊を軸とする事務所の伝統を踏襲されたスタイルが好きなんです。なので、A.B.C-Z には少年隊と共にお仕事をさせていただいたような、少し大人っぽいムードの『仮面舞踏会』、『ABC』、『だれったいね』のような楽曲が似合うなあ、と思いますし、自分がそういう楽曲は大切にしていきたいと思っています。

塚田　僕はどうしても少年隊を軸とする事務所の伝統を踏襲されたスタイルが好きなんです。なので、A.B.C-Z には少年隊と共にお仕事をさせていただいたような、少し大人っぽいムードの『仮面舞踏会』、『ABC』、『だれったいね』のような楽曲が似合うなあ、と思いますし、自分がそういう楽曲は大切にしていきたいと思っています。

戸塚　

ドボーカ
打ち上げな
そういう事
岡島一くん
ん。と密か
が来て。最
ですね（笑
にしてくれ
くれたり（

CamScannerでスキャン

レキシ

『Vキシ』

レキシ池ちゃんが授ける
「レキシネーム」は歴史に残る発明。

21年前。はじめて僕のバンドがインディーズCDを出した時、タワレコ渋谷店で一緒に発売イベントを組まれた相手がSUPER BUTTER DOGでした。バタードッグがバンドの活動を休止した2000年代。圧倒的な歌唱力と音楽的運動神経を誇ったフロントマンの永積タカシ君が、ハナレグミとしてソロ活動の幅を広げます。並行するように鍵盤とMCを担当し、秘密兵器、スポークスマン的な存在だった池田「池ちゃん」貴史君が「レキシ」なるプロジェクトを本格化させていきました。ちなみに僕は17、8年前にクラブイベントで初期の「レキシ」ライブを観て大絶賛したんですが、その時池ちゃんに「俺は世界史全然知らないから、郷太はセカイシやれば？」と言われました。当時はそれくらいの

CamScannerでスキャン

経さだったんです（笑）。

バンド休止後の混迷する時期に、池ちゃんの才能を見出したのはいとうせいこうさん。タモリさんにおける赤塚不二夫さんのような存在だと僕は思ってます。レキシがすごいのは椎名林檎さん、松たか子さん、桑基博さんなど多彩なゲストにレキシネームなる名前をつけたこと。ビジネスの発想なら有名な「名前」を出した方がメディアで広まりやすい。でも、そこを敢えて別名（例えば松たか子さんなら「ファミリー感覚」と「フレッシュさ」を同時に成り立たせています。まさに「歴史」に残る発明家。それが池田貴史な今は教えなの一員になれるという大転換。

池ちゃんの敬愛するファンカデリック、アース・ウィンド&ファイア、そして日本でもクレイジーキャッツ、ドリフターズ、米米

CLUBなど圧倒的なパーティーバンドは古今東西、大人数での迫力あるパフォーマンスを武器にします。が、必ず訪れるのが「飽き」なんです。お客ではなく、毎晩同じ編成で同じ楽曲をステージで繰り返す演者の誰かが飽きてしまう。

レキシはソロでありながら、無数のレキシネームを持つ猛者たちを入れ替え続けることで「ファミリー感覚」と「フレッシュさ」を同時に成り立たせています。まさに「歴史」に残る発明家。それが池田貴史なのです。

だいぶ前に「郷太につけたけど今は教えない」と言われたレキシネーム、教えてほしいいい！

Suchmos
『VOLT-AGE』

安易な共感や参加を省いた Suchmos のすごみ。

今、小学3年生の息子がサッカーに没頭していますゥ。息子の試合を応援するうちに自分も改めてサッカーにどハマりしてしまいましたゥ。ちなみに僕はサッカー部出身。強豪チームに所属し、補欠ですが中学2年生の時には全国大会も経験、その頃からデータ分析が好きでゥ。今回の「W杯」も全試合ノートを記録しながら観続けました。

繰り返し聴いたのがNHKのテーマ曲、Suchmosの「VOLT-AGE」。正直、最初は日本のテレビ・タイアップのスポーツ応援曲の中では異色な、ゆったりとしたテンポとコール・アンド・レスポンスを拒絶した構造に「え?」と、思ったんです。やはり初見視聴者のエネルギーの高揚を音楽が煽り、番組の温度を意図的に高める過剰な作りをクライア

CamScannerでスキャン

ントが希望することが多いので。僕も音楽業界で生きるうちに変に慣らされてしまったのかもしれません。実際、民放では「オー！」などの観客参加を前提とした化学調味料バリバリのテーマ曲が採用されていました。

しばらく聴くうちに僕はSuchmosが「安易な共感、参加を意図的に省いた」そのすごみに素直に感動し始めたんです。旧態依然と縦ノリのテンポか、逆に理詰めの超速い繰り返しで数学的な感動をもたらすバラードしか理解できない人が多い日本を、彼らは本気で変えようとしている、と。

歌詞担当のYONCEさん自身がサッカーマニアで、ギタリストのTAIKINGさんが、元日本代表の戸塚哲也さんを父に持つ、という環境もあるのかもしれません。サッカー自体がもたらす感動や興奮、熱狂を感じている気がするんですよね。無粋な化学調味料はいらない、と。

人は完全に集中した時、時間がゆっくりと流れるような気分に陥るもの。90年代のドラムンベース的にテンポの解釈が速くなり、またサビで遅くなるアレンジはその「集中」の領域を上手く表現してますし、「弾む星の音」というフレーズも素晴らしい。世界中から勝ち残り集まった「国」「選手」、どこに弾むかわからない「ボール」の存在をそれぞれ一星（スター）」になぞらえる詩の描き過ぎない美しさ。（今更だけど）Suchmos最高！

（『ENTERTAINMENT』2018年5月1日号掲載）

CamScannerでスキャン

ラストアイドル

『好きで好きでしょうがない』

アイドルになるには なにより「運」が大事です。

昨年夏、秋元康さんがテレビ朝日と立ち上げたオーディション番組『ラストアイドル』のPRにお笑いタレントのニャン子クラブ）から、現在の48グループ、坂道シリーズまで、女子アイドルの歴史を牽引されてきた秋元さんの仕事術を知れるチャンスと思い、引き受けました。

当初のルールは挑戦者が暫定メンバーから1人を「指名」して一騎打ち、勝ち残った7人のみがデビューできるというもの。勝敗が1人の審査員に委ねられるのもポイントで、多数決ではないことが秋元さんの狙いだったそう。

実際、ほかの3人と違う判定を下したギュウゾウさんや吉田豪さんはSNSで叩かれ、大炎上していました(笑)。でも豪さんが落と

CamScannerでスキャン

したことから、長月翠さんというスターが生まれたりもして。

僕は、アイドルって何より「運」が大切だと思ってるんです。顔が可愛く、スタイルが良く生まれたこと、それだけでまず運がいい。ただしその上で大切なのは、事務所選びや、企画や仲間との出会いのタイミング。でも不条理な世界の中で押し寄せる不幸やピンチ、混乱の中でこそ垣間見える、その子自身の輝きをファンの方々はきちんと見ています。そして、応援する！　押し付けでない「秘宝探し」にこそ醍醐味があるんだなぁ、と今回に少しだけ関わり勉強することばかりです。

秋元さんは、自分のセンサーを持ち込まず、自分のセンサーを様々な試

線の中で表出させていく。番組収録のステージ裏で初めて秋元さんにお会いした時「これ、落ちた子の方が人気出ますよね？」と僕に話しかけてこられました。最初のアイデアにこだわらない姿勢に感きましたが、言葉通り即座に当初の「7人のみデビュー案」は撤回。現在1期生は22人で活動し、5つのユニットに分かれ切磋琢磨しています。

先日、1年ぶりに審査員として参加すると、各ユニットによるシングル表題曲をかけた戦いが……。ゼロの状態を知っているので成長に本気で感動しちゃって（笑）。

秋元ワークスでは「真っ赤な自転車」と「Everyday、カチューシャ」、今回の「好きで好きでしょうがない」が個人的ベスト3です！

（『BRUTUS』2018年10月1日号掲載）

CamScannerでスキャン

A.B.C.-Z

『Black Sugar』

少年隊から A.B.C-Z へと受け継がれた曲の奇跡。

映画『ボクらのハミアン・ラプソディ』でもハイライトとなった『ライブ・エイド』が開催されたのは、1985年。同じ年の12月、当時の常識では前例がないほど長い下積みの末、ジャニーズ事務所からデビューしたグループが少年隊でした。

錦織一清、東山紀之、植草克秀。3人の個性豊かでエネルギッシュな声質が入り乱れるボーカルと、海外進出も視野に入れたグルーヴに満ちたダンスは、デビュー曲「仮面舞踏会」の時点で完成されていました。

それから16年後の春。27歳の僕は、ラジオ出演のために訪れた虎ノ門のスタジオで、千供の頃から大ファンだった錦織一清さんに然お会いする幸運に恵まれました。

そこからの縁で、青山劇場で毎年開催され

CamScannerでスキャン

ていた伝統あるミュージカル『PLAYZONE
〈プレゾン〉』のテーマ曲「プリマヴェラ〜
熱の女神〜」の作詞を担当させてもらうこと
に。次こそ「作詞、作曲両方任せてもらいた
い」と願った僕が、ひそかに少年隊のシング
ルに、と1番の歌詞とサビまでのデモを用意
したのが「ONE MORE KISS」という楽曲。

錦織さんとは電話番号をその日初に交換
「郷太、絶対電話かけてこいよな、一緒に仕事
うぜ」とおっしゃっていただいたんですが、
僕は1桁の数字を間違えて登録……。そこか
ら10年以上経って、雑誌の対談でようやく錦
織さんと再会。そこで、連絡が取れなかった
原因がようやく判明。

2016年秋、日生劇場で行われたジャ
ニーズ事務所の後輩グループ、A.B.C-Zの舞
台『株式会社応援屋!!』ONE MORE KISSの演
出を錦織さんが手がけられ、僕が脚本と音楽
を担当することに。その時、錦織さんの承諾を
得て、少年隊のために15年前に用意していた
「ONE MORE KISS」の2番の詞をA.B.C-Z
のために書き足したんです。

3月27日に発売されたA.B.C-Zのシング
ル「Black Sugar」初回盤Bのカップリン
クで「ONE MORE KISS」が初音源化。メ
ンバー最年長の1人関君が、前述の2001年
少年隊プレゾンで僕が作詞した「プリマヴェ
ラ」を踊っていたことを後々知りました。こ
の曲の作品化までにかかった年月、電話番号
登録ミスすらも何か奇跡のようなものを感じ
てしまいます。

（「SPUTNIK」2019年4月15日号掲載）

CamScannerでスキャン

凪

Turning Up

CamScanner でスキャン

CamScanner でスキャン

までの1年間、東京オリンピックによって日本に注目が集まるはずの夏に向けて、英語と日本語を織り交ぜたボーダレスな楽曲をかなり徹底に計算して発表するという狙いもあったと思うんです。スポーツの祭典と連動してもっともっと日本の楽曲が spotify などを通じてもっと世界に響いた可能性もあるので、その意味でも2020年の東京オリンピックの延期は残念でした。

もう1つ感じたのは、嵐がこの宣言するJ-POPとはそもそもなんぞや、ということ。それは、彼らがこれまでに主演として若干してきたCD文化、テレビ文化の中でのJ-POPではなく、クールJ-POPなのではないでしょうか。「国境を越えて響き、共鳴する2020年代のソングリーミングクール」ビスのように、アンドレアス・カールさんと共にスウェーデン出身。アンドレアスさんは嵐も影響を受けたというバックストリート・ボーイズの『アイ・ウォント・イット・ザット・ウェイ』を世界的に大ヒットさせたのをはじめ、NSYNC、ケイティ・ペリー、ボン・ジョヴィ、セリーヌ・ディオン、リッキー・マーティンなども手がけ、日本でも Sexy Zone、KAT-TUN、室奈美恵さんなど多くのアーティストの作品に携わっています。

一方のエリックさんは、数多くの楽曲をヒットさせている天才ソングライター。彼が作曲を研究して、数多くの楽曲をヒットさせている天才ソングライター。彼が作曲を担当したV6の『D.I.S.』という楽曲（2013年のアルバム『Oh!』に収録）で僕も作詞家として共作したことがあります。エリックさんから届いた音

CamScannerでスキャン

源は、既に歌詞以外のトラックとメロディが完成していて、ポップで忠実で、大衆に愛される楽曲とはどういうものかを科学者のようにディを探し求める人という印象でした。1980年代のMTVにみは、僕にとっても生理的に自然なので、歌詞もめちゃくちゃ書きやすかったです。

音楽輸出大国・スウェーデンを中心とする北欧のプロデューサーが"トラックメイク&フックとも呼ばれる、大人数での役割分担および共同制作で、2010年代にアメリカのみならず、K-POP、J-POPも含め、世界中のヒット曲を多く生み出したことは、僕以外の論者も指摘しているところだと思うので省きます。が、この「Turning Up」に関しては、ともかくシンプルでキャッチーな曲をどんどん作ってみよう!という"ヒット曲製造工場"的なイメージよりもアンドレアスさんとエリックさんの、嵐に対する、そしてJ-POPに対する独特の愛情を感じるんです。前にも触れましたが、僕はNetflixで配信されている嵐のドキュメンタリー番組『ARASHI's Diary -Voyage-』を必ず観ていて。その中で松本潤さんが、YouTubeの音楽部門の責任者に会うために二ューヨークまで飛んで、「嵐の楽曲を世界中の人たちに聞いてもらうにはどうすべきか」を話し合っているシーンがあるんですね。活動休止が決まり、嵐さんの楽曲を聞けるのは今だけという状況で、絶対にやりたいことを考えたときに、東出昌大さんというバッドストーリー・ボーイズや、共演者の人たちを取りながらライブを観ていたい

CamScannerでスキャン

…受けたという、彼と同い年のジャスティン・ティンバーレイクも所属したNSYNCに…、「グループについては嵐全員が好き」とは思うのですが……。彼らにオファーすることを決断し、その気持ちにJ-POPというキーワードを出したのかがめちゃ…が……。作詞はアンドレアスさんとエリックさんのほかに Rusx Ucchino さんと櫻井さんが当されています。これは完全な妄想じゃないかな、と。この4人のうち、誰がJ-POPといううキーワードを出したのかがめちゃ…や気になります。もしも、それがスウェーデンの2人発信であったなら、日本の音楽家と…て〝エモい〟です（笑）。

「待ってましたーっ！」という快楽

僕自身は、言語がジャンルを定義すると思っているので、日本語で歌うのが〝歌謡曲〟だと思っています。それは作り手やボーカリストがどこの国の人間だとかは、ほかの国の音楽と同じように、世界中の音楽家と協力しながら生み出されていく未来はありません。

CamScannerでスキャン

Aメロは、かなり無国籍っぽいもの。もしなんの説明もなくラジオから、相葉雅紀さんの少しハスキーで個性的な声が聞こえるまでは嵐と気付かないかもしれません。サビを越えて、2番Aメロで松本さんが初めて日本語で歌い出したときの「はい、この曲はJ-POPでしたー。そうです、嵐でしたー！」という快楽が凄い（笑）。このあたりの、一度は現地の寿司屋やラーメン屋に行ってしまう、みたいな日本人の心の肝を分かってるとも思いますし、世界中の人にもJ-POPという独特の文化、言葉の響きの面白さを届けるための最善の選択肢のように感じました。カリフォルニアロール的な文化の和洋折衷は、彼らが所属する事務所の伝家の宝刀。ただ、よりモダンに、もっと海外に軸足を移したうえで「最強の日本人アイドルグループとして本当にやるべきことは何か？」と問い続けたことが、休止までの彼らの精力的な活動の原動力になっているのかな？と。

日本人って和食や日本の料理にはもの凄く自信を持っているのに、音楽に関してはどうしても言葉の壁もあり1歩退いてしまっている気がするんですが、ボーダレスになるはずですし、日本人のミュージシャンやアイドル、ソングライクーで、2020年代はもっともっとクメイカーが、スウェーデンの音楽家のように世界中でステップアップを図れるとおもうのでトライしなくちゃいけない。僕も自分自身にそう言い聞かせています。発売したばかりの僕の

CamScannerでスキャン

ソロアルバム『Funkvision』のマスタリングを、ザ・ウィークエンドやフランク・オーシャン、ドレイク、デヴィッド・ボウイを手がけたジョー・ラポルタに依頼したんですが、それも、嵐のチャレンジにミュージシャンの自分も負けてはいられないと思ったからでした。シンボリックな嵐が変わったことで、日本中の音楽家に刺激が伝わる。そう思うと、ここまで大きな野望と実績と共にJ-POPの看板を掲げて大展開を続けてきた嵐が活動休止することには残念な思いが残ります。ただ、日本中から愛されるスーパースターであること、国民的アイドルであることは常人には想像もできないプレッシャー、ストレスとの闘いでもあったはず。数年間それぞれが個人活動をし、何よりゆっくり休んで、いつの日かまたコロナ禍でやり残したことも含め、5人で音楽活動だけでも協力し合ってもらえれば多くの「J-POP」ファンが喜ぶことでしょう。

Vaundy『不可幸力』

この曲でポップスの概念を更新する

2023年6月19日『音楽ナタリー』に掲載

圧倒的支持を獲得するアーティスト

2020年2月後半から世界中を覆ったコロナ・パンデミック。今回の主題となるVaundyさんが混乱のまさに直前、2019年11月にファースト・シングル『不可幸力』を発表したことを改めて知ると、日本の音楽界もこの3年と少しの間に完全に新しく良い方向に舵を切れたんだなあ、と感じます。

現在進行形で圧倒的支持を獲得するアーティスト、シンガーソングライターのヒット曲に関

Vaundy（ヴァウンディ）　作詞作曲、楽曲のアレンジ、アートワークデザイン、映像制作のセルフプロデュースを自身で担当するマルチアーティスト。2019年6月、YouTubeに楽曲を投稿し始める。同年11月にファースト・シングル『東京フラッシュ』を配信リリース。2020年5月にファースト・アルバム『strobo』を発表。以来、令和の音楽シーンをけん引し続けている。

CamScannerでスキャン

おおまかなポップスの基本形

では、ものすごくオーソドックス、少し古めかも知れませんが典型的なポップスの構成パターンを考えてみましょう。

まずイントロ。

そして1番Aメロ（2回重ねる場合も。この部分を〝ヴァース〟とも呼びます）。

1番Bメロ（サビに至る変化の部分、必ず存在するわけではありません）。

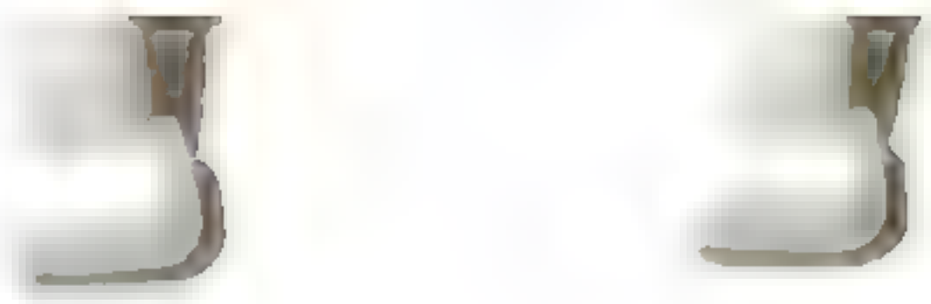
キャッチーなサビ（〝コーラス〟や〝フック〟とも呼びます）。

ここで一旦その楽曲の持つストーリーの説明をひとまず終えたうえで、間奏（イントロと同じ場合が多い）へ。

その後、2番Aメロ（バックコーラスが重なったり、リズムがなくなったり、メロディがフェイク的になったりで雰囲気が少し変わる）、2番Bメロ、サビ。

このあと〝大サビ（この部分を〝ブリッジ〟と呼ぶ場合も）〟などと呼ばれる、新たに盛り上がる別の展開があったり。そのうえでギターや鍵盤のソロを挟み、サビを2回繰り返してフェードアウト、もしくはイントロと同じ形のアウトロに戻って終わり。

CamScannerでスキャン



何気ない顔で戻る「welcome to the dirty night」

サブスクリプションサービスが完全に浸透し、とにかく飽きやすくなってきたリスナーが、スマートフォンですぐに曲を飛ばしてしまうという理由で、できるだけ分数やイントロが短い曲が良しとされる傾向が進んでいる、と言われてきました。とは言え、先ほど述べた90年代の〝サビ頭〟ブームも同じで、結局「音楽に深い興味があるわけではない一般大衆の耳や心をいかに惹きつけるのか？」という命題に試行錯誤しているのは、どの時代も変わらないなとも思います。

改めて『不可幸力』を聴いてみると、驚くのがトータル3分20秒のうちイントロに20秒費やしていること。それもかなりオーソドックスなスタートで、地味か派手かと言えば地味（それが大きな罠となり、次第にリスナーを絡め取っていくのです）。この強気な佇まいがクールです。

メインのリフレインフレーズが4回繰り返されるのですが、1回目はドラムレス、2回目でベースが入って心地良いグルーヴが生まれていきます。唐突にAメロのラムイン、3回目でベースが始まるんですが、この曲全体でラップはここにしか出てこないのがまず最初のポイントですね。ここだけなんです。

40秒ほどに始まるBメロでコードがほんの少しだけ変化します。歪んだエレクトリックピ

CamScannerでスキャン

アノが空間を埋めるようにに鳴り始め、ハ・ハ・ハ・

音数やコード進行、メロディや歌詞の数そのものは多くなくて飽きさせないシンプルなたたずまいですが、その構成や並べ方、予想を外し刺激を与えつつ最終的に安心感まで感じさせるテクニックと天性の勘。繰り返し聴きたくなるマスターピースの誕生が素直に嬉しくて。

嫉妬するほどの才能

『踊り子』（2021年）も素晴らしい。イントロからAメロの間、しばらくドライなドラムと芳醇なベースのみ（ベースの音量が大きいので最初はギターが入っていないのかと思いましたが、すごく小さく歌い始める直前に音響効果的にギターが使われています）というストイックな音像。この音数の少なさ！『踊り子』のポイントはまず、1番でAメロからいきなりサビにいくという唐突さですね。2番になるとAメロのあとに「♪思いを蹴って二人でしてんだ」というBメロ（A'ともいう別のメロディ）が来るんですが、これもまた構成の妙。

アニメ『チェンソーマン』のエンディングテーマになった『CHAINSAW BLOOD』（2022年）を聴いたときも驚きました。イントロの最初に映像的、バイクを想起させるSEがあるだけでマイケル・ジャクソンの大ファンである僕にとって1987年発売のアルバム『BAD』に収録された『スピード・デーモン』を想起して盛り上がってしまいます（笑）。モーター音が効

最初にあげられるおで、最初はマイケルの一今
曲はデュラン・デュラン一や、80年代主流から
曲もアルバトロック……ホン・ジョヴィや、
モトリー・クルーを思い起こさせるTA－
KINGさんが奏でるギターリフから。
ロックの時代は終わった」的な言葉は
何度も聞いてきましたが、この曲の持つ
ハードロック的なギターサウンドだけが
細胞させる、〝広さと快楽〟。それはスタジ
アムなどの大きな会場で演奏し歌ったと
き、恐ろしく盛り上がる効果を彼が知り尽
くしているからなのでしょう。僕のような
80年代育ちのポップフリークはシンクラヴィア
ケンサーで作り上げたようなメタリックな
トにも嬉しくなってしまいます。実はこの
ンド、ここ十数年の間に再評価されてきた80年代初期中期や90年代の音像に比べて、リアル

タウクー

CamScannerでスキャン

イム世代からはずっと「〝おしゃれ〟ではない」とされていた微妙な時期のものなんです。ジャンルごとにもう少し世界が分かれていましたし。ただアニソンやアイドルソング文化、全世代の音楽をYouTubeやストリーミングで自然に浴びた若い世代は、そんな固定概念がそもそもないですから、新たな組み合わせで壁をひょいと越えて、どの世代よりもモダンで〝おしゃれ〟な曲作りができるのだなと。もはや新たな音楽は生まれないなどという言葉が何十年も飛び交う中、構成や組み立て方で新しく素晴らしい作品を生み出せることを短期間で証明したそのオ能たるや！　いいなあ、ズルいなあと心から思っています！（笑）

CamScannerでスキャン

Snow Man 『D.D.D.』

逆・光GENJIのジャニーズ魂を継承

Snow Man（スノーマン）2015年結成。'20年シングル「Imitation Rain/D.D.」でデビュー。ミリオンセラーとなった'20年代のJ-POPシーンをリードする、男性アーティストグループ。

デビュー曲から見えるグループの真髄

「処女作にはその作家のすべてがある」などとよく言われます。特にジャニーズのアイドルグループの"真髄"が秘められ、そのグループの未来まで予感させるすべてが封じ込められている、と思ったり。もちろん、いわゆるアイドル不遇の時代、１９９１年秋に完全な逆風の中デビューして、その後突然変異的に覚醒し、途中から大爆発したＳＭＡＰのような例外もありますが。

僕の場合、プロのミュージシャンになってから特に研究心が高まったこともあり、新しいグループのデビュー曲にこそ、その人たちの未来が詰まっていると思っています。

CamScannerでスキャン

ループのデビュー曲は必ず自分で盤を買って、チェック、考察するようにしてきました。それにより感じることは、〝ポイントは差別化〟ということです。これまでの連載で触れてきた1985年12月発売の少年隊『仮面舞踏会』や、1987年8月リリースの光GENJI『STAR LIGHT』は、個人的に別格、殿堂入りの曲です。これらは分かりやすい例なので、この80年代後半の時期に注目してみましょう。88年に登場した男闘呼組はストリート感のある4人組バンドで、〝ボン・ジョヴィ的〟歌謡ハードロック〟の『DAYBREAK』でデビュー。それぞれのグループの魅力や特性を生かしつつ、ファンがバラけるようにまったく別の仕掛けを施しているのが凄いですよね。

それから10年ほど飛びますが、僕は特に嵐のデビュー曲『A・RA・SHI』が大好きで。彼らがデビューした1999年11月は大興奮でした。『A・RA・SHI』は、今でこそ、日本ポップ史に残るクラシックとして定着してますけど、最初に聴いたときは「何これ!?」と。

また、『A・RA・SHI』と対になっている〝兄弟曲〟がNEWSの『NEWSニッポン』だと思っているんですが、『NEWSニッポン』も大好きでした。ただ、このCDは確かセブン・イレブンでしか買えなくて、レジで注文するのがなぜかめちゃくちゃ恥ずかしかった思い出があります。

また時は飛びまして、2018年春に、King & Princeの『シンデレラガール』を初めて聴

CamScannerでスキャン

いたときも「これはヤバい」と……。特に事務所の伝統を完璧にアップデートしたようなアレンジが素晴らしいので、編曲をしたのが僕と同世代だったり、もっと若い編曲家だったらショックで立ち直れない、なんて思ってクレジットを確認したら〝船山基紀〟と書いてあってホッとしましたよ。というか、船山さん本当に凄いな、と。この本の中で船山さんの話は何回出てくるんでしょうね（笑）。キンプリのCDを買った当時はまだ船山さんにお会いしたことがなかったんですけど、去年、20th Century のディナーショー用にSANABAGUN.の大林亮三（B）と作曲して、僕が作詞した『グレイテスト・ラヴァー』の編曲をお願いすることができて。共同アレンジをさせてもらいました。ミックスは『仮面舞踏会』や『ABC』も手がけた内沼映二さん。内沼さんはノーナの『二十歳の夏（Pts. 1&2）』を2000年にミックスしてもらって以来のご一緒だったので、20年ぶりでした。そんな〝少年隊オリジナルチーム〟の方々と、少年隊への愛に満ちた直属の後輩・坂本（昌行）さん、長野（博）さん、井ノ原（快彦）くんと新しい楽曲を作り上げることができて嬉しかったですね。ともかく何もかも繋がっているんですよね。人も歴史も。

〝ジャニーズ・ゴージャス・王子様ポップ〟とは違う路線

CamScannerでスキャン

そこまでさかのぼって見えてくる、2020年にデビューをしたSnow Man。『D.D.』なんですが、リリース後、すぐにハマりまくって動画を「大丈夫か？」と思うくらい観てます。最初に『D.D.』を聴いたときの印象は、正直「これまでのデビュー曲っぽくないし、とにかく情報量が多いな」と。どうしてもシンプルでゴージャスな〝シンデレラガール〟と対比してしまうので。サウンドもシンセサイザー感バリバリのK-POP的。サビも最初は〝デビュー曲にふさわしい思い切りキャッチーなサビ〟、とまでは思わなかったんですが、ただ聴くたびに癖になるんですよね。個人的には、A.B.C-Zの『A.B.C座2016株式会社応援屋!! ～OH&YEAH!! ～』の舞台で、演出の塚瀬一清さんに指導してもらって振付と音楽を任せてもらったんですが、そのときTravis JapanやMADE、「hey! say! JUMP」といった若い世代のジュニアたちのダンスがキレキレで、驚いたことを思い出しました。当時彼らのダンスに最適されて、劇中歌として『We're Digital Boys』という今たいデジタルビートの曲を作ったりもしたんです。自分でも気に入ってたんですが、大きく書けばその路線でのデビューシングルが生まれてくるとは思っていなかったので、衝撃でした。ただしこれも変さ満載でいくと、最初、80年代から続く〝差別化〟の結果だと思うんですよね。ほかのグループと同じ路線には行かない。『シンデレラガール』をリリースしたKing & Princeが、完全に踊りからの王道〝ジャニーズ・ゴージャス・王子様ポップ〟の楽曲だったとすれば、Snow Manは違う道を行かな

ければ、と。ジャニーズの世界観を忠実に表現した完成形として、直接的な〝親孝行〟をしたその開演にスキルをより磨いていた。そういう回り道をした者だからこそできた〝ツンデレな気がするんですよね。

イズムに感動

僕も最初は気付きませんでしたが、よく聴くと『D.D.』には新しさの中に〝メソッド〟がふんだんに散りばめられていることが伝わってきます。一番のポイントは『D.D.(YouTube ver.)』の間奏2分あたり。光GENJI『STAR LIGHT』、『ガラスの十代』を彷彿とさせる、デジタルパーカッションやクラップの華やかでにぎやかな使い方。これらが遺伝子の繋がりを感じさせて最高なんです。盛り上がらないわけがない。歪んで唸るシンセベースで2010年代初めの韓流的EDMの空気を漂わせつつ、構造的な部分に大舞台やスタジアムで歌い踊ることを前提に育まれてきた〝イズム〟が息付いていることに感動しました。

編成としては、もともと6人組の中に向井康二さん、目黒蓮さん、ラウールさんの3人が加

CamScannerでスキャン

入した、いわば“逆・光GENJー”状態です。光GENJーは、ロサンゼルスオリンピックに合わせて組まれたイーグルスでの活動がなくなった大沢樹生さんと内海光司さんの2人組“光”に、若手5人の“GENJー”が合流して爆発的なスーパーグループになったんですが、そういう上下の世代を混ぜる編成は光GENJーが初めての試みだったように思います。作られたばかりのグループにしかない種の不安定さって、魅力的だと思うんです。キンプリもデビュー前はMr.KingとMr.Princeに分かれて活動していました。20th Century、Coming Century からなるV6以降は、光GENJーで成功した差別化、ライバル関係をグループの中に作るパターンも1つの流れになっています。

個性際立つ9人

Snow Manは全員個性的。特に岩本照さんがダンスの合間に見せるふてぶてしくてアウトローな表情や態度が好きです。サッカー界で言えば本田圭佑さんや中田英寿さんに感じる雰囲気と言いますか。「俺、凄いですけど。は？」みたいな（笑）。カップリングの『Crazy F-Rock』の振り付けは、彼が1時間弱で考えたそう。僕は音楽家ですが、振付師のことを心から尊敬しています。音楽を立体的に把握し、肉体の動きや、視覚、人数を縦横無尽に

CamScannerでスキャン

動かす数学的な頭脳も必要な仕事ですから。よく作曲したりプログラミングしていると「どうやったらそんなことできるんですか?」って聞かれることもありますが、岩本さんに聞きたいですね。「どうやったらあんな凄いの考えられるん?」と(笑)。『Crazy F-R-E-S-H Beat』のダンス動画はYouTubeでも観ることができますし、大人も子供も一瞬で引き込まれるはず。加えて、渡辺翔太さんのボーカルも最高。癖がなく、素直にグルーヴして伸びていく良い声だなあ、と。彼は自分の巧さに酔ってないし、それが素晴らしい。阿部亮平さんは上智大学大学院を卒業した賢さと持ち前のキャラクターのギャップで、バラエティでも注目を浴びていますが、単なるファンですね。僕とcorin.と同じ11月27日生まれということもあり応援してます。

んでプロデュースしたV6の『Sexy.Honey.Bunny!』を、Snow Manが9人組になった1発目さ

CamScannerでスキャン

で歌ってくれたという事実を知ったときは本当に嬉しかったです。

CamScannerでスキャン

PIZZICATO ONE PERSON

『前夜ピチカート・ワン・イン・パースン』

自分自身をボーカリストに選んだ マエストロ小西康陽。

先日亡くなった[illegible]その作三に関わった[illegible]演者として参加していれば[illegible]る一とおっしゃっていた[illegible]督である自分にアイデアをふ[illegible]女優は次に使わない」とも。

演出家でもある少年隊の錦織一清さんから直接伺ったエピソードも忘れられません。若かりし頃、ペテラン俳優・菅原文太さんと共演したとき、最初の撮影シーンで文太さんが熱く煽情的な芝居を完璧に展開したところ、監督から「全然違う。淡々と抑えて」と真逆の指示が。現場に一瞬緊張が走ったけれど、文太さんは静かに「はい」と言いツーテイク目で監督の指示通り演じた、と。

普段はプロデューサー、作詞・作曲家とし

て自分のアイデアを具現化することの多い僕にとって、小西康陽さんがソロプロジェクト〈ピチカート・ワン〉のアルバム『わたくしの二十世紀』（2015年）でシンガーの一人に僕を選び、3曲も歌わせていただいたことは素晴らしい経験でした。このとき、僕が強く意識したのが、冒頭に挙げた武さん、錦織さんの言葉。つまり僕は「歌手」として呼ばれたわけだから指示通り歌おう、と。

結果、シンプルなピアノ演奏を中心に小西さんのディレクションに全身を委ねたこのアルバムでの僕の声は新境地で……。

昨年10月12日に関東を直撃した巨大台風のことを覚えている人は多いでしょう。「コロナ禍」で何カ月もイベントやライブや社会活動が制限され続けることにすっかり慣れてしまった今となっては、甚大な被害をもたらしながらも体感的にはたった1日で終わった公共交通機関のストップ、商店のクローズ、食料を買い込んで家に籠もったあの日の思い出が遠い昔のことに思える、あの台風の「前夜」、六本木ビルボードライブ東京で行われたのが〈ピチカート・ワン〉による唯一の公演でした。このたび、その数週間後に行われた大阪での公演も含めたライブ盤『前夜 ピチカート・ワン・イン・パースン』が発表。マエストロ小西康陽が選んだシンガーは僕自身。今の時代をリアルに切り取り、新人のような瑞々しさで包まれた特別な音楽が真空パックされた傑作です。

（[illegible] 2021年3月号 [illegible]）

BTS
『Dynamite』

に、1980年代のMTVポップスや、90年代前後のダンス・ミュージックに影響を受けたK-POPのサウンド感にいまさら自分との親和性を感じて……。かなり遅いんですけど（苦笑）。

BTSは全員業界歴らしいんですが、特にハイトーン・ボイスのジミンのボーカルに夢中。彼らがマイケル・ジャクソンにオマージュを捧げた衣装を身に纏いパフォーマンスをするたびに、マイケルと親交もあった憧れのミュージカル・ダンサー、フレッド・アステアのかっこよさや遊び心溢れるパフォーマンスを思い出すんです。今、世界中の子供たちがBTSを通じてアステアのダンスやファッションを、黒人のアステアがトリビュートすることに驚き、白人でありながらブラックミュージックを通じてアステアのかっこよさや遊び心溢れるパフォーマンスを思い出すんです。韓国の青

---

*1 1930年代から50年代にかけて活躍したアメリカのミュージカル映画の歴史を塗り替えたダンサー、俳優。

ラミー賞でも初ノミネートと勢いに乗るBTSの躍進は、ソーシャル・ディスタンスの時代にはハグのような密着性の高いパフォーマンスは人種を超えたボーダレスな世界を切り拓いたんです。今、世界中の子供たちがBTSをきっかけに、またさらにマイケルのダンスやファッションや音楽の魅力に触れるというルートが、生まれ

ていることに、感謝と感動しかありません。

（『装苑』2021年2月号）

CamScannerでスキャン

OKAMOTO'S

『Welcome My Friend』

バンドの「楽しさ」を伝え続ける OKAMOTO'S。

音楽家同士が集まったり、パーティやフェス、ライブ会場などで会う機会が減った2020年。そんな中で僕が急速にコミュニケーションを深めているのがOKAMOTO'Sのギタリストでソングライターのオカモトコウキ君です。

もともとは、昨年プロデュースして以来僕を慕ってくれてソングライティング・チームとなったSANABAGUN.のベーシスト大林亮三がつないでくれた仲。亮三とコウキ君は同じ1990年生まれで、僕の17歳下（！）。Spotify公式で僕がパーソナリティを務める番組『GOTOWN Podcast』（毎週更新）にも先日2人で来てくれて、「ステイ・ホーム」期間中にオンラインでやりとりしながら十数曲の新曲を作った話をしてくれました。その

CamScannerでスキャン

OKAMOTO'S ライブツアーファイナル
ニューアルバム「Keep On Running」を
ふんだんにセットリストに組み込んだ
ツアーは、今やオーディエンスが、今やオーディエンスの
ものだ、リーダーからこそ、ボーカルからこそ
ファーストは一曲の歌のうしろでは全員が
かぶせて「合え」、リーダーからこそボーカルの
ものの歌こそ全員が OKAMOTO'S を歌
のこのツアー、二十人のうち全員が、全員
からのうち全員全員のうち「全員」の
区別がつかないこのツアー、今この瞬ツアーの
今全員の全員のうちに「ビハインド全員」からのうちのうちを全員のうち
ツアー

（後半に続く）

「ホントか」全員全員のうち

今全員、セットリストのうちに全員全員からのうち
区別のうち全員全員のうち全員ニュー全員……」の
うちのうち全員全員のうちに「ビハインド全員」全員全員
は区別の全員全員のうち全員全員のうちに全員のうち
ツアー、全員全員からこそ全員のうちのうちに全員のうち
ツアーのうち全員、全員のうちのうちに全員のうち
ツアーのうち全員全員のうち全員のうち全員のうち
ツアーのうち全員全員のうち全員のうち全員のうち
ツアーのうち全員全員のうち全員のうち全員のうち

全員のうち全員全員のうち全員のうち全員のうち
全員のうち全員全員のうち全員のうち全員のうち
全員のうち全員全員のうち全員のうち全員のうち
全員のうち全員全員のうち全員のうち全員のうち

全員全員から「10'S BEST」の全員ニューアルバム
「Welcome My Friend」全員のうち

嵐

『This is 嵐.』

神憑ってる嵐の怒濤の活動は
大晦日まで目が離せない。

2019年1月27日に嵐が活動休止を発表しました際、2020年大晦日までという区切りの（2年）お果てしなく長く感じたものです。活動休止を望んだのはリーダーの大野智さん。最初にメンバーに話したのは2017年6月16日、大阪で5人の仕事があった日の前日だったとのこと。ここから、事務所のスタッフは交えず、5人のみで意見をぶつけ合ったそうですが、そのこと自体が「嵐」というグループの底力、魅力の源泉であると僕は思っています。

活動休止は簡単なように思えて難しい。バンドに比べ、グループに比べ、巨大な存在になればなるほどスタッフやマネージャー、レコード会社や事務所の人間が介在しなければ会話が成り立たなくなるケースも多い。まし

てや国民的グループであり、来る3００万人を実現したファンクラブを誇し、さまざまなCMやレギュラー番組を抱える国つこと。ですから、通常はビジネスライクにならざるを得ないのですが、それぞれ真摯に言うか、言わないか、全員で話し合い、2018年2月に事務所に宣言1年をかけ、前代未聞の約20周年記念コンサートもやり遂げました。

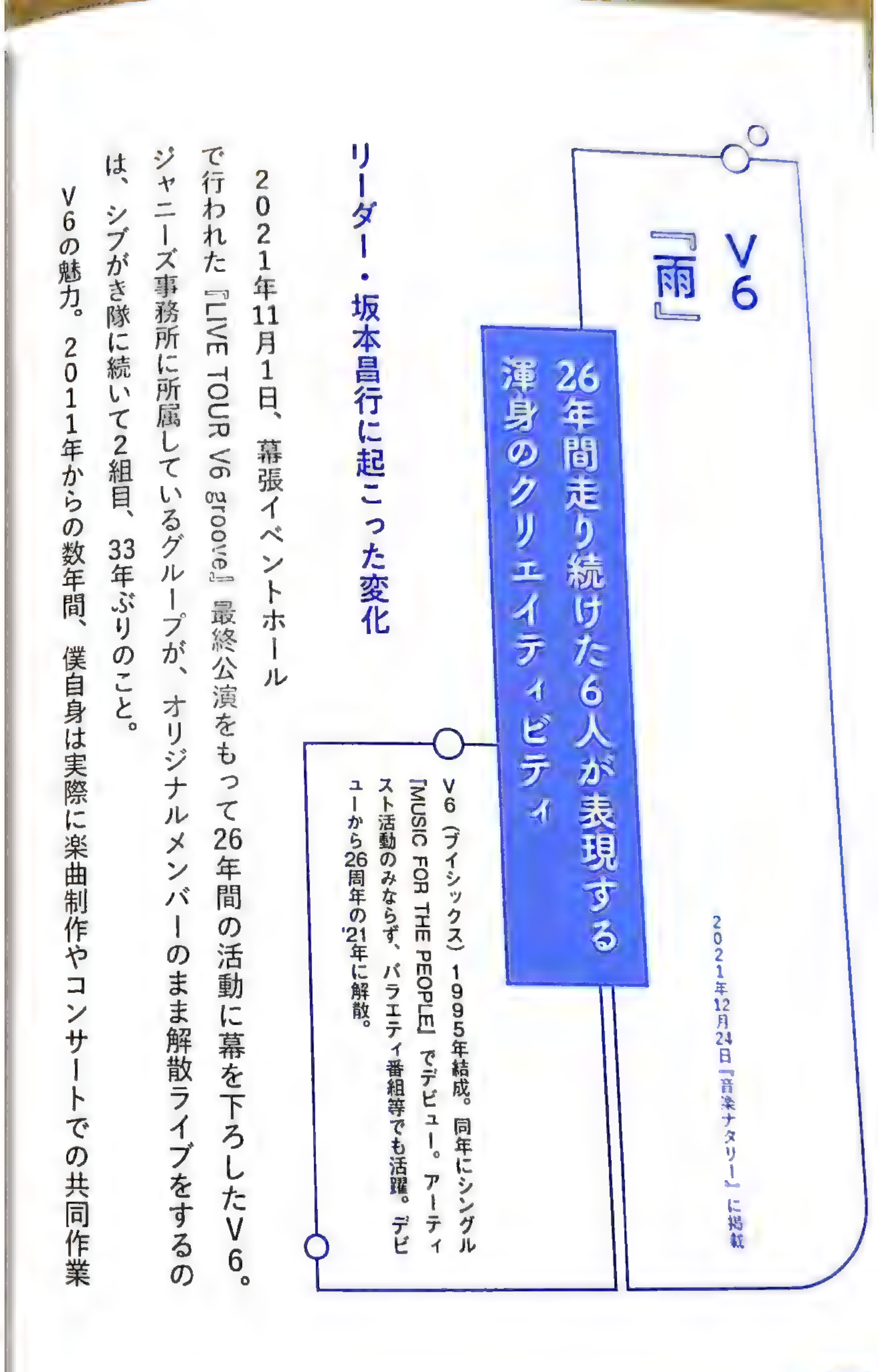
公式発表まで約2,375,000人を動員した2019年11月3日に日本ドームにて「Thirty Million Dreams」と題した新曲「Up！」が、個人的に好きな曲の一つ。

Thirty Million Dreams

Up！

Voyage

CamScannerでスキャン



V6『雨』

26年間走り続けた6人が表現する渾身のクリエイティビティ

リーダー・坂本昌行に起こった変化

2021年11月1日、幕張イベントホールで行われた『LIVE TOUR V6 groove』最終公演をもって26年間の活動に幕を下ろしたV6。ジャニーズ事務所に所属しているグループが、オリジナルメンバーのまま解散ライブをするのは、シブがき隊に続いて2組目、33年ぶりのこと。

V6の魅力。2011年からの数年間、僕自身は実際に楽曲制作やコンサートでの共同作業

V6（ブイシックス）1995年結成。同年にシングル『MUSIC FOR THE PEOPLE』でデビュー。アーティスト活動のみならず、バラエティ番組等でも活躍。デビュー から26周年の'21年に解散。

2021年12月24日『音楽ナタリー』に掲載

CamScannerでスキャン

で6人と接する機会も増えたのですが、メンバーと直で言葉を交わしコミュニケーションを取る中で改めて気が付いたのが、それぞれの役割分担と適度な距離感を保つ優しさ。「ここぞ！」というときに団結し協力する姿勢。特にデビュー当初は「最年長の自分が指揮を執るんだ」と情熱的に年下の3人（森田剛、三宅健、岡田准一）を指導する立場にあったと言われる坂本さんが、時を重ねるごとに、若いメンバーにクリエイティブ面での指揮を任せ、あえて「自分はパフォーマーに徹する」と我々制作陣に対しても客観的かつ柔軟な姿勢をとられるまでに至った変化。「若い人に責任を譲っていく」というその立場の難しさに関しては、僕自身も彼らと〝出会った〟38枚目のシングル『Sexy.Honey.Bunny!』リリース時の2011年から10年を重ねた今になって、気付き感謝することも多くて……。V6は個人活動も多岐にわたるアイデアマンぞろいのグループです。V6が成熟して以降、自らは「何もしていない」とたびたびおっしゃる坂本さんが作り上げた〝新しいリーダー像〟の下だからこそ、彼らは最後の最後まで攻める姿勢を貫き通せたのではないかと思います。

さて。コロナ禍となった25周年イヤーの2020年、彼らはYouTubeでミュージックビデオやライブ映像などさまざまな動画を公開し、ステイホームを強いられたファンを楽しませてくれました。僕の大学時代からの友人のシンガーソングライター・土岐麻子さんが作詞を担当された『PINEAPPLE』は、会えない思いをV6らしいクールネスで包んだ傑作。イスを使っ

CamScannerでスキャン

た印象的な振り付けは、日本が誇るダンサーでこれまた盟友のYOSHIEちゃん。この時期までは、年を重ね、さらなる充実期にある彼らの解散など夢にも思いませんでした。もちろんアニバーサリーイヤーが終われば、また個人活動に重心を移していくのだろうと予想していたのですが。

コンサートに見るストイックなダンディズム

2021年3月12日の16時。突然に告げられた、同年11月1日をもっての解散……。緊急事態宣言下の制約もある中でスタートした最終コーナーまでのカウントダウン。怒涛の日々の中で実現した大きな企画がAmazon Prime Videoでの『V6 LIVE COLLECTION 2007 Voyager－僕と僕らのあしたへ－』から、2020年11月1日、彼らの聖地・国立代々木競技場で行われたデビュー25周年無観客配信ライブ『For the 25th anniversary』までの8作品が解禁。ジャニーズグループを愛するうえで最大の醍醐味が、キラキラと輝く彼らが放つパワーを生で浴びられるコンサートにあることに異論はありませんが、ソールドアウト前提の超人気公演ゆえ、なかなか体感するチャンスがないのが実情です。特に男性の場合、音楽的に彼らの楽曲が好き

CamScannerでスキャン

たったり注目していても、そもそもどうすればチケットを購入できるのか分からない、という理由で、コンサート来体験の人も多いのではないでしょうか。

V6の解散後もニュースは続き、2021年12月10日からは、「LIVE TOUR V6 groove at SAITAMA」も配信！ 一昔前は一見にしかず」というようなわざもありますが、スターからの数曲を観ても、これでVの魅力が伝わるのか？ と思いが通んできた道と、ファンへの熱い思いが伝わるのか？ と思いますが、男たちの結束とストイックなダンスに感動すること保証しますので、ぜひ。

華やかなアイドル像を封印

〝メンバーそれぞれがプロデュースした新曲〟のみで構成されるV6の最後のライブ「LIVE TOUR V6 groove at SAITAMA」（2021年12月発売）。各自が、像がもっとも活動がハイライトの1曲として選ばれ、〝自己プロデュース〟とはいえ、ファンの投票により決定。ここでもV6の絆やファンへの愛が感じられる。

森田剛

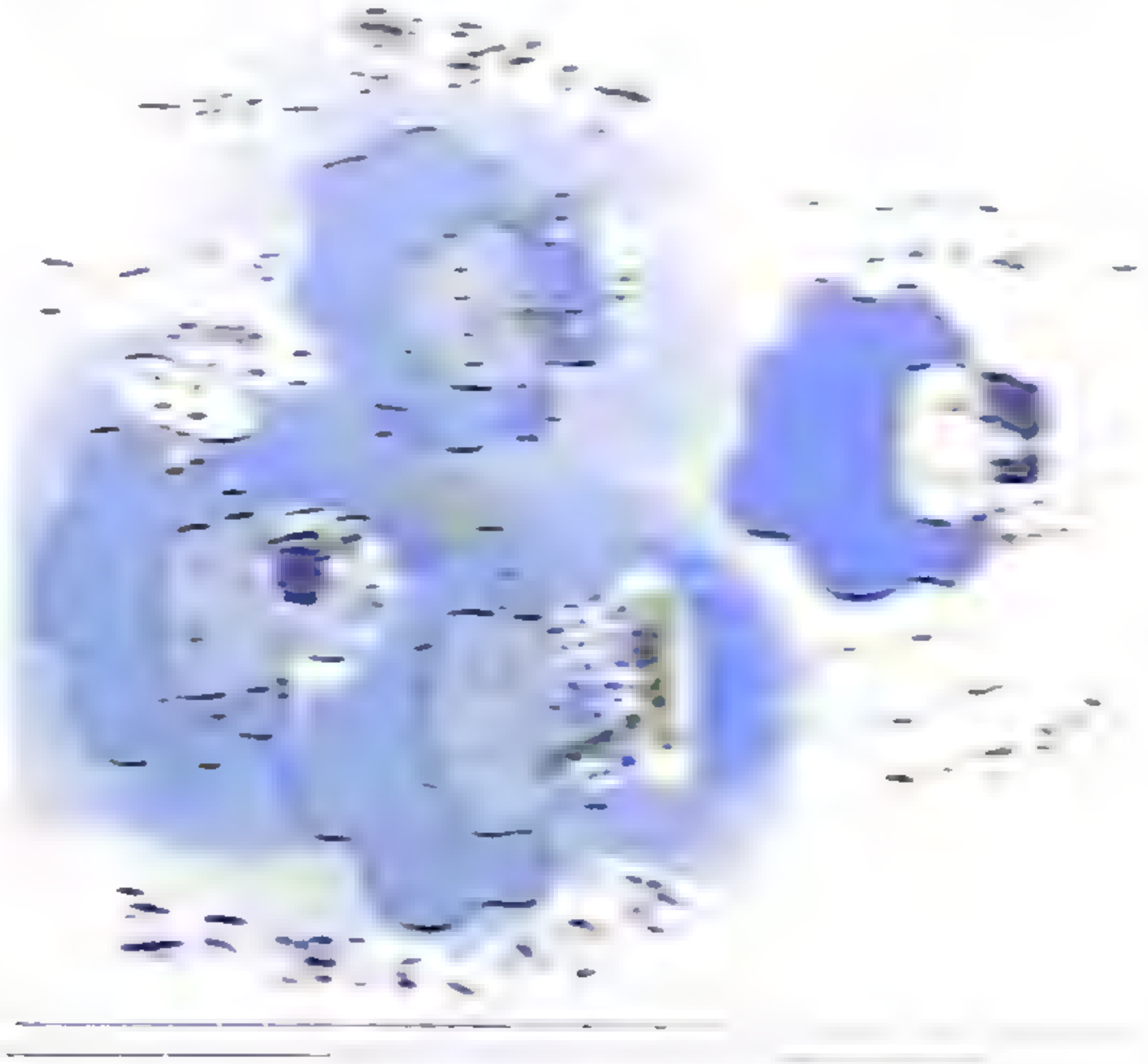
CamScannerでスキャン

少々と登場する6人の凛とした表情。終わりまでのリミットを知り、だからこそ光を放つ〝6としての人生〟。かけがえのない一瞬、1秒を全力で味わおう、分かち合おうとするそれぞれの目に美しき〝闘志〟が宿っていて。

たまに「人生最後に食べる食事は何がいい？」などという質問や、「もし1年後に自分が死ぬとしたならやり残したことは何か」などと考えたりするタイミングがあります。「解散までに何をするか？　何ができるか？」。彼ら6人は、解散を決めてもなお真剣勝負で前進し続けその姿をファンに届ける道を選びました。僕は個人的にジャニーズのグループとは、それぞれ憧れた先輩たちが成し遂げていない〝何か新しい、自分たちだけにしか表現できないエンタテインメントの在り方〟に到達しようと奮闘してきたと考えています。少年隊、光GENJI、SMAP、TOKIOなど、それぞれ独自の個性を持ち光り輝く〝スーパー集団〟の中、V6にしかたどり着けなかった場所がある。その1つのゴール、世界観がYouTubeでも公開された『雨』は、歌詞を構成する言葉や音数自体は少ないけれど、研ぎ澄まされていると思います。

曲中で繰り返される「♪雨」というフレーズが、彼らの心の奥底から発せられる声色と相まって、僕にはだんだんと「アーメン」に聞こえてくるんです。このダブルミーニングは、単なる〝深読み〟かも知れませんが……。古来から伝わる雨乞いの歌から伝わる雨乞いの歌

CamScannerでスキャン



した。しかし、その〝年輪〟がなければ表現できない領域を、彼らはこの1曲だけでも証明してくれています。後輩たちにとっては、また超えなければいけない巨大な壁が生まれたことでしょう。年齢差9歳、全員が40代以上になってここまで輝き続けられるのか？ 6人がそろった瞬間に浮き上がる誇りに満ちた〝V6〟の文字。それを見れば、寂しさ以上に彼らが選んだ未来に対して感謝と祝福の思いがあふれてきます。僕自身の喜びは 20th Century（トニセン）の存続。これからの6人の活動が心から楽しみで仕方ありません。

CamScannerでスキャン

特別対談

佐野元春×西寺郷太

時代の寵児でありながら、音楽を追求し続けるというジレンマ

曲になるかならないかは別として、
毎日、詩を書いている。

佐野元春（さのもとはる）
1956年東京都生まれ。1980年3月にシングル「アンジェリーナ」でデビュー。1982年のアルバム「SOMEDAY」がスマッシュヒットを記録し、トップアーティストの仲間入りを果たした。1983年には単身渡米し、ヒノブホノブの要素を取り入れた意欲作「VISITORS」を制作。その後も「Young Bloods」「約束の橋」などといった名曲を生み出す。現在は佐野元春＆THE COYOTE BANDとしても活動中。

佐野　佐野さんは、NONA REEVESのドラマー・小松シゲルと一緒にCOYOTE BAND BAND を組まれてますよね。いつも思いますけど、全員本当に素晴らしいメンバーです。

CamScannerでスキャン

佐野　ありがとう。小松くんは練習熱心で、僕たちの中枝ですね。

西寺　佐野元春 & THE COYOTE BAND は2022年7月に『今、何処（Where Are You Now, My Boy/Girls）』というアルバムをリリースされて。4月にはもう1枚『ENTERTAINMENT!』というアルバムを配信限定で出しました。

佐野　スティホーム期間にシングル曲から5曲入っています。だから『今、何処』のCDも入れたんですよ。

TERTAINMENT!』

西寺　そうなると、初回限定ボックスを買いたくなりますよね。『今、何処』をひと足先に送っていただいて思ったんですが、佐野さんのCDのブックレットは縦書きの小説のようになっているんですよ。文字の大きさ、読みやすさも詩集を読んでいるようで。CDをモノとして手に持ち、味わいたい人に向けて作るというのもまた、今を生きる佐野さんらしい素敵なアイデアだなと。いつも思うのですが、デビュー当時から佐野さんはいろんなアイデアを思いつかれ、実践されてきましたよね。

佐野　CDのブックレットって、多くの場合は歌詞を横書きにレイアウトしているので、右からページをめくっていくんですよね。それが逆になる。つまり昔ながらの書籍のマナ

CamScannerでスキャン

ーになるんです。それをCDのブックレットにも応用したというアイデアです。

西寺　僕、佐野さんが書かれる歌詞が日本で1番好きなんですが、全曲暗唱したいぐらいでした。そこで質問なんですけど、『今、何処』のブックレットには、レコーディングの日付が書いてあるんです。この日付はバンドで演奏をレコーディングした日なんですか？　歌詞を書いた日はまた別ってことですか？

佐野　そうです。２つのアルバムに収録した曲のほとんどは、パンデミックや戦争が起こる前の２０１９年にライティングしています。ただし、パンデミック期間です。

西寺　これは推測なのですが、佐野さんは１９８０年３月に『アンジェリーナ』でデビューされたので、２０２０年がアニバーサリーイヤーじゃないですか。だから２０２０年にツアーをしたり、ＣＤを出そうとしたりしようと思っていたから、たくさん曲を用意されていたのかなと。それなのにパンデミックが始まって、ＣＤを出してもツアーできなくなったのかなと思いました。

佐野　その通り。２０２０年にニューアルバムを出して全国ツアーやろうという計画だっ

CamScannerでスキャン

たこともあります。バンドメンバーとどうしようかと話しながらアレンジしていくときは、スタジオレコーディングしよう」ということになりました。

西寺　世の作り方について教えてください。ソングライターにもいろいろパターンはあるのですが、メロディを先に思いついたり、もちろん曲によってそれぞれだと思うのですが、いわゆる〝詞先〟タイプが多いという実感がありますし、もっかりした歌詞をあとで書く、

佐野　その場合、佐野さんも〝アイラブユーベイビー〟的なめちゃくちゃシンプルな言葉から最終的なメロディを確定させていく、そういう感じなんでしょうか？

西寺　例えば日常で起こった出来事や、ニュースなどを見ながら、思ったことがあったらそうですね。それで朝起きて自分が書いたのを見て、「これは使い物にならないな」

モがたくさんあって、それを眺めてるうちに、「あ、これは曲になるな」「これはちょっと曲にはならないな」っていう分別ができてくる。曲になるなと思ったものは、リズムやロディ、サウンドのスタイルが浮かび上がってきます。だから、完全に詞が先にありまね。今はiPhoneに記録していて。それをいつでも見られるようにしています。

佐野　それをいつでも見ながら、思ったことがあったら書き留めておくということですか？

CamScannerでスキャン

「これは名作としか言いようがない」と思わせるような作品を作りたいと思っています。

――なんか壮大な野望に溢れていて（笑）。でも1日寝ると頭が整理されて正しい判断ができるんですよね。

吉井　「EMOTIONAL ENTERTAINMENT!!」に関しては、キャッチーで覚えやすい曲がきっかけで、タイトルがあより先行していない印象を持ちました。かつてリリースされた『ANGEL DAY』や『アンジェリーナ』のようにサビにシンボリックなタイトルがくる曲でも、1曲で聴いてほしい曲というよりも、アルバムの最初から最後まで通しで聴いてほしい作品なのかなと感じたんですが。

佐野　それとは別のベクトルで1曲単位で聴かれることも多いですが、それとはまた別の楽しみで、〝コンセプトアルバム〟っていう形があると思うんですよね。自分は1970年代の音楽で育ったので、楽しいコンセプトアルバムをたくさん聴いてきましたから、コンセプトアルバムに挑戦してみたいなと。そうすると自分がアルバムを作るならば、コンセプトアルバムを意識したタイトルになるよね。

――なるんだよ。1曲ごとのタイトルも、コンセプトアルバムをまた考え直すっていう作業なので、仮のタイトルはつけているけど、最終的にタイトルをつけるのは1曲目から14曲目まで通して聴いて浮かび上がる物語を楽しんでもらうという作り方なので。

CamScannerでスキャン

かもありますね。最後に考え直して何曲かを変えますね。

西寺　そうなんですね。では、土台となる歌詞があって、ギターやキーボードを使って「こんな曲にしていこう」というところに向かっていくということですか？

佐野　楽器は最初は手にしません。メロディを徐々につけていくということです。文字を見ていると、まずはメロディ、次にバンドがどう演奏しているのかが見えてくる。最初に立ち上がるのは、歌詞からインスパイアされたイメージです。そのイメージを覚えておいて、編曲するときに楽器に触れずに降ろしていくイメージです。

西寺　最終的に、細かい歌詞の修正などを行うのですか？

佐野　実際バンド演奏の中で歌ってみると、「ここの歌い回しはこうしたほうがいい」とか、「ここはもっとシンプルにこうしよう」とかはありますよね。そういうときはグルーヴや雰囲気に合わせて、歌詞も少し直していきます。初期からそういうやり方で作っていて、以前は締め切りに追われたりすることもありました。ただ今回はパンデミックで時間があったので、とにかく細部まで詰めることができました。だからバンドも僕も、『今、何辺』り上

CamScannerでスキャン

ています。メンバーも「ヤバい」って言ってますね。

ソングライターとして、自分がいるコミュニティに貢献したい

西寺　佐野さん主宰のレーベル・Daisy Music は設立から約20年です。佐野さんのキャリアは長いですが、その半分ぐらいは Daisy Music での活動になるということになります。なんだか不思議な気分です。

佐野　気がつけばそうですね。　もともとはソニーという大きなレーベルと契約していたんですが、自分のレコード会社を作りたいと Daisy Music を設立しました。約20年やって、今回のアルバムからソニーとアライアンスを組み直したんです。正確に言うと、この前の映像作品からなんですが、スタジオアルバムで言うと今回からということになります。

西寺　そうなんですよね。ビックリしました。喜んでるでしょ、ソニーの人たち。

佐野　僕自身も感動しました。契約をしにホテルに行ったら、若いスタッフからエグゼクティブまでみんな揃ってくれていて。そこで〝ウェルカムバック〟っていう写真を掲げて

CamScannerでスキャン

よ。

佐野　音楽は、作る人間だけでは聴いてくれる方々に伝わっていかないですから。作る人、売る人、宣伝してくれる人、批評してくれる人。そうした音楽好きが集まった大きなコミュニティに、音楽を作る人間として貢献したいなっていう気持ちは素直にある。ソニーと改めてアライアンスを組んだわけだけど、彼らと良いものをシェアしたいという気持ちは強いです。

西寺　Daisy Music は、配信音楽が全盛になる少し前の２０００年はじめ頃に、音楽業界全体が揺れていたＣＣＣＤ（コピーコントロールＣＤ）を巡る問題が、設立のきっかけのひとつになりましたよね。独立を決意された頃は、批判や「独立なんて無理だろ」って声もあったんですか？

佐野　いろいろとありましたよ。でも、時代はもう従来のレコードメーカーの形を
なかったんですね。Apple Music をはじめとした音楽の〝デジタルデリバリー〟が
ていましたから。レコード会社の業態が変わらざるを得ない、そのちょうど真った
ったと思います。

西寺　そうやって時代を見越して、さらに若いメンバーと組んで種まきをして……
20年くらい前。僕のような後輩が勝手に言うのもなんですけど、ここ数年、なんか
うだな、と。

佐野　いつの時代も充実しているけれども、ここに来てまた新しい楽しさを味わっ
てます。

ロックは自分の意志を持った表現のひとつ

西寺　佐野さんってデビューする前、一瞬、広告代理店で働いていたんですよね？

佐野　ミュージシャンになる気が全然なかったんですね。自分がやるような音楽は
にメインストリームでウケないと思ってたから。でも、生きていかなきゃいけな
2年以上働いて。大学を卒業する前、在学中には働き出していました。大学3年の

CamScannerでスキャン

位全部取っちゃって、あとは卒論を書くだけ。だから4年生の1年間、働こうと思って。

西寺　え？　どういうことですか（笑）。留年したミュージシャンの話はよく知ってますけど、逆に早く終わらせている人なんて初めて聞きましたよ！（笑）

佐野　とにかく早く働きたかった。それで早くお金が欲しかったんです。それに、広告とかラジオ番組の制作とか、そうしたジャーナルなことに興味があったので。

西寺　なるほど！　佐野さんは広告代理店にいたからこそ、ビジュアルとかキャッチコピーとか、アルバム全体の見せ方に興味があったということなんですね。なんだか納得してしまいました。ちなみに、デヴィッド・ボウイと同じですね。デヴィッド・ボウイも代理店で働いてたんです。

佐野　なんか、全般的に興味がありましたね。

西寺　その頃って、アートワークを自分でプロデュースするアーティストは多かったんですか？　いませんよね？

佐野　ほとんどいなかった。レコード会社にはしっかりしたデザイナーなどがいて、彼らの仕事を奪ってしまうことになるので、「余計なことをするな」っていう感じでした。

西寺　そうなんですね。僕も同じ問題に直面しましたが、みんなで参加してくれないとチ

CamScannerでスキャン

ームとしての盛り上がりには欠けてしまうので、１人でなかったりしますもんね。それでも出来上がりを見て、るようになっていった？

佐野　初期はレコード会社主導だったんですけど、っと不満が残ったんですね。自分のビジョンもありますから。ファースト・アルバム『Heart Beat』（１９８１BACK TO THE STREET』（１９８０年）、セカンド・アルバム『SOMEDAY』（１９８２年）は、レコード会社にも大きく売りたいという意向があって、アートワークでは店頭で目立たないので、カラーにしようというレーベルを作り、アートワークも全部そうです。

西寺　５枚目の。カッコいいですよね、あれも。

佐野　時代的に、１９８０年代初めから中盤くらいまでの日本は、音楽は音楽、アートワークとエンタテインメントロックみたいなものの境があんまりなかったんですね。ごちゃごちゃしてて。だけど、僕らをはじめとする新しいジ

CamScannerでスキャン

…ないようなところ…

…ちゃんだったりと…そうするとと、古いレコード会社のやり方と拮抗するっていうのは、…のことだもんね。そこからレボリューションが始まったと思う。

西寺　佐野さんは『No Damage（14のありふれたチャイム達）』（1983年リリースのベストアルバム）のあとに渡米されていたと思うんですが、そういう感覚を持っていたのは海外に行かれたことも大きいんですか？

佐野　そうでしょう。当時、ミュージックビデオも日本にはなかったし。「だったら海外で撮ってくるよ」っていうのが僕のスタンス。

バンドブームは弟世代との連帯が楽しかった

西寺　1980年代後半に、世の中的には〝バンドブーム〟が起こりますよね。その時点で佐野さんは、ベテランとまでは言わないですけど、お兄さん的なポジションになっていたと思うんです。その立場から見て、バンドブームの人たちが出てきたときに、好きなバ

ンドとか、「いいな」と思ったバントとかってあるんですか？

佐野　彼らは僕の5～10歳くらい下の世代で、そこからクリエイティブなバンドがけっこう出てきた。「あ、いいな」とか「僕の世代にはいなかったな」とか一瞬の世代にはない感覚を持った新しいバンド世代が台頭してきたので、「うかうかしてらんないぞ」っていう気持ちはあったかな。ただ、良いバンドとは連帯したいなと思っていました。それがのちに『THIS！』っていうイベントにつながっていきます。『THIS！』はヤングジェネレーションを集めた、音楽フェスですよね。まだちょっと時代的に早かったんだけど、そこにつながって。

西寺　『THIS！』、トライセラトップスが出たりしていましたよね。今、僕は『ナタリー』っていうWebサイトで、日本のアーティストに関する連載を書いているんです。それで最近、BOØWYについて書いていて思ったんですけど、『VISITORS』（1984年リリースの4thアルバム）の影響を受けているのかなって。〈♪笑い転げるデモクラシー〉って歌詞とか、日本語と英語の組み合わせによる謎めきつつ真実を貫くセンテンスの強さ。それは佐野さんが作り出したスタイルというか、少なくとも佐野さんが発明し、一般的にした〝日本語と英語のグルーヴィーな共存〟に心酔した

CamScannerでスキャン

た影響について、どう考えていますか？

佐野　確かにあの時代、僕の下のジェネレーションは、はけっこうありました。実は僕も、「面白いな」って思ってましたね。それは何を示しているかというと、ロックンロールっていうフォーマットが曖昧だったところに、日本語を使った〝ロックンロール言語〟みたいなものが形となって生まれてきた最初の景色だったんです。

西寺　普通に喋っていても、佐野さんの言葉って歌詞みたいですもんね。さっきおっしゃっていた〝デジタルデリバリー〟も〝ブラック&ホワイト〟もカッコよ過ぎですし（笑）。喋ってる言葉をビートに乗せたら、マジで音楽になるなっていう。僕がマイケル・ジャクソンについての本を書いたときに、佐野さんが読んでくださって、「この本を読んで歩いてきた道がよく分かった。郷太君がここ数年やってきたこと、それが本当の意味での〝ジャーナル〟なんだ」って言ってくれたんですよ。〝ジャーナル〟って言葉でしか表現できない深み……正当性とかが、調べられたときに、〝ジャーナル〟という言葉でしか、とても短い言葉なるってことだったり伝えるってことだったり……なんっていうのかな、

んだけど、そこに込められた重みっていうか。そういったものを感じたんですよね。佐
さんらしい賛辞で、本当に嬉しくて。
佐野　良い著作だったからね。
西寺　ありがとうございます！　引き続き言葉に関するところで、『今、何処』収録
「さよならメランコリア」の歌詞についても聞かせてください。〈♪今望むことはたった
とつ身近な未来を越えた永遠のレボリューション〉という歌詞があります。佐野さん
〝レボリューション〟という言葉を使うのは、ほかのシンガーソングライターが書いた
歌ったりするよりも意味があると思うんですよ。１９８１年にリリースされた『ガラス
ジェネレーション』で佐野さんが歌った〈♪さよならレボリューション〉は、それまで
世代との一種の断絶というか。でも今回は、〈♪身近な未来を越えた永遠のレボリュー
ョン〉と歌う。やっぱりほかの人が使う〝レボリューション〟とは重みが違うなと思っ
ジーンときたんですけど。
佐野　僕がいつも注目しているのは、国とか社会とかそういう大きな単位ではなくて、
の音楽を聴いてくれる個人、個人のその生活ですね。今、それが充実していてハッピー
ったら、僕の音楽を聴くこともないかもしれない。でも、「もっとより良い何かがある
はだ僕　てシののり、がひの　野

CamScannerでスキャン

エンタテインメントは不可欠なもの、その中にある「光」と「影」

門馬　今、何処にいても音楽が聴いていて安らぐものですが、意識的に知り合いたいのですが、音楽的に知り合いたいなと思うアーティストはいますか？

ハリ　いっぱいいますよ。曲数多くしたんですが、それに、最終的にアナログ・レコードにしたいなと思うアーティストがいっぱいいるんですよ。時間が長いと音が悪くなっちゃうというのはいいサイズなんだと思うの。

門馬　そうなんですよね。わざと切りそうでしょ。

ハリ　10インチのアルバムも、トントントントン小気味良くて、彼女が恋しているような瞬間のことを表現しているというノレーズが何回か繰り返されるんですけど、♪彼女が恋しくなったら、ドアをノックして、♪彼女が恋しくなったら、ドアをノックして、♪彼女が恋しくなったら、ドアをノックして

描くのは、ロマンティックですね。

佐野　すごいロマンティック。それに僕は『クロエ』のリリックでは、「二項対立を無効化することを言いたかったんだね。〝恋をしてる瞬間〟って、すごく中立的なわけです。今、世の中が、右とか左とか、上とか下とか、白とか黒とか、二項対立にしないと物事を把握できないみたいな風潮になっている中で、僕たちアーティストは、物事を2つに分断することなんて、無駄なことだと思ってるの。

西寺　そこにつながるのが、『ENTERTAINMENT!』の収録曲『エンタテイメント！』。この言葉だけをぱっと聞くと、「こんな暗い世の中、1回忘れよう」っていう歌になるのかと思いきや、〈♪誰もが落ちていくあの人を見ていた夜、It's just an entertainment〉っていう歌詞があって。それが変わらない人間の業のようなものを射抜いていて、深いなと。

佐野　ちょっと、シニカルな。

西寺　それがばっかじゃないですか、今の世の中。溢れてるエンタテインメントの6、7割もう、嫌な時代だから楽しもう」ってことで終わらせずに、成功した人が失敗して落ちていくのを楽しむのも、エンタテインメントの部分があるよねっていう。

CamScannerでスキャン

が、人の不幸とか、成功した人が失敗していくさま、みたいな。そこまで書かれてるのが

佐野さんの深さだなあ、と。

佐野　エ、僕たちにとって必要不可欠だと思ってる。ただやっぱり、功罪もあるのではないかなと。だから、ただ光の部分から見るだけじゃなくて、光と影、エンタテインメントって、影のほうからも見ると、「エンタテインメントっていうのはこういう形かな？」って、それを3分間で小気味良くやってみたかったんだよね。

西寺　ちなみに佐野さんご自身は、エンタテインメントの世界の中に身を置く中でのピンチはありませんでしたか？　例えば80年代だったら、もっと芸能界のスターというか、アイブやレコーディングを捨てて、メディアの中で稼ぐ方法もあったんじゃないですか？　テレビからの誘いなどもあったでしょ？　それらを拒絶してきたって言ったら変ですけど。

佐野　そうだね。80年代は、従来のエンタテインメントの形……芸能と呼んでいいと思うんですけれども、芸能界には分かりやすいひな形があった。でも自分のアーティスト活動は、当時の芸能界の中に収まりきれない、逆にはみ出してるところをファンのみんなが楽しんでくれている節があったんですよね。１９８０年にデビューしてから10年の間に、いろんなことが変わったし。「テレビに出ないならコマーシャルやって、もっともっと金稼

CamScannerでスキャン

ロックバンドにしかできない表現が必ずある

良公則、Char、野口五郎として、2022年に『時代遅れの Rock'n'Roll Band』リリース）。カッコよかったですよ、本当に。

西寺　最近、桑田佳祐さんと並んでいる姿を拝見しましたね。

活動まで手が及ばなかったっていうのが、本当のところですね。

て、ちゃんとしたレコードを作るってだけでもう本当に精一杯だから。そういう芸能的な

正直ね、自分としてはどっちでもよかったんだけど、とにかく

に出て、サザンオールスターズと並んで、一緒にやってください」っていう人もいますし。

ファンの中にだって「もっとテレビ

だろう。それは仕方ないよね。

いやつだけど　その頃にはもうなんか

ダ　どうなんだろう。

ダ　なんか

ダ　なんか

ノ　なんか

西寺　このボードキャストを収録している Amazon Music Studio Tokyo の内部を一緒に見ていたら、佐野さん、ずっと手を叩いてどんなふうに響くか、音響確認されていましたね。たくさんのアーティストがこのスタジオに来てくれましたが、エンジニア側まで入ったのは佐野さんだけです（笑）。スタッフに「どうやって音を録ってるの？」って質問したりもしていて。新しい技術に興味を持ち、全て自分でご覧になられている。佐野元春なんだな」って思いました。

佐野　従来のシステムが形になってるのを見ると、「それがどうした？」って言いたくなるので、それよりもっと粋で、野暮じゃないやり方があるんだったら、僕はそっちを選ぶ感じ。

西寺　そういったところに関連して伺いたいのですが、僕、最近、佐野さんが1999年に作られた『Stones and Eggs』というアルバムを聴いているんです。佐野さんはあの作品まで、名だたるミュージシャンやプロデューサーと一緒にアルバムを作ってきましたが、ウッドストックでジョン・サイモンと一緒に作った『THE BARN』（1997年）を出したあとは、自分でMacで打ち込みをされるようになりましたよね。

佐野　そうなんです。それまでの『FRUITS』『THE BARN』などは、けっこうお金を使

CamScannerでスキャン

ったアルバムだったのですが、レコード会社も協力してくれた。ただ1997、いが全体的にCDの売り上げのピークで、それからどんどん下がってきたわけで、「これはまずいぞ」って。レコード会社が僕へ永遠に潤沢な製作費をアテれるとは思えなかったんですね。調子が悪くなったら自分でやらなきゃいけないらそれに先駆けて自分でスタジオを持とうということで、システムを作りました試したのが『Stones and Eggs』です。

西寺　まさにそんな空気が満ち溢れ始めた頃でしたね。僕ももうその頃にはデビューしていましたから、もちろんその辺の時代感覚は分かりますが。ノーナのレーベルが変わの相が下がっていったりして。だから自分でスタジオを作り、お金るようになったんですが、それが2002年頃からでした。佐野さんはそれよ1999年に自分のスタジオ、打ち込みへのトライをされていたわけですよね。

佐野　ただ、まだハードウェアもソフトウェアもプロトゥールなんですよね。とは言っても、曲は悪くはないので。

西寺　長時間は僕もよく分かるので「今聴いたらどうなんだろう」と思さと聴いてみたりもあるんですが、今、めっちゃ良いですね。

CamScannerでスキャン

佐野　ありがとう！　若いジェネレーションがすごくカッコいいって言ってくれているんだよ。でも僕のメインはやっぱり、THE COYOTE BANDとのモダンロックの表現。これがなんと言っても僕の一番です。こうしたパンデミック、または戦争といった理不尽の力が働いている時代なので、やっぱり音楽に限らずアートの出番が来ていると思います。そして国際的に、ポップ音楽はヒップホップ、R&Bが主流ですよね。そういう意味では、自分がやってきたロックが商業的には主流ではなくなっている実感はある。でも、ささやかかもしれないけども、ロックバンドにしかできない表現っていうのも必ずある。それを信じて、良い音を鳴らし続けるしかないと思うんですよね。

CamScannerでスキャン

終わりに

あまりにも幸せ過ぎて信じられないほどの面々が、このための本のために集まってくださいました。あらゆる場所に飛び散っていた言葉や想いの数々が、こうして書籍としてまとまったこと、本当に嬉しく思います。

装丁や連載時の素敵なイラストレーションを描いてくれたしまおまほちゃんは長い友人でもありながら、彼女の紡ぐ文章に関しても純粋にファンで同時代を生きるあこがれの人。こうして初めて作品として「共作」出来たことに感謝します。デザイナーの篠田直樹さん、僕の事務所ココモ・ブラザーズの面々（矢島淳・中井秀児・松尾隆）、連載を依頼してくれた「ナタリー」の望月哲さんと寺島咲菜さん、そして本書の制作に根気よく協力して下さったソウ・スウィート・パブリッシングの加藤一陽さん、石井絵里さん、本当にありがとうございました。

CamScannerでスキャン

お礼を言ってすぐに「なんやねん」という感じですが、これだけ美しい本が完成してしまうと、もっともっと色んな人と対談し、もっともっと色んなアーティストや楽曲について考えて書いてカタチにまとめたいなという気持ちが沸々と湧き上がってきます。それは、僕の欲の深さゆえでしょうか。でもまだ足りない部分が沢山あります。結編を50代で作るのを次の目標にしますが、これだけの充実した書籍を作るには情熱と時間が必要でしょうが、また集まりましょう。

残念ながら「ナタリー」での連載は終わってしまいましたが、今年になって「YouTube 西寺郷太チャンネル（NGC）」も開始しましたし、様々な新しい形を模索していきます。チャンネル登録お願いします（笑）。読者の皆さん、これからも音楽活動ともども応援していただけると心の支えになります。いつもありがとう。

2025年1月20日

西寺郷太

CamScannerでスキャン